

一 防風林薪炭林ヲ仕立シヘキ植樹地ノ段別及樹木ノ種類
 一家屋等ノ敷地
 一 毎年成功スヘキ預定段別
 一 種畜牝牡ノ頭數
 一 毎年蕃殖スヘキ預定者數
 一 放牧地段別又ハ牧草仕付地ノ段別
 一家屋畜舎等ノ敷地段別
 第四條 事業成功期限ハ十五年以内ニ於テ之ヲ定ムヘシ
 第五條 實渡豫約ヲ爲シタル土地ノ使用料等ハ總テ之ヲ徵收セサルモ
 ノトス
 第六條 豫約拂受人ハ左ニ記載シタル條件ヲ遵守スヘシ
 一 實渡豫約ニ係ル土地ハ許可ヲ得シテ之ヲ他人ニ貸渡スヲ得サ
 ルコト
 二 實渡豫約ノ土地ニ對スル負擔及其土地ヨリ生スル損害ニ就テハ
 拂受人其責ニ任スルコト
 三 拂受人ハ實渡豫約許可ノ日ヨリ滿六箇月以内ニ預定ノ方法ニ從
 ヒ事業ニ著手スヘキコト
 四 拂受人ハ前年ニ於テ事業ノ功程ヲ翌年一月中ニ縣廳ニ報告スヘ
 キコト
 五 拂受人ニ於テ事業ニ著手シ及事業ノ成功シタルトキハ十日以内
 ニ縣廳ニ報告スヘキコト
 六 實渡豫約ノ土地内ニ在ル木竹其他指定シタル物件ハ拂受又ハ特
 別ノ契約ヲ爲スニアラサレハ拂受人ニ於テ之ヲ採取シ若クハ使用
 スヘカラサルコト
 七 總テ官吏ヲ派遣シ事業ノ整否及方法ヲ検査セシムルトキハ之ヲ
 拒ムヲ得サルコト
 八 拂受人ハ實渡豫約許可ノ日ヨリ十日以内ニ郡村名字番號段別及
 拂受人ノ住所姓名ヲ記載シタル標杭ヲ四至ノ境界ニ建設スヘキコ
 ト
 九 事業ハ必ズ預定ノ方法書ニ依リ之ヲ爲スヘキコト
 第七條 豫約實渡ハ事業成功ノ上代價ヲ完納シタル後ニアラサレハ其

所有權ヲ拂受人ニ移轉セサルモノトス 但成功ノ部分ニ對スル所有
 權ハ拂受人ノ請求ニ依リ其部分ニ相當スル代價ヲ納付シタル上ハ之
 ヲ移スコトアルヘシ
 第八條 豫約實渡地成功ノトキハ其期限後三十日ヲ限リ拂下ヲ出願ス
 ヘシ
 右期日ヲ經過シタルトキハ其効ヲ失フモノトス
 第九條 豫約拂受人事業ノ中途ニ於テ天災其他止ムヲ得サル事由ニ依
 リ預定ノ事業方法又ハ成功期限ノ變更ヲ要スルトキハ更ニ第二條ニ
 依リ願出シヘシ
 第十條 拂受人第六條ニ記載スル條件ヲ遵守セス又ハ成功期限ニ至リ
 事業成功セサルトキハ預定通り成功セル部分ニシテ相當ノ代價ヲ納
 付シタルモノハ之ヲ除キ其他ノ土地ハ返還セシム
 第十一條 第十條ノ場合ニ於テ返還地ニ係ル勞費ハ官廳ニ於テ之ヲ辨
 償セス又返還地ニ在ル植物建物等ハ三十日以内ニ之ヲ取拂フヘシ
 第十二條 實渡豫約期限中ニ在リテ官用若クハ公益上必要ヲ生シ返地
 ヲ命シタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス 但此場合ニ於テハ已成事業
 上費用ノ明確ナルモノハ之ヲ辨償スルモノトス
 第十三條 實渡豫約ノ許可ヲ得タルトキハ市町村長へ申出該地所ノ引
 渡ヲ受ケ別紙書式ニ依リ請書ヲ差出スヘシ
 第十四條 從前開墾又ハ牧畜ノ爲メ原野實渡ノ豫約ヲ爲シタルモノニ
 シテ既定ノ契約ナキ事項ハ更ニ此規程ニ據ルヘシ
 (願書式)
 官有原野豫約拂下願
 何縣郡村大字何字何番
 一官有原野實渡段別何町何段步
 內何段何畝步
 (外何段何畝步)
 此案地相當代金何圓何十錢 但一段步ニ附 丈量減
 成功期限自明治何年 何箇年期 丈量減
 右ノ田圃宅地開墾(牧畜設置)致度候ニ付明治二十四年四月縣令第二
 十五號官有原野實渡規程ニ依リ前規期限間使用被差許期限通事業成

功ノ節ハ右案地相當代金ヲ以テ該地所御拂下被成下度御許可ノ上ハ
 總テ規程ヲ遵守スルハ勿論期限通り無相違事業成功可致候依テ別紙
 事業方法書並支豫算書及實測繪圖面相添此段相願候也
 明治何年 月 日
 何縣郡村大字何字何番
 願人 何ノ 誰印
 同 保證人 何ノ 誰印
 同 何ノ 誰印
 知事宛
 (與書例)
 前書出願ニ付調査候所何等障害ナキハ勿論代金モ相當ニ付此段與書
 候也
 年 月 日
 何郡市町村長 何ノ 誰印
 (請書式)
 何縣郡村大字何字何番
 一官有原野段別何町何段步
 此案地相當代金何圓何十錢 但一段步ニ付 金何十錢
 成功期限自明治何年 何箇年期
 右地所今般豫約拂下許可相成何村長何ノ誰ヨリ實測繪圖面ノ通り引
 渡ヲ受ケ正ニ引受申候就テハ總テ明治二十四年縣令第二十五號官有
 原野實渡規程ヲ遵守可致ハ勿論期限通り屹度成功可致候若シ該規程
 ニ違反シ若クハ期限通成功不致時ハ速カニ返地可致候其節ニ至リ何
 等損害等有之候共決シテ請求致問敷此段御請仕候也
 年 月 日
 何縣郡村大字何字何番
 願人 何ノ 誰印
 同

知事宛
 保證人 何ノ 誰印
 明治二十六年四月六日 縣令第二十六號
 明治二十三年十一月勅令第二百七十六號官有地取換規則第七條ニ依リ
 開墾成功ノ後拂下ノ豫約ヲ以テ官有地ノ貸下ヲ願出ツル者ハ同二十四
 年四月本縣令第二十五號官有原野實渡規程ニ準據スヘシ
 明治二十九年五月六日 達第二十七號
 郡役所、市役所、町村役場
 官有原野實渡規程
 明治二十四年七月二十四日 縣令第三十六號
 明治二十三年勅令第六十九號官有森林原野及產物特別處分規則ニ依リ
 隨意ノ契約ヲ以テ官有原野ノ實渡ヲ願出ツルモノハ左ノ規程ニ據ルヘ
 シ 但明治十一年九月甲第九十八號布達ヲ廢ス
 官有原野實渡規程
 第一條 官有原野貸下願書ハ別紙書式ニ依リ願書二通ニ實測繪圖面ニ
 枚ヲ添ヘ地元町村長ノ與書ヲ受ケ所轄郡市役所へ差出スヘシ 但開
 墾牧畜植林等ノ事業ニ係ルモノハ別ニ事業方法書並支豫算書各一通
 ヲ添フヘシ
 第二條 貸渡ノ許可ヲ得タルトキハ地元市町村長へ申出該地所ノ引渡
 ヲ受ケ別紙書式ニ依リ請書ヲ差出スヘシ
 第三條 借受人ハ左ニ記載スル條件ヲ遵守スヘシ
 一 借受人ハ許可ノ日ヨリ十日以内ニ借地四至ノ境界へ郡村名字番
 號段別及借受人ノ住所姓名ヲ記載シタル標杭ヲ建設スヘキコト
 二 借受人ハ許可ノ日ヨリ滿六箇月以内ニ預定ノ方法ニ從ヒ事業ニ
 著手スヘキコト

金何百何十圓 三年收穫物代金
 但右同前
 以下滿期ニ至ル間之ニ做フヘシ
 收支差引 純益
 金何百何十圓

明治二十五年十一月二十九日
 訓示 第二十三號
 郡役所、市役所

自今開墾ノ目的ヲ以テ官有原野ノ豫約拂下ヲ出願スル場合ニ於テ其成
 功期限ノ二箇年以上ニ涉ルモノハ實測圖ノ外別ニ毎年成功スヘキ段別
 區域ヲ明記シタル繪圖ニ葉ヲ添附セシムヘシ
 右訓示ス

●官有地豫約拂下及貸下出願ノ場合届
 出方

明治二十九年一月二十八日
 告示 第九號

官有地豫約拂下及貸下又ハ御料地拜借願出ノモノニシテ願書市町村役
 場へ差出シタルトキハ同時ニ其旨縣廳へ届出ツヘシ

●官有地賣渡及貸渡願調査手續

明治二十四年四月十七日
 訓示 第二十四號

官有地賣渡及貸渡願調査手續左ノ通相定ム
 但明治十六年十月乙第三
 百二十一號ヲ廢ス

官有地賣渡及貸渡願調査手續
 第一條 官有地ノ賣渡又ハ貸渡ノ願書ニ對シ典書ヲ請フモノアルトキ
 ハ町村長ハ左ノ項目ニ依リ詳細調査シ不都合ナキモノハ之ニ典書シ
 本人ニ下付スヘシ 但出願地ニ對シ意見アルトキハ更ニ意見ヲ縣廳
 ニ上申スヘシ

一 公益上障害ノ有無

書ヲ添附スヘシ

第四條 左ニ掲クル一ニ該當スル入札ハ無効トス
 一 誤字、脱字、塗抹、汚染等ノ事由ニヨリ入札ノ土地、物件、金
 額及氏名等ヲ認知シ難キモノ

二 入札保證金前條ノ額ニ達セサルモノ

第五條 入札ノ金額一モ豫定價格ニ達セサルトキハ直ニ出席入札人ヲ
 シテ再入札ヲ爲サシムヘシ

再入札ニ付スルモ豫定價格ニ達セサルトキハ明治二十三年九月勅
 令第九十三號ノ規定ニ依ル

第六條 再入札ニ對スル保證金ハ最初ノ入札保證金ヲ以テ之ニ充當ス
 ヘシ 但不足ヲ生ズルトキハ之ヲ補填スヘシ

第七條 落札人決定シタルトキハ直ニ之ヲ本人ニ告知スヘシ

第八條 前條ノ告知ヲ受ケタル落札人ハ第三號又ハ第四號ノ書式ニ依
 リ告知ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ契約ヲ締結スヘシ

落札人契約ヲ締結セサルトキハ豫定價格以上ノ入札ヲ爲シタル者ノ
 中其ノ入札金額ニ應ジ遞次繰下ケ落札人ヲ定ムルコトアルヘシ

第九條 入札人不正ノ行爲ニ依リ落札人トナリタルコトヲ發見シタル
 トキハ其ノ落札ヲ無効トス

第十條 落札人契約ヲ締結スルトキハ落札金額ノ百分ノ十五ニ相當ス
 ル金額ヲ契約保證金トシテ提供スヘシ

第十一條 落札人ノ提供シタル入札保證金ハ契約締結後其ノ他ノ入札
 保證金ハ入札ノ結果列明シタル後直ニ之ヲ還付スヘシ

第十二條 左ノ場合ニ於テ入札保證金ハ國庫ノ所得トス
 一 入札人入札ノ取消ヲ爲シタルトキ

二 落札人契約ヲ締結セサルトキ

三 第九條ニ依リ落札無効トナリタルトキ

四 入札人會計規則第七十八條ノ抽籤ヲ爲サ、ルトキ

第十三條 入札保證金ハ之ヲ契約保證金ノ内へ轉充スルコトヲ得

第十四條 契約保證金ハ代金又ハ料金納付済ノ後之ヲ還付ス

第十五條 左ノ場合ニ於テ契約保證金ハ國庫ノ所得トス
 一 契約人契約ノ履行前契約ノ解除ヲ申出テタルトキ

官有土地水面及物件賣渡貸渡競争入
 札手續
 明治四十一年四月二十八日
 縣令 第三十八號

二 實地下繪圖面トノ合否
 三 素地代金及料金ノ當否
 四 立木ノ種類員數及代金ノ當否

第二條 郡市長ニ於テ願書ヲ受理シタルトキハ實地ニ就キ之ヲ調査シ
 箇所毎ニ檢印ヲ押捺シ其意見アルモノハ之ニ添書ヲ爲シ直ニ縣廳
 ニ送達スヘシ
 第三條 郡市長及町村長ニ於テ願書ヲ受理シタルトキハ其年月日ヲ帳
 簿及願書ニ明記スヘシ
 第四條 賣渡又ハ貸渡ノ許可ヲ得テ該地所ノ引渡ヲ請フトキハ市町村
 長ハ實地ニ就キ之ヲ引渡シ請書ヲ檢シ縣廳ニ送達スヘシ 但臨時官
 吏ヲ派遣シ其引渡ノ地所ヲ檢査スルコトアルヘシ
 第五條 郡市長ハ毎年五月三十一日限り所管內賣渡豫約及貸渡地所ヲ
 檢査シ前年成功セシ段別及事業ノ成績ヲ調査シ縣廳ニ報告スヘシ

●官有土地水面及物件賣渡貸渡競争入
 札手續

明治四十一年四月二十八日
 縣令 第三十八號

官有土地水面及物件賣渡貸渡競争入札手續左ノ通相定ム

第一條 官有土地水面及物件賣渡貸渡競争入札手續
 明治二十二年四月勅令第六十號會計規則ニ規定スル事項ノ外本則ニ
 據ルヘシ

第二條 入札ヲ爲サントスル者ハ本則ニ依リ尙別ニ契約ノ條件アルモ
 ノハ其ノ條件ヲ了知シ第一號書式ニ依リ入札書ヲ作り入札保證金ヲ
 納付シタル後入札スヘシ

第三條 入札保證金ハ各自見積金額ノ百分ノ五以上トシ現金ヲ以テ之
 ヲ提供スヘシ
 入札保證金ハ公債證書ヲ以テ現金ニ代用スルコトヲ得
 前項公債證書ノ價格ハ別段ノ定メアルモノ、外東京取引所ノ相場ニ
 依ル

記名公債證書ヲ以テ入札保證金ニ代用スルトキハ第二號書式ノ添書

二 契約人ノ志願又ハ違法ノ行爲ニ依リ契約ノ解除ヲ命ジタルトキ

第十六條 落札後ニ於テ土地ノ面積又ハ物件ノ數量等ニ差違ヲ生ズル
 モ當該官廳ハ其ノ責ニ任セス

第十七條 入札人又ハ落札人代理人ヲシテ諸般ノ事項ヲ行ハシムルト
 キハ其ノ委任狀ヲ差出タサシムヘシ

第一號書式

入札書

第一號 何郡(市)何町(村)大字何字何何番

一 地目段別 何 程

此ノ入札價格金何程 但一段步(一坪)ニ付

第二號 何郡(市)何町(村)大字何字何何番

一 地目段別 何 程

此ノ入札料金 筒月金何程 但一段步(一坪)ニ付

第三號

何郡(市)何町(村)大字何字何何番

一 何立木 何 本

此ノ材積何程

此ノ入札價格金何程 但材積何程ニ付

右土地(物件)現場(現物)熟覽ノ上明治 年 月 日公告ノ條件ヲ承
 諾シ明治四十一年四月青森縣令第三十八號官有土地水面及物件賣渡
 貸渡競争入札手續ニ依リ入札候也

年 月 日

擔任官吏

官 氏 名 殿

住所

入札人 氏 名 〇〇

年 月 日

官 氏 名 殿

住所

入札人 氏 名 〇〇

年 月 日

官 氏 名 殿

住所

入札人 氏 名 〇〇

年 月 日

官 氏 名 殿

住所

入札人 氏 名 〇〇

年 月 日

官 氏 名 殿

印紙 承諾書

一金 何程 入札(契約)保證金
但何郡(市)何町(村)大字何字何番地目段別何程ニ對スル分
此ノ擔保公債證書 額面何程 何枚 記號番號
右ハ今般前記土地、物件買受(貸借、使用)入札(契約)保證金トシテ
御座ニ相納メ候ニ就テハ明治四十一年四月青森縣令第三十八號官有
土地水面及物件賣渡貸渡競争入札手續ニ依リ該保證金御座ノ所得ト
ナリタルトキハ直ニ賣却ノ上徵收金ニ充テラレ候共聊異議無之候依
テ別紙委任狀相添ヘ承諾書差出候也
年月日

住所 所有者 氏 名(印)
同 入札人 氏 名(印)
擔任官吏 官 氏 名 殿

印紙 委任狀

拙者事故有之官職氏名(擔任官吏)ヲ以テ部理代人ト定メ拙者ノ名儀
ヲ以テ左ノ權限ノ事ヲ代理爲致候事
一何公債證書額面何程記號番號何枚賣却ニ關スルコト
右委任狀仍テ如件
年月日 住所 所有者 氏 名(印)

第三號書式

印紙 賣買契約書

何郡(市)何町(村)大字何字何番
一地目段別 何程

此ノ價格金何程 但一段歩ニ付
地上立木 何木 何本
此ノ材積何程 但一本ニ付
此ノ價格金何程 但一本ニ付

右土地、物件今般前掲ノ金額ヲ以テ何某へ賣渡落札ニ付明治四十一年
四月青森縣令第三十八號官有土地水面及物件賣渡貸渡競争入札手
續及左ノ各項ヲ承諾ノ上本契約ヲ締結シ雙方連署各一通ヲ領收シ認
クモノ也
年月日 賣渡人 官 氏 名(印)
住所 買受人 氏 名(印)

一 代金ノ拂込ハ納入告知書ニ指定シタル日限内ニ完納スルコト
一 土地及物件ハ賣渡代金完納ノ日ヨリ何日以内ニ引渡スヘキコト
一 何何(特ニ合意ヲ要スル事項アルトキハ之ヲ列記ス)
第四號書式

印紙 貸借契約書

何郡(市)何町(村)大字何番地
一地目段別(坪)何程
此ノ料金 一箇年 但一段歩(坪)ニ付
一箇月金何程 但一段歩(坪)ニ付
右土地今般貸渡競争ノ處何某へ落札ニ付明治四十一年四月青森縣令
第三十八號官有土地水面及物件賣渡貸渡競争入札手續及左ノ各項ヲ
承諾ノ上本契約ヲ締結シ雙方連署各一通ヲ領收シ認クモノ也
年月日 貸渡人 官 氏 名(印)
住所 借受人 氏 名(印)

一 借受人ニ於テ契約ノ義務ヲ怠リタル場合ニ於テハ保證人之ニ代リ
テ履行ノ責ニ任スルコト
一 何何(特ニ合意ヲ要スル事項アルトキハ之ヲ列記ス)

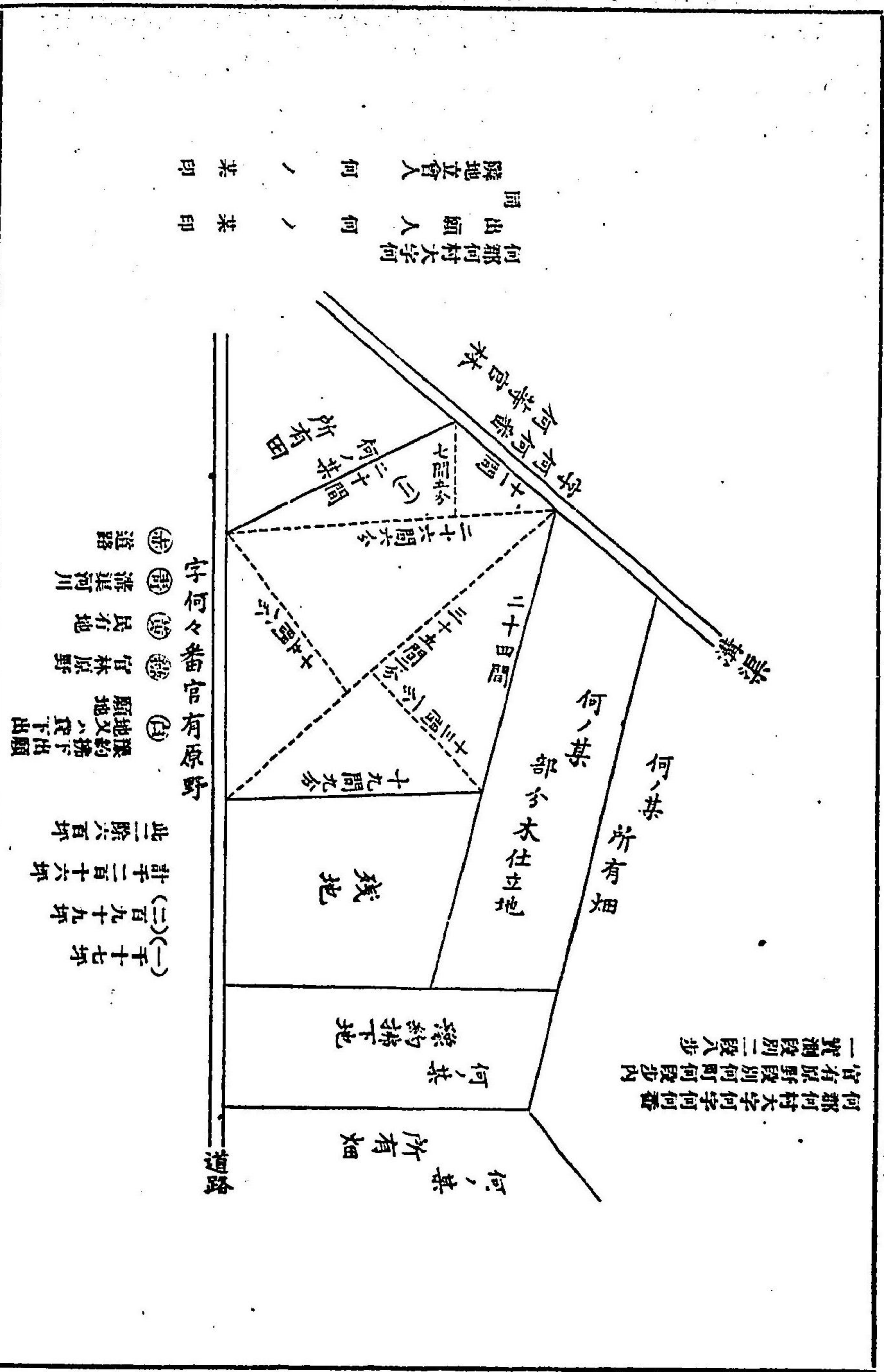
官有地賣渡又ハ貸渡ノ評價

明治二十三年十一月十二日 通第六百九十九號 郡市役所
本年勅令第三百三十五號官有地特別處分規則ニ依リ官有地ノ賣渡又ハ貸
渡(繼續トモテ出願スル者アルトキハ其役所ニ於テ評價委員三名ヲ設
ケ其地價又ハ料金ヲ評定セシメ右評價書ヲ添ヘ進達スヘシ 但最前貸
渡ノ際限メ地價ヲ定メ開標成功ノ上賣渡スコトヲ許シタルモノハ此限
ニアラス

官有地賣渡貸渡願ニ添付スヘキ製圖式

明治二十四年四月二十一日 告示 第三十九號
官有地ノ賣渡又ハ貸渡ヲ願出ツルトキ該願書ニ添附スヘキ實測繪圖面
ハ別紙雛形ニ據リ調製スヘシ (別紙)

- 一 貸借期間ハ明治何年何月ヨリ何年何月マテ何箇年(何箇月、何日)
間トス
一 料金ノ拂込ハ納入告知書ニ指定シタル日限内ニ完納スルコト
一 貸渡土地ハ貸渡料金納付ノ日ヨリ何日以内ニ引渡スヘキコト
一 借受人ハ特ニ當該官廳ノ許諾ヲ受クルニアラサレハ借受土地ヲ何
何ノ用ニ供スル外他ノ目的ニ使用シ又ハ地形ヲ變更スルヲ得サル
コト
一 貸渡土地内ニ在ル木竹其ノ他指定シタル物件ハ無償ニテ借受人之
ヲ保管スルコト
一 貸渡期間内ト雖モ直接公用ノ必要ヲ生シタルトキ又ハ借受人ニ於
テ契約ノ條件ニ違背シタルハ何時ニテモ契約ヲ解除スルコト
一 前項ニ依リ契約ヲ解除スルトキハ借受人ハ其ノ通告ノ日ヨリ何日
以内ニ返地スルコト
一 貸渡地上ニ建造物ヲ設ケ又ハ地形ノ變更ヲ爲シタルモノ契約解除
ノ場合ニ於テハ前項返地日限内ニ滿期返地ノ場合ニ於テハ借受期
間内ニ之ヲ撤去又ハ原狀ニ復スルコト
一 返地ニ際シ借受人ニ於テ約定ノ日限内ニ地上ノ建造物ヲ撤去セス
又ハ地形ヲ原狀ニ復セサルトキハ當該官廳ニ於テ之カ手續ヲ爲シ
其ノ費用ハ借受人ヲシテ之ヲ負擔セシムルコト
一 借受人ハ當該官廳ノ許諾ヲ受クルニアラサレハ借受地ヲ他人ニ轉
貸スルヲ得サルコト
一 借受人故意怠慢ニ依リ借受地並物件ヲ荒廢ニ歸シ又ハ毀損亡失シ
タルトキハ其ノ損害ヲ賠償スルコト
一 借受人契約違背ニヨリ契約ヲ解除セラレタル爲損害ヲ生スルモ當
該官廳ハ其ノ損害賠償ノ責ニ任セサルコト
一 貸渡料金ノ納付及免除ハ明治二十四年三月青森縣令第二十一號官
有土地收入金徵收規程ニ依ルコト
一 借受地ニ對スル公費ノ賦課ハ借受人ニ於テ負擔スルコト



明治二十九年一月二十九日
告示 第十號
明治二十四年四月青森縣告示第三十九號官有地賣渡又ハ貸渡願書ニ添付スヘキ實測圖面段別測書ニ縮尺ヲ明記スヘシ

第二款 土地水面使用
直接公用ニ供シタル土地水面ノ無許可使用處分方

明治四十二年一月十五日
縣令 第二號
直接公用ニ供シタル國有又ハ縣有ノ土地水面ヲ許可ヲ得シテ他ノ目的ニ使用シタル者ハ拘留又ハ材料ニ處ス
前項ノ使用ニ依リ施シタル工作物ニシテ公害アリト認ムルトキハ之ヲ原狀ニ回復セシムヘシ 但原狀ヲ知ルコト能ハサルトキハ其ノ回復ノ程度ハ縣知事ノ指定スル所ニ依ル
第一項ノ行為者ニ對シテハ其ノ行為ノアリタル日ヨリ使用料ヲ追徴スルコトアルヘシ

公有水面埋立及使用願取扱方

明治二十三年十一月二十八日
達 第七百二十九號
郡役所、市役所
官ニ屬スル公有水面ノ埋立又ハ舊慣ニ依リテ捕魚採藻ノ業ヲ營ムノ目的ヲ以テ公有ノ水面ヲ其儘使用センコトヲ出願スルモノアルトキハ關係市町村會ノ意見ヲ聞キ該意見書ヲ添ヘ進達スヘシ

公有水面埋立及使用願

明治二十三年十一月二十九日
訓示 第五十一號
郡役所、市役所
自今官ニ屬スル公有水面ノ埋立及公有水面ノ使用ヲ出願スル者アルトキハ本年十月内務省訓令第三十六號規定ニ據ラシムヘキ答ニ付其旨相心得サスヘシ

土地收用法ニ依ル土地使用ニ關スル報告方

明治三十三年五月四日
達 第三十二號
郡役所、市役所
土地收用法第十五條第一項ノ規定ニ依リ認定ヲ爲シタルトキ又ハ同條第三項ニ依リ通知ヲ受ケタルトキハ左ノ事項ヲ取調其都度本知事ヲ經由シテ内務大臣ニ報告スヘシ
一 本條第一項ノ場合ニ於テハ起業者事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間
二 本條第三項ノ場合ニ於テハ使用スヘキ土地ノ區域

第三款 陸地測量

陸地測量標異狀報告方

明治三十六年七月二十日
達 丙 第二百一號
郡役所
陸地測量部ニ於テ建設ニ係ル各種測量點ニ異狀ヲ生シタル場合ハ左記報告物ニ基キ報告候補町村役場ヘ相達スヘシ
測量標異狀報告例
一 等級番號及名稱
例ハ、何等三角點(水準點)第何號名稱何何
二 測量標ノ種類
例ハ、規模又ハ標石或ハ標杭 但規模ノ異狀アリタル時ト雖モ 必ス標石異狀ノ有無ヲ附記スルヲ要ス
三 建設所在
例ハ、何國何郡何町(村)大字字地目地番
四 異狀ノ事由
例ハ、何月何日暴風雨又ハ地震或ハ人為ニ因リ規模全部顛倒或ハ某部分毀損等其實況ヲ詳細シ若シ其標石ニ異狀アルトキハ

必ス略圖ノ添付ヲ要ス 但人爲ニ因リタル場合ニハ其犯人
捜査ノ情況ヲ附記スルコト

明治三十六年七月二十日
逕 丙 第 二 百 二 號

弘前、青森市役所

陸地測量部ニ於テ建設ニ係ル各種測量點ニ異狀ヲ生シタル場合ハ左記
報告例ニ基キ報告スヘシ

(測量標異狀報告例ハ三六年第二〇一號ト同文 但第三項中「何郡何
町(村)トアルヲ何(郡)市ト改ム」)

●陸地測量標ノ保管

明治三十六年十月二十三日
諭 告 第 二 二 號

陸地測量部ニ於テ設置スル陸地測量標石ハ陸地測量條例第九條同施
行細則第二十二條ニ明示セル如ク官民共ニ之ヲ使用シ以テ諸測量ノ基
準ト爲シ得ルモノニシテ其標石ノ中心ニハ地球ノ中心ニ位即チ緯度
ニ海面上ノ高程方位角等ヲ精密ニ指示シ極メテ重要ナル性能ヲ備フ
ルヲ以テ將來歪風ノ變異ナク永久ニ保存セラルヘカサルハ論ヲ俟タ
ス夫レ斯ノ如ク重要ノ關係ヲ有スルカ故ニ之ヲ設置スル場合ニ於テ一
點ノ標石位置ヲ定ムルニモ幾多ノ經費ト日數トヲ要セサルヘカサル
ハ勿論ニシテ其毀損或ハ移動ニ依リ効用ヲ失セシ際ニ之ヲ復舊セントス
ルトキノ如キハ更ニ多大ノ勞費ト時日トヲ要スルハ同部ニ於ケル從來
ノ經驗上明カナル事實ナリ然ルニ近來右測量標中間、異狀ヲ呈スルモ
ノアリ而シテ是等ハ其天災ニ由ルモノ、外多クハ兒童等ノ惡戯ニ出ツ
ルモノニシテ必竟測量標ノ何タルヲ解セサルニ起因スルモノト認メサ
ルヲ得ス依テ自今右ノ趣旨ヲ了得シ各人自ラ戒ムヘキハ勿論其子弟ニ
對シテハ陸地測量標條例及同施行細則ニ罰則ノ設ケアルコトヲモ懇切
ニ躰示シ苟モ該標石ニ對シ毀損其他異狀ヲ來タスヘキ行爲ヲキ樣篤ク
注意スヘシ

●陸地測量標保管方

明治三十六年十月二十三日
第二部長依命通牒内二發第千二百六十五號

陸地測量部ニ於テ建設ニ係ル測量標保管方ニ關シ十月二十三日諭告第
二號ヲ以テ一般ニ諭告相成候ニ付テハ此際一般周知方取計ハルヘキハ
勿論其兒童ニ對シテハ尙ホ各小學校長ニ訓示シ課業ノ餘暇測量標ノ負
重ナルコト並ニ陸地測量標條例及同施行細則ニ規定シアル罰則ノコト
ヲモ教示セシメ且直接監督官ノ任ニ當レル町村長ニ在テハ殊更注意ヲ
加ヘ時宜ニ依テハ所轄警察署ヘモ協議ノ上充分取締行届キ候御取計
相成度依命此段及通牒候也

追テ測量部ニ於テ一點ノ標石位置ヲ定ムル爲メニ要スル經費及日數
ハ左記ノ通りニ有之候ニ付爲參考申添候也

一等三角點	五百二十四圓餘	日數三十六日餘(明治三十年)
二等三角點	七十九圓餘	同 十日餘 (同上)
三等三角點	三十四圓餘	同 五日餘 (同上)
一等水準點	十八圓餘	同 四日餘 (同上)

●極印使用規則

明治二十四年十月十六日
逕 第 五 百 五 號

郡役所、市役所

官有地ノ立木又ハ枯損木ノ検査及引渡ニ用ユル極印使用規則左ノ通相
定ム 但極印ハ別紙雜形ニ依ルヘシ

第一條 官有地ノ立木又ハ枯損木ヲ賣渡讓與ヲ爲スニ當リ標メ其立木
及枯損木ノ検査ヲ爲セントキハ其證トシテ樹幹ノ目通ニ檢印根ニ山
印ヲ打印スヘシ

●官有土地地種目變換若クハ脱落編入
ノ取扱方

明治四十三年五月十日
訓令甲第四十一號

郡役所、市役所、町村役場

官有土地ノ地種目變換若クハ脱落編入ハ自今本縣公布式ニ依リ告示スヘ
キニ付各其ノ備附ニ係ル官有地審議ハ其ノ都度右ニ依リ整理スヘシ

(別紙)雜形



●官有地ノ脱落ニ係ルモノノ發見シタル
トキ編入申出方

明治二十三年二月十七日
逕 第 九 三 號

市役所、町村役場

官有地ノ脱落ニ係ルモノノ發見スルトキハ實地ノ景狀及四隣ノ境界等調
査ヲ遂ケ字番地目段別取調地形明瞭ナル繪圖面相添ヘ編入方申出ヘ
シ

明治二十三年二月十九日
逕 第 百 五 號

郡役所

官有地ノ脱落發見ノ節調査ノ義ニ付本月十七日逕第九十三號ヲ以テ市
町村へ相達候ニ付テハ町村長ヨリ編入方申出候トキハ尙ホ其役所ニ於
テ繪圖ヲ送ケ副申ノ上差出スヘシ

第四輯
學
事

第四輯 學事

第一章 學校

第一款 御眞影御寫眞及詔勅

- 御眞影御寫眞奉揚ニ關スル規定……………二七
- 御眞影並勅語附本奉置方……………二七
- 東宮殿下御眞影奉拜式ノ件……………二五
- 教育ニ關スル勅語下賜ニ付訓諭……………四二
- 小學校児童卒業後永ク教育ニ關スル勅語ノ旨趣奉體實踐セシムル件……………二二
- 宜職詔勅發布ニ付學校管理者職員及學生生徒ノ心得方……………四〇
- 詔書ニ關スル注意……………四〇

第二款 規則

- 青森縣師範學校規則……………四一
- 青森縣立弘前中學校規則……………三四
- 青森縣立八戸中學校規則……………三四
- 青森縣立青森中學校規則……………三四
- 青森縣立青森中學校生徒定員……………四〇
- 青森縣立弘前中學校東奧調整規則……………四三
- 青森縣立弘前高等女學校規則……………三三
- 青森縣立八戸高等女學校規則……………三四
- 青森縣立弘前八戸高等女學校生徒定員……………三五
- 青森縣立青森高等女學校規則……………四一
- 青森縣立青森高等女學校規則……………三八
- 青森縣立畜産學校種牡牛種付出願心得……………三六
- 青森縣立畜産學校種畜及裝鐵取扱ニ關スル規程……………三七
- 青森縣立工業學校規則……………三三

第四輯 學事 目次

第三款 設置及設備

- 市町村立小學校開校期日ニ關スル規定……………三三
- 尋常小學校ノ設備並町村ノ負擔等ニ就キ認可若ハ指揮ニ關スル規定……………三三
- 高等小學校ノ設置若ハ廢止ノ爲町村學校組合ニ關スル認可稟請方……………三三
- 實業補習學校設置廢止等ニ關スル規程……………三五
- 實業補習學校ノ要旨及之カ設置ノ順序方法等ニ關スル注意……………三六
- 幼稚園官立學校其他小學校ニ類スル各種學校及私立小學校ノ設置廢止等ニ關スル規定……………三三
- 小學校設備ニ關スル規則……………三五
- 小學校諸表簿保存期限……………三五
- 日誌及沿革誌記載事項概目……………三六
- 小學校設備規則ニ依リ校舍新築等及校地選定認可稟請方……………三三
- 市町村立小學校教員住宅費補助規程……………四一
- 校舍校具及體操場ノ使用公開ニ關スル要項……………三七
- 小學校男女兒區別教育方……………三〇
- 市町村又ハ町村學校組合ノ區長及其代理者區ニ屬スル樹ノ教育補助執行方……………三三
- 火災發生豫防注意方……………三八
- 火災豫防ニ關スル注意方……………四〇
- 火災豫防ニ關スル注意方……………四三
- 高等小學校實業施設ニ關スル件……………四四
- 中學校教授科目配付教授細目調製方……………三五

第四款 教科編制

- 中學校教授科目配付教授細目調製方……………三五

○肺結核及トラホーム豫防ニ關シ學校ニ於ケル注意事項……………三七 示 一七一 一二三

○學籍簿ニ種痘事項記載方……………四三 訓甲 三九 一二三

○種痘法施行上ノ件……………四三 教收書八ノ一 一二四

○學校生徒紫色鉛筆使用注意……………三七 示 二九 一二五

第四章 統計報告

○中學校職員生徒ニ關スル事項報告方……………三〇年 達内 三九七 一二五

○公立小學校高等科生徒ニ關スル事項報告方……………三三 達内 五六一 一二五

○小學校高等科生徒ニ關スル事項報告方……………三〇 達内 三九八 一二六

○小學校高等科児童調報告方……………四三 教收書三ノ一 一二六

○學事年報取扱條項及諸表様式……………三四 達 一三 一二七

○學校一覽表様式……………三四 内三發二二六 一二七

○實業學校ニ關スル事項報告方……………四〇 訓乙 四七三 一二八

○高等女學校ニ關スル事項報告方……………四二 訓乙 九 一二九

○學年末現在公立小學校ニ關スル事項報告方……………四三 訓甲 二八 一三〇

○學校生徒ニ關スル事項報告方……………四三 訓乙 三九五 一三一

○教科書供給狀況報告方(本輯第一章第四款ニ收ム)……………四三 訓乙 三九五 一三一

○縣立學校職員勤仕表及月報様式(本輯第二章第三款ニ收ム)……………四三 訓乙 三九五 一三一

○小學校児童町別出席歩合表提出方(本輯第三章第二款ニ收ム)……………四三 訓乙 三九五 一三一

○生徒ノ身體検査報告方(本輯第三章第三款ニ收ム)……………四三 訓乙 三九五 一三一

○縣立學校生徒ノ身體検査報告方(本輯第三章第三款ニ收ム)……………四三 訓乙 三九五 一三一

○代用教員採用解職等報告方(本輯第二章第二款ニ收ム)……………四三 訓乙 三九五 一三一

第五章 會計

第一款 俸給旅費及諸給與

○市町村立小學校教員俸給額並支給規則……………四一 令 一四二 一三四

第四輯 學事

第一章 學校

第一款 御眞影寫奉揚ニ關スル規程

●御眞影寫奉揚ニ關スル規程

明治二十七年十二月二十八日 達 第五百三十號 郡役所、市役所、町村役場

御眞影寫奉揚ニ關スル規程別紙ノ通り相定ム (別紙)

- 第一條 市町村立尋常小學校、幼稚園ニ於テ 聖上 皇后兩陛下ノ 御眞影ヲ寫奉揚セントスルトキハ市町村長ヨリ左ノ事項ヲ具シ町村長ニアリテハ郡長ヲ經由シ之ヲ知事ニ申請スヘシ
- 一 御眞影奉置所圖面及平素奉藏護衛ノ方法、非常ノ時奉移ノ手續場所等
- 二 小學校ニアリテハ生徒人員、學級數、教員人員、資格、月俸額、設置區域内學齡人員幼稚園ニアリテハ幼兒人員、保母人員、資格月俸額等
- 三 小學校又ハ幼稚園ノ敷地、建物ノ圖面及附近ノ狀況等
- 第二條 前條ノ申請ニ就キ該圖面上縣廳ニ於テ相済ノ寫眞師ニ命シテ複寫セシメ之ヲ交付スルモノトス但複寫ニ係ル實費ハ該市町村ノ負擔トス
- 第三條 複寫ノ御眞影ハ市町村長及校長圖長等ヲ縣廳ニ召喚交付スルモノトス
- 第四條 市町村立尋常小學校幼稚園ニ於テ複寫ノ 御眞影奉迎ノ場合ハ其奉迎式ハ實費ニシテ嚴密ナルヲ旨トスヘシ

○市町村立小學校教員給料額確定手續……………三〇 達 二二 一三五

○市町村立小學校教員加俸給與細則……………三三 令 五六 一三五

○市町村立小學校教員旅費額並支給規則……………三三 令 九四 一三五

○市町村立小學校長及教員諸給與支給規則……………三三 令 九五 一五六

○市ニ準スヘキ町村……………四一 訓甲 二 一五六

第二款 授業料及入學料

○公立中學校授業料入學料ニ關スル規則……………三四 令 二六 一五七

○公立中學校入學受驗料ニ關スル規則……………三六 令 三 一五七

○公立高等女學校授業料入學料ニ關スル規則……………三四 令 三二 一五七

○縣立學校授業料減額並不徵收ニ關スル規則……………三七 令 二九 一五七

○出征軍人遺族及家族ノ學校授業料ノ減免並學用品ノ注意……………三七 示 一一 一五八

第三款 教育資金及加俸資金

○教育資金使用規則……………三三 令 九六 一五八

○教育資金管理方法……………三三 告 二七一 一五九

○教育資金貸付申請手續……………三六 達 八 一五九

○市町村立小學校教員加俸資金管理方法……………三三 告 一五九 一六〇

第五條 複寫ノ 御眞影奉置所ニハ嚴重ニ鎖鑰ヲ施シテ護衛シ奉リ其校

第六條 複寫ノ 御眞影ヲ奉藏スル市町村立尋常小學校、幼稚園ニ於テハ非常ノコトアルトキハ豫メ定ムルトコロノ手續ニ依リ宿直員ハ勿論該學校、幼稚園職員、市役所員、町村役場員等連ニ驅付ケ護衛シ奉リ豫定ノ場所ニ奉移スルモノトス

第七條 市町村立尋常小學校、幼稚園ニシテ已ムテ得サル事由アリテ其校園内ニ複寫ノ 御眞影ヲ奉藏シ難キモノハ第一條ノ申請ヲナスノ際左ノ事項ヲ具シ知事ノ許可ヲ受ケテ神社又ハ其市町村内ニ於テ設置スル者ニ平素ノ奉藏護衛ヲ依託スルコトヲ得

一 奉置所ノ圖面及平素奉藏護衛ノ方法、非常ノ時奉移ノ手續場所等ニ依テ必要トスル事由

前項ノ場合ニ於テハ複寫ノ 御眞影奉藏器ニハ嚴重ニ鎖鑰ヲ施シ蓋リニ閉閉スルヲ得サルモノトス

第八條 前條ニ依リ平素ノ奉藏護衛ヲ依託シタル場合ニ於テ祝日、大祭日等ニ際シ複寫ノ 御眞影ヲ其奉置所ヨリ市町村尋常小學校、幼稚園ニ奉迎シ及奉置所ニ奉送スルニハ嚴密ナルヲ旨トスヘシ

第九條 複寫ノ 御眞影ヲ奉揚スル市町村立尋常小學校、幼稚園ニシテ廢校、廢園ノ場合ハ之ヲ縣廳ニ奉納スヘキモノトス

●御眞影並勅語謄本奉置方

明治二十五年二月十六日 達 第六十號 郡役所、市役所、町村役場

學校ヘ下賜セラレタル 天皇陛下 御眞影並教育ニ關シ下シタマヒタル 勅語ノ謄本ハ校内一定ノ場所ヲ選ヒ最モ鄭重ニ奉置セシムヘシ

其校ヘ下賜セラレタル 天皇陛下

明治二十五年二月十六日 達 第六十號 縣立 學校

皇后陛下ノ御影並教育ニ關シテ下シタマヒタル勅語ノ照本ハ校内一定ノ場所ヲ選ビ最モ鄭重ニ奉置スヘシ

●東宮殿下御寫眞奉拜式ノ件

明治四十二年九月二十一日
內務部長通譯青學親等二百三十九號
御統學校校長、縣立青森中學校校長、同弘前高等女學校校長、同青森高等女學校校長、同弘前中學校校長

客年九月
東宮殿下行啓アラセラレ候際貴校ニ於テ
御寫眞拜敷致候ニ付貴校へ行啓アラセラレ候日ヲ以テ毎年
御寫眞奉拜式ヲ舉行可相成候尤モ奉拜式舉行後ハ引續生徒ノ授業ヲ爲ス
ヘキ儀ト御承知相成度候

同 前

畜産學校長

同文但シ

「貴校へ行啓アラセラレ候日ヲ以テ」

トアルナ

「貴校へ待從御差遣アラセラレ候日ヲ以テ」

トスルコト

同 前

弘前市長

第一案ト同文但シ

「貴校」

トアルナ

「貴市立弘前中學校東東義塾」

トシ「舉行可相成」ナ

「舉行可致様同校へ御通知相成度候」

トスルコト

●教育ニ關スル勅語下賜ニ付訓諭

明治二十三年十一月十日
訓示 第四十六號
郡役所、市役所、市町村立學校、私立學校、縣立學校、市町村立學校、私立學校

今般教育ニ關シテ下シタマヒタル勅語ニ付其照本及文部大臣ノ訓示ヲ頒布ス自今各學校ニ於テ元節、天長節、元始祭、神嘗祭、新嘗祭、勅語下賜ノ日(十月三十日)、開校式、始業式、卒業式、入學式(天長節、元節等)ニ生徒ヲ會集シテ勅語ヲ奉讀シ且文部大臣ノ訓示ニ依リ意ヲ加ヘテ詳譯報告シ生徒ヲシテ夙夜ニ佩服スルトコロアラシメ以テ
聖意ノ在ルトコロヲ貫徹セシムヘシ
右訓示ス

今般教育ニ關シテ下シタマヒタル勅語ノ照本各學校ニ交付スルニ當リ聊感スル所ヲ述ヘ以テ教員及生徒ニ告ケル所アラントス

蓋シ小學校令ノ發セラレ其第一條ニ曰ク小學校ハ道徳教育國民教育ノ基礎並其生活ニ必須ナル普通ノ智識技能ヲ授ケルヲ以テ本旨トスト今ヤ聖訓ヲ奉承シ道徳教育國民教育ノ方針ニ於テ明カニ嚮フ所ヲ知ラシメテ力ヲ盡ク奮起セシムルモノアラントス

謹テ惟ク皇國自ラ固有ノ道アリ教フルニ仁義忠孝ヲ以テシ以テ帝王愛國ノ志氣ヲ養成ス被備等外邦ノ教ト雖モ我道ニ合フモノハ容テ以テ補トナス固ヨリ妨ケナカルヘク宜シク我國體道有如何ヲ諒ムヘキノミ教育ノ職ニ在ルモノハ篤ク

●小學校兒童卒業後永ク教育ニ關スル勅語ノ旨趣奉體實踐セシムル件

明治四十年十月十五日
內務部長通譯青學親等二百三號
郡役所、市役所、市町村立學校、私立學校、縣立學校、市町村立學校、私立學校

議ニ文部省ニ於テ全國師範學校長會議開設ノ際文部大臣ヨリ諮問セル小學校兒童ヲシテ卒業後永ク教育ニ關スル勅語ノ趣旨ヲ奉體實踐セシムヘキ適當ノ方法ニ對シ別紙ノ通告申セル趣ニ候處右ハ大體ニ於テ適當ト被認候ニ付地方ノ情況ニ依リ便宜參酌ノ上各學校へ周知セシメ充分ノ旨趣ヲ貫徹セシメ度旨共筋ヨリ申來候條御承知ノ上可然御取計相成度候

一、小學校兒童ヲシテ卒業後永ク教育ニ關スル勅語ノ趣旨ヲ奉體實踐セシムヘキ適當ノ方法
第一、小學校兒童ヲシテ卒業後永ク教育勸導ノ趣旨ヲ奉體實踐セシメンニハ小學校在學中ニ聖旨ノ存スル所十分ニ會得セシメ且聖旨ニ基キタル良習慣ヲ訓練セントコトヲ要ス其ノ方法ニ至リテハ現ニ一般小學校ニ行ヘル、所ノモノナ一層切實有效ナラシムル樣實行セハ可ナリト信スレトモ尙左ノ方法ニヨリテ其ノ足ラサル所ヲ補フテ必要トス

(一) 小學校在學中ニ兒童ヲシテ聖旨ノ誦讀ニ熟達セシムル樣教育スルコト
(二) 聖旨ノ大體及各徳目ニツキ其ノ趣旨ヲ發揮スルニ足ルヘキ適當ノ歌詞歌曲ヲ文部省ニ於テ撰定シ之ヲ普ク各小學校ニ於テ教授セシムルコト

(三) 小學校ノ最後ノ一學年ニ用ヒシムヘキ修身書ハ特ニ聖旨ノ行誼ヲ以テ之ニ充テ且其ノ裝釘ヲ堅牢優雅ニシテ卒業後モ永ク之ヲ保存シ生進遵守スヘキ經典トナサシムルコト
(四) 修身教授及一切ノ訓誡、訓話等ハ成ルヘク聖旨ノ語句ニ歸結セシムルコト

第二、教育勸導ノ趣旨ニヨリテ教育ヲ施スヲ以テ單ニ學校内ノ事業トシ家庭及社會ニ於テハ殆ント之ヲ顧ミサルカ如キ觀アルハ從來ノ一大缺點ナリトス故ニ小學校卒業者ヲシテ家庭ニ於テモ社會ニ於テモ其ノ會テ學校ニ在リシトキト同様ニ當ニ聖旨ノ趣旨ヲ奉體實踐セシムル樣適當ニ指導セントコトハ實ニ目下ノ急務ナリ其ノ方法ハ幾多之アルヘク且土地ノ狀況等ニヨリ必スシモ並一ノ方法ヲ執リ難キ事情ナキニアラスト雖左ニ列記スルモノ、如キハ之ヲ適當ニ採用スルトキハ相當ノ效果アルヘキヲ察ハサルナリ
(一) 青年會、處女會、母ノ會、戶主會ノ類ヲ組織シテ時時之ヲ開催シ毎回必ス 聖旨ノ趣旨ニツキ訓話スルコト

文部省訓令第二號
今回露國ニ對シテ戰ヲ宣セラルルニ...

務ヲ分擔スヘキ管理者ハ經費ノ許ス範圍内ニ於テ成ルヘク優待ヲナス
等便宜ノ處分ヲ執ルヘキナリ

- 第三節 學級編制及生徒定員
第四節 入學、退學及休學
第五節 成績考査及卒業
第六節 表彰及懲戒
第七節 學費及貸與品
第八節 寄宿
第九節 生徒取締
第十章 卒業後ノ服務

Table with columns for 'Year' (第一學年 to 第四學年), 'Subject' (國語及漢文, 算術, 理科, 體育), and 'Hours' (時數). Includes a section for 'School Rules' (校章) and 'Curriculum' (課程).

第四編 學校 第一章 學校

英語	歷史	地理	數學	博物	物理及化學	法制及經濟	國語及漢文	修身	體育	音樂	手工	算術	物理及化學	博物	
三 發音、綴字、解法、會話、習字	二 日本歷史	二 世界地理、日本地理、外國地理	四 算術、代數、幾何	三 人體生理、動物生理、植物生理、礦物生理	二 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	二 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	三 讀本、作文、文法、文法、文法	二 道徳ノ要領、現行法、法律ノ大要、作法	七 心理、論理ノ大要、教育ノ理論、教授法、教育史ノ概説、近代教育史ノ大要、教育行政、學校管理、衛生、歴史地理	六 教育實習	三 講義、作文、教授法	三 算術、代數、幾何	三 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	三 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	三 植物、動物、生理、解剖、製法
三 讀本、綴字、解法、會話、習字	二 日本歷史	二 世界地理、日本地理、外國地理	四 算術、代數、幾何	三 人體生理、動物生理、植物生理、礦物生理	二 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	二 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	三 讀本、作文、文法、文法、文法	二 道徳ノ要領、現行法、法律ノ大要、作法	七 心理、論理ノ大要、教育ノ理論、教授法、教育史ノ概説、近代教育史ノ大要、教育行政、學校管理、衛生、歴史地理	六 教育實習	三 講義、作文、教授法	三 算術、代數、幾何	三 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	三 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	三 植物、動物、生理、解剖、製法
三 讀本、綴字、解法、會話、習字	二 日本歷史	二 世界地理、日本地理、外國地理	四 算術、代數、幾何	三 人體生理、動物生理、植物生理、礦物生理	二 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	二 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	三 讀本、作文、文法、文法、文法	二 道徳ノ要領、現行法、法律ノ大要、作法	七 心理、論理ノ大要、教育ノ理論、教授法、教育史ノ概説、近代教育史ノ大要、教育行政、學校管理、衛生、歴史地理	六 教育實習	三 講義、作文、教授法	三 算術、代數、幾何	三 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	三 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	三 植物、動物、生理、解剖、製法
三 讀本、綴字、解法、會話、習字	二 日本歷史	二 世界地理、日本地理、外國地理	四 算術、代數、幾何	三 人體生理、動物生理、植物生理、礦物生理	二 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	二 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	三 讀本、作文、文法、文法、文法	二 道徳ノ要領、現行法、法律ノ大要、作法	七 心理、論理ノ大要、教育ノ理論、教授法、教育史ノ概説、近代教育史ノ大要、教育行政、學校管理、衛生、歴史地理	六 教育實習	三 講義、作文、教授法	三 算術、代數、幾何	三 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	三 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	三 植物、動物、生理、解剖、製法

英語	歷史	地理	數學	博物	物理及化學	法制及經濟	國語及漢文	修身	體育	音樂	手工	算術	物理及化學	博物	
三 發音、綴字、解法、會話、習字	二 日本歷史	二 世界地理、日本地理、外國地理	四 算術、代數、幾何	三 人體生理、動物生理、植物生理、礦物生理	二 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	二 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	三 讀本、作文、文法、文法、文法	二 道徳ノ要領、現行法、法律ノ大要、作法	七 心理、論理ノ大要、教育ノ理論、教授法、教育史ノ概説、近代教育史ノ大要、教育行政、學校管理、衛生、歴史地理	六 教育實習	三 講義、作文、教授法	三 算術、代數、幾何	三 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	三 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	
三 發音、綴字、解法、會話、習字	二 日本歷史	二 世界地理、日本地理、外國地理	四 算術、代數、幾何	三 人體生理、動物生理、植物生理、礦物生理	二 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	二 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	三 讀本、作文、文法、文法、文法	二 道徳ノ要領、現行法、法律ノ大要、作法	七 心理、論理ノ大要、教育ノ理論、教授法、教育史ノ概説、近代教育史ノ大要、教育行政、學校管理、衛生、歴史地理	六 教育實習	三 講義、作文、教授法	三 算術、代數、幾何	三 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	三 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	三 植物、動物、生理、解剖、製法
三 發音、綴字、解法、會話、習字	二 日本歷史	二 世界地理、日本地理、外國地理	四 算術、代數、幾何	三 人體生理、動物生理、植物生理、礦物生理	二 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	二 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	三 讀本、作文、文法、文法、文法	二 道徳ノ要領、現行法、法律ノ大要、作法	七 心理、論理ノ大要、教育ノ理論、教授法、教育史ノ概説、近代教育史ノ大要、教育行政、學校管理、衛生、歴史地理	六 教育實習	三 講義、作文、教授法	三 算術、代數、幾何	三 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	三 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	三 植物、動物、生理、解剖、製法
三 發音、綴字、解法、會話、習字	二 日本歷史	二 世界地理、日本地理、外國地理	四 算術、代數、幾何	三 人體生理、動物生理、植物生理、礦物生理	二 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	二 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	三 讀本、作文、文法、文法、文法	二 道徳ノ要領、現行法、法律ノ大要、作法	七 心理、論理ノ大要、教育ノ理論、教授法、教育史ノ概説、近代教育史ノ大要、教育行政、學校管理、衛生、歴史地理	六 教育實習	三 講義、作文、教授法	三 算術、代數、幾何	三 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	三 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	三 植物、動物、生理、解剖、製法

英語	歷史	地理	數學	博物	物理及化學	法制及經濟	國語及漢文	修身	體育	音樂	手工	算術	物理及化學	博物	
三 發音、綴字、解法、會話、習字	二 日本歷史	二 世界地理、日本地理、外國地理	四 算術、代數、幾何	三 人體生理、動物生理、植物生理、礦物生理	二 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	二 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	三 讀本、作文、文法、文法、文法	二 道徳ノ要領、現行法、法律ノ大要、作法	七 心理、論理ノ大要、教育ノ理論、教授法、教育史ノ概説、近代教育史ノ大要、教育行政、學校管理、衛生、歴史地理	六 教育實習	三 講義、作文、教授法	三 算術、代數、幾何	三 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	三 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	
三 發音、綴字、解法、會話、習字	二 日本歷史	二 世界地理、日本地理、外國地理	四 算術、代數、幾何	三 人體生理、動物生理、植物生理、礦物生理	二 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	二 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	三 讀本、作文、文法、文法、文法	二 道徳ノ要領、現行法、法律ノ大要、作法	七 心理、論理ノ大要、教育ノ理論、教授法、教育史ノ概説、近代教育史ノ大要、教育行政、學校管理、衛生、歴史地理	六 教育實習	三 講義、作文、教授法	三 算術、代數、幾何	三 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	三 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	三 植物、動物、生理、解剖、製法
三 發音、綴字、解法、會話、習字	二 日本歷史	二 世界地理、日本地理、外國地理	四 算術、代數、幾何	三 人體生理、動物生理、植物生理、礦物生理	二 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	二 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	三 讀本、作文、文法、文法、文法	二 道徳ノ要領、現行法、法律ノ大要、作法	七 心理、論理ノ大要、教育ノ理論、教授法、教育史ノ概説、近代教育史ノ大要、教育行政、學校管理、衛生、歴史地理	六 教育實習	三 講義、作文、教授法	三 算術、代數、幾何	三 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	三 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	三 植物、動物、生理、解剖、製法
三 發音、綴字、解法、會話、習字	二 日本歷史	二 世界地理、日本地理、外國地理	四 算術、代數、幾何	三 人體生理、動物生理、植物生理、礦物生理	二 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	二 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	三 讀本、作文、文法、文法、文法	二 道徳ノ要領、現行法、法律ノ大要、作法	七 心理、論理ノ大要、教育ノ理論、教授法、教育史ノ概説、近代教育史ノ大要、教育行政、學校管理、衛生、歴史地理	六 教育實習	三 講義、作文、教授法	三 算術、代數、幾何	三 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	三 物理、化學、生物、植物、礦物、標本、採集、製法	三 植物、動物、生理、解剖、製法

第四節 入學、退學及休學

第九條 募集スヘキ生徒員數、學年、出願期日、試驗期日及試驗ノ場所ハ、都度之ヲ告示ス

第十條 本科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ、本縣内ニ本籍ヲ有シ若クハ寄留スル者ニシテ左ノ各號ニ該當シ口頭試問學力ノ試驗及身付ノ檢査ニ合格シタル者タルヘシ

一 品行方正ニシテ小學校教員タルノ志望確實ナル者

二 在學中家事上ノ係累ナキ者

三 在學中男子ニ在リテハ兵役ノ爲メ召集セラル、コトナキ者女子ニ在リテハ夫ヲ有スルコトナキ者

第十一條 本科入學志願者ニシテ入學期前ニ第一部又ハ第二部ノ入學程度ニ相當スル學校ノ課程ヲ卒業又ハ修了スヘキ者ハ、當該學校長ノ證明ニ依リ之ヲ卒業者又ハ修了者ト看做ス

中學校(私立中學校)ハ、徵兵令第十三條ノ認定ヲ受ケタル者ニ限ル、第三學年ノ課程ヲ修了シタル者ハ、修了年限三箇年ノ高等小學校ヲ卒業シタル者ト看做ス

第十二條 明治四十年文部省令第十二號師範學校規程第五十四條ノ二ニ該當スル者アルトキハ、學校長ハ他ノ入學志願者ニ先テ其ノ入學ヲ許可スルコトヲ得

第十三條 第十條ニ規定ノ事項ハ、第十五條、第十六條、第十七條並ニ第十八條ノ履歷書及戶籍簿本ニ依リテ之ヲ檢定ス

第十四條 本科第一部ニ入學志願シ第十一條ノ檢定ニ合格セル者ハ、四箇月以内假ニ入學セシメ更ニ學力、身體、品行等ヲ考査シ適當ト認ムル者ニ限リ本入學ヲ許可ス

第十五條 本科第一部ノ入學試驗ハ、修業年限三箇年ノ高等小學校ノ卒業者ニ在リテハ、國語、算術ノ二科目、其他ノ者ニ在リテハ、國語(讀本、作文)、算術(筆算)、日本歴史、地理、理科ノ五科目ニ就キ修業年限三箇年ノ高等小學校卒業ノ程度ニ依リ之ヲ行フ

第十六條 本科第二部ノ入學試驗ハ、左ノ各號ニ依リ之ヲ行フ

一 男子ニ在リテハ、中學校ノ卒業者ハ、國語及漢文、數學(三角法ヲ除ク)ノ二科目、其ノ他ノ者ハ、國語及漢文、歴史、地理、數學(三角法ヲ除ク)ノ三科目、博物、物理及化學、圖畫、體操ノ八科目ニ就キ中學校卒業ノ程度ニ依リ之ヲ行フ

第四編 學校 第一章 學校

第四輯 學事 第一章 學校

業ノ程度ニ依リ之ヲ行フ
二 女子ニ在リテハ高等女學校ノ卒業者ハ國語、數學ノ二科目、其ノ他ノ者ハ國語、歴史、地理、數學、理科、圖畫、裁縫、音樂、體操ノ八科目ニ就キ高等女學校卒業ノ程度ニ依リ之ヲ行フ
中學校若ハ高等女學校卒業シ又ハ之ト同等以上ノ學力アリト認メタル者ニハ學校長ニ於テ第一項ノ學科目ノ全部若ハ一部ノ試験ヲ缺クコトヲ得

第十七條 補缺ノ入學試験ハ學校長ニ於テ其ノ學科目及程度ヲ定メテ之ヲ行フ
第十八條 入學志願者ハ入學願書ニ履歷書及戶籍謄本ヲ添ヘ保證人連署ノ上市町村長ノ與書ヲ得テ學校長ニ差出スヘシ
第十九條 入學願書及履歷書ノ書式ハ左ノ如シ

保證人消印 (用紙半紙)
收入 印紙 (三錢)

何某儀小學校教員志願ニ付(私費ヲ以テ)御校本科第一部第何學年(第二部)ニ入學致度御許可相成候上ハ在學中本人ノ身上ニ關スル件ハ保證人ニ於テ一切引受け可申依テ別紙本人ノ履歷書及戶籍謄本相添ヘ連署ノ上此段相願候也

本籍地 何何
寄留地 何何
族稱 何何
保證人 何何
青森縣師範學校校長 氏 名殿

右何某(志願者)ハ刑罰ニ觸レタルコト無之者ニ候也
年・月・日 何市(町)(村)長 氏 名印
右何某(保證人)ハ公民權ヲ有スル者ニ相違無之候也
年・月・日 何市(町)(村)長 氏 名印
履歷書 (用紙半紙)
卒業證書、免許狀
一何年何月何學科卒業(卒業證書別紙寫之通リ)
一何年何月何處ヨリ何免許狀ヲ受ケ(免許狀別紙寫之通リ)
一何年何月ヨリ何年何月マテ何學校ニ於テ又ハ何某ニ就キ何科修業等
一何年何月ヨリ何年何月マテ何處ニ於テ何官奉職又ハ何業從事等
一父何官奉職、兄何職ニ從事等
一兵 役
一何年何月何處ニ於テ何ノ職ニヨリ何賃又ハ何額ヲ受ケ等
右之通相違無之候也
年・月・日 右 氏 名印
第二十條 第十八條ノ保證人ハ本縣内在籍者ニシテ公民權ヲ有スル者ニ限ル
第二十一條 保證人連署ノ地ニ居住スルトキハ學校ヨリ一里以内ニ於テ一家計ヲ立ツル丁年以上ノ男子ヲ保證人代理者ト定メ連署ノ上左式ノ願書ヲ學校長ニ差出ス可シ
保證人代理者 氏 名印
何某儀御校生徒何某ノ保證人ニ相立テ候處居住地連署ニ付本人身上ニ關スル臨時ノ事件ヲ處理セシムル爲何某ヲ以テ保證人代理者ト相

定メ候依テ之ヲ署テ以テ此段及御願候也

居住地 何何
保證人 何何
青森縣師範學校校長 氏 名殿

第二十二條 保證人死亡又ハ已ムテ得サル事故ヲ生シタルトキ若ハ第二十條ノ資格ヲ失ヒタルトキハ連ニ相當ノ保證人ヲ定メ左式ノ願書ヲ學校長ニ差出スヘシ
保證人變更届 (用紙半紙)
收入 印紙 (三錢)

御校生徒何某保證人何某儀今般何何ニ因リ自今本人ノ身上ニ關スル事件ハ何某(保證人ノ氏名)ニ於テ一切引受け可申候依テ連署ヲ以テ此段及御願候也
本籍地 何何
居住地 何何
保證人 何何
青森縣師範學校校長 氏 名殿

右何某(保證人)ハ公民權ヲ有スル者ニ相違無之候也
年・月・日 何市(町)(村)長 氏 名印
第二十三條 保證人代理者ヲ變更スルトキハ左式ノ願書ヲ學校長ニ差出スヘシ
保證人代理者變更届 (用紙半紙)

從來何某ヲ以テ拙者代理者トシ御校生徒何某ノ身上ニ關スル臨時ノ事件ヲ處理セシム候處今般何何ニ因リ何某ニ變更致候依テ連署ヲ以テ此段及御願候也

第四輯 學事 第一章 學校

居住地 何何
保證人 何何
青森縣師範學校校長 氏 名殿

第二十四條 學校長ニ於テ保證人及保證人代理者ヲ不適當ト認ムルトキハ之ヲ變更セシムルコトアルヘシ
第二十五條 本科第一部ノ生徒ニシテ疾病ノ爲引續キ六十日以上缺課シタルトキハ學校長ハ該學年間休學ヲ命スルコトアルヘシ
第二十六條 學校長ニ於テ生徒ノ入學ヲ許可シタルトキハ其氏名及本籍地、生年月日等ヲ知事ニ報告スヘシ
第二十七條 學校長ニ於テ生徒ニ退學ヲ命シ又ハ退學ヲ許可シタルトキハ其事由ヲ具シ知事ニ報告スヘシ
第二十八條 生徒死亡シタルトキ、氏名ヲ改メタルトキ又ハ轉籍シタルトキハ學校長ニ於テ之ヲ知事ニ報告スヘシ
第五節 成績考査及卒業

第二十九條 生徒ノ成績ハ各學期末ニ於テ其ノ學業ニ就キ試験ヲ施行シ身體力行ハ平素ノ成績ヲ考査シテ之ヲ考査ス但シ學科目ノ種類ニ依リ試験ナリハサハサルコトヲ得
第三十條 各學期成績ヲ考査シテ學年成績トシ合格ノ者ハ進級セシム
第三十一條 各學年成績ヲ考査シテ卒業成績トシ合格ノ者ニハ卒業證書ヲ授與ス
第三十二條 卒業證書ノ様式左ノ如シ

卒業證書
校印 氏 名
右ハ本校ニ於テ師範學校本科第一部(本科第二部)ノ課程ヲ履修シ其ノ業ヲ卒ヘタリ仍テ茲ニ之ヲ證書
年・月・日 青森縣師範學校校長位勳爵 氏 名印

第四輯 學事 第一章 學校

第三十三條 正當ノ事由アリテ試験ニ缺席シタル者ノ爲平素ノ學業ヲ考査シテ試験ノ成績ニ代フルコトヲ得

第六節 表彰及懲戒

第三十四條 生徒ニシテ學業操行等特ニ他ノ模範タルヘキ者ハ之ヲ表彰ス

第三十五條 生徒ニシテ規則命令ニ違背シ又ハ體面ヲ汚辱スルノ所爲アリタルトキハ之ヲ懲戒ス懲戒ハ戒飭、謹慎、停學及放校ノ四種トス

第七節 學費及貸與品

第三十六條 本科第一部公費生ニ支給スヘキ學費ハ食費、被服及雜費ノ三種トス

第三十七條 食費ハ毎月現金ヲ以テ支給ス但シ夏季休業中及許可ヲ得テ外泊スル場合ハ退舍及入舍ノ日ヲ除クノ外之ヲ支給セズ

第三十八條 被服ハ左表ニ依リ之ヲ支給シ若シ所定ノ期限内ニ之ヲ損傷シ更ニ交付ヲ要スルトキハ其ノ費用ハ本人ヨリ之ヲ徴收ス但シ生徒在校日數ノ狀況ニ依リ定數ヨリ増減スルコトアルヘシ

品名	第一年度	第二年度	第三年度	第四年度	合計
冬服	三	三	三	三	一
夏服	三	三	三	三	一
外服	三	三	三	三	一
頭巾	一	一	一	一	一
靴	一	一	一	一	一
上靴	一	一	一	一	一
下靴	一	一	一	一	一
脚絆	一	一	一	一	一
朝服(西木綿)	一	一	一	一	一
日履付(西木綿)	一	一	一	一	一

前項ノ被服ハ一學年間に一人ニ付金一圓以下ノ範圍ニ於テ修理スルコトアルヘシ

第三十九條 雜費ハ月手當、共用品、修學旅行費、及治療費ノ四種トス月手當ハ八月ヲ除キ毎月現金ヲ以テ支給ス但シ缺課全月ニ互ル者ニハ其ノ月分ヲ支給セズ

修學旅行費ハ修學旅行ヲ命セラレタル者ニ其ノ實費ノ全額若ハ一部ヲ支給ス

治療費ハ傳染病ニ罹リ若ハ課業ノ爲負傷シタル場合ニ於テ特ニ治療ヲ命セラレタル者ニ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ支給ス

命セラレタル者ニ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ支給ス

第四十條 本科第一部ノ生徒ニハ八月ヲ除クノ外所定ノ學費ヲ支給ス但シ缺課全月ニ互ル者ニハ其ノ月分ヲ支給セズ

第四十一條 停學若ハ休學ヲ命セラレタル者ニハ其ノ期間學費ヲ支給セズ

第四十二條 本科第一部ノ公費生ニシテ退學ヲ命セラレタル者ニハ時服一著、帽子(徽章ヲ除ク)一箇及靴一足ノ外支給シタル現在品ヲ一切返納セシム

第四十三條 放校ニ處セラレタル者及自己ノ便宜ニ因リ退學シタル者ニハ公費生ニ就キテハ授業費及其ノ在學中支給シタル學費、私費生ニ就キテハ授業費ヲ償還セシム但シ借款ニ依リ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

前項授業費ノ金額ハ月額二圓トス

第四十四條 本科第一部ノ生徒ニハ在學中必要ニ應シ學用具、寢具、食器及炊事用具ヲ貸與ス

第四十五條 私費生ニハ左ノ各號ノ學費ヲ納メシム

一 食費 本科第一部公費生ニ支給スル額

二 被服費 本科第一部公費生ニ支給スル被服ノ實費額

三 雜費 共用品費、修學旅行費及治療費トシテ學校長ノ指定シタル額

第四十六條 私費生ハ前條ノ學費ニ充ツル爲八月分ヲ除クノ外毎月所要ノ費用ノ見込額ヲ豫メ學校ニ納付スヘシ

第四十七條 故意怠慢ニ因リ貸與品ヲ毀損シ若ハ亡失シタルトキハ之ヲ償還セシム

第八節 寄宿

第四十八條 生徒ハ總テ寄宿舍ニ收容ス但シ本科第一部ノ生徒ニ限リ當分學校長ニ於テ適當ト認ムル場所ニ宿泊セシム

第四十九條 左ノ場合ニハ學校長ニ於テ生徒ニ外泊ヲ許可スルコトヲ得

一 疾病ニ罹リタルトキ

二 父母近親ノ重病ニ罹リ若ハ死亡シタルトキ

三 春季休業

四 冬季休業

五 其ノ他特ニ必要ト認ムヘキ事故アルトキ

第五十條 夏季休業中ハ生徒ヲ歸郷セシム

第五十一條 第四十九條第三號第四號及左ノ各號ノ場合ニハ學校長ニ於テ生徒ニ外泊ヲ命スルコトヲ得

一 傳染病其ノ他寄宿舍ニ於テ治療シ難キ疾病ニ罹リタルトキ

二 其ノ他特ニ必要ト認ムヘキ事故アルトキ

第九節 生徒取締

第五十二條 學校ノ内外中間ハ特ニ許可ヲ得タル場合ノ外ハ所定ノ制服ヲ着用スヘシ但シ歸郷中外出ノ際ハ著袴制朝服ヲ以テ制服ニ代フルコトヲ得

第五十三條 前條ノ外生徒取締ニ關スル規程ハ知事ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム

第三章 小學校教員講習科

第一節 種類期間及休業日

第五十四條 小學校教員講習科ヲ分チテ第一種及第二種ノ二種トス

第一種講習科ハ尋常小學校本科正教員タラントスル者ニ必要ナル講習ヲ爲スモノトシ其ノ講習期間ハ二箇年トス

第二種講習科ハ小學校教員免許狀ヲ有スル者ニ學力補充ヲ爲スモノトシ其ノ講習期間ハ二箇月以上トス

第五十五條 休業日ハ第五條ノ規定ヲ適用ス

第二節 學科日及其ノ程度

第五十六條 第一種講習科ノ學科日及其ノ程度ハ小學校令施行規則第一百十一條ニ準シ左表ニ依リ之ヲ課ス但シ教育實習ハ第二學年ノ終リニ於テ便宜之ヲ行フ

第二種講習科日ノ學科日及其ノ程度ハ知事ノ認可ヲ經テ學校長其ノ都度之ヲ定ム

第三節 教科用圖書

第五十七條 講習科ノ教科用圖書ヲ定メ又ハ之ヲ變更スル必要アルトキハ學校長ハ其ノ意見ヲ知事ニ申出ツヘシ

第四節 學級編制及生徒員數

第五十八條 講習科ニ於ケル學級ノ編制及生徒ノ員數ハ臨時之ヲ定ム

第五節 入學及退學

第五十九條 募集スヘキ講習科ノ種類、生徒ノ員數、出願期日試驗期日試験科目等ハ其ノ都度之ヲ告示ス

第六十條 第一種講習科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ本縣内ニ本籍ヲ有シ若ハ寄留スル者ニシテ左ノ各號ニ該當シ口頭試驗、學力試驗及身體ノ検査ニ合格シタル者タルヘシ

一 品行方正ニシテ小學校教員タルノ志望確實ナル者

二 在學中家事上ノ係累ナキ者

三 在學中男子ニ在リテハ兵役ノ爲召集セラル、コトナキ者女子ニ在

科目	第一學年	第二學年
修身	二 道德ノ要領作法	二 道德ノ要旨、教授法
教育	五 教育ノ理論、教授法ノ大要、教育實習	五 教授法及學校管理

科目	第一學年	第二學年
國語	男七 普通文ノ講讀、作文、習字	男七 教科書及小學校用圖書ノ講讀、作文、習字、教授法
算術	五 整數、分數、小數、諸等數	五 珠算(加減乘除)教授法、日本歷史ノ大要、日本地理ノ大要、算術(加減乘除)教授法
歷史	二 日本歷史ノ大要	二 日本歷史ノ大要、日本地理ノ大要、算術(加減乘除)教授法
地理	二 日本地理ノ大要	二 日本地理ノ大要、算術(加減乘除)教授法
理科	二 博物、物理	二 博物、物理、化學ノ大要、教授法
音樂	二 自在童	二 自在童、教授法
體育	男三 普通體操、遊戲、兵式體操(男)	男三 普通體操、遊戲、兵式體操(男)教授法
裁縫	女四 裁縫(方、縫ヒ方)	女四 裁縫(方、縫ヒ方)教授法
手工	男二 手工ノ大要	男二 手工ノ大要、教授法

第四輯 學事 第一章 學校

第四輯 學事 第一章 學校

リテハ夫ナ有スルコトナキ者
四 男子ニ在リテハ年齢十六年以上ノ者、女子ニ在リテハ年齢十五
以上ノ者
第六十一條 第二種講習科ニ入學スヘキ者ハ小學教員免許狀ヲ有スル者
ニ就キ郡市長之ヲ薦舉ス
第六十二條 第一種講習科ノ入學試驗ハ尋常小學教員資格ヲ有ス
ル者ニ在リテハ國語、算術、二科目、其他ノ者ニ在リテハ國語、算術、
作文、算術(計算)、日本歴史、地理、理科ノ五科目ニ就キ修業年限三箇年
ノ高等小學校卒業ノ程度ニ依リ之ヲ行フ
第六十三條 學校長ニ於テ第一種講習科生徒ニシテ學力劣等若ハ身體虛
弱ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者又ハ性質不良ニシテ教員タルニ
不適當ト認メタル者ニハ退學ヲ命スヘシ
第六十四條 講習科生徒ハ自己ノ便宜ニ因リ退學スルコトヲ得ス但シ己
ムヲ得サル事由ニ因リ學校長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス
第六十五條 第一種講習科生徒ハ入學、保證人及退學等ニ關シテハ第十
八條乃至第二十四條及第二十六條乃至第二十八條ノ規定ヲ準用ス
第六十六條 成績考査、卒業、表彰及懲戒ニ關シテハ第二十九條乃至第
三十五條ノ規定ヲ準用ス
第六十七條 第二種講習科ヲ修了シタル者ニハ左式ノ修了證書ヲ授與ス
但シ全科目ヲ修了セズト雖モ某科目ノ成績優良ナル者ニハ左式ノ證書ヲ
授與スルコトアルヘシ

修了證書
校印 族稱 氏 名
年月日 生
右ハ本校ニ於テ小學校教員第二種講習科ノ課程ヲ修了セリ
仍テ茲ニ之ヲ證ス
青森縣師範學校校長位勳爵 氏 名 印

シ但シ傷病又ハ疾病ニ依ル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ
一、他ノ道府縣、臺灣又ハ樺太ニ於テ就職セントスルトキ
二、本邦兒童ノ爲メ外國ニ於テ小學校教員ノ旨趣ニ準シテ設立セル公立又
ハ之ニ準スヘキ學校教員ノ職ニ從事セントスルトキ
三、教員養成ヲ目的トスル官立學校ニ入學セントスルトキ
四、職務ヲ盡スコト能ハサル事由ヲ生ジタルトキ又ハ外國政府ノ招聘
ニ應ジ教員ノ職ニ從事セントスルトキ
第七十七條 本科卒業者ハ左ノ各號ニ該當スルトキハ郡市長ヲ經由シ職
名、學校名、就職年月日及給料額其ノ他ノ事項ヲ知事ニ届出ツヘシ
一、服務期間内ニ於テ小學校教員以外ノ學事ニ關スル公職ニ從事シタ
ルトキ
二、第七十六條第一號第二號及第四號後段ノ職務ニ從事シタルトキ又
ハ同條第三號ノ學校ニ入學シタルトキ
三、本人ニ關スル戸籍ニ異動ヲ生ジタルトキ
服務期間内ニ於テ死亡シタル者ハ其ノ親族ヨリ郡市長ヲ經由シ知事ニ
届出ツヘシ
第七十八條 本科卒業者ニ償還セシムル授業費ノ金額ハ月額二圓トス
第二節 小學校教員講習科卒業生
第七十九條 第一種講習科卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ三箇年間本縣
ニ於テ小學校教員ノ職ニ從事スル義務ヲ有ス
第八十條 第一種講習科卒業生ニシテ服務期間内ニ於テ更ニ本校本科ニ
入學セントスル者ハ知事ノ許可ヲ受クヘシ
前項ノ場合ニ於テハ在學中前條ノ義務ノ履行ヲ阻害シ其ノ卒業シタル
場合ニ於テハ之ヲ免除ス
第八十一條 第一種講習科卒業生ハ第七十九條ノ義務ヲ盡クスコト能ハ
サルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ郡市長ノ證明書ヲ得テ知事ノ許可ヲ受ク
ヘシ但シ傷病又ハ疾病ニ依ル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ
第八十二條 第一種講習科卒業生ニシテ服務期間内ニ於テ左ノ各號ノ一
ニ該當スルトキハ其ノ在學中支給シタル學費ヲ償還セシム但シ情狀ニ
依リ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ
一 正當ノ事由ナクシテ第七十九條ノ義務ヲ盡サ、ルトキ

第四輯 學事 第一章 學校

證明書
族稱 氏 名
年月日 生
右ハ小學校教員第二種講習科ニ於テ前記ノ學科日ヲ修了セ
リ仍テ茲ニ之ヲ證ス
青森縣師範學校校長位勳爵 氏 名 印

第七節 學 費
第六十八條 講習科ノ生徒ニハ八月ヲ除クノ外毎月所定ノ學費ヲ支給ス
但シ缺課全月ニ亙ル者ニハ其ノ月分ヲ支給セズ
第六十九條 停學ヲ命セラレタル者ニハ其ノ期間學費ノ支給ヲ停止ス
第七十條 第一種講習科ノ生徒ニシテ放校ニ處セラレタル者及自己ノ便
宜ニ因リ退學シタル者ニハ在學中支給シタル學費ヲ償還セシム但シ情
狀ニ因リ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ
第七十一條 在學中必要ニ應ジ學用品、器具等ヲ貸與スルコトアルヘシ
第七十二條 貸與品毀損、亡失ノ場合ニ關シテハ第四十七條ノ規定ヲ準
用ス
第八節 寄 宿
第七十三條 講習科ノ生徒ハ一定ノ場所ニ寄宿セシム但シ己ムヲ得サル
事情アル者ニハ學校長ニ於テ外泊ヲ許可スルコトヲ得
第七十四條 講習科ノ生徒ノ外泊ニ關シテハ第四十九條乃至第五十一條
ノ規定ヲ適用ス
第九節 生徒取締
第七十五條 講習科生徒ノ取締ニ關シテハ第五十二條及第五十三條ノ規
定ヲ準用ス
第四章 卒業後ノ服務
第七十六條 本科卒業者ハ服務期間内ニ於テ左ノ各號ニ依リ許可ヲ受ケ

二 懲戒免職ニ處セラレタルトキ
三 小學校令ノ規定ニ依リ免許狀其ノ效力ヲ失ヒ又ハ免許狀變更ノ處
分ヲ受ケタルトキ
四 前條ノ事由ニ因リ第七十九條ノ義務ヲ免除セラレタルトキ
第五章 附屬小學校
第一節 教科修業年限及休業日
第八十三條 附屬小學校ニハ尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トヲ
併置ス
第八十四條 高等小學校ノ修業年限ハ三箇年トス
第八十五條 尋常小學校ニ於テハ手工工加ハ高等小學校ニ於テハ手工工
業及英語ヲ加フ但シ農業及英語ハ男兒ニ限リ之ヲ課ス
第八十六條 休業日ハ第七條ニ規定シタルモノ、外續守祭日トス
第二節 學級編制及兒童定員
第八十七條 學級編制及兒童定員ハ左ノ如シ
尋常小學校第一學級 第一學年 男女凡五十名
第二學級 第二學年 男女凡五十名
第三學級 第三學年 男女凡五十名
第四學級 第四學年 男女凡五十名
第五學級 第五學年 男女凡五十名
第六學級 第六學年 男女凡五十名
第七學級 第七學年 男女凡六十名
第八學級 第八學年 男女凡六十名
高等小學校第一學級 第一學年 男凡五十名
第二學級 第二學年 女凡五十名
第三學級 第三學年 男凡五十名
第四學級 第四學年 女凡五十名
第五學級 第五學年 男凡五十名
第六學級 第六學年 女凡五十名
前項ノ學校ノ外泊、啞及心身ノ發育不完全ナル兒童ヲ教育センカ爲メ特
別學級ヲ設ケルコトアルヘシ
第三節 入學及退學

現住所原籍族稱
右父(母若クハ後見人)氏
青森縣弘前中學校校長 氏
名 殿
名(印)

現住所原籍族稱
氏
名
生年月日
何年何箇月

職 業
父兄若クハ戶主等ノ營業
賞 罰
明治年月日
何年何箇月

官廳又ハ校名等
右之通相違無之候也
年 月 日
右 氏
名(印)

紙貼用) 在 學 證 書 (用紙美濃紙)
私儀今般御校へ入學御許可相成候ニ付テハ御規則御指示等堅ク相守
リ専心勉學可致候依テ證書如斯候也
何府縣何郡市町村何番地(寄留者ハ寄留地)
何府縣華士族平民戶主(誰何男又ハ弟等)
氏 名(印)
生年月日

生年月日
何年何箇月

右何之誰在學中ニ關スル一切ノ事件ハ私共引受可申依テ保證如斯候
也
青森縣何郡市町村番地
何府縣華士族平民職業
保證人 氏
名(印)

青森縣弘前中學校校長氏名殿
同 氏
名(印)

第十一條 保證人ハ現ニ本縣内ニ居住スル丁年以上ノ男子ニシテ一名ハ
學校所在地ヨリ一里以内ニ於テ一名ハ本縣内ニ於テ一家計ヲ立テ相當
ノ職業或ハ財產ヲ有シ其生計ノ身分ニ關シ一切ノ責務ノ果スニ足ルヘ
キ者ニ限ル

第十二條 保證人ノ轉居改氏名改印等ハ其都度本校ニ届出ツヘシ
第十三條 保證人旅行セントスルトキハ相當ノ代理者ヲ立テ其都度本校
ニ届出ツヘシ
第十四條 保證人死亡スルカ又ハ第十二條ノ資格ヲ失ヒタルトキハ更ニ
相當ノ保證人ヲ立テ在學證書ヲ審改メ差出スヘシ

第十五條 學校長ニ於テ保證人又ハ其代理者ヲ不充分ト認ムルトキハ之
ヲ變更セシムルコトアルヘシ
第十六條 生徒ノ轉學ニ關シテハ明治三十四年三月文部省令第三號第四
十六條ノ規定ニ依ル
第十七條 生徒入學許可ノ上ハ本校所定ノ制服制ヲ着用スヘキモノト
ス

制服制ハ知事ノ許可ヲ經テ學校長之ヲ定ム
第十八條 生徒ニシテ左ノ一項若クハ數項ニ觸ル、モノハ退學ヲ命ス
一、明治三十四年三月文部省令第三號第五十一條ニ該當ノモノ
二、正當ノ理由ナクシテ學年試驗ニ缺席シタルモノ
三、出席當ナラサルコト甚シキモノ
四、同一年級ニ於テ落第ニ及ブモノ
五、授業料ノ滞納翌月ニ及ブモノ
第十九條 生徒疾病或ハ事故ニ因リテ退學セント欲スルトキハ其理由ヲ
詳具シ保證人連署ノ上届出ツヘシ

但シ疾病ニ罹リタルモノハ醫師ノ診察書ヲ添付スヘシ
上醫阿ノ診察書ヲ添ヘ届出ツヘシ

第二十一條 各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ卒業ノ
學業及試驗ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ム試驗ヲ分テ學期試驗及學年試
驗ノ二種トス
但シ正當ノ事由アリテ試驗ニ缺席シタル者ニ對シテハ卒業ノ學業ノ
成績ノミヲ考査シテ之ヲ定ムルコトアルヘシ

第二十二條 試驗ハ總テ評點ヲ以テ其優劣ヲ判シ一學科及一分科一百分
ヲ以テ最高點トス
但學科ヲ分テ分科ヲ設クルハ學校長ニ於テ之ヲ定ム

第二十三條 學期試驗ハ第一學期及第二學期末ニ於テ學年試驗ハ學年ノ
終リニ於テ之ヲ行ヒ各其成績ニ依リ評點ヲ附ス
第二十四條 試驗ヲ行ハサル學科目ノ各學期試驗評點ハ日課點ニ依リ學
年試驗評點ハ三學期ノ試驗評點ヲ三除シテ之ヲ定ム

第二十五條 每學年ノ終リニ於テ第一、第二學期ノ平均評點ニ學年試驗
評點ヲ加ヘテ之ヲ二除シテ學年評點ノ各學科及分科評點ヲ定ム
第二十六條 學年評點ノ全科平均評點ハ各學科各分科評點ノ總數ヲ學科
及分科數ニテ除シ之ヲ定ム

第二十七條 每學年ノ終リニ於テ生徒ノ成績ヲ判定スルニハ左ノ標準ニ
依ル
甲、學年評點ノ全科平均評點六十點以上ニシテ學科及分科評點五十點
以上ノモノ
乙、同上ノ全科平均評點六十點以上ニシテ學科及分科評點二科目ニ限
リ四十點以上ノモノ
丙、同上ノ全科平均評點六十點以上ニシテ學科及分科評點一科目ニ限
リ三十點以上ノモノ

右甲、乙、丙ノ一ニ該當スルモノヲ及第トシ其他ハ之ヲ落第トス
第二十八條 學期試驗及學年試驗ノ際正當ノ事由アリテ缺席シタル者ノ
爲メ學校長ノ見込ニ依リ特ニ追試驗ヲ行フコトアルヘシ
第二十九條 修身科ハ學科ト操行トノ二科ニ分テ評點ヲ附ス

卒業證書

校 印
年 月 日
青森縣弘前中學校校長位勲爵 氏
名 殿

第五章 授業料

第三十二條 授業料ハ一箇月金一圓六十錢トシ在學中毎月之ヲ徴收ス
但シ八月ハ之ヲ徴收セス
第三十三條 授業料ハ一月、四月、九月ハ十五日マテ其ノ他ノ月ハ五日
迄ニ當月分ヲ納ムヘシ
但シ本文期日以後ニ出席シタルモノ又ハ新ニ入學シタルモノハ當日
之ヲ納ムヘシ
第三十四條 休業全月ニ互ルモノハ其月分ノ授業料ヲ徴收セス
但シ停學ニ處セラレタルモノハ本文ノ限ニアラス
第三十五條 第二十五條ノ期日ニ授業料ヲ納メサルモノハ授業ヲ停止ス
第三十六條 生徒若シ翌月五日ニ及ビ授業料ヲ納メサルトキハ保證人ヨ
リ之ヲ徴收ス
第三十七條 本校ニ入學セントスルモノハ其ノ入學願書ト共ニ入學受驗
料金一圓ヲ納ムヘシ
但入學受驗料ハ本校生徒ノ應募人員其募集人員ニ超過セスシテ入學
試驗ヲ要セサルトキハ之ヲ附ス

第四編 學事 第一章 學校

第六章 賞罰

- 第三十八條 生徒ニシテ品行端正學業優等身體強健ナルモノハ之ヲ旌表ス
- 第三十九條 生徒若シ規則命令ニ違背シ又ハ體面ヲ汚辱スルノ行爲アルトキハ其ノ輕重ニ從ヒ左ノ各項ニ依リ之ヲ懲戒處分ス
 - 一 戒飭
 - 一 訓戒シテ將來ヲ慎マシム
 - 一 謹慎
- 一 授業後校内ニ留置シ悔悟ノ實ヲ表セシム但シ其時間ハ一日二時間以內トシ日數ハ七日以內トス
- 一 停學
- 一 出校ヲ停止ス但シ其期間ハ一週間以上一學年以內トス
- 一 懲戒處分シタルトキハ之ヲ保證人ニ通知ス

第四十條 本校所屬ノ物品ヲ毀損亡失又ハ汚染シタル生徒ニハ現品若クハ代價ヲ以テ之ヲ賠償セシム更ニ相當ノ懲戒處分スルコトアルヘシ

第七章 補習科

第四十一條 補習科ノ修業期限ハ六箇月トシ本校卒業生中志望ノ者ヲシテ引續キ須要ノ學科ヲ學習セシム

第四十二條 補習科ノ學科日ハ第一條ノ學科日中ニ就キ每週教授時數ト共ニ每學年ノ始ニ於テ學校長之ヲ定メ知事ニ開申スヘシ但シ教授時間ハ本科教授ノ餘暇ヲ以テ之ニ充ツ

補習科ノ學科日ハ隨意科目トス

第四十三條 補習科ヲ修了シタル者ニハ左式ノ證書ヲ授與ス

修了證書

青森縣弘前中學校卒業生

族稱 氏 生年月日

右者本校補習科ニ於テ前記ノ科目ヲ修了セリ依テ之ヲ證ス

第 年 月 日

青森縣弘前中學校校長位 勲爵 氏 名 願

外國語	地理史	數學	博物學	物理學及化學	法制經濟	圖畫	唱歌	體操	合計
讀解方會 讀解方會 讀解方會 讀解方會 讀解方會	日本歷史 外國地理 日本歷史 外國地理 東洋地理 西洋地理 西國地理 西國地理 西國地理 西國地理 西國地理	算術 代數 幾何 代數 幾何 代數 幾何 代數 幾何 代數 幾何	動物 植物 動物 植物 動物 植物 動物 植物 動物 植物 動物 植物	第一學期 第二學期 第三學期 第一學期 第二學期 第三學期 第一學期 第二學期 第三學期 第一學期 第二學期 第三學期	第一學期 第二學期 第三學期 第一學期 第二學期 第三學期 第一學期 第二學期 第三學期 第一學期 第二學期 第三學期	第一學期 第二學期 第三學期 第一學期 第二學期 第三學期 第一學期 第二學期 第三學期 第一學期 第二學期 第三學期	第一學期 第二學期 第三學期 第一學期 第二學期 第三學期 第一學期 第二學期 第三學期 第一學期 第二學期 第三學期	第一學期 第二學期 第三學期 第一學期 第二學期 第三學期 第一學期 第二學期 第三學期 第一學期 第二學期 第三學期	第一學期 第二學期 第三學期 第一學期 第二學期 第三學期 第一學期 第二學期 第三學期 第一學期 第二學期 第三學期

第四編 學事 第一章 學校

第四十四條 補習科ニ關シテ本章ニ定メタル外ハ總テ本則ノ規定ヲ準用ス

第四十五條 補習科ニ關スル細則ハ知事ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム

第八章 生徒心得及寄宿舍規定

第四十六條 生徒心得ハ知事ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム

第四十七條 生徒調育ノ便ヲ圖リ學校内ニ寄宿舍ヲ設ク

學校長ニ於テ必要ト認ムルトキハ生徒ニ入舍ヲ命スルコトヲ得

第四十八條 寄宿舍ニ關スル細則ハ知事ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム

青森縣立八戸中學校規則

明治三十四年二月十五日 縣令第十一號

三十四年二月十五日 縣令第十一號

三十四年三月一日 縣令第十二號

三十四年三月一日 縣令第十三號

三十四年三月一日 縣令第十四號

三十四年三月一日 縣令第十五號

三十四年三月一日 縣令第十六號

三十四年三月一日 縣令第十七號

三十四年三月一日 縣令第十八號

三十四年三月一日 縣令第十九號

三十四年三月一日 縣令第二十號

三十四年三月一日 縣令第二十一號

三十四年三月一日 縣令第二十二號

三十四年三月一日 縣令第二十三號

三十四年三月一日 縣令第二十四號

三十四年三月一日 縣令第二十五號

三十四年三月一日 縣令第二十六號

三十四年三月一日 縣令第二十七號

三十四年三月一日 縣令第二十八號

三十四年三月一日 縣令第二十九號

三十四年三月一日 縣令第三十號

三十四年三月一日 縣令第三十一號

三十四年三月一日 縣令第三十二號

三十四年三月一日 縣令第三十三號

三十四年三月一日 縣令第三十四號

三十四年三月一日 縣令第三十五號

三十四年三月一日 縣令第三十六號

三十四年三月一日 縣令第三十七號

三十四年三月一日 縣令第三十八號

三十四年三月一日 縣令第三十九號

三十四年三月一日 縣令第四十號

三十四年三月一日 縣令第四十一號

三十四年三月一日 縣令第四十二號

三十四年三月一日 縣令第四十三號

三十四年三月一日 縣令第四十四號

三十四年三月一日 縣令第四十五號

三十四年三月一日 縣令第四十六號

三十四年三月一日 縣令第四十七號

三十四年三月一日 縣令第四十八號

三十四年三月一日 縣令第四十九號

三十四年三月一日 縣令第五十號

三十四年三月一日 縣令第五十一號

三十四年三月一日 縣令第五十二號

三十四年三月一日 縣令第五十三號

三十四年三月一日 縣令第五十四號

三十四年三月一日 縣令第五十五號

三十四年三月一日 縣令第五十六號

三十四年三月一日 縣令第五十七號

三十四年三月一日 縣令第五十八號

三十四年三月一日 縣令第五十九號

三十四年三月一日 縣令第六十號

三十四年三月一日 縣令第六十一號

三十四年三月一日 縣令第六十二號

三十四年三月一日 縣令第六十三號

三十四年三月一日 縣令第六十四號

三十四年三月一日 縣令第六十五號

三十四年三月一日 縣令第六十六號

三十四年三月一日 縣令第六十七號

三十四年三月一日 縣令第六十八號

三十四年三月一日 縣令第六十九號

三十四年三月一日 縣令第七十號

三十四年三月一日 縣令第七十一號

三十四年三月一日 縣令第七十二號

三十四年三月一日 縣令第七十三號

三十四年三月一日 縣令第七十四號

三十四年三月一日 縣令第七十五號

三十四年三月一日 縣令第七十六號

三十四年三月一日 縣令第七十七號

三十四年三月一日 縣令第七十八號

三十四年三月一日 縣令第七十九號

三十四年三月一日 縣令第八十號

三十四年三月一日 縣令第八十一號

三十四年三月一日 縣令第八十二號

三十四年三月一日 縣令第八十三號

三十四年三月一日 縣令第八十四號

三十四年三月一日 縣令第八十五號

三十四年三月一日 縣令第八十六號

三十四年三月一日 縣令第八十七號

三十四年三月一日 縣令第八十八號

三十四年三月一日 縣令第八十九號

三十四年三月一日 縣令第九十號

三十四年三月一日 縣令第九十一號

三十四年三月一日 縣令第九十二號

三十四年三月一日 縣令第九十三號

三十四年三月一日 縣令第九十四號

三十四年三月一日 縣令第九十五號

三十四年三月一日 縣令第九十六號

三十四年三月一日 縣令第九十七號

三十四年三月一日 縣令第九十八號

三十四年三月一日 縣令第九十九號

三十四年三月一日 縣令第一百號

學科	學年				
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
修身	一	一	一	一	一
國語	一	一	一	一	一
漢文	一	一	一	一	一
英語	一	一	一	一	一
算術	一	一	一	一	一
地理	一	一	一	一	一
歷史	一	一	一	一	一
理科	一	一	一	一	一
音樂	一	一	一	一	一
體育	一	一	一	一	一
美術	一	一	一	一	一
勞作	一	一	一	一	一
衛生	一	一	一	一	一
公民	一	一	一	一	一
英語	一	一	一	一	一
算術	一	一	一	一	一
地理	一	一	一	一	一
歷史	一	一	一	一	一
理科	一	一	一	一	一
音樂	一	一	一	一	一
體育	一	一	一	一	一
美術	一	一	一	一	一
勞作	一	一	一	一	一
衛生	一	一	一	一	一
公民	一	一	一	一	一

青森縣立八戸中學校規則

第一章 學科課程及教授時數

第一條 本校ノ學科課程及每週教授時數ハ左表ニ依ル

學科課程及每週教授時數表

修身 一 國語 一 漢文 一 英語 一 算術 一 地理 一 歷史 一 理科 一 音樂 一 體育 一 美術 一 勞作 一 衛生 一 公民 一 英語 一 算術 一 地理 一 歷史 一 理科 一 音樂 一 體育 一 美術 一 勞作 一 衛生 一 公民 一

第二章 學年學期及休業日

第三條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第四條 學年ヲ分チテ三學期トス第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日ニ至リ第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至リ第三學期ハ一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第五條 休業日ハ左ノ如シ

一 祝日、大祭日

一 一日曜日

一 春季休業 自四月一日至同月七日

一 夏季休業 自八月一日至八月三十一日

一 冬季休業 自十二月二十五日至翌年一月十日

一 開校記念日 九月二十九日

第三章 入退學轉學及休學

第六條 入學期ハ每學年ノ始トス

第七條 第一年級入學者ハ明治三十四年三月文部省令第三號第四十二條第四十三條ニ依ルノ外左ノ各號ニ該當スルモノタルヘシ

一 身體検査ニ合格シタル者

二 確實ナル保證人二名ヲ立テ得ル者

三 尋常小學校ヲ卒業シタル者ノ數入學ヲ許可スヘキ人員ニ超過シタル場合ノ入學者選抜試験ハ國語算術ニ就キ尋常小學校卒業ノ程度ニ依リテ之ヲ行フ

第八條 第二年以上ニ入學スルヲ得ヘキ者ハ明治三十四年三月文部省令第三號第四十四條ニ該當スルモノタルヘシ

第九條 入學志願者ハ戶籍抄本ヲ添ヘ左ノ書式ニ依リ入學願書及履歷書ヲ提出スヘシ

入學 願書 (用紙半紙)
 私儀御校第何年級へ入學志願ニ付御許可相成度別紙願書入學試驗料金一圓相添へ父(母若クハ後見人)連署ノ上此段願上候也
 現住所原籍族稱戸主(誰何男又ハ弟等)
 氏 名(印)
 生年月日
 何年何箇月
 現住所原籍族稱
 右父(母若クハ後見人)氏 名(印)
 青森縣八戸中學校校長 氏 名殿

履歷書 (用紙半紙)
 現住所原籍族稱戸主(誰何男又ハ弟等)
 氏 名
 生年月日

明治 年月ヨリ 何年級又ハ何學科修業若クハ
 卒業等
 校名又ハ氏名等

職 業
 父兄若クハ戸主等ノ管ム職業
 賞 罰

明治 年月 日 何何ニ付賞若クハ罰ヲ受ケタ
 官廳又ハ校名等
 右之通相違無之候也
 右 氏 名(印)

第七條 入學ノ許可ヲ得タルモノハ左ノ格式ニ依リ在學證書ヲ差出スヘシ

(収入印) 在學證書 (用紙美濃紙)
 私儀令被御校へ入學御許可相成候ニ付テハ規則御達示等堅ク相守

リ専心勉學可致候依テ證書如斯候也
 何府縣何郡市町村何番地(寄留者ハ寄留地)
 何府縣華士族平民戸主(誰何男又ハ弟等)
 氏 名(印)
 生年月日
 右何之誰在學中ニ關スル一切ノ事件ハ私共引受可申依テ保證如斯ニ候也
 青森縣何郡市町村番地
 何府縣華士族平民職業
 保證人 氏 名(印)
 同 氏 名(印)
 青森縣八戸中學校校長 氏 名殿

第十一條 保證人ハ現ニ本縣内ニ居住スル丁年以上ノ男子ニシテ一名ハ學校所在地ヨリ一里以内ニ於テ一名ハ本縣内ニ於テ一家計ヲ立テ相當ノ職業或ハ財産ヲ有シ其生徒ノ身分ニ關シ一切ノ責務ヲ果スニ足ルヘキ者ニ限ル
 第十二條 保證人ノ轉居改氏名改印等ハ其都度本校ニ届出ツヘシ
 第十三條 保證人旅行セントスルトキハ相當ノ代理者ヲ立テ其都度本校ニ届出ツヘシ
 第十四條 保證人死亡スルカ又ハ第十二條ノ資格ヲ失ヒタルトキハ更ニ相當ノ保證人ヲ立テ在學證書ヲ查改メ差出スヘシ
 第十五條 學校長ニ於テ保證人又ハ其代理者ヲ不充分ト認ムルトキハ之ヲ變更セシムルコトアルヘシ
 第十六條 生徒ノ轉學ニ關シテハ明治三十四年三月文部省令第三號第四十六條ノ規定ニ依ル
 第十七條 生徒入學許可ノ上ハ本校所定ノ制服制ヲ著用スヘキモノトス
 制服制制知事ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム
 第十八條 生徒ニシテ左ノ一項若クハ數項ニ觸ル、モノハ退學ヲ命ス
 一、明治三十四年三月文部省令第三號第五十一條ニ該當ノモノ

二、正當ノ理由ナクシテ學年試驗ニ缺席シタルモノ
 三、出席常ナラサルコト甚シキモノ
 四、同一年級ニ於テ落第二次ニ及ブモノ
 五、授業料ノ滞納翌月ニ及ブモノ
 第十九條 生徒疾病或ハ事故ニ因リテ退學セント欲スルトキハ其事由ヲ詳具シ保證人連署ノ上願出ツヘシ
 但シ疾病ニ罹リタルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ
 第二十條 生徒疾病ニ罹リ其學年間休學セントスルトキハ保證人連署ノ上醫師ノ診斷書ヲ添へ願出ツヘシ
 但シ同一年級ニ在ル間一回ニ限ルモノトス
 第二十一條 試驗及證書
 各學生ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ卒業ノ學業及試驗ノ成績ヲ査シテ之ヲ定ム試驗ヲ分チテ學期試驗及學年試驗ノ二種トス
 但シ正當ノ理由アリテ試験ニ缺席シタル者ニ對シテハ卒業ノ學業ノ成績ノミナヲ査シテ之ヲ定ムルコトアルヘシ
 第二十二條 試驗ハ總テ評點ヲ以テ其優劣ヲ判シ一學科及分科一百點ヲ以テ最高點トス
 但學科ヲ分チテ分科ヲ設ケルハ學校長ニ於テ之ヲ定ム
 第二十三條 學期試驗ハ第一學期及第二學期末ニ於テ學年試驗ハ學年ノ終リニ於テ之ヲ行ヒ各其成績ニ依リ評點ヲ附ス
 第二十四條 試驗ヲ行ハサル學科目ノ各學期試驗評點ハ日課點ニ依リ學年試驗評點ハ三學期ノ試驗評點ヲ三除シテ之ヲ定ム
 第二十五條 每學年ノ終リニ於テ第一、第二學期ノ平均評點ニ學年試驗評點ヲ加ヘ之ヲ二除シテ學年評點ノ各學科及分科評點ヲ定ム
 第二十六條 學年評點ノ全科平均評點ハ各學科各分科評點ノ總數ヲ學科及分科數ニテ除シテ之ヲ定ム
 第二十七條 每學年ノ終リニ於テ生徒ノ成績ヲ判定スルニハ左ノ標準ニ依ル
 甲、學年評點ノ全科平均評點六十點以上ニシテ學科及分科評點五十點以上ノモノ
 乙、同上ノ全科平均評點六十點以上ニシテ學科及分科評點二科目ニ

限リ四十點以上ノモノ
 丙、同上ノ全科平均評點六十點以上ニシテ學科及分科評點一科目ニ限リ三十點以上ノモノ
 右甲、乙、丙ノ一ニ該當スルモノヲ及第トシ其ノ他ハ之ヲ落第トス
 第二十八條 學期試驗及學年試驗ノ際正當ノ事由アリテ缺席シタル者ノ爲メ學校長ノ見込ニ依リ特ニ追試驗ヲ行フコトアルヘシ
 第二十九條 修身科ハ學科トシテ二科ニ分チテ評點ヲ附ス
 生徒ノ操行不良ト認ムルトキハ職員會ノ議決ニ依リ第二十七條ノ成績ニ於テ及第點ヲ得タルトキト雖トモ之レヲ落第トス
 第三十條 學校長ハ知事ノ認可ヲ經テ試驗ニ關スル規則ヲ定ムルコトヲ得
 第三十一條 第五年級ノ科程ヲ卒業タル者ニハ左式ノ卒業證書ヲ授與ス
 卒業證書
 族稱 氏 名
 生年月日
 右者本校ニ於テ中學科ノ科程ヲ修メ正ニ其業ヲ卒業シタリ仍テ之ヲ證ス
 青森縣八戸中學校校長位勳爵 氏 名
 第五條 授業料
 第三十二條 授業料ハ一箇月金一圓六十錢トシ在學中毎月之ヲ徴收ス
 但シ八月ハ之ヲ徴收セズ
 第三十三條 授業料ハ一月、四月、九月ハ十五日マナニ其ノ他ノ月ハ五日迄ニ當分ヲ納ムヘシ
 但シ本支期日以後ニ出席シタルモノ又ハ新ニ入學シタルモノハ當日之ヲ納ムヘシ
 第三十四條 休學全年ニ互ルモノハ其月分ノ授業料ヲ徴收セズ
 第三十五條 第三十三條ノ期日ニ授業料ヲ納メサル者ハ授業ヲ停止ス

第四輯 學事 第一章 學校

第三十六條 生徒若シ翌月五日ニ及ビ授業料ヲ納メサルトキハ保證人ヨリ之ヲ徴收ス
 第三十七條 本校ニ入學セントスルモノハ其ノ入學願書ト共ニ入學受驗料金一圓ヲ納ムヘシ
 但入學受驗料ハ本校生徒ノ應募人員其ノ募集人員ニ超過セスシテ入學試驗ヲ要セサルトキハ之ヲ返附ス
 第六章 賞 罰

第三十八條 生徒ニシテ品行端正學業優等身體強健ナル者ハ之ヲ旌表ス
 第三十九條 生徒若シ規則命令ニ違背シ又ハ體面ヲ汚辱スルノ行爲アルトキハ其輕重ニ從ヒ左ノ各項ニ依リ之ヲ懲戒處分ス
 一 戒 飭
 一 訓 戒
 一 留 校
 一 退 校
 一 停 學
 一 出 校
 一 懲 戒
 一 停 學
 一 出 校
 一 懲 戒

第四十條 本校所屬ノ物品ヲ毀損亡失又ハ汚染シタル生徒ニハ現品若クハ代價ヲ以テ之ヲ辨償セシメ更ニ相當ノ懲戒處分スルコトアルヘシ
 第七章 補習科
 第四十一條 補習科ノ修業期限ハ七箇月トシ本校卒業生中志望ノ者ヲシテ引續キ須要ノ學科ヲ補習セシム
 第四十二條 補習科ノ學科ハ第一條ノ學科目ニ就キ每週教授時數ト共ニ毎學年ノ始ニ於テ學校長之ヲ定メ知事ニ開申スヘシ但シ教授時間ハ本科教授ノ餘暇ヲ以テ之ニ充ツ
 補習科ノ學科目ハ隨意科目トス
 第四十三條 補習科ヲ修了シタル者ニハ左式ノ證書ヲ授與ス

修了證書

青森縣八戸中學校卒業生

族 稱 氏 生 年 月

(修了セル) 學科目

右者本校補習科ニ於テ前記ノ科目ヲ修了セリ仍テ之ヲ履ス

年 月 日

青森縣八戸中學校長位勲爵 氏 名 圖

第四十四條 補習科ニ關シテ本章ニ定メタル外ハ總テ本則ノ規定ヲ準用ス
 第四十五條 補習科ニ關スル細則ハ知事ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム
 第八章 生徒心得及寄宿舎規定
 第四十六條 生徒心得ハ知事ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム
 第四十七條 生徒訓育ノ便ヲ圖リ學校内ニ寄宿舎ヲ設ク
 學校長ニ於テ必要ト認ムルトキハ生徒ニ入舎ヲ命スルコトヲ得
 第四十八條 寄宿舎ニ關スル細則ハ知事ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム

青森縣立青森中學校規則

明治三十四年三月三十一日 縣令 第二十七號

青森縣立青森中學校規則別冊ノ通改正シ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス
 (別冊)
 第一章 學科課程及每週教授時數
 第一條 本校ノ學科課程及每週教授時數ハ左表ニ依ル

學科課程及每週教授時數表

學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
授業時數	30	30	30	30	30
體育時數	3	3	3	3	3
音樂時數	3	3	3	3	3
美術時數	3	3	3	3	3
英語時數	3	3	3	3	3
國語時數	3	3	3	3	3
算術時數	3	3	3	3	3
理科時數	3	3	3	3	3
社會科時數	3	3	3	3	3
衛生科時數	3	3	3	3	3
勞作科時數	3	3	3	3	3
合計	30	30	30	30	30

修身	國語及漢文	外國語	地理史	算術	博物	物理及化學	法制經濟	圖畫	唱歌
要道徳ノ一	作文及讀本	會話及讀本	日本地理史	算術	植物	物理及化學	法制經濟	自在畫	普通樂譜
同上	同上	同上	外國地理史	算術	動物	同上	同上	自在畫	同上
同上	同上	同上	東洋地理史	算術	生理衛生	同上	同上	自在畫	同上
同上	同上	同上	西洋地理史	算術	動物	同上	同上	自在畫	同上
同上	同上	同上	日本地理史	算術	動物	同上	同上	自在畫	同上
同上	同上	同上	西洋地理史	算術	動物	同上	同上	自在畫	同上
同上	同上	同上	日本地理史	算術	動物	同上	同上	自在畫	同上
同上	同上	同上	西洋地理史	算術	動物	同上	同上	自在畫	同上
同上	同上	同上	日本地理史	算術	動物	同上	同上	自在畫	同上
同上	同上	同上	西洋地理史	算術	動物	同上	同上	自在畫	同上

體育 普通體操 三 同上 同上 同上 同上 同上
 兵式體操 三 同上 同上 同上 同上 同上
 合計 三〇 三〇 三〇 三〇 三〇

唱歌ハ當分之ヲ缺キ其每週教授時數ハ之ヲ四畫ニ配當教授スルモノトス
 前表ノ外生徒ノ志望ニ依リ第五學年ニ於テ四畫一時ヲ課スルコトアルヘシ

第二條 教授用圖書ハ明治三十二年勅令第二十八號第十二條ニ依リ知事ノ認可ヲ經テ學校長別ニ之ヲ定ム

第二章 學年學期及休業日

第三條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第四條 學年ヲ分チテ三學期トス第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日ニ至リ第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至リ第三學期ハ十一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第五條 休業日ハ左ノ如シ

一 祝日 大祭日

一 日曜日

一 春季休業 自四月一日至同月七日

一 夏季休業 自八月一日至八月三十一日

一 冬季休業 自十二月二十五日至翌年一月十日

一 開校記念日 四月十一日

第三章 入退學轉學及休學

第六條 入學期ハ每學年ノ始メトス

第七條 第一年級入學者ハ明治三十四年三月文部省令第三號第四十二條第四十三條ニ依リ左ノ各號ニ該當スルモノタルヘシ

一、身壯檢査ニ合格シタル者

二、確實ナル保證人二名ヲ立テ得ル者

三、確實ナル保證人二名ヲ立テ得ル者

ル場合ノ入學者選拔試驗ハ國語、算術ニ就キ尋常小學校卒業ノ程度ニ依リテ之ヲ行フ

第八條 第二學年以上ニ入學スルヲ得ヘキ者ハ明治三十四年三月文部省令第三號第四十四條ニ該當スルモノタルヘシ

第四輯 學事 第一章 學校

第九條 入學志願者ハ戶籍抄本ヲ添ヘ左ノ書式ニ依リ入學證書及履歷書ヲ差出スヘシ

入學證書 (用紙半紙)

私儀御校第何年級へ入學志願ニ付御許可相成度別紙履歷書入學受驗料金一圓相添へ父(母若クハ後見人)連署ノ上此段願上候也

現住所原籍族稱戶主(誰何男又ハ弟等)

年月日 氏 名(印)

生年月日 何年何箇月

現住所原籍族稱

右父(母若クハ後見人)氏 名(印)

青森縣立青森中學校校長 氏 名 殿

履歷書 (用紙半紙)

現住所原籍族稱戶主(誰何男又ハ弟等)

氏 名

生年月日

學業

明治 年月ヨリ 何年級又ハ何學科 校名又ハ氏名等

同 年月マテ 修業若クハ卒業等

職 業

父兄若クハ戶主等ノ管ム職業

賞 罰

明治 年月日 何何ニ付賞若クハ罰ヲ受ケタル等 官職又ハ校名等

右之通相違無之候也

年月日 右 氏 名(印)

守リ専心勉學可致候依テ證書如斯候也

何府郡市町村何番地(寄附者ハ寄附地ヲ併記スヘシ)

何縣華士平民戶主(誰何男又ハ弟等)

年月日 氏 名(印)

生年月日

右何之誠在學中ニ關スル一切ノ事件ハ私共引受可申依テ保證如斯ニ候也

青森縣何郡市町村番地

何府縣華士族平民職業

保證人 氏 名(印)

同 氏 名(印)

青森縣立青森中學校校長 氏 名 殿

第十條 入學ノ許可ヲ得タルモノハ左ノ書式ニ依リ在學證書ヲ差出スヘシ

(收入印紙貼用) 在學證書 (用紙半紙)

私儀今般御校へ入學御許可相成候ニ付テハ御規則御違不等書ヲ相

二 正當ノ理由ナクシテ學年試驗ニ缺席シタルモノ

三 出席常ナラサルコト甚シキモノ

四 同一年級ニ於テ落第二回ニ及ブモノ

五 授業料ノ滞納翌月ニ及ブモノ

第十九條 生徒疾病或ハ事故ニ因リテ退學セント欲スルトキハ其事由ヲ詳具シ保證人連署ノ上願出ツヘシ

但シ疾病ニ罹リタルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第二十條 生徒疾病ニ罹リ其學年間休學セントストキハ保證人連署ノ上醫師ノ診斷書ヲ添へ願出ツヘシ

但シ同一年級ニ在ル間一回ニ限ルモノトス

第四章 試驗及證書

第二十一條 各學年ノ課程ヲ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業及試驗ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ムルコトアルヘシ

但シ正當ノ事由アリテ試驗ニ缺席シタル者ニ對シテハ平素ノ學業ノ成績ノミヲ考査シテ之ヲ定ムルコトアルヘシ

第二十二條 試驗ハ總テ評點ヲ以テ其優劣ヲ判シ一學科及一分科一百分ヲ以テ最高點トス

但學科ヲ分テ分科ヲ設ケルハ學校長ニ於テ之ヲ定ム

第二十三條 學期試驗ハ第一學期及第二學期末ニ於テ學年試驗ハ學年ノ終リニ於テ之ヲ行ヒ各其成績ニ依リ評點ヲ附ス

第二十四條 試驗ヲ行ハサル學科目ノ各學期試驗評點ハ日課點ニ依リ學年試驗評點ハ三學期ノ試驗評點ヲ三除シテ之ヲ定ム

第二十五條 每學年ノ終リニ於テ第一、第二學期ノ平均評點ニ學年試驗評點ヲ加ヘ之ヲ二除シテ學年評點ノ各學科及分科評點ヲ定ム

第二十六條 學年評點ノ全科平均評點ハ各學科各分科評點ノ總數ヲ學科及分科數ニテ除シテ之ヲ定ム

第二十七條 每學年ノ終ニ於テ生徒ノ成績ヲ判定スルハ左ノ標準ニ依ル

甲 學年評點ノ全科平均評點六十點以上ニシテ各學科及分科評點五十點以上ノモノ

乙 同上ノ全科平均評點六十點以上ニシテ學科及分科評點二科目ニ限

丙 四十點以上ノモノ

同上ノ全科平均評點六十點以上ニシテ學科及分科評點一科目ニ限

三十點以上ノモノ

右甲、乙、丙ノ一ニ該當スルモノヲ及第トシ其他ハ之ヲ落第トス

第二十八條 學期試驗及學年試驗ノ際正當ノ事由アリテ缺席シタル者ノ爲メ學校長ノ見込ニ依リ特ニ追試驗ヲ行フコトアルヘシ

第二十九條 修身科ハ學科ト操作トノ二科ニ分テ評點ヲ附ス

生徒ノ操行不良ナリト認ムルトキハ職員會ノ議決ニ依リ第二十七條ノ成績ニ於テ及第點ヲ得タルトキト雖モ之ヲ落第トス

第三十條 學校長ハ知事ノ認可ヲ經テ試驗ニ關スル細則ヲ定ムルコトヲ得

第三十一條 第五年級ノ科修ヲ卒ヘタル者ニハ左式ノ卒業證書ヲ授與ス

卒業證書

氏 名

生年月日

右者本校ニ於テ中學科ノ科修ヲ修メ正ニ其業ヲ卒ヘタリ仍テ之ヲ證書ス

青森縣立青森中學校校長 氏 名 殿

第五條 授業料

第三十二條 授業料ハ一箇月金一圓六十錢トシ在學中毎月之ヲ徴收ス

但シ八月ハ之ヲ徴收セズ

第三十三條 授業料ハ一月、四月、九月ハ十五日マテニ其ノ他ノ月ハ五日マテニ當月分ヲ納ムヘシ

但シ本文期日以後ニ出席シタルモノ又ハ新ニ入學シタルモノハ當日之ヲ納ムヘシ

第三十四條 休學全月ニ互ルモノハ其月分ノ授業料ヲ徴收セズ

第三十五條 第三十三條ノ期日ニ授業料ヲ納メサル者ハ授業ヲ停止ス

第三十六條 生徒若シ翌月五日ニ及ビ授業料ヲ納メサルトキハ保證人ヨリ之ヲ徴收ス

第四輯 學事 第一章 學校

第三十七條 本校ニ入學セントスルモノハ其入學願書ト共ニ入學受驗料金一圓ヲ納ムヘシ
但入學受驗料ハ本校生徒ノ應募人員共其募人員ニ超過セスシテ入學試驗ヲ要セサルトキハ之ヲ返附ス(三十六年一月縣令第一號ヲ以テ本條追加以下各條繰リ下ク)

第三十八條 生徒ニシテ品行端正學業優等身體強健ナルモノハ之ヲ施表ス
第三十九條 生徒若シ規則命令ニ違背シ又ハ體面ヲ汚辱スルノ行爲アルトキハ其輕重ニ從ヒ左ノ各項ニ依リ之ヲ懲戒處分ス
一 戒飭
一 罰戒シテ將來ヲ慎マシム
一 謹慎
一 授業後校內ニ留置シ悔悟ノ實ヲ表セシム但シ其時間ハ一日二時間以內トシ日數ハ七日以內トス
一 停學
一 出校ヲ停止ス但シ其期間ハ一週間以上一學年以內トス
懲戒處分シタルトキハ之ヲ保證人ニ通知ス
第四十條 本校所屬ノ物品ヲ毀損亡失又ハ汚染シタル生徒ニハ現品若クハ代價ヲ以テ之ヲ辨償シシメ更ニ相當ノ懲戒處分スルコトアルヘシ

第七章 補習科
第四十一條 補習科ノ修業期限ハ六月トシ本校卒業生中志望ノ者ヲシテ引續キ須要ノ學科ヲ補習セシム
第四十二條 補習科ノ學科目ハ第一條ノ學科目中ニ就キ每週教授日數ト共ニ學校長之ヲ定メ知事ニ開申スヘシ但シ教授時間ハ本科教授ノ餘暇ヲ以テ之ニ充ツ補習科ノ學科目ハ隨意科目トス
第四十三條 補習科ヲ修了シタル者ニハ左式ノ證書ヲ授與ス

修了證書
青森縣立青森中學校卒業生
族 稱
氏
生 年 月 日
名

外國語	讀方讀解 會話作文	七 讀方讀解 會話作文	八 讀方讀解 會話作文	八 讀方讀解 會話作文
歷史	日本歷史 外國地理	三 外國地理	三 外國地理	三 日本歷史 西洋史
算學	代算 數術	五 幾何	五 同上	五 幾何 三角
博物	植物 動物	二 生理衛生	二 同上	二 同上
物理學		第一學期化學 第二學期物理	第一學期化學 第二學期物理	物理
法制經濟				法制經濟
圖畫	自在畫 用器畫	一 自在畫	一 用器畫	一
唱歌	普通樂譜 法	一 同上	一	
體操	普通體操 兵式體操	三 同上	三 同上	三
合計		三〇	三一	三三

唱歌ハ當分ノテ缺キ其ノ毎週教授時數ハ之ヲ圖畫ニ配當教授スルモノトス
前表ノ外生徒ノ志望ニ依リ第五學年ニ於テ圖畫一時ヲ課スルコトアルヘシ
第二條 教科用圖書ハ明治三十二年勅令第二十八號第十二條ニ依リ知事ノ認可ヲ得テ熟長期ニ之ヲ用ム
第二章 學年學期及休業日
第三條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第四輯 學事 第一章 學校

右者本校補習科ニ於テ前記ノ科目ヲ修了セリ仍テ之ヲ證ス
年 月 日
青森縣立青森中學校校長位勳爵氏 名 圖

第四十四條 補習科ニ關シテ本章ニ定メタル外ハ總テ本則ノ規定ヲ準用ス
第四十五條 補習科ニ關スル規則ハ知事ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム
第八章 生徒心得及寄宿舍規則
第四十六條 生徒心得ハ知事ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム
第四十七條 生徒調育ノ便ヲ圖リ學校內ニ寄宿舍ヲ設ク
學校長ニ於テ必要ト認ムルトキハ生徒ニ入舍ヲ命スルコトヲ得
第四十八條 寄宿舍ニ關スル規則ハ知事ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム

●青森縣立青森中學校生徒定員
明治四十年二月七日
訓令乙第百三十七號
青森縣立青森中學校

其校生徒定員ヲ自今四百名ニ改正ス
●青森縣立弘前中學東義塾規則
明治四十三年四月一日
訓令第二十二號
青森縣立弘前中學

漢語	讀方讀解 會話作文	七 同上	七 同上	六 同上	六
國語	讀方讀解 會話作文	七 同上	七 同上	六 同上	六
修身	讀方讀解 會話作文	一 同上	一 同上	一 同上	一
算學	讀方讀解 會話作文	一 同上	一 同上	一 同上	一
歷史	讀方讀解 會話作文	一 同上	一 同上	一 同上	一
地理	讀方讀解 會話作文	一 同上	一 同上	一 同上	一
物理	讀方讀解 會話作文	一 同上	一 同上	一 同上	一
化學	讀方讀解 會話作文	一 同上	一 同上	一 同上	一
生物	讀方讀解 會話作文	一 同上	一 同上	一 同上	一
圖畫	讀方讀解 會話作文	一 同上	一 同上	一 同上	一
唱歌	讀方讀解 會話作文	一 同上	一 同上	一 同上	一
體操	讀方讀解 會話作文	一 同上	一 同上	一 同上	一
合計		三〇	三一	三三	三三

第四條 學年ヲ分チテ三學期トス第一學期ハ四月一日ニリ八月三十一日ニ至リ第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至リ第三學期ハ翌年一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル
第五條 休業日ハ左ノ如シ
一 祝日、大祭日
一 日曜日
一 春季休業 四月一日ヨリ同月七日ニ至ル
一 夏季休業 八月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル
一 冬季休業 十二月二十五日ヨリ翌年一月十日ニ至ル
設立記念日 四月二十日

第三章 入退學轉學及休業
第六條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ左ノ書式ニ依リ在學證書ヲ提出スヘシ
(收入印紙貼用) 在 學 證 書 (用紙美濃紙)
私儀今般御校へ入學御許可相成候ニ付テハ御規則御遵守等堅ク相守リ専心勉學可致候仍テ證書如斯候也
何府縣何郡市町村何番地(寄留者ハ寄留地) (ナ併記スヘシ)
何府縣華士族平民戸主(誰何男又ハ弟等)
年 月 日 年 月 日 生
名 印 名 印

青森縣立弘前中學東義塾長氏名殿
何府縣何郡市町村番地
何府縣華士族平民職業
保證人 氏 名 印
同 氏 名 印

第七條 保證人ハ現ニ本縣內ニ居住スル丁年以上ノ男子ニシテ一名ハ學校所在地ヨリ一里以內ニ於テ一名ハ本縣內ニ一家計ヲ立テ相當ノ職業或ハ財產ヲ有シ其ノ生徒ノ身分ニ關シ一切ノ責務ヲ果スニ足ルヘキ者ニ限ル

第四輯 學事 第一章 學校

第八條 保證人ノ轉居改氏名改印等ハ其ノ都度本塾ニ届出ツヘシ
 第九條 保證人旅行セントスルトキハ相當ノ代理人ヲ立テ本塾ニ届出ツヘシ
 第十條 保證人死亡スルカ又ハ第七條ノ資格ヲ失ヒタルトキハ更ニ相當ノ保證人ヲ定メ在學證書ヲ書改メ送付スヘシ
 第十一條 塾長ニ於テ保證人又ハ其ノ代理人ヲ不充分ト認ムルトキハ之ヲ變更セシムルコトアルヘシ
 第十二條 生徒ノ轉學ニ關シテハ明治三十四年文部省令第三號第四十六條ノ規定ニ依ル
 第十三條 生徒入學許可ノ上ハ本塾所定ノ制服制ヲ著用スヘキモノトス
 第十四條 生徒ニシテ左ノ一項若クハ數項ニ觸ル、者ハ退學ヲ命ス
 一 明治三十四年三月文部省令第三號第五十一條ニ該當スル者
 二 正當ノ理由ナクシテ學年試驗ニ缺席シタル者
 三 出席率ナラサルコト甚シキ者
 四 同一年級ニ於テ落第ニ及ブ者
 五 授業料ノ滞納翌月ニ及ブ者
 第十五條 生徒疾病或ハ事故ニ因リテ退學セント欲スルトキハ其ノ理由ヲ詳具シ保證人連署ノ上願出ツヘシ
 但シ疾病ニ罹リタル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ
 第十六條 生徒疾病ニ罹リ其ノ學年間休學セントスルトキハ保證人連署ノ上醫師ノ診斷書ヲ添へ願出ツヘシ
 但シ同一年級ニ在ル間一回ニ限ルモノトス
 第十七條 各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニ卒業ノ學業及試驗ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ム試驗ヲ分テ學期試驗及學年試驗ノ二種トス
 但シ正當ノ理由アリテ試驗ニ缺席シタル者ニ對シテハ卒業ノ學業成績ノミヲ考査シテ之ヲ定ムルコトアルヘシ
 第十八條 試驗ハ總テ評點ヲ以テ其ノ優劣ヲ判シ一學科及一分科百點ヲ以テ最高點トス
 但シ學科ヲ分テ分科ヲ設ケルハ塾長ニ於テ之ヲ定ム

第十九條 學期試驗ハ第一學期及第二學期ニ於テ學年試驗ハ學年ノ終リニ於テ之ヲ行ヒ各其ノ成績ニ依リ評點ヲ附ス
 第二十條 試驗ヲ行ハサル學科目ノ各學期評點ハ日課點ニ依リ學年評點ハ三學期ノ評點ヲ三除シテ之ヲ定ム
 第二十一條 各學科目及各分科ノ學年評點ハ第一、第二學期ノ平均評點ニ學年試驗評點ヲ加ヘタルモノヲ二除シテ之ヲ定ム
 第二十二條 學年評點ノ全科平均評點ハ各學科各分科評點ノ總數ヲ學科及分科數ニテ除シテ之ヲ定ム
 第二十三條 每學年ノ終リニ於テ生徒ノ成績ヲ判定スルニハ左ノ標準ニ依リ其ノ成績甲乙丙ノ一ニ該當スルヲ及第トシ其ノ他ハ之ヲ落第トス
 甲 全科平均評點六十點以上ニシテ學科及分科評點五十點以上ノモノ
 乙 全科平均評點六十點以上ニシテ學科及分科評點二十點以上ノモノ
 丙 全科平均評點六十點以上ニシテ學科及分科評點一科目ニ限リ三十點以上ノモノ
 第二十四條 學期試驗及學年試驗ノ際正當ノ事由アリテ缺席シタル者ノ爲學校長ノ見込ニ依リ特ニ追試驗ヲ行フコトアルヘシ
 第二十五條 修身科ハ學科ト撰行トノ二科ニ分テ評點ヲ附ス
 生徒ノ撰行不良ト認ムルトキハ職員會ノ議決ニ依リ第二十三條ノ成績ニ於テ及第點ヲ得タル者ト雖モ之ヲ落第トス
 第二十六條 塾長ハ知事ノ認可ヲ經テ試驗ニ關スル細則ヲ定ムルコトヲ得
 第二十七條 第五學年ノ課程ヲ卒ヘタル者ニハ左式ノ卒業證書ヲ授與ス

卒業證書

族 稱 氏 名

年月日

校印

右者本塾ニ於テ中學科ノ課程ヲ修メ正ニ其ノ業ヲ卒ヘタル仍テ之ヲ證書ス

青森縣立弘前中學東奧義塾長位勳爵氏名圖

第五章 授業料

第二十八條 授業料一箇月金一圓六十錢トシ在學中毎月之ヲ徴收ス
 但シ八月ハ之ヲ徴收セズ
 第二十九條 授業料ハ一月、四月、九月ハ十五日迄ニ其ノ他ノ月ハ五日迄ニ當月分ヲ納ムヘシ
 但シ納付期日後ニ出席シタル者又ハ新ニ入學シタル者ハ當日之ヲ納ムヘシ
 第三十條 休學全月ニ互ル者ハ其ノ月分ノ授業料ヲ徴收セズ
 第三十一條 第二十九條ノ納付期日ニ授業料ヲ納メサル者ハ授業ヲ停止ス
 第三十二條 生徒若シ翌月五日ニ及ビ授業料ヲ納メサルトキハ保證人ヨリ之ヲ徴收ス
 第六章 賞 罰
 第三十三條 生徒ニシテ品行端正學業優等身體強健ナル者ハ之ヲ旌表ス
 第三十四條 生徒若シ規則命令ニ違背シ又ハ體面ヲ汚辱スルノ行爲アルトキハ其ノ輕重ニ從ヒ左ノ各項ニ依リ之ヲ懲戒ス
 一 戒 飭
 一 訓諭隨費シテ將來ヲ慎マシム
 一 處 罰
 授業後校内ニ留置シ悔悟ノ實ヲ表セシム但シ其ノ時間ハ一日二時間以内トシ日數ハ七日以内トス
 一 停 學
 出校ヲ停止ス但シ其ノ期間ハ一週間以上一學年以内トス
 懲戒處分ヲシタルトキハ之ヲ保證人ニ通知ス
 第三十五條 本塾所屬ノ物品ヲ毀損失シ又ハ汚染シタル生徒ニハ現品若ハ代價ヲ以テ之ヲ辨償セシメ更ニ相當ノ懲戒處分ヲナスコトアルヘシ
 第七章 補習科
 第三十六條 補習科ノ修業年限ハ六箇月トシ本塾卒業生中志願ノ者ヲシテ引續キ須要ノ學科ヲ補習セシム
 第三十七條 補習科ノ學科目ハ第一條ノ學科目ニ就キ每週教授時數ト共ニ塾長之ヲ定メ知事ニ開申スヘシ

但シ教授時間ハ本科教授ノ餘暇ヲ以テ之ニ充ツ
 補習科ノ學科目ハ隨意科目トス
 第三十八條 補習科ヲ修了シタル者ニハ左式ノ證書ヲ授與ス

修了證書

青森縣立弘前中學東奧義塾卒業生

族 稱 氏 名

年月日

(修了セル學科目)

右者本塾補習科ニ於テ前記ノ科目ヲ修了セリ仍テ之ヲ證書ス

青森縣立弘前中學東奧義塾長位勳爵氏名圖

附 則

第四十二條 本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●青森縣立弘前高等女學校規則

明治三十三年九月二十八日 縣令第六十八號

第三條 青森縣立弘前高等女學校規則

第一條 青森縣立弘前高等女學校ハ女子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲ス

第四輯 學事 第一章 學校

ヲ以テ目的トス

第二條 本校ノ修業年限ヲ四箇年トス

第三條 學年ハ四月一日ヨリ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第四條 學年ヲ分チテ三學期トス第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日ニ至リ第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至リ第三學期ハ翌年一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第五條 休業日ヲ定ムル左ノ如シ

日曜日

大祭日

祝日

春季休業 自四月一日至四月七日

皇太后御誕辰 五月二十八日

本校創立記念日 六月一日

夏季休業 自八月一日至八月三十一日

冬季休業 自十二月二十五日至翌年一月十日

第二章 學科目及程度

第六條 本校ノ學科目ハ修身、國語、歴史、地理、算學、理科、國畫、家事、裁縫、音樂、體操トス又隨意科目トシテ外國語及手藝ヲ加フ

外國語ハ英語トス

第七條 各學科目ノ課程並ニ每週授業時間ヲ定ムル別表ノ如シ其各學科ノ手藝ノ教科要旨ハ明治三十四年文部省令第四號ニ據ル

手藝ノ種類ハ編物、組紐、裁縫、刺繡、造花等ノ中ニ就キ學校長知事ノ認可ヲ受ケテ之ヲ定ムヘシ

第八條 本校ノ教科用圖書ハ別ニ之ヲ定ム

第三章 入學及退學

第九條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始メヨリ三十日以内トス但職員アルトキハ第二學期及第三學期ノ始メヨリ十日以内ニ臨時入學セシムルコトヲ得

第十條 本校ニ入學シ得ヘキ者ハ年齢十二年以上品行方正身體健全ニシテ本則第十一條乃至第十三條ニ該當スルモノナルヘシ

第十一條 第一學年入學志願者中尋常小學校卒業ノ課程ヲ卒ラサル者ニ就キテハ試験ニ依リ其ノ學力ヲ檢定ス

第一學年入學志願者中尋常小學校卒業ノ課程ヲ卒リタル者ハ其他ノ志願者ニ先チテ入學ヲ許可ス

尋常小學校卒業ノ課程ヲ卒リタル者ノ數入學ヲ許スヘキ人口ニ超過スルトキハ試験ニ依リテ入學者ヲ選拔ス

第十二條 前條第一項ノ試験ハ國語、算術、日本歴史、地理、理科ニ就キ同條第三項ノ試験ハ國語、算術ニ就キ尋常小學校卒業ノ程度ニ依リテ之ヲ行フ

第十三條 第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ相當年齡ニ達シ前各學年ノ課程ヲ卒リタル者ト相當ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

前項入學者ノ學力ハ前各學年ノ程度ニ於テ其各學科目ニ付テ試験ニ依テ檢定ス

第十四條 願ニ依リ一旦退學シタル者一箇年以内ニ再入學ヲ志願シタルハ試験ニ依ラスニテ原學年以下ノ學年ニ入學ヲ許可スル事アルヘシ

第十五條 入學志願者ハ左ノ圖書及履歷書ヲ差出スヘシ但シ入學圖書ハ入學志願者ニ關スル戸籍抄本ヲ添フヘシ

入學圖書 (用紙半紙)

私儀御校第何年級へ入學致度候間御許可相成候依テ別紙履歷書戸籍抄本並入學受驗料金一圓ヲ相添へ此段相願候也

本籍地 道廳(府)(縣)(郡)(市)(區) 町(村)字番地

現住所 道廳(府)(縣)(郡)(市)(區) 町(村)字番地

何某何女(姉)(妹)又ハ戸主 氏 名

年月日 名

學校長宛

履歷書 (用紙半紙)

本籍地 道廳(府)(縣)(郡)(市)(區) 町(村)字番地

現住所 青森縣郡(市)町(村)字番地

何某何女(姉)(妹)又ハ戸主 氏 名

生年月日 名

學業

一何年何月ヨリ何學校ニ入り何年何月何科何年級卒業若クハ何學科修業等

賞罰

一何年何月何所ニ於テ何賞若クハ何罰ヲ受ク

右ノ通相違無之候也

年月日 右 氏 名印

第十六條 入學ノ許可ヲ得タルモノハ左式ノ在學證書ヲ差出スヘシ

收入 在學證書 (用紙美濃紙)

印紙

私儀今般入學御許可相成候ニ就テハ御規則御告諭等堅ク相守リ無故退學致間敷候尤モ本人身上ニ關スル件ハ保證人ニ於テ一切引受可申候依テ證書差出候也

本籍地 道廳(府)(縣)(郡)(市)(區) 町(村)字番地

寄留地 青森縣郡(市)町(村)字番地

何某何女(姉)(妹)又ハ戸主 氏 名印

本籍地 道廳(府)(縣)(郡)(市)(區) 町(村)字番地

現住所 青森縣郡(市)町(村)字番地

生徒トシテ履歷、職業

保證人 氏 名印

同 氏 名印

學校長宛

第十七條 保證人ハ本縣下ニ住スル丁年以上ノ男子ニシテ一家ヲ立ツルモノトス二人ノ内一人ハ本校ヲ距ル大約一里以内ノ所ニ住居スルモノニ限ル

但保證人其資格ヲ失ヒ又ハ本校ニ於テ適當ナラスト認ムルトキハ更ニ相當者ヲ以テ之ニ代ヘ在學證書ヲ書キ換ヘシムヘシ

第十八條 生徒又ハ保證人轉居或ハ改氏名改印等ナシタルトキハ其旨速カニ届出ツヘシ

第十九條 一旦入學シタルモノハ中途ニシテ退學スルコトヲ許サズ但疾病又ハ止ムコト得サル事由ニ依リ退學セントスルトキハ其事由ヲ詳記シ保證人連署ヲ以テ届出ツヘシ

第二十條 生徒疾病若クハ事故アリテ缺席スルトキハ其事由ヲ具シ保證人連署ヲ以テ届出ツヘシ

第二十一條 左ノ一項若クハ數項ニ觸ル、モノハ退學ヲ命スヘシ

一、性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二、學力劣等ニシテ卒業ノ見込ナシト認メタル者

三、引續キ一箇年以上缺席シタル者

四、正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者

五、出席當ナラサル者

第二十二條 生徒疾病ニ罹リ其學年間休學セントスルトキハ保證人連署ノ上醫師ノ診斷書ヲ添へ届出ツヘシ但シ同一學年ニ在ル間一回ニ限ルモノトス

第四章 學業調査及證書

第二十三條 生徒ノ進級及卒業ハ調査ノ成績ニ依リ不素ノ學業ヲ參考シテ之レヲ定ム

但修身、歴史、地理、理科、家事及教育ニ就キテハ試験ヲ行フコトヲ得

第二十四條 調査ヲ分チテ臨時調査及學年調査ノ二種トシ臨時調査ハ一學年内ニ二回以上之レヲ行ヒ學年調査ハ學年末ニ之ヲ行フ

但調査ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第二十五條 第四學年ノ課程ヲ修了シタルモノハ左式ノ證書ヲ授與ス

卒業證書

校印

族籍 氏 名

生年月 名

右ハ高等女學校修業年限四年ノ教科(外國語)ヲ卒業セリ
依テ技ニ之ヲ證ス

刻印 年 月 日 學校長位勳爵 氏 名印

番號

備考 外國語ヲ學習シタル者ニハ(外國語)ヲ除ク

第五章 授業料及入學受驗料

第二十六條 授業料ハ一人ニ付一箇月金一圓三十錢トス但八月ハ之ヲ徵收セズ

第二十七條 休業金月ニ互ル者ハ其ノ月分ノ授業料ヲ徵收セズ

第二十八條 授業料納付期日ハ毎月學校ヨリ指定スルモノトス

第二十九條 前條ノ期日ニ於テ授業料ヲ納付セサルモノハ保證人ヨリ之ヲ徵收ス

第三十條 本校ニ於テ入學試驗ヲ受クル者ヨリ入學受驗料金一圓ヲ徵收ス

但シ入學試驗ヲ要セサルトキハ之ヲ返附シ又自己ノ都合ニ依リ入學試驗ヲ受ケサルモノハ之ヲ返付セズ

第三十一條 生徒若シ規則命令ニ違背シ又ハ不都合ノ行爲アリト認ムルモノアルトキハ之レヲ懲戒ス

第三十二條 懲戒者トモ悔悟ノ實狀アリト認ムルモノハ特ニ宥免スルコトアルヘシ

第三十三條 寄宿舎ハ自修室及寢室トス

第三十四條 自修室ハ晨起後就寢迄學科ヲ自修スル所トシ寢室ハ夜間睡

眠スル所トス
但體操科ハ舍内ニ於テ自修スルヲ許サズ
第三十五條 寄宿舎ニ入ラントスルモノハ舍監ノ許可ヲ受ケ左ノ書式ニ依リ在舍證書ヲ差出スヘシ其退舍セント欲スルトキハ事由ヲ詳具シ保證人連署ノ上願書ヲ差出スヘシ

在舍證書 (用紙漢漢紙)

私儀今般入舍許可相成候ニ付テハ御規則等堅ク相守リ可申候也

年 月 日 第何年生徒 氏 名印

學校長 宛

右某儀在舍中一切ノ事件私ニ於テ引受可申候也

住所族籍 保證人 氏 名印

同 氏 名印

(保證人ハ在舍證書ニ捺印シタルモノニ限ル)

第三十六條 晨起就寢外出及食事等ノ時間ハ日ノ長短ニ依リ之レヲ定ム

第三十七條 寄宿舎ニ關シ前條ニ規定セル外必要ト認ムルトキハ學校長之ヲ定メ知事ノ認可ヲ受ケヘシ

第三十八條 本校職員ノ職務規程左ノ如シ

一、校長ハ知事ノ命ヲ受ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス

二、教諭ハ校長ノ指揮ヲ受ケ生徒ノ教育ヲ掌ル

三、助教ハ校長ノ指揮ヲ受ケ教諭ノ職務ヲ助ク

四、舍監ハ校長ノ指揮ヲ受ケ寄宿舎ニ關スル事務ヲ掌ル

五、庶長ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務會計等ノ事務ニ從事ス

第三十九條 本規則施行上必要ナル細則ハ學校長之レヲ定ムヘシ

(本會ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス修業年限四年ノ高等女學校ノ課程ヲ卒業シタル者ノ入學ニ付テハ本會施行後トモ仍舊前ノ例ニ依リ但高等女學校第二學年ノ課程ヲ卒業シタル者ノ學力檢査試驗科目ニ理科ヲ加フ)(四一年一號改正ノ附則)

青森縣立八戸高等女學校規則

明治三十四年十一月一日 縣令 第五十五號

青森縣立八戸高等女學校規則

第一章 總則

第一條 青森縣立八戸高等女學校ハ女子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲ス

ヲ以テ目的トス

第二條 本校修業年限四年トス

第三條 學年ハ四月一日ニ始マリ三月三十一日ニ終ル

第四條 學年ヲ分チテ三學期トス第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日

ニ至リ第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至リ第三學期ハ翌年一

月一日ヨリ三月三十一日ニ至リ

第五條 休業日ヲ定ムル左ノ如シ

日曜日

大祭日

春季休業 自四月一日至四月七日

夏季休業 自四月二十八日

秋季休業 自五月二十八日

本校創立記念日 四月十五日(二十七年六月縣令第

夏季休業 自八月一日至八月三十一日

冬季休業 自十二月二十五日至一月十日

第二章 學科目及程度

第六條 本校ノ學科目ハ修身、國語、歴史、地理、算學、理科、園藝、

家事、裁縫、音樂、體操トス又隨意科目トシテ外國語及手藝ヲ加フ

外國語ヲ英語トス

第七條 各學科目ノ課程ハ每週授業時間ヲ定ムル別表ノ如シ其各手藝

ノ教授要旨ハ明治三十四年文部省令第四號ニ據ル

手藝ノ種類ハ編物、組紐、裁縫、造花等ノ中ニ就キ學校長知事

ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

高等女學校學科課程表

學科	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身	二	二	二	二
國語	六	六	五	五
算學	三	三	三	三
理科	二	二	二	二
園藝	一	一	一	一
家事	一	一	二	二
裁縫	六	六	六	六
音樂	二	二	二	二
體操	三	三	三	三
外國語	三	三	三	三
手藝	二	二	二	二
合計	(三)(三)(三)(三)	(三)(三)(三)(三)	(三)(三)(三)(三)	(三)(三)(三)(三)

第八條 本校ノ教科用圖書ハ別ニ之ヲ定ム

第三章 入學及退學

第九條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始メヨリ三十日以内トス
但缺員アルトキハ第二期及第三期ノ始メヨリ十日以内ニ臨時入學
セシムルコトヲ得

第十條 本校ニ入學シ得ヘキ者ハ年齢十二年以上品行方正身體健全ニシ
テ本則第十二條乃至第十四條ニ該當スルモノタルヘシ

第十一條 第一學年入學志願者中尋常小學校卒業ノ課程ヲ卒ラサル者ニ
就キテハ試驗ニ依リ其學力ヲ檢定ス

第十二條 第一學年入學志願者中高等小學校第二學年ノ課程ヲ卒リタル者ハ其他
ノ志願者ニ先チテ入學ヲ許可ス

第十三條 尋常小學校卒業ノ課程ヲ卒リタル者ノ數入學ヲ許スヘキ人員ニ超過ス
ルトキハ試驗ニ依リ入學者ヲ選拔ス

第十四條 前條第一項ノ試驗ハ國語、算術、日本歴史、地理、理科ニ就
キ同條第三項ノ試驗ハ國語、算術ニ就キ尋常小學校卒業ノ程度ニ依リ
之ヲ行フ

第十五條 第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ相當年齢ニ達シ前各學年
ノ課程ヲ卒リタル者ト相當學力ヲ有スルモノタルヘシ

第十六條 前項入學者ノ學力ハ前各學年ノ程度ニ於テ其各學科日ニ就キ試驗ニ依
テ檢定ス

第十七條 額ニ依リ一旦退學シタルモノ一箇年以内ニ再入學ヲ志願シタ
ルトキ試驗ニ依ラスシテ原學年以下ノ學年ニ入學ヲ許可スルコトアル
ヘシ

第十八條 入學志願者ハ左ノ願書及履歷書ヲ提出スヘシ但シ入學願書ニ
ハ入學志願者ニ關スル戸籍抄本ヲ添フヘシ

入學願書 (用紙半紙)

私儀 校何年級へ入學致度候間御許可相成度依テ別紙履
歷書戸籍抄本並入學受驗料金一圓相添へ此段相願候也

本籍地 道廳(府)(縣)郡(市)(區)
町(村)字番地

族稱
現住所 道廳(府)(縣)郡(市)(區)
町(村)字番地

年月日
何某何女(姉)(妹)又ハ戶主
氏 名印

學校長宛

入學許可書 (用紙半紙)

私儀 校何年級へ入學致度候間御許可相成度依テ別紙履
歷書戸籍抄本並入學受驗料金一圓相添へ此段相願候也

本籍地 道廳(府)(縣)郡(市)(區)
町(村)字番地

族稱
現住所 道廳(府)(縣)郡(市)(區)
町(村)字番地

年月日
何某何女(姉)(妹)又ハ戶主
氏 名印

學校長宛

收 入
在學證書 (用紙半紙)

私儀 今般入學御許可相成候ニ就テハ御規則御告諭等堅ク相
守リ無故退學致問敷候尤モ本人身上ニ關スル件ハ保證人
於テ一切引受可申候依テ證書提出候也

本籍地 道廳(府)(縣)郡(市)(區)
町(村)字番地

族稱
寄留地 青森縣(郡)町(村)字番地
何某何女(姉)(妹)又ハ戶主
氏 名印

年月日

本籍地 道廳(府)(縣)郡(市)(區)
町(村)字番地

族稱
現住所 青森縣(郡)町(村)字番地
生徒トノ欄柄職業

保證人 氏 名印
同 氏 名印

學校長宛

但修身、歴史、地理、理科、家事及教育ニ就キテハ試驗ヲ行フコト
ヲ之レヲ定ム

第二十四條 調査ヲ分チテ臨時調査及學年調査ノ二種トシ臨時調査ハ一
箇年內ニ二回以上之レヲ行ヒ學年調査ハ學年末ニ於テ之ヲ行フ
但調査ニ關スル細則ハ學長校之ヲ定メ知事ノ認可ヲ受ケヘシ

第二十五條 第四學年ノ課程ヲ終了シタルモノニハ左式ノ證書ヲ授與ス

卒業證書

校印

右ハ高等女學校修業年限四箇年ノ教科(外國語)ヲ卒業セリ
依テ茲ニ之ヲ證ス

年月日 學校長位勳爵 氏 名印

備考 外國語ヲ學習シタルモノニハ(外國語)ヲ除ク

第五條 授業料及入學受驗料
第二十六條 授業料ハ一人ニ付一箇月金一圓三十錢トス但八月ハ之ヲ徵
收セス

第二十七條 休學全月ニ互ル者ハ其月分ノ授業料ヲ徵收セス

第二十八條 授業料納付期日ハ毎月學校ヨリ指定スルモノトス

第二十九條 前條ノ期日ニ於テ授業料ヲ納付セサルモノハ保證人ヨリ之
ヲ徵收ス

第三十條 本校ニ於テ入學試驗ヲ受クル者ヨリ入學受驗料金一圓ヲ徵
收ス

前項ノ入學試驗料ハ入學願書ニ添ヘ之ヲ納ムヘシ
但シ入學試驗ヲ要セサルトキハ之ヲ返附シ又自己ノ都合ニ依リ入學
試驗ヲ受ケサルモノ之ヲ返附セス

第六條 罰 則

第三十條 生徒若シ規則命令ニ違背シ又ハ不都合ノ行爲アルモノト認ム

第十七條 保證人ハ本縣下ニ住スル丁年以上ノ男子ニシテ一家ヲ立ツル
モノ二人トス二人ノ内一人ハ本校ヲ距ル大約一里以内ノ所ニ住居スル
モノニ限ル

但保證人其資格ヲ失ヒ又ハ本校ニ於テ適當ナラスト認ムルトキハ更
ニ相當ノ者ヲ以テ之ニ代ヘ在學證書ヲ替ヘシムヘシ

第十八條 生徒又ハ保證人轉居或ハ改氏名改印等ヲナシタルトキハ其旨
速カニ届出ツヘシ

第十九條 一旦入學シタルモノハ中途ニシテ退學スルヲ許サス但
疾病又ハ止ムヲ得サル事由ニ依リ退學セントスルトキハ其事由ヲ詳記
シ保證人連署ヲ以テ願出ツヘシ

第二十條 生徒疾病若クハ事故アリテ缺席スルトキハ其事由ヲ保證人連
署ヲ以テ届出ツヘシ

第二十一條 左ノ一項若クハ數項ニ觸ル、モノハ退學ヲ命スヘシ

一 二學年引續キ落第シ成業ノ見込無キモノ

二 故ナクシテ授業料不納三箇月ニ及ビタルモノ

三 何等ノ事由アルニ拘ハラズ無届缺席六十日ニ涉リタルモノ

五 出席常ナラサル者

第二十二條 生徒疾病ニ罹リ其學年間休學セントスルトキハ保證人連署
ノ上醫師ノ診斷書ヲ添ヘ願出ツヘシ

但シ同一學年ニ在ル間一回ニ限ルモノトス

第四章 學業調査及證書

第二十三條 生徒ノ進級及卒業ハ調査ノ成績ニ依リ不紊ノ學業ヲ參考シ

ルモノアルトキハ之レヲ懲戒ス
第三十一條 懲戒ヲ分チテ戒備、禁足、停學、退學ノ四トス
第三十二條 懲戒者ト雖モ悔悟ノ實蹟アリト認ムルモノハ特ニ宥免スルコトアルヘシ

第七章 寄宿舎
第三十三條 寄宿舎ハ自習室及寢室トス
第三十四條 自習室ハ晨起後就寢迄學科ヲ自習スル所トシ寢室ハ夜間睡眠スル所トス但體操ハ舍内ニ於テ自習スルヲ許サス
第三十五條 寄宿舎ニ入ラントスルモノハ舍監ノ許可ヲ受ケ左ノ書式ニ依リ在舍證書ヲ進出スヘシ其退舍セントスルトキハ事出テ詳具シ保證人進署ノ願書ヲ進出スヘシ

在舍證書 (用紙張紙)
私儀今般入舍御許可相成候ニ付テハ御規則等堅ク相守リ可申候也
年月日 第何年生徒 氏名 名印
學校長 宛 保證人 氏名 名印
右某儀在舍中一切ノ事件私ニ於テ引受可申候也

第三十六條 晨起就寢外及食事等ノ時限ハ日ノ長短ニ依リ之ヲ定ム
第三十七條 寄宿舎ニ關シ前條ニ規定セル外必要ト認ムルトキハ學校長之ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ
第八章 附則
第三十八條 本規則施行上必要ナル細則ハ學校長之ヲ定ムヘシ
(本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス修業年限四箇年ノ尋常小學校ノ課程ヲ卒業シタル者ノ入學ニ付テハ本令施行後ト雖モ仍從前ノ例ニ依リ但高等小學校第二學年ノ課程ヲ卒業シタル者ノ學力檢定試驗科目ニ理科ヲ加フ) (四一年縣令第二一號改正ノ附則)

●青森縣立弘前八戸高等女學校生徒定員

明治三十五年四月十六日
達内第百三十八號 改正三十七號第九號

青森縣立弘前高等女學校
青森縣立八戸高等女學校
共校生徒定員ヲ二百三十名(弘前女學校)百七拾名(八戸女學校)ト相定ム

●青森縣立青森高等女學校規則

明治四十一年二月二十五日
縣令 第十號

青森縣立青森高等女學校規則別冊ノ通相定ム
(別冊)
第一章 總則
第一條 青森縣立青森高等女學校ハ女子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二條 本校ノ修業年限ハ四箇年トス
第三條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル
第四條 學年ヲ分チテ三學期トス第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日ニ至リ第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至リ第三學期ハ翌年一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル
第五條 休業日ヲ定ムル左ノ如シ
日曜日
大祭日
祝日
春季休業 自四月一日至四月七日
皇后陛下御誕辰 五月二十八日
本校創立記念日
夏季休業 自八月一日至八月三十一日
冬季休業 自十二月二十五日至一月十日

高等女學校學科課程表

學科	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身	二	二	二	二
國語	六	六	五	五
算學	三	三	二	三
地理	三	三	二	三
歷史	三	三	二	三
理科	二	二	二	二
園藝	一	一	一	一
家事	六	六	三	二
裁縫	六	六	六	六
音樂	二	二	二	二
體操	三	三	三	三
外國語	(三)	(三)	(三)	(三)
手藝	(二)	(二)	(二)	(二)
合計	(三)(三)(三)(三)	(三)(三)(三)(三)	(三)(三)(三)(三)	(三)(三)(三)(三)

第二章 學科目及程度

第六條 本校ノ學科目ハ修身、國語、歷史、地理、數學、理科、園藝、家事、裁縫、音樂、體操トス又隨意科目トシテ外國語及手藝ヲ加フ
外國語ハ英語トス
第七條 各學科目ノ課程並ニ每週授業時數ヲ定ムル別表ノ如シ其ノ各學科目ノ教授要旨ハ明治三十四年文部省令第四號ニ據ル
手藝ノ種類ハ編物、組紐、裁縫、刺繍、造花等ノ中ニ就キ學校長ニ於テ知事ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ
第八條 本校ノ教科用圖書ハ別ニ之ヲ定ム
第三章 入學及退學
第九條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始メヨリ三十日以内トス但缺員アルトキハ第二學期及第三學期ノ始メヨリ十日以内ニ臨時入學セシムルコトヲ得
第十條 本校ニ入學シ得ヘキ者ハ年齡十二年以上品行方正身體健全ニシテ本則第十一條乃至第十三條ニ該當スルモノナルヘシ
第十一條 第一學年入學志願者中尋常小學校卒業セサル者ニ就キテハ試驗ニ依リ其ノ學力ヲ檢定ス
第一學年入學志願者中尋常小學校卒業シタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先テ入學ヲ許可ス
尋常小學校卒業シタル者ノ數人入學ヲ許スヘキ人員ニ超過スルトキハ試驗ニ依リ入學者ヲ選拔ス
第十二條 前條第一項ノ試驗ハ國語、算術、日本歷史、地理、理科ニ就キ同條第三項ノ試驗ハ國語、算術ニ就キ尋常小學校卒業ノ程度ニ依リ之ヲ行フ
第十三條 第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ相當年齡ニ達シ前各學年ノ課程ヲ卒業シタル者ト相當ノ學力ヲ有スル者タルヘシ
前項入學者ノ學力ハ前各學年ノ程度ニ於テ其ノ各學科目ニ就キ試驗ニ依リテ檢定ス
第十四條 願ニ依リ退學シタル者退學シタルトキヨリ一箇年以内ニ於テ再入學ヲ志願シタルトキハ試驗ニ依ラスシテ原學年以下ノ學年ニ入學ヲ許可スルコトアルヘシ
第十五條 入學志願者ハ左ノ願書及履歷書ヲ進出スヘシ

第四輯 學事 第一章 學校

但シ入學願書ニハ入學志願者ニ關スル戸籍抄本ヲ添フヘシ
入學願書 (用紙半紙)
私儀御校第何年級へ入學致渡候間御許可相成度依テ別紙履歷書戸
籍抄本並入學受驗料金一圓相添へ此段相願候也

本籍地道府(縣)郡(市)(區)町(村)
字番(族稱)
現住所道府(縣)郡(市)町(村)字番地
何某何女(姉)(妹)又ハ戸主
年 月 日 氏 名 印

履歷書 (用紙半紙)
住所族籍氏名何女(姉妹)
年 月 日 氏 名 印

學 業
一何年何月ヨリ何學校ニ入り何年何月何科何年級卒業若クハ何學
科修業等
賞 賜
一何年何月何所ニ於テ何賞若クハ何罰ヲ受ク
右ノ通相述無之候也
年 月 日 右 氏 名 印

第十六條 入學ノ許可ヲ得タルモノハ左式ノ在學證書ヲ差出スヘシ
收入
在學證書 (用紙半紙)
私儀今般入學御許可相成候ニ就テハ御規則御告諭等堅ク相守リ無
故退學致問敷候尤モ本人身上ニ關スル件ハ保證人ニ於テ一切引受
可申候依テ證書ヲ差出候也

本籍地道府(縣)郡(市)(區)町(村)
字番(族稱)
現住所道府(縣)郡(市)町(村)
字番地何某何女(姉)(妹)又ハ戸主等
年 月 日 氏 名 印

住所族籍及生徒トノ續柄職業
保證人 氏 名 印

第十七條 保證人ハ本縣下ニ住スル丁年以上ノ男子ニシテ一家ヲ立ツル
モノニ限ル
但保證人其ノ資格ヲ失ヒ又ハ本校ニ於テ適當ナラズト認ムルトキハ
更ニ適當ノ者ヲ以テ之ニ代ヘ在學證書ヲ書キ換ヘシムヘシ

第十八條 生徒又ハ保證人轉居或ハ改氏名改印等ヲナシヨルトキハ其ノ
旨速カニ届出ツヘシ

第十九條 一旦入學シタルモノハ中途ニシテ退學スルヲ許サス但
疾病又ハ已ムテ得サル事由ニ依リ退學セントスルトキハ其ノ事由ヲ詳
記シ保證人連署ヲ以テ届出ツヘシ

第二十條 生徒疾病若クハ事故アリテ缺席スルトキハ其ノ事由ヲ具シ保
證人連署ヲ以テ届出ツヘシ

第二十一條 左ノ一項若クハ數項ニ觸ル、モノハ退學ヲ命スヘシ
一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
三 引續キ一箇年以上缺席シタル者
四 正當ノ事由ナクテ引續キ一箇月以上缺席シタル者
五 出席常ナラザル者

第二十二條 生徒疾病ニ罹リ其學年間休學セトスルトキハ保證人連署
ノ上醫師ノ診斷書ヲ添へ届出ツヘシ但同一學年ニ在ル間一回ニ限ルモ
ノトス

第二十三條 生徒ノ進級及卒業ハ調査ノ成績ニ依リ不素ノ學業ヲ參考シ
テ之ヲ決定ム

第二十四條 調査ノ分チテ臨時調査及學年調査ノ二種トシ臨時調査ハ一
學年內ニ二回以上之レナリ行ヒ學年調査ハ學年末ニ於テ之ヲ行フ

第四章 學業調査及證書
第三十四條 第十一條、第十二條及第二十八條ハ明治四十一年四月一日
ヨリ之ヲ施行ス但シ明治四十一年三月三十一日以前ニ於テハ高等小學
校第二學年ノ課程ヲ卒業シタル者ニハ第十一條ノ高等小學卒業者、其
他ノ者ニハ全條ノ高等小學卒業者ニ依リ規定ナラズ

第三十五條 算術ニ就キ高等小學校第二學年ノ課程ヲ卒業シタル者ノ選拔試驗
ハ國語、算術ニ就キ高等小學校第二學年ノ程度ニ依リ之ヲ行フ

但調査ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定メ知事ノ許可ヲ受クヘシ
第二十五條 第四學年ノ課程ヲ修了シタルモノハ左式證書ヲ授與ス
卒業證書
校 印
右ハ高等女學校修業年限四箇年ノ教科(外國語ヲ缺ク)ヲ卒業セリ
依テ茲ニ之ヲ證ス
年 月 日 學校長位階爵 氏 名 印
備考 外國語ヲ學習シタル者ニハ(外國語ヲ缺ク)ヲ除ク
第五章 授業料及入學受驗料
第二十六條 授業料ハ一人ニ付一箇月金一圓三十錢トス但シ八月ハ之ヲ
徴收セス
第二十七條 休學全月ニ互ル者ハ其月分ノ授業料ヲ徴收セス
第二十八條 授業料納附期日ハ毎月學校ヨリ指定スルモノトス
前條ノ期日ニ於テ授業料ヲ納附セサルモノハ保證人ヨリ之
ヲ徴收ス
第二十九條 入學試驗ヲ受クル者ヨリ入學受驗料金一圓ヲ徴收ス
前項ノ入學受驗料ハ其入學願書ニ添ヘ之ヲ納ムヘシ但シ入學試驗ヲ要
セサルトキハ之ヲ返附シ自己ノ都合ニ依リ入學試驗ヲ受ケサルモノ之ヲ
返附セス

Table with columns for subjects (算術, 地理, 國語, 修身, etc.) and years (第一學年, 第二學年, etc.).

第四輯 學事 第一章 學校

第三十條 生徒ニシテ規則命令ニ違背シ又ハ不都合ノ行爲アリト認ムル
モノアルトキハ之ヲ懲戒ス
第三十一條 懲戒ヲ分チテ戒告、禁止、停學、退學ノ四トス
第三十二條 懲戒セラレタル者ト雖モ悔悟ノ實蹟アリト認ムルモノハ特
ニ宥免スルコトアルヘシ
第七章 補 則
第三十三條 本規則施行上必要ナル細則ハ學校長之レヲ定ム
第八章 附 則

第四輯 學事 第一章 學校

計	手藝	外國語	體操	音樂
(三)(〇)(九)	(二)	(三)	三	二
(三)(〇)(九)	(二)	(三)	三	二
(三)(〇)(九)	(二)	(三)	三	二
(三)(〇)(九)	(二)	(三)	三	二

備考 外國語、手藝ヲ學習セサルモノニハ裁縫ノ教授時數一時間ヲ加フ

青森縣立畜産學校規則

明治三十八年五月十九日
縣令第二十九號

青森縣立畜産學校規則左ノ通り改正ス

第一章 總則
第一條 本校ノ目的ハ明治三十二年勅令第二十九號實業學校令及同年文部省令第九號實業學校甲種程度規程ニ從ヒ畜産科及農科ヲ置キ學理ト實業トヲ教授スルニアリ
第二條 修業ノ年限ハ各科四箇年トス
第三條 本校生徒ノ定員ハ畜産科及農科各百二十名ツ、通計二百四十名トス

第二章 學年、學期、休業日
第四條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

學科	學年	授業時數	畜産製造	畜産飼養	藥科	內科	外科	蹄鐵學	馬學	衛生學	細菌學	傳染病科	獸醫學	英語	體操	合算	實習
修身 讀書作文	第一學年	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	第二學年	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	第三學年	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	第四學年	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

第四輯 學事 第一章 學校

學科	學年	授業時數	數理學	動物學	植物學	土壤學	園藝學	肥料學	養蠶學	畜産學	收草學	農産製造	獸醫學	英語	體操	經濟學	圖畫	合算	實習
修身 讀書作文	第一學年	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	第二學年	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	第三學年	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	第四學年	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

第五條 一學年ヲ二學期ニ分ツト左ノ如シ
第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日迄
第二學期 九月一日ヨリ翌年三月三十一日迄
第六條 休業日ハ左ノ如シ
但夏季休業中ハ十日間以上交代ニ實習ヲ課シ又時宜ニ依リ其他ノ休業日ト雖モ實習ヲ課スルコトアルヘシ
一 祝日 大祭日
一 一日曜日
一 春季休業 自四月一日至四月七日
一 夏季休業 自八月一日至八月三十一日
一 冬季休業 自十二月二十五日至翌年一月二十日
一 本校創立記念日 十月二十四日
第七條 畜産科及農科ノ課程及授業時間
第三章 學科、課程及授業時間

學科	學年	授業時數	畜産科	農科
修身 讀書作文	第一學年	一	一	一
	第二學年	一	一	一
	第三學年	一	一	一
	第四學年	一	一	一

生若クハ中學校第二級修了ノ者ハ試験ヲ須キス入學ヲ許シ其他ノモ
ノハ高等小學校第二級年ノ學科程度ニ依リ國語算術日本歴史地理及理
科ニ就キ試験ノ上入學ヲ許可ス
但入學志願者ノ數寡人員ニ超過スルトキハ撰拔試験ニ依リ入學者
ヲ定ム

第十一條 入學願書及履歷書ハ第一號書式ニ依ルヘシ
第十二條 入學ノ許可ヲ得タルモノハ保證人二名ヲ定メ學校長ニ届出ツ
ヘシ
保證人ハ一家計ヲ立ツル丁年以上ノ男子ニシテ内一人ハ本校ヲ距ルコ
ト一里以内ノ地ニ住居スルモノトス
但學校長ニ於テ保證人ヲ不適當ト認ムルトキハ之ヲ變更セシムルコ
トアルヘシ

第十三條 保證人旅行セントスルトキハ相當ノ代人ヲ立テ届出ツヘシ
第十四條 保證人死亡若クハ其資格ヲ失ヒタルトキハ更ニ之ヲ選定シ速
ニ届出ツヘシ

第十五條 生徒ニシテ左ノ一項若クハ數項ニ觸ル者ハ退學ヲ命ス
一明治三十四年三月文部省令第三號第五十一條ニ該當スルモノ
二疾病ニ罹リ成業ノ見込ナキモノ
三出席當ラサルコト甚シキモノ
四同一年級ニ於テ落第第二回ニ及ブ者

第十六條 生徒疾病其他止ムヲ得サル事故ニ依リ二箇月以上引續キ出席
スルコト能ハサルトキハ學校長ノ許可ヲ受ケ該學年間休學スルコトヲ
得
休學ノ許可ヲ得タルモノハ次學年ノ始ヨリ原級ニ入り修學スルモノト
ス

第十七條 各學年ノ課程ノ終了及卒業ノ認定
業及試験ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ムヘシ
但正當ノ事由アリテ試験ニ缺席シタルモノニ對シテハ學校長ノ見込
ニ依リ平常ノ學業成績ノミヲ考査シテ之ヲ定ムルコトヲ得
各學科目ノ成績ハ點數ヲ以テ之ヲ表シ一百ヲ以テ最高點トス
讀書、作文、英語、數學、圖畫、體操ノ各學科目ハ日課點ニ依リ其他

第十八條 試驗ニ依リ其ノ成績ヲ定ム
第十九條 試驗ヲ分テ學期試驗臨時試驗及卒業試験ノ三トス學期試驗ハ
各學期ノ終ニ於テ之ヲ行ヒ臨時試驗ハ臨時ニ之ヲ行ヒ卒業試験ハ第三
學年ヲ終了セル者ニ就キ之ヲ行フ
但正當ノ事由アリテ試験ニ缺席シタル者ノ爲メ學校長ノ見込ニ依リ特
ニ追試験ヲ行フ

第二十條 學期末ニ於テハ各學期ノ成績點ヲ合算シテ之ヲ二除シテ其學年
ノ各學科及實習ノ成績點ヲ定ム
第二十一條 課程ノ修了ヲ認ムルニハ一學年間ノ各學科ノ成績點及成績
平均點ニ依リ之ヲ考査スルモノトシ學科成績平均點ノ二倍ニ實習ノ成
績點及品行點ヲ加ヘ之ヲ四除シタルモノヲ以テ成績總平均點ニ充テ成
績總平均點六十點ヲ以テ課程ノ修了ヲ認ムル標準トス
但成績點六十點未滿ノモノハ三科目以上五十點未滿ノモノ二科目以
上又ハ四十點未滿ノモノ一科目アルトキハ此限ニアラス

第二十二條 卒業試験ハ在學中履修セル主要學科目ニ就キ之ヲ行フ卒業
試験ニ於テ成績點六十點ニ充タサル學科目ニ就キテハ若干ノ時日ヲ終
過セル後再試験ヲ行フ向ホ六十點ニ滿タサルトキハ退學セシム
第二十三條 學校長ハ學年ノ課程ヲ修メタル者ニハ修業證書卒業試験ニ
合格セルモノニハ卒業證書ヲ授與スヘシ修業證書及卒業證書ハ第二號
及第三號書式ニ依ル

第二十四條 授業料
授業料ハ一箇月金一圓トシ在學中毎月之ヲ徵收ス
但八月ハ之ヲ徵收セズ
第二十五條 授業料ハ一月ハ二十五日四月ハ十五日マテニ其ノ他ノ月ハ
五日マテニ當月分ヲ納ムヘシ
但本文期日以後ニ出席シタルモノ又ハ新ニ入學シタルモノハ當日之
ヲ納ムヘシ

第二十六條 疾病其他ノ事項ニ依リ欠席全月ニ互ルモノハ授業料ヲ徵
收セズ
第二十七條 第二十五條ノ期日ニ於テ授業料ヲ納メサルモノハ授業料ヲ停
止ス

第二十八條 生徒若シテ五月五日ニ及ビ授業料ヲ納メサルトキハ保證人ヨ
リ之ヲ徵收ス

第二十九條 校則ヲ犯シ又ハ訓誡ニ背キ其他生徒タルノ本分ニ違フノ行
爲アルモノハ之ヲ懲戒ス
第三十條 學年試驗ノ成績優等ニシテ常ニ品行方正ナルモノニハ褒賞ヲ
授與ス

第三十一條 一學年間皆出席ノ者ニハ特ニ精勵證ヲ授與ス
第三十二條 懲戒ヲ分テ謹慎、停學、放校ノ四トス
第八章 寄宿舎
第三十三條 生徒ハ總テ寄宿舎ニ入ルヘキモノトス
但學校長ニ於テ通學ヲ許可シタルモノハ此限リニアラス
第三十四條 退舍セント欲スル者ハ其事情ヲ詳細シ保證人連署ヲ以テ學
校長ニ願出ツヘシ

第三十五條 本校職員及寄宿舎生徒ノ外親リニ寄宿舎ニ出入スルヲ許サ
ズ
第三十六條 寄宿舎ニシテ傳染病ニ罹リタルトキハ退舍セシム
第三十七條 寄宿舎ニシテ止ムヲ得サル事由ニ依リ外泊又ハ臨時外出
セントスルモノハ保證人連署ノ上願出ツヘシ
第三十八條 膳料其他寄宿ニ要スル費額並ニ其用納方法ハ學校長之ヲ定
ム
第九章 卒業生ノ研究
第三十九條 本校卒業ノ後特ニ實業ニ關スル事項ヲ研究セントスル者ア
ルトキハ設備ノ許ス限リ一箇年以内在學セシム
第四十條 前條ノ在學者ヨリ授業料ヲ徵收セズ
第四十一條 第三十九條ニ依リ在學セントスルモノハ學年ノ始メニ於テ
研究セント欲スル科目ヲ記載シタル願書ヲ提出シ學校長ノ許可ヲ受ク
ヘシ

第十條 本規則施行上必要ナル細則ハ學校長之ヲ定ムヘシ
第一號書式(用紙半紙一通)

ノ學科目ハ試驗ニ依リ其ノ成績ヲ定ム
第十八條 試驗ヲ分テ學期試驗臨時試驗及卒業試験ノ三トス學期試驗ハ
各學期ノ終ニ於テ之ヲ行ヒ臨時試驗ハ臨時ニ之ヲ行ヒ卒業試験ハ第三
學年ヲ終了セル者ニ就キ之ヲ行フ
但正當ノ事由アリテ試験ニ缺席シタル者ノ爲メ學校長ノ見込ニ依リ特
ニ追試験ヲ行フ
第十九條 學期末ニ於テハ日課點並ニ其學期內ニ於テ行ヒタル試驗點ニ
依リ各學科ノ成績點ヲ定メ之ニ實習ノ成績ヲ考査シテ其ノ成績點ヲ定
ム
第二十條 學期末ニ於テハ各學期ノ成績點ヲ合算シテ之ヲ二除シテ其學年
ノ各學科及實習ノ成績點ヲ定ム
第二十一條 課程ノ修了ヲ認ムルニハ一學年間ノ各學科ノ成績點及成績
平均點ニ依リ之ヲ考査スルモノトシ學科成績平均點ノ二倍ニ實習ノ成
績點及品行點ヲ加ヘ之ヲ四除シタルモノヲ以テ成績總平均點ニ充テ成
績總平均點六十點ヲ以テ課程ノ修了ヲ認ムル標準トス
但成績點六十點未滿ノモノハ三科目以上五十點未滿ノモノ二科目以
上又ハ四十點未滿ノモノ一科目アルトキハ此限ニアラス
第二十二條 卒業試験ハ在學中履修セル主要學科目ニ就キ之ヲ行フ卒業
試験ニ於テ成績點六十點ニ充タサル學科目ニ就キテハ若干ノ時日ヲ終
過セル後再試験ヲ行フ向ホ六十點ニ滿タサルトキハ退學セシム
第二十三條 學校長ハ學年ノ課程ヲ修メタル者ニハ修業證書卒業試験ニ
合格セルモノニハ卒業證書ヲ授與スヘシ修業證書及卒業證書ハ第二號
及第三號書式ニ依ル

第六章 授業料
第二十四條 授業料ハ一箇月金一圓トシ在學中毎月之ヲ徵收ス
但八月ハ之ヲ徵收セズ
第二十五條 授業料ハ一月ハ二十五日四月ハ十五日マテニ其ノ他ノ月ハ
五日マテニ當月分ヲ納ムヘシ
但本文期日以後ニ出席シタルモノ又ハ新ニ入學シタルモノハ當日之
ヲ納ムヘシ

第二十六條 疾病其他ノ事項ニ依リ欠席全月ニ互ルモノハ授業料ヲ徵
收セズ
第二十七條 第二十五條ノ期日ニ於テ授業料ヲ納メサルモノハ授業料ヲ停
止ス

第二十八條 生徒若シテ五月五日ニ及ビ授業料ヲ納メサルトキハ保證人ヨ
リ之ヲ徵收ス

第二十九條 校則ヲ犯シ又ハ訓誡ニ背キ其他生徒タルノ本分ニ違フノ行
爲アルモノハ之ヲ懲戒ス
第三十條 學年試驗ノ成績優等ニシテ常ニ品行方正ナルモノニハ褒賞ヲ
授與ス

第三十一條 一學年間皆出席ノ者ニハ特ニ精勵證ヲ授與ス
第三十二條 懲戒ヲ分テ謹慎、停學、放校ノ四トス
第八章 寄宿舎
第三十三條 生徒ハ總テ寄宿舎ニ入ルヘキモノトス
但學校長ニ於テ通學ヲ許可シタルモノハ此限リニアラス
第三十四條 退舍セント欲スル者ハ其事情ヲ詳細シ保證人連署ヲ以テ學
校長ニ願出ツヘシ

第三十五條 本校職員及寄宿舎生徒ノ外親リニ寄宿舎ニ出入スルヲ許サ
ズ
第三十六條 寄宿舎ニシテ傳染病ニ罹リタルトキハ退舍セシム
第三十七條 寄宿舎ニシテ止ムヲ得サル事由ニ依リ外泊又ハ臨時外出
セントスルモノハ保證人連署ノ上願出ツヘシ
第三十八條 膳料其他寄宿ニ要スル費額並ニ其用納方法ハ學校長之ヲ定
ム
第九章 卒業生ノ研究
第三十九條 本校卒業ノ後特ニ實業ニ關スル事項ヲ研究セントスル者ア
ルトキハ設備ノ許ス限リ一箇年以内在學セシム
第四十條 前條ノ在學者ヨリ授業料ヲ徵收セズ
第四十一條 第三十九條ニ依リ在學セントスルモノハ學年ノ始メニ於テ
研究セント欲スル科目ヲ記載シタル願書ヲ提出シ學校長ノ許可ヲ受ク
ヘシ

第十條 本規則施行上必要ナル細則ハ學校長之ヲ定ムヘシ
第一號書式(用紙半紙一通)

第四十二條 本規則施行上必要ナル細則ハ學校長之ヲ定ムヘシ
第一號書式(用紙半紙一通)

入學願書
私儀御校何科ニ入學志願ニ付御許可相成度別紙履歷書相添此段相願候也
本府府縣郡市町村大字番戶族稱
現居所同上
何某何男(兄弟)又ハ戶主
入學志願者 氏 名印
年 月 日
本府府縣郡市町村大字番戶族稱
現居所同上
右父兄又ハ後見人 氏 名印
青森縣立青森學校長氏 名印
履 歷 書
本府府縣郡市町村大字番戶族稱
現居所同上
何某何男(兄弟)又ハ戶主 氏 名印
一何年何月ヨリ何所何學校ニ於テ又ハ某ニ就キ何學科修業
一何年何月何學校ニ於テ何科卒業又ハ何科何學年修業
但シ卒業證書(修業證書)別紙相添
一何年何月何所ニ於テ何事ニ付賃(罰)ヲ受ク
右ノ通相違無之候也
年 月 日 右 氏 名印
番 號
修業證書
族 籍
氏 名
生年月日
右者本校何科何學年ノ課程ヲ修了セリ仍テ之ヲ履ス
年 月 日 校 名

第三號書式

畜業證書

番 號

畜 種

畜 主 名

生 年 月 日

右者本校何科ノ課程ヲ修メ正ニ其業ヲ卒ヘタリ仍テ之ヲ證ス

年 月 日

青森縣立畜産學校校長位勳爵氏 名印

青森縣立畜産學校種牡牛種付出願心得

明治三十六年三月十七日 告示第七十五號

本縣縣立畜産學校ニ於テ今般其ノ何首種牡牛種付出願心得左ノ通り相定メタリ

- 第一條 本校種牡牛ニ種付志願ノ者ハ第一號書式ニ準シ願書ヲ差出スヘシ
- 第二條 本校ハ出願ノ順序ニ依リ種付期日ヲ定メ通知スルモノトス
- 第三條 種付ノ許可ヲ得タル者ハ種付ノ際種付料トシテ金二圓五十錢ヲ納ムヘシ
- 第四條 種付ノ許可ヲ得タル者ハ一回ノ種付ニテ受胎セサル時ハ三回迄種付ヲ請求スルコトヲ得
- 第五條 本校種牡牛種付料ニ種付シテ分産シタルトキハ分産後五日間以内ニ但分産後六箇月以内ニ死亡シタル場合モ亦之ニ準ス
- 第六條 流産死産等ノ際ハ五日以内ニ其旨届出ツヘシ
- 第七條 血統書ヲ望ム者ハ分産後六箇月以内ニ本校ニ奉付ケ檢閲ヲ受ケ
- 第八條 既ニ種付ノ許可ヲ得タル者ト雖本校ハ都合ニ依リ停止或ハ期日

青森縣立畜産學校病畜及裝鐵取扱ニ關スル規程

明治三十七年一月二十日 告示第二十號

- 第一章 診察及入舎
- 第一條 本校ハ外來病畜診察ノ依頼ニ應スルコトアルヘシ其時間ハ休日ヲ除キ毎日午前八時ヨリ午後二時迄トス
- 第二條 病畜ノ治療ヲ受ケントスルモノハ畜名及畜主ノ住所氏名ヲ申出ツヘシ
- 第三條 病畜ヲ本校病畜舎ニ入レ治療ヲ受ケントスルモノハ左式ノ願書ヲ差出スヘシ

入 舎 願 書

(牛、馬、羊、豚、犬ノ類)

一 性 別

一 種 類

一 毛 色

一 特 徴

右御校病畜取扱規程ニ依リ入舎治療ヲ受ケ度候間御許可相成度此段相願候也

年 月 日

校 長 宛

畜 主 住 所

氏 名 印

- 第四條 前條願書ニツキ不都合ナシト認ムルトキハ病畜舎ニ差支ナキ場合ニ限リ入舎許可證ヲ下附ス
- 第五條 病畜入舎中避クヘカラサル災害若ハ施術中ノ死傷又ハ逸走等アルモ本校ハ辨償ノ責ニ任セズ
- 第六條 入舎中ノ病畜全治シ又ハ斃死シタルトキハ其ノ旨畜主ニ通知ス

ナ變更スルコトアルヘシ

第九條 種付期日ヲ指定セラレタル者ニシテ種付ノ延期或ハ取消ヲ要スルトキハ十日以前ニ届出ヘシ

(第一號書式)

種 付 願 書

種 類

畜 主 名

住 所

一 種 類 (純種何種或ハ何種雜種)

一 年 齡 (生年月)

一 體 尺

一 特 徴

但血統證アル者ハ添付スヘシ

右ハ御校何首種牡牛種付相願度候間御檢査之上御許可被下度此段願上候也

年 月 日

校 長 宛

右

何

某印

(第二號書式)

分 類 (死亡)届

一 性 別 (牝或ハ牡)

一 生 年 月 日

一 産 地 (又ハ死亡ノ場所)

一 毛 色

一 特 徴

死亡ハ其死亡ノ時日ヲ記入ス

右及御届候也

年 月 日

學 校 長 宛

住 所

畜 主 姓 名 印

青森縣立畜産學校病畜及裝鐵取扱ニ關スル規程

明治三十七年一月二十日 告示第二十號

- 第二章 診 察
- 第七條 畜主ニ於テ病畜全治ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ入舎證ヲ返付シ家畜ヲ引取ルヘシ
- 第八條 畜主ニ於テ病畜斃死ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ屍體ヲ引取ルヘシ若シ二十四時間以内ニ之ヲ引取ラサルトキハ本校ニ於テ之ヲ処分ス其ノ處分ニツキ畜主ハ異議ノ申立ヲナスコトヲ得ス
- 第九條 病畜ノ屍體學術實驗上特ニ必要アリト認メタルトキハ畜主ノ承諾ヲ得タル上之ヲ解剖スルコトアルヘシ
- 第十條 本校ハ病畜性診ノ依頼ニ應スルコトアルヘシ
- 第十一條 往診ノ時間ハ午後一時ヨリトス
- 第十二條 往診ニ要スル實費ハ畜主之ヲ負擔スルモノトス
- 第十三條 往診料ハ別ニ之ヲ徴收ス
- 第三章 裝 鐵
- 第十三條 本校ハ馬蹄裝鐵ノ依頼ニ應スルコトアルヘシ
- 第十四條 裝鐵ヲ依頼セントスルモノハ休日ヲ除キ毎日午前八時ヨリ午後二時迄ニ本校ニ申出ツヘシ
- 第十五條 裝鐵中非常災害若ハ死傷逸走等アルモ本校ハ辨償ノ責ニ任セズ

第四條 藥價其ノ他辨償金

第十六條 病畜ノ藥價、施術料、往診料及裝鐵料ハ左ノ如シ

内服藥	一日分	金二十五錢
注射藥	一回	金二十五錢
皮膚藥	一回	金二十五錢
皮下注射藥	一回	金二十五錢
灌腸料	一回	金十錢
巴布劑	一回	金十錢
散布劑	一回	金十錢
軟 膏	一回	金十錢
點眼藥	一日分	金五錢

第四輯 學事 第一章 學校

洗滌藥 一 五 金十錢
 施術料 一回 金十錢以上
 往診料 一回 金十錢以上
 裝鐵料 一里以內金三十錢 一里以上金五十錢
 病者治療材料及入舍料ハ實費ヲ徴收ス
 但シ豫メ本校ノ許可ヲ受ケ飼料ヲ持參入舍セシムル場合ハ入舍料ヲ徴收セズ

第五章 雜則
 第十七條 購價、裝鐵及其他辦賃金ハ本規定ニ定ムル所ニ依ルモ材料ノ多少其價格ノ高低ニ依リ多少増減スルコトアルヘシ
 第十八條 藥價裝鐵料及其他辦賃金ハ之ヲ現納トス
 但病者入舍料ハ十日毎ニ之ヲ納附セシム
 第十九條 學術上殊ニ必要ナル病者ニ限リ購價其他辦賃金ノ全部若ハ幾部ヲ徴收セサルコトアルヘシ
 第二十條 治療、往診、裝鐵等ノ時間ハ本校ノ都合ニ依リ伸縮スルコトアルヘシ

●青森縣立工業學校規則

明治四十三年三月十一日 縣令第八號

青森縣立工業學校規則左ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一章 總則
 第一條 本校ハ實業學校令ニ基キ工業ニ從事セントスル者ニ須要ナル教育ヲ爲スヲ以テ目的トス
 第二條 本校ニ建築科、木工科及漆工科ヲ置ク
 第三條 建築科ハ工業學校規程ニ依リ木工科及漆工科ハ徒弟學校規程ニ依ル
 第四條 木工科ニ木工、家具、糖櫃、木地ノ四分科ヲ置キ漆工科ニ塗漆、抽金ノ二分科ヲ置ク
 第五條 修業年限ハ建築科三箇年、木工科及漆工科各二箇年トス
 第六條 生徒ノ定員ハ建築科四十五名、木工科四十名、漆工科二十名トス

學科	科目	授時數	課程
修身	人倫道德ノ要旨	一	上
	講義、作文	二	上
國語	讀本	二	上
	作文	二	上
算術	算術	二	上
	圖表	二	上
理科	物理	二	上
	化學	二	上
體操	體操	二	上
	射擊	二	上
圖畫	圖畫	二	上
	寫真	二	上
技術	建築	二	上
	木工	二	上
實習	建築	二	上
	木工	二	上

第四輯 學事 第一章 學校

第二章 入學及退學
 第十一條 生徒ノ入學ハ每學年ノ始トシ其ノ募集スヘキ員數及入學試驗ノ期日等ハ豫メ之ヲ告示ス
 第十二條 建築科ニ入學シ得ル者ハ年齢十四年以上ニシテ品行方正身體健全修業年限二箇年ノ高等小學校ヲ卒業シタル者又ハ之ノ同等以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ
 第十三條 木工科及漆工科ニ入學シ得ル者ハ年齢十二年以上ニシテ品行方正身體健全高等小學校ヲ卒業シタル者若ハ之ノ同等以上ノ學力ヲ有シ學齡ヲ過キタル者タルヘシ
 第十四條 第一學年ノ入學志願者中修業年限二箇年ノ高等小學校ヲ卒業セサル者又ハ高等小學校ヲ卒業セサル者ハ試驗ニ依リ其ノ學力ヲ檢定ス
 第十五條 前項ノ試驗ハ建築科ニ在リテハ修業年限二箇年ノ高等小學校卒業ノ程度ニ依リ木工科及漆工科ニ在リテハ高等小學校卒業ノ程度ニ依リ國語、算術、日本歴史、地理、理科、圖畫ノ六科目ニ就キテ之ヲ行フ
 第十六條 第一學年入學志願者ノ數其ノ募集人員ニ超過スルトキハ選抜試驗ヲ行フ
 第十七條 前項ノ試驗ハ建築科ニ在リテハ修業年限二箇年ノ高等小學校卒業ノ程度ニ依リ木工科及漆工科ニ在リテハ高等小學校卒業ノ程度ニ依リ國語、算術、圖畫ノ三科目ニ就キテ之ヲ行フ
 第十八條 第二學年以上ニ入學テ許可スヘキ者ハ其ノ學年相當ノ年齡ニ達シ前各學年ノ課程ヲ卒業シタルト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ
 第十九條 前項ノ學力ハ前學年ノ程度ニ依リ各學科ニ就キテ試驗ヲ行ヒ之ヲ檢定ス

學科	科目	授時數	課程
修身	人倫道德ノ要旨	一	上
	講義、作文	二	上
國語	讀本	二	上
	作文	二	上
算術	算術	二	上
	圖表	二	上
理科	物理	二	上
	化學	二	上
體操	體操	二	上
	射擊	二	上
圖畫	圖畫	二	上
	寫真	二	上
技術	建築	二	上
	木工	二	上
實習	建築	二	上
	木工	二	上

第三章 學科

第十條 各教科ノ學科日、課程及每週教授時數ハ左ノ如シ
 但シ實習ノ都合ニ依リ或ル時期ニ於テハ學科ト實習トノ教授時數ヲ互ニ轉換シ又ハ定時間外實習ヲ課スルコトアルヘシ

第六條 卒業生ニシテ既修ノ實業ニ關スル事項ヲ研究シ若ハ補習セントスル者ニハ尙二箇年以内在學セシム

第七條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第八條 學年ヲ分チテ左ノ三學期トス
 第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル
 第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル
 第三學期 一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第九條 休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ
 一 祝日 大祭日
 二 日曜日
 三 春季休業 四月一日ヨリ同月七日ニ至ル
 四 夏季休業 八月一日ヨリ同月三十一日ニ至ル
 五 冬季休業 十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル
 六 本校創立記念日
 但シ時宜ニ依リ祝日大祭日ヲ除クノ外ハ休業セサルコトアルヘシ

第十條 各教科ノ學科日、課程及每週教授時數ハ左ノ如シ
 但シ實習ノ都合ニ依リ或ル時期ニ於テハ學科ト實習トノ教授時數ヲ互ニ轉換シ又ハ定時間外實習ヲ課スルコトアルヘシ

第四輯 學事 第一章 學校

第十六條 入學志願者ハ左式ノ入學願書ニ履歷書ヲ添ヘ差出スヘシ
私儀御校何科(何科)第何學年ニ入學致度候間御許可相成度別紙履歷書相添ヘ此段相願候也

年 月 日 住所族稱某何男(兄)弟(弟)又ハ戶主 名印
青森縣立工業學校校長氏 名殿 氏 名印
履 歷 書 氏 名 年 月 日 生

學 業 一何年何月ヨリ何年何月マテ何學校ニ於テ又ハ何業ニ就キ何科修業若ハ卒業等
職 業 一、何年何月ヨリ何年何月マテ何處ニ於テ何官奉職又ハ何業ニ從事等
父兄ノ家業 一、父何官奉職、兄何職ニ從事等
賞 賜 一、何年何月何處ニ於テ何何ノ廉ニヨリ何賞又ハ何賜ヲ受ク等
右ノ通相違無之候也
年 月 日 右 氏 名印

第十七條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ保證入二名ヲ定メ左式ノ在學證書ヲ差出スヘシ

①收入 在學證書 (用紙半紙) 印紙
私儀今般御校ニ入學御許可相成候ニ就キテハ御規則命令等堅ク相守リ専心學業ヲ勉勵致スヘク候尤本人ノ身上ニ關スル事ハ一切保證人ニ於テ引受ケ申スヘク候仍テ連署ノ上證書差出候也
住所族稱某何男(兄)弟(弟)又ハ戶主 名印 氏

四八

年 月 日 住所族稱職業入學者トノ續柄 名印
青森縣立工業學校校長氏 名殿 氏 名印
前記保證人何某ハ本市(町)(村)内ニ居住シ一家計ヲ立ツル者ニ相違無之候也
年 月 日 市(町)(村)長 氏 名印
前記保證人何某ハ本市(町)(村)内ニ居住シ一家計ヲ立ツル者ニ相違無之候也

第十八條 保證人ハ一家計ヲ立ツル丁年以上ノ男子ニシテ一名ハ入學者ノ父兄又ハ後見人、一名ハ本校ヲ距ルコト一里以内ノ地ニ居住スル者タルヘシ
第十九條 保證人ハ不適當ト認メタルトキハ之ヲ變更セシムルコトアルヘシ
第二十條 保證人死亡シ又ハ其ノ資格ヲ失ヒタルトキハ更ニ相當ノ保證人ヲ定メ連署ノ上連ニ學校長ニ届出ツヘシ
第二十一條 生徒又ハ保證人其ノ住所ヲ轉シ氏名ヲ改メ其ノ他身上ニ異動ヲ生シタルトキハ速ニ學校長ニ届出ツヘシ
第二十二條 學校長ハ生徒左ノ各號ノ一ニ該當スト認ムル者アルトキハ退學ヲ命スヘシ
一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナキ者
二 學業劣等ニシテ成業ノ見込ナキ者
三 正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者
四 出席常ナラサル者
五 引續キ一箇年以上缺席シタル者
學校長ハ前項ニ依リ退學ヲ命シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ直ニ知事ニ報告スヘシ
第二十三條 生徒退學セントスルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人連署ノ上學校長ニ届出ツヘシ
但シ疾病ニ依ルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

第二十三條 生徒疾病其ノ他止ムテ事故ニ依リ三箇月以上修業スルコト在ハサル爲其ノ學年間休學セントスルトキハ保證人連署ノ上學校長ニ届出ツヘシ

但シ疾病ニ依ルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

第五章 課程修了及卒業

第二十四條 各學年ノ課程ノ修了又ハ教科ノ卒業ヲ認ムルニハ平常ノ學業及試験ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ム
第二十五條 平常ノ學業及試験ノ成績ヲ考査スルニハ點數ヲ以テシ十點ヲ其ノ定點トス
第二十六條 試験ヲ分テテ學期試験、學年試験ノ二種トス
學期試験ハ第一學期及第二學期ニ於テ之ヲ行ヒ學年試験ハ學年末ニ於テ之ヲ行フ
第二十七條 學科日ノ種類ニ依リ學校長ノ意見ヲ以テ試験ヲ行ハサルコトアルヘシ
第二十八條 正當ノ事由ニ依リ試験ニ缺席シタル者アルトキハ學校長ノ意見ヲ以テ特ニ追試験ヲ行フコトアルヘシ
第二十九條 學校長ハ各學年ノ課程ノ修了又ハ教科ノ卒業ヲ認定シタルトキハ左式ノ證書ヲ授與ス

修業證書

校 印 族 稱 氏 名 年 月 日 生
右ハ本校何科(何科)第何學年ノ課程ヲ修了セリ仍テ之ヲ證ス

第何 號 青森縣立工業學校

卒業證書

族 稱 氏 名 年 月 日 生
右ハ本校何科(何科)ノ課程ヲ卒業セリ仍テ之ヲ證ス

第四輯 學事 第一章 學校

年 月 日 青森縣立工業學校校長位勳爵氏 名印

第何 號

第三十條 成績考査ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定メ知事ノ許可ヲ受クヘシ
第三十一條 卒業生ニシテ尙在學シ實技ヲ練習シタル者ニハ其ノ成績ヲ考査シテ證明書ヲ授與ス
第六章 賞 賜
第三十二條 生徒中學業操行特ニ優等ナル者ハ學校長之ヲ表彰ス
第三十三條 生徒中實技ノ進歩顯著ニシテ其ノ製作優秀ナル者ニハ學校長之ヲ賞與スルコトアルヘシ
第三十四條 生徒本分ニ違ヒタル行爲アルトキハ學校長之ヲ懲戒ス其ノ懲戒ハ戒告、謹慎、停學ノ三種トス
學校長ハ前項ニ依リ生徒ヲ停學ニ處シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ直ニ知事ニ報告スヘシ
第七章 補 則
第三十五條 本則ノ施行上必要ナル細則ハ學校長之ヲ定ム
學校長ハ前項ニ依リ細則ヲ定メタルトキハ直ニ知事ニ報告スヘシ
第八章 附 則
第三十六條 明治四十年勅令第五十二號ヲ以テ改正以前ノ小學校令ニ依リ修業年限四箇年ノ高等小學校卒業者ハ本則第十二條ノ高等小學校卒業者ト同視シ高等小學校第二學年ノ課程修了者ハ同條ノ高等小學校卒業者ト同視ス

青森縣立女子實業學校規則

明治四十二年三月二十四日 縣令 第十三號

青森縣立女子實業學校規則 通相定メ來ル四月一日ヨリ之ヲ施行ス (別冊)

第一章 總 則 第一條 本校ハ徒弟學校規定ニ依リ女子ニ必須ナル智識技能ヲ授ケ兼テ

第四編 學事 第一章 學校

前項第二號第三號ノ場合ニ於テハ團長ハ報告ト同時ニ其ノ旨父母又ハ後見人ニ通知スヘシ
第二十八條 團内ノ諸規程ハ知事ノ認可ヲ得テ團長之ヲ定ム
第二十九條 本規則ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

清國留學生規程

明治三十七年一月二十三日
縣令 第四號
第一號

本縣清國留學生ニ關スル規程左ノ通相定ム

- 第一條 清國留學生ハ清國留學ニ且工商業ノ事情ニ通セシムル目的ヲ以テ清國ニ派遣ス清國留學生ハ東亞同文會ノ設置ニ係ル東亞文書院ニ入學セシム
- 第二條 清國留學生ハ左ノ資格ヲ有スル者ニ就キ之ヲ選定ス
一 本縣内ニ本籍ヲ有スル男子
二 品行方正、志操堅確、身體強壯ニシテ教員檢定ニ關スル身體檢査規定ニ準シ合格ノ者
三 官立府縣立中學校若クハ文部大臣ニ於テ之ト同等以上ト認定セラレタル中學校卒業シタル者
但本文ト同資格ヲ有スル商業學校卒業シタル者ハ商務科ニ限リ選定スルコトアルヘシ
- 第四條 清國留學生ニ選定シタル者ハ第一號書式ノ命令書ヲ交付ス前條ノ命令書ヲ受領シタルトキハ保證人二名ヲ定メ十日以内ニ第二號書式ノ證書ヲ差出スヘシ本人未成年者ナルトキハ父若クハ母又ハ後見ノ連署ヲ要ス
- 第五條 保證人ハ本縣内ニ住居スル丁年以上ノ男子ニシテ相當ノ職業或ハ財產ヲ有シ資力充足ニ足ルヘキ者ニ限ルヘシ

專門學校男子入學者試驗檢定ニ關スル規程

明治三十七年六月八日
縣令 第二十八號

專門學校男子入學者試驗檢定ニ關スル規程左ノ通相定ム
第一條 專門學校ノ本科ニ入學セントスル男子ニシテ中學校卒業セザル者本縣立中學校ニ於テ試驗檢定ヲ受ケントスルトキハ本規程ニ依ルヘシ

第二號

一 本縣ニ國留學生規程及東亞同文書院ノ規程ヲ遵守スヘシ
一 出發又ハ歸朝ノ際ハ旅行中ノ日誌ヲ作り届出ツヘシ
一 在學中ハ學年ノ始メニ於テ前學年間ニ於ケル學業經歷及成績ヲ東亞同文書院ヲ經由シ届出ツヘシ
一 但シ卒業シタルトキハ卒業證書ノ寫ヲ添へ本文ニ準シ届出ツヘシ

二號收 證 書
入印紙
右御命令ノ趣御請仕候就テハ御規程ノ旨趣ヲ違奉シ誓テ遵守仕間敷候萬一御規程ニ背キ候節ハ學費ノ給與ヲ停止セラル、ハ勿ニ御給與相成候諸費ノ償還ヲ命セラレ候時ハ本人ニ於テ遲滞ナク償還可仕候若シ遲滞ニ及候ハ、保證人ニ於テ引受ケ悉皆辨償可仕候依テ連署ヲ以テ證書差出候也
住所族籍 本人 氏 名
本人ノ父(若クハ母又ハ後見人) 氏 名
住所族籍 保證人 氏 名
住所族籍 保證人 氏 名
知事 宛

第四編 學事 第一章 學校

五編

本縣知事ニ於テ保證人ヲ不充分ト認ムルトキハ變更セシムルコトアルヘシ
保證人死去シ若クハ其ノ資格ヲ失ヒタルトキハ更ニ保證人ヲ定メ本人連署ヲ以テ届出ツヘシ
第六條 清國留學生ニハ學費及旅費ヲ給ス
一 學費 一箇月 金二十五圓
一 旅費 往還各 金五十圓
第七條 學費金ノ支給ハ入學ノ月ヨリ始マリ卒業ノ月ニ終ル
第八條 學費金ハ東亞同文會本部ニ前納ヲ要スルトキハ三箇月分ヲ繰上ケ前渡スヘシ
但シ學費金ハ便宜直ニ在東京東亞同文會本部ニ送送スルコトアルヘシ
第九條 清國留學生ハ自己ノ便宜ニ依リ中途退學スルコトヲ得ス
第十條 清國留學生ハ卒業ノ日ヨリ五箇年間本縣ヨリ職務ヲ命セラレタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
但シ本文年限中ニ於テ他ニ就職セントスルトキハ本縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
第十一條 清國留學生不都合ノ行爲アリテ退學ヲ命セラレタルトキ又ハ本規程ニ背キタルトキハ其ノ情狀ニ依リ既ニ給與シタル學費及旅費ノ全部又ハ幾部ヲ償還セシムルコトアルヘシ
第十二條 清國留學生留學地ニ到着シタルトキハ其ノ届出ツヘシ
第十三條 清國留學生病氣ノ爲メ歸朝セントスルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添へ東亞同文書院ヲ經由シテ本縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
但シ急病ニテ許可ヲ受クルノ途ナキトキハ東亞同文書院ノ證明書ヲ得テ歸朝スルコトヲ得此場合ニ於テハ歸朝後其ノ證明書ヲ添へ届出ツヘシ
第十四條 清國留學生卒業シタルトキハ直ニ其ノ居所ヲ届出ツヘシ
第十條ノ職務年限中居所ヲ移轉シタルトキハ其都度届出ツヘシ
(第一號)

命令書

住所族籍 氏 名
生年月日 年 月 日
今般東亞同文會ノ設立シタル東亞同文書院ニ入學リ命スルニ付左

專門學校男子入學者試驗檢定ニ關スル規程

明治三十七年六月八日
縣令 第二十八號
專門學校男子入學者試驗檢定ニ關スル規程左ノ通相定ム
第一條 專門學校ノ本科ニ入學セントスル男子ニシテ中學校卒業セザル者本縣立中學校ニ於テ試驗檢定ヲ受ケントスルトキハ本規程ニ依ルヘシ
第二條 試驗檢定ヲ受ケントスル者ノ資格ハ明治三十六年三月文部省令第十四號第二條ニ依ル
第三條 試驗檢定ハ本縣立各中學校ニ於テ毎年二月之ヲ行フ
第四條 試驗檢定ヲ受ケントスル者ハ毎年一月三十一日迄ニ別記ノ様式願書ニ履歷書並檢定手数料金一圓ヲ添へ檢定ヲ受ケントスル中學校ニ差出スヘシ
但一且納メタル手数料ハ如何ナル事情アルモ之ヲ還附セス
第五條 試驗檢定學科目及其ノ程度ハ明治三十六年三月文部省令第十四號第四條ニ依ル
第六條 試驗檢定ニ合格シタル者ニハ別記様式ノ合格證書ヲ交付ス
試驗檢定願書式

專門學校入學志願ニ付試驗檢定願
某儀專門學校ノ本科ニ入學志願ニ付試驗檢定ノ上合格證書交付
被成下度別紙履歷書並檢定手数料金一圓ヲ添へ此段相願候也
年 月 日 氏 名
青森縣立第○中學校長 氏 名
服 歷 書
族籍住所 氏 名
何年何月何日生 名
五五

學業

一 何年月日何學校ニ入學何年月日卒業或ハ何學科修業
一 何年月日ヨリ何年月日マテ何所何之誰ニ就キ何學修業等

賞罰

一 何年月日何官拜命或ハ何業ニ從事現在何何等
一 何年月日何所ニ於テ何何ニ付何賞或ハ何罰ヲ受ク等
一 學校ニ於テ放校又ハ除名セラルタル事ノ有無等
右之通相違無之候也

試驗檢定合格證書様式

校印

族籍

氏

名

右ハ明治何年何月本校ニ於テ施行シタル專門學校本科入學者試驗檢定ニ合格シタルニ付此ノ合格證書ヲ交附ス
年 月 日
青森縣立第〇中學校長氏 名印

第三款 設置及設備

市町村立小學校開校期日ニ關スル規定

明治三十三年九月三十日
縣令 第七十號

市町村小學校ノ開校期日ニ關スル規定左ノ通定ム
但シ明治二十五年一月青森縣令第四號ハ之ヲ廢止ス

第一條 新ニ尋常小學校ノ指定ヲ受ケタル市町村ハ之ヲ受ケタル日ヨリ起算シ六箇月以内ニ於テ開校ノ期日ヲ定メ豫メ之ヲ監督官廳ヘ開申ス

第二條 校舍ノ新築工事ノ爲メ期日内ニ於テ開校ノ準備ヲ能ハスト認ルトキハ市町村ハ更ニ開校ノ期日ヲ定メ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 郡長ニ於テ第一條ノ開申ヲ受ケ若ハ第二條ノ許可ヲ與ヘタルトキハ直ニ之ヲ知事ニ報告スヘシ

第四條 尋常小學校ニ高等小學校ノ教科ヲ併置シ若ハ高等小學校ノ設置ヲ認可セラルタル市町村ニ於テ其ノ開校期日ヲ開申シ又ハ更ニ開校期日ヲ定ムル等ニ關シテハ第一條乃至第三條ヲ準用ス

尋常小學校ノ設置並町村ノ負擔等ニ就キ認可若ハ指揮ニ關スル規定

明治三十三年九月三十日
縣令 第六十號

小學校令ニ依リ郡長ニ於テ尋常小學校ノ設置並町村ノ負擔等ニ關シ認可若ハ指揮ヲ受ケントスルトキハ左ノ規定ニ依リ稟請スヘシ
但シ明治二十四年十二月第六百號ハ之ヲ廢止ス

尋常小學校ノ設置並町村ノ負擔等ニ關スル規定

第一條 小學校令第九條第二項ニ依リ尋常小學校ノ校數並位置ヲ定メ第十條第一項ニ依リ町村學校組合ヲ設ケシメ又ハ第十一條第二項ニ依リ尋常小學校設置ニ關スル費用ノ負擔ノ爲メ知事ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ且其ノ校名及負擔金額等ヲ具シ稟請スヘシ

第二條 小學校令第十條第二項ニ依リ兒童教育事務ヲ委託セシメ又ハ第十一條第二項ニ依リ兒童教育事務委託ノ爲メ知事ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ且其ノ校名及負擔金額等ヲ具シ稟請スヘシ

第三條 小學校令第五十二條第二項ニ依リ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務委託ニ關スル費用ヲ一町村限リ負擔セシメシカ爲メ知事ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ且其ノ校名及負擔金額等ヲ具シ稟請スヘシ

第四條 小學校令第五十三條第一號各項ノ一ニ該當スルモノアリト認メ同條第二項ニ依リ知事ノ指揮ヲ受ケントスルトキハ本規定第七條第一

第五條 左ノ各號ニ就キ知事ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其事由ヲ詳記シ且教育事務處理ノ見込ヲ具シ稟請スヘシ

一 小學校 第十條第一項ニ依リ町村學校組合ヲ解散シメントスルトキ及同條第二項ニ依リ兒童教育事務ノ委託ヲ止メシメントスルトキ

二 小學校令第十一條第二項ニ依リ小學校設置ニ關スル費用ノ負擔又ハ兒童教育事務委託ニ關スル費用ノ負擔ヲ止メントスルトキ

三 小學校令第五十二條第二項ニ依リ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務委託ニ關スル費用ノ負擔ヲ止メントスルトキ

第六條 第一條乃至第五條ニ依リ稟請スルニ當リ關係町村又ハ町村學校組合及區若ハ郡參事會ノ意見等ヲ詳記シタル書面ヲ添付スヘシ

第七條 第一條第二條及第四條ノ稟請書ニ記載スヘキ事項左ノ如シ
一 費力表 人口(男) 戶數、地價、直接國稅、縣稅、町村稅、町村有財產(現金、公債證書、株券、耕地、宅地、山林、建物等)
二 區域圖 廣表、山川、道路、學校位置、通學最近距離等
三 學校表 校名、學齡人員、就學兒童見込數(男) 學級數、教員數(准) 歲入歲出豫算(目)

四 委託表 委託ヲ要スル地名、人口(男) 戶數、學齡人員、就學兒童見込數(女) 委託料金額、委託スヘキ學校名及路程

高等小學校ノ設置若ハ廢止ノ爲メ町村學校組合ニ關スル認可稟請方

明治三十三年九月三十日
縣令 第六十一號

高等小學校設置ノ爲メ町村學校組合ヲ設ケルニ就キ小學校令第十四條第四項ニ依リ指揮ヲ受ケントスルトキ若ハ同令第十五條ニ依リ市町村立高等小學校設置ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左記事項ヲ具シ稟請スヘシ

實業補習學校設置廢止等ニ關スル規程

明治三十五年三月二十八日
縣令 第十九號

實業補習學校設置廢止等ニ關スル規定左ノ通相定メ本年四月一日ヨリ施行ス

第一條 實業補習學校設置廢止等ニ關スル規程
合若ハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

一 名稱
二 位置
三 學則
四 生徒定員(男) 女生定員(女)
五 敷地建物ノ圖面(坪數地質附近ノ情況ヲ記載シタルモノ) 並ニ其所有ノ區別
六 收入支出豫算表
七 職員數及俸給額ノ豫定
八 設置區域内ニ於ケル當該實業ノ情況

第二條 前項第一號乃至第五號ヲ變更セントスルトキハ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 公立實業補習學校ヲ他ノ公立學校ニ附設セントスルトキハ郡市町村若ハ町村學校組合ニ於テ左ノ事項ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

一 前條第一號乃至第五號
二 校舍等ノ使用ニ關スル豫定書

(附設セラル、公立學校ト附設スル公立實業補習學校トノ設置區域相等シカラサル場合ニ限ル)

- 三 收入支出豫算表
- 四 職員數及俸給額ノ豫定(專任兼任ノ別ヲ記スヘシ)
- 五 設置區域内ニ於ケル當該實業ノ情況
- 前項第一號及第二號ヲ變更セントスルトキハ知事ノ認可ヲ受クヘシ
- 第三條 實業補習學校ノ女生徒ハ夜間ニ教授スルコトヲ得ス
- 第四條 實業補習學校長及教員ノ進退ニ關シテハ明治三十三年九月青森縣令第七十五號ノ第二條及第四條第二項ヲ除キ之ヲ準用ス
- 第五條 公立學校職員ニシテ公立實業補習學校長及教員ヲ兼務セシムルトキハ相當ノ手當ヲ支給スヘシ
- 第六條 實業補習學校ヲ廢止セントスルトキハ郡市町村若ハ町村學校組合又ハ設立者ニ於テ其事由ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ
- 第七條 本規程ニ依リ知事ノ認可ヲ受ケル場合ハ公立ニ在リテハ町村學校組合ニ於テ郡長ヲ經由シ私立ニ在リテハ設立者ニ於テ郡市長ヲ經由スヘシ

實業補習學校ノ要旨及之カ設置ノ順序方法等ニ關スル注意

明治三十六年二月十三日 內務部長依命通達內三發第百二十三號

實業補習學校ノ要旨及之カ設置ノ順序方法等ニ關スル注意(書令般別紙ノ通則成候ニ付爲御參考一部及御送付條右注意書之旨趣ニ依リ向一層ノ獎勵ヲ加ヘ該校ノ設置ニ御盡力相成候様致シ依命此段申進候也)

第一、實業補習學校ノ要旨

一、實業補習學校ハ簡易ナル方法ニ依リ教育ヲ施ス所ノ一ノ實業學校ニシテ之カ組織設備等可成簡便ニシテ土地ノ狀況ニ適切ナルヲ要シ其日的トスル所ハ實業上ノ知識技能ヲ授クルコト即チ實業教育ヲ爲スト一ハ普通教育ノ補習ヲ爲ストノ二點ニ在ス

ナル科目ヲ設クヘキヤ并ニ之カ設置ノ方法等ヲ講究シ且實業上ノ學科ノ講習會等ニハ勉メテ出席シ其他書籍雜誌等ニ依リ自ラ研究スル等充

分業ヲ積ムコトニ心掛ルコトアルヲ要ス
一、實業補習學校ハ其性質ノ頗ル理解シ難キ學校ニシテ世人往往誤解ニ陷ルモノコレナキニ非ルカ如シ彼ノ實業ヲ以テ實業補習學校ノ主要ノ目的トスヘシト信スルモノ、如キ則チ其一ナリ蓋シ實業補習學校ニ於テハ簡易ノ方法ニ依リ實業ニ關スル科學上ノ智能ヲ得シムル目的トスルモノニシテ(普通科目ノ補習ハ姑ク之ヲ別トシ)他ノ實業學校ノ如ク決シテ實業ヲ主眼トスヘキモノニアラス隨テ各學校ニ於テ必スシモ實習場ヲ設クルヲ必要トセサルモノトス但シ實習場ノ爲生徒ヲシテ多少實習セシムルハ必スシモ不可トスル所ニ非サルハ勿論ナリ

一、小學校ニ補習科ヲ設ケタルトキハ小學校ノ科目ニ農業、商業、手工ノ如キ實業ノ科目ヲ加設シタルトキ及實業補習學校ヲ附設スルヲ要セサルヘシト思惟スルモノアリ、是亦大ナル誤解ナリ、補習科ハ普通ノ科目ノ補習ヲ主ナル目的トシ又其生徒モ亦當若クハ高等小學校ノ卒業者ヲ直ニ入學セシムル目的トシトモ實業補習學校ハ普通科目ノ補習ヲ目的トスルノ外更ニ實業ノ科目ノ教授ヲ主要ナル目的トシ且ツ其生徒モ亦年長ニシテ職業ニ從事スルモノヲ入學セシムルヲ主眼トスルモノトモ小學校ノ科目ニ農業、商業、手工ノ如キ實業ノ科目ヲ加設シタルモノトモ實業補習學校トノ差異ニ至テハ生徒ノ種類、教授ノ時間ノ時期等其相違一層ノ甚シキモノアリ故ニ是等三者ハ一學校ニ於テ同時ニ之ヲ設ケテ互ニ相成ラサルモノトス

一、實業補習學校ハ普通ノ學校ニ見ルトキハ頗ル特殊ノ學校ニシテ教授目、修業期間、教授ノ時期等之カ組織悉ク自由ナルカ故ニ別ニ別科又ハ實修科ト稱スル如キモノヲ設クルノ必要ナシ否之ヲ設ケントスルモ其性質上能ハサル所ナリ換言セバ實業補習學校ノ學科夫レ自身カ別科ノ專修科ノモノナルナリ故ニ生徒ニシテ年齢、職業及學力等ノ不同甚シキ場合ニハ學科目(若クハ其事項)修業期間、教授ノ時間等ヲ巧ニ安排シ學級ヲ分合編制スヘキモノトス
一、要スルニ實業補習學校ハ簡易ニシテ經濟的變則的學校ナルカ故ニ之カ運用巧ナラサルハ効果モ充分ニ收ムルヲ得サルモノトス特ニ實際ノ奏効ヲ眼目トスヘキカ故ニ一切形式ニ拘ハラサルヲ肝要トスル所ニシ

一、實業補習學校ハ極メテ少額ノ經費ヲ以テ設置シ得ル經濟的ノ學校ニシテ都會地ハ勿論僻村ニ至ルマテ之ヲ設クルニ適當シ能ク其土地ノ實業ト關係ヲ保チ多大ノ效果ヲ舉ルヲ得ル最モ須要便利ナル學校ナリ故ニ外國ニ於テハ之ヲ以テ義務教育ト爲ス所尠ナカラストス
一、教授ノ時間ト時期トハ實業補習學校ニ於テ最モ大切トスル所ニシテ彼ノ小學校等ニ於ケルカ如ク毎日晝間五時乃至六時間モ教授スルモノノ如キハ唯口他ノ實業補習學校若クハ小學校ノ變形ト見做スヘク能ク實業補習學校ノ本旨ヲ得タルモノト稱スヘカラス尤モ實業學校ニハ千種萬種ノ種別アリ右等學校モ土地ノ狀況如何ニ依リテハ必スシモ不可トスヘキニアラスト雖モ多數ハ之ニ倣ハサルヲ可トスヘシ即チ夜間(一年ノ中數週數月ナルモノ可ナリ)又必スシモ毎夜ナルヲ要セス)或ハ日曜日其他職業上ノ休業日又ハ農隙漁閑等ノ季節ヲ撰ブヲ適當トシ又其教授時數モ一日一時間乃至三時間等可成多キヲ食フサルヲ宜シトス
一、生徒ハ年齢十歳以上ノモノハ入學スルヲ得ヘキモ土地ノ情況ニ依リ十二年又ハ十四年以上ト定メルモノナリ否亦口十四歳ヨリ二十歳前(後若クハ三十四歳ノ父兄ヲ集メ其職業上ノ餘暇ヲ利用シテ土地ニ適切ナル事項ヲ教授スル目的トスヘシ是レ義務事項ノ如ク毎日晝間多數ノ時間ヲ一定シテ之ニ充ツルヲ得スシテ夜間日曜日其他或ル季節ヲ撰ブヲ要スル所ナリ
一、右ノ次第ナルヲ以テ之ヲ設置セントスルニ當リ新ニ校舍ヲ建築スルカ如キハ或ル特種ノモノヲ除キ概シテ其必要ヲ認メサルモノトス即チ之ヲ設置セントスルニハ其市町村ノ小學校ニ附設シ教員ハ亦成其小學校ノ教員ニ兼務セシムルヲ可トス此ノ場合ニ於テハ新ニ教員ヲ聘スルヲ須キス且校舍其他ヲ兼用スルヲ得テ至極便利ナリトス實業補習學校ハ能ク少額ノ經費ヲ以テ設置シ得ル經濟的ノ學校ナリト謂フハ即チ之カ爲ナリ尤モ實業ニ關スル特種ノ事項ヲ教授スル場合ノ如キ他ニ實業教師ヲ聘用シ又ハ其土地ニ適當ノ人物アラハ教授ヲ囑託スルハ固ヨリ宜マシキ所ナリ又實業補習學校ハ敢テ小學校ノミナラス他ノ實業學校等ニモ附設スルコトヲ得ルカ故ニ若シ郡立學校等ニ附設シ以テ能ク其趣旨ニ適合スル所ノ模範的學校ヲ附設スルアリハ頗ル妙ナルヘキカ

一、實業補習學校ノ附設セラル、小學校ノ教員ハ兩者ヲ兼務スルヲ多數トスヘキカ故ニ當ニ其學校ニ實業補習學校ノ附設セラル、トキハ如何

テ本縣ノ如キ之レカ設置ハ最モ切要トスル所ニシテ極言スレハ縣下各小學校ニ悉ク之ヲ附設スルモ敢テ其多キヲ慮ヘサルヘシ

一、彼ノ小學校ニ於テ冬季三三兩月間年少者及年長者ヲ集メ夜學ヲ開始スルモノ亦尠ナカラズ是等ハ則チ實業補習學校ノ性質ヲ帶フルモノニシテ唯少シク其方法ヲ變更シ普通ノ國語、算術等ヲ教授スル外商業地力ニアリテハ商業書信、簿記ノ如キ水産地方ニアリテハ漁撈、水産動物ノ如キ實業上ノ科目(若クハ事項)ヲ一ニ加味シ又國語ノ如キモ農業地方ニアリテハ其用書ニ農業補習讀本ノ類ヲ用ユル等其土地ニ適切ナル教授ノ方法ヲ施セハ是レ即チ純然タル一ノ實業補習學校ト稱スヘキノミ、故ニ實業補習學校設置ノ最簡便法ハ從來謂フ所ノ「夜學」ヲ各市町村小學校ニ開始シ其教授科目(若クハ事項)ト用書トニ注意シ之ヲ實業的ニ爲スニアリトス

一、又實業補習學校ヲ設置スルニ當リ國庫ノ補助ヲ目的トスルモノ往性之レナキニアラス蓋シ公立ノモノニアリテハ國庫ノ補助ヲ受クルヲ得ヘシト雖トモ前述ノ如ク斯種學校ハ經費ヲ要スルコト多カラサルヲ常トスヘキカ故ニ其多數ハ必シモ國庫ノ補助ヲ受クルヲ要セサルヘシ特ニ政府ニ於テモ工業補習學校ノ如キ或ル特種ノモノ又ハ從來ヨリ已ニ補助セラレタルモノヲ除キ新ニ補助ヲ爲サ、ルノ方針ナルカ如クナルヲ以テ最初ヨリ國庫ノ補助ヲ仰ク目的トシ設置スルカ如キハ勉メテ之ヲ避クル様注意スヘキナリ

一、尙實業補習學校ノ本旨等ニ關シテハ明治三十五年一月文部省令第一號實業補習學校規程及同年三月青森縣訓示第七號ヲ參照スルヲ要ス
第二 設置ノ順序方法
一、實業補習學校ハ郡市町村、町村組合若ハ其區又ハ私人ニ於テ設置スルコトヲ得ヘシ
一、郡市町村等ニ於テ設置スルニハ左ノ條件ヲ具備スルニハ左ノ條件ヲ具備スルヲ要ス
一 區域内ノ義務教育ニ妨ナキ場合ナルコト
一 土地ノ狀況ニ要ナルコト
右所謂義務教育ニ妨ナキ場合トハ主トシテ經濟上ノ關係ヲ指稱セルモノニシテ義務教育ヲ地場シ斯種學校ヲ設置スヘキニ非ルヤ勿論ナリ

一、實業補習學校ノ設置ノ主體地方團體ナルトキハ要旨中ニ述ヘタル如ク其地方ノ小學校ニ附設シ小學校ニ於テハ或ハ季節ヲ撰ヒ又ハ夜學ヲ開始スルヲ以テ最モ便宜ノ方法トス

一、實業補習學校ノ設置セントスルトキハ明治三十五年三月本縣令第九號規定ノ手續ニヨリ知事ノ認可ヲ受クルヲ要ス

一、入學ニ關スル手續ハ勉メテ簡易ナルヲ尊ビ彼ノ入學願書、履歷書等面倒ナル手續ハ可成之ヲ避ケ口頭ヲ以テ入學ヲ申込ニ直ニ學籍簿ニ記入スルカ如キ簡便ノ法ヲ採ルヲ可トス又入學期ハ可成隨時許可スルコト、スル方可ナラン

一、實業補習學校ノ學期中ニ規定スヘキ事項凡ソ左ノ如シ但學期ハ可成簡單ニシテ概括的ナルヲ可トス

一、設置ノ目的

二、學校ノ名稱

三、位置

四、生徒定員

五、休業日

六、授業料ニ關スル件

七、教科目及其程度、教科目ノ教授時間及時數、修業期間及教授ノ季節等ニ關スル件

八、入退學及修業ニ關スル件

九、賞罰ニ關スル件

十、其他必要ノ件

一、實業補習學校ハ可成少額ノ費用ヲ以テ經濟的ニ經營スルヲ要スルコト前已ニ述フル所ノ如クナルニヨリ市町村立小學校ニ附設シタルトキハ凡ソ左ノ方法ニ依ルヲ可トス

一、校長ハ必ス兼務セシムルコト

二、教員ハ可成互ニ兼務セシムルコト

三、兩校ノ授業時刻ハ同時刻ヲ避ケ實業補習學校ノ授業ハ小學校授業ノ後トスルコト

四、兩校ノ器械、器具、標本及書籍等ハ互ニ兼用スルコト

五、兩校ノ經濟ハ各別ニスルコト

一、日曜其他ノ休業日若クハ或ル季節ノニ教授スル場合ニアリテモ一年

中實業補習學校ノ門標ヲ掲クルヲ妨ケス

一、實業補習學校ノ名稱ニハ必ス補習學校ノ文字ヲ附シ其費用負擔ノ區別ニ從ヒ郡立市町村立等ノ文字ヲ冠スルコトヲ要ス

一、教員ノ資格ハ何等限定セラル、所ナキモ相當ノ教授技能アルモノヲ任用スヘキハ勿論ナリ普通科ノ教員ハ小學校教員ニ兼務セシムル外實業科目ニ關シ特ニ實業教員ヲ要スル場合ニハ便宜ニ三校連合シテ之ヲ聘用スルモ善支ナシ

一、參考ノ爲メ左ニ實業補習學校學則案ヲ附ス

何立實業補習學校規則

第一章 總則

第一條 本校ハ明治三十五年一月文部省令第一號實業補習學校規則ニ基キ農業ニ從事シ又ハ從事セントスル者ニ農業ニ要スル智識技能ヲ授クルト同時ニ普通教育ノ補習ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二條 本校ハ何立實業補習學校ト稱ス

第三條 本校ハ何立何小學校ニ附設ス

第四條 生徒ハ定員凡何名トス

第五條 教授ノ季節ハ左ノ如シ

一、冬季農隙ノ時期凡十一月ヨリ翌年二月ニ至ル

第六條 教授時間ハ午後トシ其時數ハ一時間以上三時間以下トス

第七條 休業日ハ凡左ノ如シ但シ臨時休業ナナスコトアルヘシ

一、祝日、大祭日

二、業務繁忙ノ時日

第八條 授業料ハ之ヲ徵收セス

第二章 教科

第九條 本校ノ教科目ハ修身、國語、算術及農業ニ關スル學科目トス但修身ハ國語ニ附帶シテ教授ス

國語ハ生徒ノ志望ニ依リ讀書、作文、習字ニ算術ハ珠算筆算ニ分チ教授スルモノトス

修身、國語及算術ハ生徒ノ志望ニ依リ之ヲ課セサルモノトス

第十條 農業ニ關スル教科目ハ左ニ掲クル事項トス

但生徒ノ志望ニ依リ一事項乃至數事項ヲ課スルモノトス

土壤、肥料、作物、病蟲害、造林、家畜、

第十一條 前二條ニ掲クル教科目若クハ事項ノ修業期間毎週教授時數及教科程度ハ左表ノ如シ但シ授業ヲ開始スヘキ教科目(若クハ事項)ハ生徒ノ志望ト本校ノ都合トニ依リ之ヲ定メ修業期間教授時數及教科程度ハ生徒ノ職業、年齡、學力ノ異同ニ依リ變更スルコトアルヘシ

科目	修業期間	每週教授時數	程度	備考
修身	八箇月	一時	道德ノ要旨	國語ニ附帶シテ教授ス
國語	八箇月	三時	日常須知ノ文字及普通文ノ讀方綴方	
算術	八箇月	至三時	加減乘除ノ度量衡貨幣ノ計算、珠算、貸借(乘除)	
作物	八箇月	二時	種類、耕法、栽培方法	
土壤	四箇月	二時	種類、性質、成分、土地改良法	前冬季ニ教授ス
肥料	四箇月	一時乃至二時	成分、効用、施用方法	同
病蟲害	三箇月	一時乃至二時	種類、驅除法	後冬季ニ教授ス
造林	四箇月	二時	苗木仕立方、植付方、培養方	同
家畜	四箇月	二時	種類、効用及飼養方法	同

備考 表中八箇月若クハ八箇月以内トアルハ前合ニ冬季(二箇年)ニ互ルモノトス

第十三條 入學退學及修業

本校ニ入學スルコトヲ得ヘキモノハ年齡十二歲以上ニシテ尋常小學校ヲ卒業シタル者トス

第十四條 入學シテ欲スル者ハ志望ノ科目若クハ事項ヲ定メ本校ニ申出テ校長ノ許可ヲ受クヘシ

入學ノ許可ヲ得タルトキハ本人及保證人ハ本校ニ備付ケタル學籍簿ニ記名調印スヘシ

保證人ハ本校(市町)内ニ居住スル成年者ニシテ一戸ヲ擔フル者トス此資格消滅スルトキハ他ノ保證人ヲ立ツヘシ

第十四條 修業期間ノ中途ニシテ退學セント欲スル者ハ保證人ヨリ其旨願出ツヘシ

第十五條 各教科目(若クハ事項)ノ修了又ハ全教科ノ卒業ヲ認ムルニハ生徒學業ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ム

第十六條 前條ノ認定ニ依リ某教科目(若クハ事項)ヲ修了シタル者ニハ修了證書ヲ授與シ全教科ヲ卒業シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

修了證書

族籍 氏名

右ハ本校ニ於テ前記ノ科目(若クハ事項)ヲ修了セシコトヲ證ス

年 月 日 校長氏 名印

卒業證書

族籍 氏名

右ハ本校規定全教科ヲ卒業セシコトヲ證ス

年 月 日 校長氏 名印

第十七條 品行方正學業優等ノ生徒ニハ褒賞ヲ授與スルコトアルヘシ

第十八條 品行不良ニシテ成績ヲ見込ナキ者ハ退學ヲ命ス

第十九條 生徒心得其他ノ細則ハ別ニ之ヲ定ム

- 一、本規則ハ冬季農隙ノ時期ニ教授スルヲ目的トシ編成シタル學期案ナルカ故ニ教授ノ時期ヲ右等季節ニ限ラサル學校ニアリテハ第五條ノ除キ第十一條修業期間、教授時數等ヲ變更スヘシ
- 一、第九條ノ普通教科目ハ學校ニ依リ取捨スヘキモノトス
- 一、第十條農業ニ關スル科目ノ事項ハ或ハ之ヲ減シ或ハ更ニ農具、園藝、養蠶、丈量等ノ事項ヲ加ヘ又ハ修業期間、教授時數ヲ増減スル等總テ土地ノ狀況ニ依ルヘシ
- 一、入學ノ際願書ヲ提出セシメントスル時ハ之カ書式ヲ定メ第十三條ヲ變更スヘシ
- 一、右ノ外休業日、授業料、入學年費ニ關スル條項等適宜取捨折衷スルヲ要ス
- 一、商業、工業、水産補習學校ノ規則ハ總テ本學期案ニ準スヘシ

第三 教科編成及管理

- 一、實業補習學校ニ於テハ修業年限ヲ定ムルノ必要ナク各教科目毎ニ之カ修業期間ヲ定ムルヲ要ス是レ普通ノ學校ト大ニ趣キ異ニスル所ナリ而シテ各教科目ノ修業期間ハ土地ノ狀況ト教科目ノ種類トニ依リ或ハ數週數月ノ短期トシ或ハ數年ニ亘ルノ長期トスルコト其自由ニシテ生徒モ數年數期ニ亘リテ教授ヲ受クルコト亦其任意ナリ
- 一、教科目ハ修身、國語、算術ノ三科目(以上普通科目)及實業ニ關スル教科目ト爲セトモ國語、算術ハ之ヲ缺クコトヲ得ルカ故ニ其必須科目ト稱スヘキハ修身ト實業科目トノミナリ、且其修身モ國語ニ附帶シテ教授スルヲ得ヘク畢竟スルニ實業補習學校ノ眼目トスル所ハ專ラ實業科目ニアルヲ知ルヘシ最モ土地ノ狀況ニ依リテハ修身、國語、算術ノ外地理、歴史、唱歌等他ノ普通ノ科目ヲ加フルヲ得ヘキモ修身以下普通科目ハ總テ生徒ノ隨處科目ト爲スコトヲ得ヘク又普通科タルト實業科目タルトナハス之ヲ細分シテ數事項ト爲シ生徒各自ノ志望ニヨリ其中ノ一事項又ハ數事項ノミ教授スルコトヲ得ヘキカ故ニ學校ニ於テハ特ニ右隨意科目及志望事項ニ注意シ生徒各自ヲシテ自由ニ之ヲ撰ハシムルコトアルヲ要ス

一、右ノ結果トシテ某科目(若クハ事項)ハ生徒數十名之ヲ志望シ某科目ハ僅カニ數名志望スルニ過キサルコトアルヘシ是レ新學校ノ特質トスル所ニシテ毎時間ニ教科目ノ異ナルニ隨ヒ生徒ノ種類トカ出席數ニ異ナルヘキハ豫メ期スヘキ所トス

- 一、實業ニ關スル教科目(若クハ事項)ハ土地ノ狀況ニ應ジ擇取最モ其宜シキヲ得サルヘカラス又時宜ニ依リ一學校ニ農工商等實業ノ科目ヲ併置スルハ固ヨリ妨ケサル所トス
- 一、普通ノ教科目ハ修身ヲ除キ總テ之ヲ設クルモ總テ之ヲ缺クモ又ハ單ニ其ノ科ノミヲ設クルモ皆地方ノ便宜ナリト雖トモ普通教育ノ充分ナラサルモノニハ可成之ヲ課シ補習ノ目的ヲ達スルヲ可トス但シ其ノ所謂ル補習トハ單ニ小學教育ノ復習ヲ爲スニアラスシテ之ヲ繼續補充スルノ意ナルニヨリ小學程度以上ノ教科ヲ授クルヲ得ルヲ勿論ナリ
- 一、普通ノ學校ニ於テ休業日ト稱スルハ祝日、大祭日、日曜日、創立記念日、夏期及冬季ノ休業等ナルモ實業補習學校ニ於テハ是等ノ休業日ヲ利用シテ授業ヲナスノ必要アルノミナラス業務繁忙ノ季節等ハ可成休業ヲナシ業務ノ妨ケトナラサル程注意ヲ要ス
- 一、學級編成ハ村落ノ如キ生徒僅少ナルモノハ學級ノ外ナカルヘキモ生徒多數アリテ多數トナサントスルトキハ生徒ノ年齡若クハ職業ノ種類ニヨリテ區別スルヲ要ス又男女生徒ハ其女子ノ數一學級ヲ編成スルニ足ルトキハ之ヲ區別シテ教授スルヲ要ス
- 一、實業補習學校ノ教科書ハ公立實業補習學校ニ在リテハ學校長ニ於テ私立實業補習學校ニ在リテハ設立者ニ於テ地方長官ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムルモノトス
- 一、實業ニ關スル教科書ニ使用スルモノ甚々尠キ今日ハ口授筆記法ニ依ルハ止ムヲ得サレトモ筆記ハ勞力多クシテ甚々不便ナレハ生徒ニ點ノミヲ書キ取ラシメ又速寫版等ヲ以テ時時教授スヘキ要項ヲ印刷配付シ之ヲ數演說明スル等ノ方法ヲ用フルヲ要ス
- 一、實業補習學校ニ於テハ可成試驗ヲ行ハスシテ成績ヲ考査スヘシ實業ノ活用ヲ重ニスルカ爲メニハ試驗ノ如キ形式ニ附リ易キモノヲ避クルコトヲ要ス
- 一、右ノ外儀式ノコトハ可成之ヲ避ケ生徒ノ如キ前垂掛若クハ腹引ノマ、ニテ登校セシムルヲ可トス

●幼稚園、盲啞學校、其他小學校ニ類スル各種學校及私立小學校ノ設置廢止ニ關スル規定

明治三十三年九月三十日 縣令第七十七號

- 一、又生徒ハ主トシテ職業ノ餘暇就學スルモノナレハ教師ハ生徒心身ノ疲勞ニ注意シテ過度ノ教授ヲナサル、様注意ヲ要ス
- 一、夜間教授ノ場合ハ可成光力多キ燈火ヲ使用スヘシ
- 一、授業用器具器械類ハ可成質良スルノ準備ヲナスヲ要ス
- 一、生徒ノ缺席比較的多キハ免カレサルコトナレハ可成之ヲ防クヘキ様注意ヲ怠ルヘカラス又學校ニ登ルト稱シテ途中ニ止マリ出校セサル弊害ノ生シ易キモノナレハ家庭及主家トノ連絡ヲ計リ斯カル弊害ノ生セサル様注意ヲ要ス
- 一、實業補習學校ニ於テ土地ノ狀況ニ適應スル授業ヲナスニハ實業家トノ關係ヲ親密ナラシメサルヘカラス其方法ハ時時實業講習會、展覽會、幻燈會等ヲ催シ實業家ヲ招集シ或ハ家庭訪問ヲナシ或ハ教員自ラ實業團體ノ會員ニ加名スル等土地ノ狀況ニ依リ其宜シキヲ得ルヲ要ス

- 一、幼稚園、盲啞學校、其他小學校ニ類スル各種學校及私立小學校ノ設置廢止等ニ關スル規定別紙ノ通相定ム
- 但シ明治二十五年五月青森縣令第三十四號ハ之ヲ廢止ス
- 幼稚園、盲啞學校、其他小學校ニ類スル各種學校及私立小學校ノ設置廢止等ニ關スル規定
- 第一條 幼稚園設置ノ認可ヲ受ケントスルモノハ左ノ事項ヲ具シ稟請スヘシ
 - 一 設置ノ目的
 - 二 位置
 - 三 名稱
 - 四 保育規程
 - 五 入園、退園規則
 - 六 日日開園時限及休業日
 - 七 幼兒定員及保母員數
- 第二條 幼稚園、盲啞學校、其他小學校ニ類スル各種學校及私立小學校ノ設置廢止ニ關スル規定
 - 一 設立者ノ履歷書(私立ニ限ル)
 - 二 敷地、建物ノ坪數、圖面及構造法
 - 三 私立小學校設置ノ認可ヲ受ケントスルモノハ左ノ事項ヲ具シ稟請スヘシ
 - 一 設置ノ目的
 - 二 位置
 - 三 名稱
 - 四 教則及教科用圖書、器具、器械
 - 五 入學退學規則、寄宿舍規則、生徒心得、生徒規則等
 - 六 學年ノ始終及休業日
 - 七 生徒定員數及員數
 - 八 授業料金額及其ノ收入法
 - 九 經費收入、支出豫算(私立ニ限ル)
 - 十 設立者ノ履歷書(私立ニ限ル)
 - 十一 敷地、建物ノ坪數、圖面及構造法
- 第三條 私立小學校設置ノ認可ヲ受ケントスルモノハ左ノ事項ヲ具シ稟請スヘシ
 - 一 設置ノ目的
 - 二 位置
 - 三 名稱
 - 四 修業年限、學級編成、加除スヘキ各教科目及隨意科目トナスヘキ教科目
 - 五 補習科ヲ設クルトキハ其ノ修業年限、教授日、教授時間及每週數授時數等
 - 六 入學退學規則及校內細則等
 - 七 學級數、生徒定員及教員員數
 - 八 授業料金額及其ノ收入法
 - 九 經費及維持方法
 - 十 設立者ノ履歷書
 - 十一 校地、校舍ノ坪數、圖面構及造法

十二 圖書、器具、器械等ノ目數

第四條 幼稚園、盲啞學校、小學校ニ類スル各種學校及私立小學校設置ノ後第一條第二條ノ第一號乃至第四號第三條ノ第一號乃至第四號ヲ變更セントスルトキハ知事ノ認可ヲ受クヘク其他ノ變更ハ之ヲ知事ニ開申スヘシ

第五條 市町村立幼稚園長、保母、盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ノ學校長及教員ヲ任用セントスル時ハ職名及俸給額ヲ具シ本人ノ履歷書ヲ添ヘ管理者ヨリ之ヲ知事ニ申請スヘシ

第六條 私立幼稚園、盲啞學校、小學校ニ類スル各種學校及私立小學校ノ設立者ニ於テ之ヲ他人ニ繼續セシメントスルトキハ其ノ理由ヲ具シ繼續者ノ履歷書ヲ添ヘ双方連署ノ上知事ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 私立幼稚園、盲啞學校、小學校ニ類スル各種學校及私立小學校ノ設立者死亡シ其ノ遺産相續人若ハ其ノ他ノ者之ヲ繼續セントスルトキハ三十日以内ニ其履歷書ヲ添ヘ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ私立幼稚園、盲啞學校、小學校ニ類スル各種學校及私立小學校ノ設立者タルコトヲ得ス

一 重罪ヲ犯シタルモノ但シ國事犯ニシテ復讐シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタルモノ

三 破産者ハ家資分數ノ宣告ヲ受ケ復讐セサルモノ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ清償ヲ終ヘサルモノ

四 懲戒ニ依リ免職ニ處セラレ二箇年ヲ經過セサル者

五 教員免許狀取消ノ處分ヲ受ケ二箇年ヲ經過セサルモノ

六 性行不良ト認ムヘキモノ

第九條 本規定ニ依リ當處ニ差出スヘキモノハ町村立ニ就キテハ監督官廳ヲ經由シ私立ニ就キテハ町村長及郡長ヲ經由シ市ニ於テハ市長ヲ經由スヘシ

校地ノ周圍ニハ成ルヘク樹木ヲ植付ケ且掃掃等ヲ設クヘシ

第四條 校舍ノ建築ハ授業上、管理上、衛生上ノ便ヲ圖リ質料堅牢ナラシムコトヲ要ス

校舎ハ平屋造トナスヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ二階造ト爲スコトヲ得

第五條 校舎ニハ各學級ニ應ズル通常教室並ニ教員室ヲ設クヘシ

前項ノ外唱歌、裁縫等ヲ課スル學校ニ於テハ便宜特別教室ヲ設ケ又必要ナル場合ニ於テハ講堂、兒童廁所、宿直室、淋吞所、手洗所、小使室、貯置等ヲ設クヘシ

第六條 教室ノ構造ハ左ノ各項ニ準據スヘシ

多級小學校ノ教室ハ幅三間以上四間以下長四間以上五間以下單級小學校ノ教室ハ幅及長各四間以上五間以下ヲ常例トシ其ノ大ハ兒童一人ニ付三尺平方ノ割合ヨリ小ナルコトヲ得ス

天井ハ狀面ヲ距ルコト九尺以上トナスヘシ

狀ノ高ハ二尺以上トシ狀下ノ四方ニ風抜ヲ設クヘシ

採光窓ノ總面積ハ狀面積ノ六分ノ一以上トシ其ノ下縁ノ位置ハ狀上凡二尺ト寸ニ定メ其ノ上縁ハ狀上八尺五寸以上ニシテ成ルヘク天井ニ接近セシムヘシ

但採光窓ノ上部ハ欄間ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

窓ハ特ニ完全ナル構造ヲ爲シ得ル場合ニ限り上下窓トシ其ノ他ハ引窓トスヘシ

明治三十三年九月三十日 縣令第七十二號

小學校設備ニ關スル規則別紙ノ通相定ム

但シ明治三十二年十二月青森縣令第八十三號ハ之ヲ廢止ス

(別紙)

小學校設備ニ關スル規則

第一條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ開闢乾燥ニシテ衛生ニ適シ且兒童ノ通學ニ便利ナル場所ヲ選ブヘシ

校地ハ道徳上禁忌スヘキ場所、喧鬧ニシテ教授ニ妨アル場所及危險ナル場所ニ接近セサルコトヲ要ス

第二條 耕機場ハ分テ屋外體操場及屋內體操場トス

屋外體操場ハ方形若ハ之ニ類スル形狀ニシテ其面積ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一 尋常小學校ニ於テハ兒童百人未滿ハ百坪以上トシ兒童百人以上ハ一人ニ付一坪以上ノ割合トス

二 高等小學校ニ於テハ兒童百人未滿ハ百五十坪以上トシ兒童百人以上ハ一人ニ付一坪中以上ノ割合トス

三 尋常高等小學校ニ於テハ兒童百人未滿ハ百五十坪以上トシ兒童百人以上ハ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル兒童一人ニ付一坪以上トシ高等小學校ノ教科ヲ修ムル兒童一人ニ付一坪半以上トシ割合トス但シ兒童百人以上ニシテ高等小學校ノ教科ヲ修ムル兒童百人未滿ナルトキハ百五十坪ノ外全校兒童中百人ヲ超ユル兒童一人ニ付一坪以上ノ割合ヲ以テ増スモノトス

屋內體操場ハ長方形若ハ之ニ類スル形狀ニシテ其ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一 成ルヘク別棟トナシ天井ヲ設クヘカラス

二 窓ノ構造及其ノ面積ノ割合ノ教室ニ準スヘシ

三 窓ノ下縁ノ位置ハ床以上三尺ニ定メ又狀面ニ接シ適宜空氣ヲ設クヘシ

第三條 校地内ニハ善良ナル飲料水ヲ供給スルノ備ヲナシ又下水渠ヲ設クヘシ

階段ハ幅四尺五寸以上上縁上ケ五寸乃至六寸踏面八寸乃至一尺トシ成ルヘク折曲構造ト爲シ中間ニ踊場ヲ設ケ且手摺ヲ附スヘシ

第八條 昇降口ハ成ルヘク男女ヲ區別シ常風ノ方向ヲ避クヘシ

第九條 便所ハ別棟トシ夏季常風ノ方向ニ注意シ其周圍ニハ糞桶ヲ設ケ又ハ樹木ヲ植工井ヲ距ルコト四間以上ノ位置ニ之ヲ設クヘシ

糞桶、尿桶、注水等ハ不透過物ヲ以テ之ヲ造ルヘシ

便所ハ男女ヲ區別シ男兒百人ニ付大便所二以上小便所四以上(糞桶ナキトキハ一人ニ付二尺ノ割合トス)女兒百人ニ付大便所(小便所ヲ兼ス)五以上ノ割合ヲ以テ之ヲ設クヘシ

第十條 尋常小學校ニ於テハ教科用圖書、辭書、青森縣地圖、日本地圖、指差器、度量衡器、庶物示教用具、遊戲用具、兒童用及教防用具、標本、理化器械、圖書手本、人體生理圖、圖書用具、樂器、體操器械、裁縫用具、中學校、高等女學校及實業學校ニ關スル法令等ヲ備フヘシ

前項ノ外尋常小學校ニ於テ圖書、唱歌、手工、裁縫ヲ加ヘ算術ニ於テ珠算ヲ併セ課スルトキ及高等小學校ニ於テ手工、農業、商業、英語ヲ加ヘ算術ニ於テ珠算ヲ併セ課スルトキハ各其教授上必要ナル用具ヲ備フヘシ

高等小學校ニ於テ理科、唱歌ヲ缺クトキハ各其ノ教授用具ノ設備ヲ省クコトヲ得

第十一條 兒童用机及膳掛ノ寸法ハ別表ノ標準ニ依リ兒童ノ身長ニ適應セシメントナラシム

第十二條 小學校ニ於テハ左ノ諸表備フヘシ

一 兒童學籍簿

一 兒童出席簿

一 職日出勤簿

一 月末及學年末調査表(明治三十五年縣令第三十九號ヲ以テ改正)

一 學校沿革誌

●小學校設備規則ニ依リ校舍新築等及校地選定認可稟請方

明治三十三年九月三十日 達 第六十二號 郡役所、市役所、町村役場

明治三十三年青森縣令第七十二號小學校設備ニ關スル規則第十四條ニ依リ校舍ノ新築、増築、改築若ハ校地ノ選定及變更ニ關シ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ稟請スヘシ

市町村立小學校教員住宅費補助規程 明治四十一年六月二十六日 縣令第四十八號

- 四 飲料水供給ノ方法
五 學齡兒童男女別人員及現在學級ニ對スル生徒ノ學年男女別人員
六 將來增加スヘキ生徒ノ男女別員數及學級編制ノ見込數
七 夏季、冬季間常風ノ方向
八 建築費ノ總額

●校舍校具及體操場ノ使用公開ニ關スル要項

明治三十七年一月二十一日 訓示 第二號 郡役所、縣立學校、市役所、郡立學校、市立學校、町村役場、町村立學校

當該學校ニ關スル卒業生及在學生ノ同窓會
市町村會及教育事務ニ關スル集會
市町村民ノ公ニ關スル集會
其他團ノ體集會ニシテ教育上關係ヲ來スノ虞ナキモノ

●小學校男女兒區別教育方

明治三十年十二月二十三日 訓示 第二十三號 郡役所、市役所、市町村立小學校

方今小學教育ノ普及改善ヲ企圖スルノ際小學校ニ於テ男兒ト女兒トハ務メテ學級ヲ分チ教養ヲ異ニスルニ止マラス尙便宜學校ヲ別ニシ各其性質習慣ト生活ノ必要トニ應ジ最モ適切ナル方法ヲ以テ之ヲ教育センコトヲ要ス此ノ如キハ童ニ男兒教育ノ實相ヲ益發揮スルニ必要ナルモノナラス又ハ兒教育ヲ益女兒ニ適切ナラシムルニ依リ自ラ女兒就學ノ數ヲ増スコトヲ得ン故ニ小學校ノ施設ニ關シテハ左ノ要項ニ依リ計畫スル所アルヘシ

市町村又ハ町村學校組合ノ區長及其代理者區ニ屬スル國ノ教育補助執行方

市町村又ハ町村學校組合ノ區長及其代理者ハ市長村長又ハ町村學校組合長ノ指揮命令ヲ受ケ區ニ屬スル國ノ教育事務ヲ補助執行スヘシ
但明治二十五年一月青森縣令第二號ハ之ヲ廢止ス

火災豫防ニ關スル件

明治三十八年六月十三日 訓令 甲 第九號 公立小學校

近時本縣ニ於テ火災頻ニ發生シ其ノ慘害ニ罹ルモノ多キハ洵ニ痛心ニ堪ヘサル所ナリ而シテ其ノ原因タル火元ヲ粗考ニシ或ハ小兒ノマツツ若ハ燃料ヲ弄スルヨリ起ルモノ多キカ如シ此ノ如キハ畢竟家庭ニ於テ平素ノ警戒嚴重ナラサルニ因リモノナレハ深ク戒慎ヲ加ヘ注意周到ナルニ於テハ之ヲ未發ニ防キ得ヘキハ敢テ難キニアラサルナリ
今十時局ノ進歩ニ伴ヒ軍人ノ家族及遺族ハ老幼婦女ノミ家ヲ守ルモノ漸ク多數ニ上レルヨリ火災ノ慘害ハ一層増大スル虞ナキ能ハス加之市街地ニ在リテハ軍隊ノ宿泊スルモノ夥シカ爲メ一朝災禍ニ遇フトキハ延テ軍

隊ノ行動ニ障害ヲ來シ或ハ軍人ヲシテ不安ノ念ヲ起サシムル等其ノ影響スル所極メテ多シトス且農家ニ於テハ野外耕作ノ多忙ナルヨリ小兒ヲシテ留守セシムル火元ヲ起シ附スルモノ往往之レアリ危險ノ恐シトセ故ニ小學校長教員ハ學校及自家ニ於ケル火元ノ取締ニ一層注意ヲ加フルト共ニ兒童ニ對シテハ火災ノ恐ルヘキコト及其ノ何レノ場所タルヲ論セズ苟モマツツ若ハ燃料等ヲ弄フヘカラサルコトヲ厚ク訓戒シ以テ不慮ノ災禍ヲ發生セシメサルコトヲ努ムヘシ

火災豫防ニ關スル件

明治四十年二月二十三日 訓令 甲 第六號 市役所、警察署、警察分署、公立學校

火災ノ豫防ニカメ厚ク火ノ元ニ注意ヲ加フヘキコトハ本月十七日第二號ヲ以テ一般ニ諭告セシ所ナルカ郡市役所町村役場ニ於テハ警察官署ト協同テ巡檢便宜トスル方法ニ依リ普ク毎戸ヲシテ該處若ク格守進行シ取テ或ハ懈ルコトナカラシムルニ力ヲ盡シ學校ニ於テハ生徒兒童ニ對シテ火ノ甚々恐ルヘクシテ燒守洋燈火鉢等ノ取扱ハ慎ミ火ヲ弄ヒ遊戯スルカ如キハ嚴ニ之ヲ禁止セサル可ラサル所以ヲ懇篤ニ説示訓諭シ以テ家庭ノ警戒ニ援助ヲ與フルコトヲ勉ムヘシ
近時官署學校ニ於テ火ヲ失スルモノ頻頻續出スルハ更ニ苦心ニ堪ヘサル所ニシテ其ノ損害タル獨リ建物器具ノ類ニ止マラス或ハ重要ノ文書ヲ燒失シ官民多ク不利不便ヲ來スアリ或ハ不幸ナル死者出シテ人生ノ悲慘ヲ極ムルアリ殊ニ
御眞影勅語原本奉護ノ遺ヲ盡スコトヲ得ザリシモノアルニ至リテハ定ニ恐懼措ク能ハサル所ナリトス左レハ各其ノ直接管理スル官衙公署學校ハ勿論社寺病院會堂等公共ニ屬スルモノニ對シテハ特ニ注意ヲ用ヒ周知總密ナル方法ニ依リ宿直員若ハ保管者等ヲシテ日常注意リナク警戒ニ從事セシメ兼庶下相待テ災害ヲ未發ニ防キ一般ノ福利ヲ保全スルコトヲ企圖スヘシ

火災豫防ニ關スル件

明治四十三年三月十八日 訓令 甲 第七號 公立小學校

第四款 教科編制

中學校教授要目配付教授細目調製方

明治三十五年三月二十三日 訓令 第五號 青森縣立第一中學校、同第二中學校、同第三中學校
今般文部省ニ於テ中學校教授要目ヲ別冊ノ通リ編纂訓令セラル依テ之ヲ斟酌シ適當ナル教授要目ヲ定メ以テ各學科教授ノ効果ヲ完カラシメンコトヲ力ムヘシ
但シ別冊中學校教授要目ハ別ニ之ヲ配付ス(別冊省略)

高等女學校教授要目配付

明治三十六年三月三十一日 訓令 第七號 青森縣立第一高等女學校、青森縣立第二高等女學校
今般文部省ニ於テ高等女學校教授要目ヲ別冊ノ通リ編纂訓令セラル依テ之ヲ斟酌シ適當ナル教授要目ヲ定メ以テ各學科教授ノ効果ヲ完カラシメンコトヲ力ムヘシ
但シ別冊高等女學校教授要目ハ別ニ之ヲ配付ス(別冊省略)

小學校ノ學期毎日ノ教授終始ノ時刻及休業日

明治三十三年十二月二十一日 訓令 第九十二號
小學校ノ學期、毎日ノ教授終始ノ時刻及休業日左ノ通相定メ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス
但シ明治二十五年四月青森縣令第二十八號ハ明治三十四年三月三十一日限り之ヲ廢止ス
小學校ノ學期、毎日ノ教授終始ノ時刻及休業日
第一條 小學校ノ學期ハ左ノ如シ

高等小學校實業施設ニ關スル件

明治四十四年一月三十一日 訓令 甲 第四號 郡役所、市役所、町村役場、公立小學校

近來高等小學校ニ於テ概テ農業又ハ商業ノ教科目ヲ加設スルニ至レルハ殊常小學校卒業者ニ對シ更ニ普通教育ヲ施シ品性ヲ陶冶シ常識ヲ進ムルト共ニ其ノ將來ノ生活ニ緊切ナル素養ヲ與フルニ於テ最モ適當ノ施設ナリトス然レトモ農業科加設ノ學校ニシテ往々實習ノ設備ヲ缺クモノアルハ頗ル遺憾トスル所ナリ抑農業科ニ於テハ兒童ヲシテ其ノ學ヲ所ナ實地ニ應用セシムルニ非サレハ農業ノ趣味ヲ領得セシメ勤勞ヲ尊重スルノ習性ヲ養ハシムルニ足ラサルヲ以テ自今力メテ實習地ヲ設置教員自ラ兒童ヲ率キテ耕耘ニ從事シ以テ本教科目加設ノ趣旨ヲ貫徹センコトヲ期スヘシ但シ實習地ハ必スシモ學校ノ附屬地タルヲ須ヒス適當ナル土地ヲ借入レ之ニ充ルモ亦可ナリ若シ己ニ得サル場合ニ在リテハ兒童ヲシテ各自父兄ノ農作地ニ於テ實習シ爲サシムル等便宜ノ方法ニ據ルコトヲ妨ケス要ハ町村ノ經濟ト地方ノ事情トヲ斟酌シテ相當ノ施設ヲ爲スト共ニ商業道德ノ涵養ニ努メ以テ本教科目ノ成績ヲ擧ケンコトヲ期スヘシ

第一學期 自四月三十一日 至八月三十一日
 第二學期 自九月三十一日 至十二月三十一日
 第三學期 自一月三十一日 至三月三十一日

第二條 小學校ニ依リ學校長ニ於テ一時間以內終始ノ時限ヲ繰リ上ケ若ハ繰リ下クルコトナラズ

自四月一日 午前八時ヨリ午後二時ニ至ル
 自十一月三十一日 午前九時ヨリ午後三時ニ至ル
 自十二月三十一日 午前九時ヨリ午後三時ニ至ル

第三條 小學校ノ休業日ハ左ノ如シ
 但夏季ノ冬季ノ休業日ハ土地ノ状況ニ依リ管理者ニ於テ監督官廳ノ許可ヲ受ケ之ヲ適宜ノ季節ニ交換スルコトナラズ

一 祝日、大祭日
 二 日曜日
 三 夏季休業日 自八月三十一日 至八月三十一日
 四 冬季休業日 自十二月二十五日 至翌年一月十五日
 五 學年末休業日 自三月二十五日 至三月三十一日
 六 鎮守祭日

●小學校教授細目及教案調製ノ要項

明治三十三年十二月二十一日 訓示 第十九號
 郡役所、市役所、町役場、市町村立小學校、私立小學校

小學校ニ於テ教授細目及教案ハ教授上ニ必要ナル程度ニ於テ之ヲ調製スルベシ
 調製スルハ必要ニ應ジ備考欄ヲ設ケ教授上ニ注意スヘキ事項、準備スヘキ教具又ハ教授ノ結果等ヲ記入スヘシ

一、細目ハ各學年各教科目ヲ區別シテ之ヲ調製スヘシ

●小學校體操課程標準

明治三十四年四月二十六日 訓示 第十號
 郡役所、市役所、師範學校、町村役場、市町村立小學校、私立小學校

小學校令施行規則第十條第十七條及第十八條ニ依リ小學校ニ於テ兒童ニ授クヘキ體操ノ課程ハ別表ニ準據スヘシ

科	年	時數	遊	普通體操	兵式體操
高等科	第一學年	六回以上	每回三十分	各體操	兵式體操
高等科	第二學年	六回以上	每回三十分	各體操	兵式體操
高等科	第三學年	六回以上	每回三十分	各體操	兵式體操
高等科	第四學年	六回以上	每回三十分	各體操	兵式體操
高等科	第一學年	六回以上	每回三十分	各體操	兵式體操
高等科	第二學年	六回以上	每回三十分	各體操	兵式體操
高等科	第三學年	六回以上	每回三十分	各體操	兵式體操
高等科	第四學年	六回以上	每回三十分	各體操	兵式體操
同	第一學年	每回十分	每回十分	復習、球等初步	各體操
同	第二學年	每回十分	每回十分	復習、球等初步	各體操
同	第三學年	每回十分	每回十分	復習、球等初步	各體操
同	第四學年	每回十分	每回十分	復習、球等初步	各體操
女	第一學年	每回十分	每回十分	復習、球等初步	各體操
女	第二學年	每回十分	每回十分	復習、球等初步	各體操
女	第三學年	每回十分	每回十分	復習、球等初步	各體操
女	第四學年	每回十分	每回十分	復習、球等初步	各體操

●尋常小學校特別教授ニ關スル規定

明治三十四年十一月一日 訓示 第十八號
 郡役所、市役所、町村役場、市町村立小學校、私立小學校

尋常小學校特別教授ニ關スル規定左ノ通相定候條年長兒童ニシテ規定ノ數則ニ據リ難キ事情アル場合ハ自今右規定ニ據リ便宜教育ヲ施スヘシ

尋常小學校特別教授ニ關スル規定

第一條 市町村立尋常小學校ニ於テハ十歳前後ニシテ就學シタル兒童ノ爲メ特別ノ學級ヲ設クルコトナラズ

第二條 前條兒童ノ數一學級ヲ編制スルニ足ラサル時ハ他ノ兒童ニ合セテ學級ヲ編制シ特別教授ヲナスコトナラズ

第三條 特別教授ヲナスヘキ兒童ハ其年齡及學力等ヲ考査シ適切ノ教授ヲ爲スヘシ

第四條 特別教授ニ於テハ別ニ教授細目ヲ作り各教科目トモ口授又ハ講義等ニ依リ兒童ニ教科書ヲ持タシメサルコトナラズ

第五條 特別學級ニハ平日學校ニ關スル規定ヲ準用スルコトナラズ

第六條 特別教授ノ時間ハ必スシテ正學科ノ時間内ニ於テナスルヲ要セス

第七條 特別教授ノ時間外若ハ休日ニ於テスルモ妨ナシ

第八條 特別教授ヲ施ス兒童ハ其成績ヲ考査シテ隨時其學年ニ編入シ若ハ卒業ヲ認定スルコトナラズ

第九條 尋常小學校ニ於テ特別教授ヲ爲ス時ハ其ノ編制ヲ選擇ナク管理者ヨリ詳確ニ報告スヘシ

一、細目ニハ一週間毎ニ各教科ヲ配當スヘシ
 一、細目ニハ適宜ノ復習ノ項目及時間ヲ配當スヘシ
 一、細目ニハ適宜ノ記入スヘキ欄ヲ設ケ課定ト對照シテ其ノ適否ヲ明瞭ナラシムヘシ

一、二學年以上ヨリ成レル學級ニ於ケル細目ハ學科目ノ性質ニ依リ便宜共通教授ヲ及シ得ヘキヤウ調製スヘシ

一、細目ニハ教科選擇ノ趣旨并ニ教材取扱上ノ注意ヲ記載シ置クヘシ

尋常第一學年算術科教授細目

週	時數	課定	細目	時數	進度	備考
第一	五	方	一乃至三ノ實物數	四	課定通り	火曜日より始業セルナリテ一時間ナク
第二	五	方	四乃至五ノ實物數	五	同	
第三	五	方	六乃至七ノ實物數	五	同	
第四	五	方	八乃至九ノ實物數	五	同	
第五	五	方	十乃至十一ノ實物數	五	同	

教案ハ左ノ要項ニ準シテ之ヲ調製スヘシ

一、教案ハ教授細目ニ基キ每週若ハ適宜期間ヲ定メ之ヲ調製スヘシ

一、算術科ニ在テハ修身、國語、算術、高等科ニ在テハ修身、國語、算術、日本歴史、地理、理科ハ必ス教案ヲ要シ其ノ他ノ教科目ハ之レヲ略スルコトナラズ

一、教案ハ左ノ雛形ニ依リテ記載スヘシ

尋常高等算術學年何科教案 受持氏 名

第何週(自何月何日) 至何月何日

方法

一 準備 (目的ノ指示、復習、問答等)

二 教授 (實物繪畫ノ提出、説明講義問答等ノ要點、比較總結ノ要領)

三 應用 (應用ノ事項、練習ノ方法)

一、二學年以上ヨリ成レル學級ニ於ケル教案ハ各學年教授ノ關係ナラズ

●小學校學級編制又ハ變更届出方

明治三十三年十二月二十一日 達 第七十八號 郡役所、市役所、町村役場 市町村立小學校、私立小學校 小學校ノ學級ヲ編制シ又ハ變更シタルトキハ別紙書式ニ依リテ之ヲ届出ツ

但本達ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス 明治三十年一月青森縣達第八號ハ明治三十四年三月三十一日限り之ヲ廢止ス (別紙) (届書式) 何小學校學級編制(變更)届 何月何日ヨリ何小學校學級別表ノ通編制(變更)ニ付小學校令施行規則第四十一條ニ依リ此段及御届候也 年 月 日 青森縣知事氏名宛 管理者(設立者) 氏 名印

第一號表 何小學校學級編制ニ關スル表

Table with columns for '等科' (Elementary School), '學級' (Grade), '年' (Year), '男女別人員' (Male/Female Personnel), '本科教員定員數' (Regular Teacher Fixed Personnel Count), '専科教員數' (Specialized Teacher Count). It includes sub-sections for '尋常' (Ordinary) and '高等' (Higher) education levels.

第二號表 何小學校學級編制ニ關スル表

Table with columns for '等科' (Elementary School), '學級' (Grade), '年' (Year), '男女別人員' (Male/Female Personnel), '本科正教員定員數' (Regular Teacher Fixed Personnel Count), '専科教員數' (Specialized Teacher Count). It includes sub-sections for '尋常' (Ordinary) and '高等' (Higher) education levels.

●尋常小學校ニ於テ高等小學校程度ニ類セル補習科ニ關スル心得

尋常小學校ニ於テ補習科ヲ設クルハ通常教授時間内ニ於テハ學習スルコト能ハサル兒童ヲシテ既修ノ學科ヲ補習充テシムルニ在リ故ニ補習科ヲ設置スルニハ其ノ教授時間ハ或ハ夜間ニ於テシ或ハ日曜日ニ於テシ或ハ季節ヲ選ビテ教授シ既設ノ教室ヲ利用シ正科ヲ擔任スル教員ヲシテ之ヲ兼擔セシムル等土地ノ情況ヲ斟酌シ専ラ便宜ヲ旨トシ之ニ要スル費用ノ如キモ成ルヘク少額ヲ以テ支辨スルヲ得ヘキノ方法ニ依リ而モ小學校ヲ卒業シテ後直ニ職業ニ從事スル者ヲシテ其ノ學修セル所ヲ一層實用ニ適應スルニ足ルノ練習補充ヲ爲サシムルヲ旨トスルコト最モ必要トスル所ナレハ將來益々意ヲ用ヒテ其ノ本旨ヲ失ハサランコトヲ務ムヘシ 然ルニ從來本縣下ニ於テ設ケタル所ノ補習科ハ多クハ通常教授時間内ニ之ヲ設ケ之力爲メ別ニ教室ヲ要シ教員ヲ置クニ至リ其ノ實給ト高等小學校ノ教科目ヲ置クニ異ナラスシテ補習科ノ本旨ニ稱ハサルノ嫌ナキニアラズ此ノ如キ補習科ハ寧ロ之ヲ高等科ニ更ムルニ如カサルナリ抑高等小學校ニ於テハ從來其ノ修業年限ニ長短アルニ拘ラス同一ノ教科ヲ授クルノ制ナリシヲ改正シ小學校令ニ於テハ尋常小學校修業年限ノ延長ハ所ナリト今日ニ實行シ難キモ將來ノ爲ニ其ノ準備ヲ爲スハ當ニ務ムヘキ所ナリトノ趣旨ヲ以テ高等小學校修業年限ニ長短ニ應ジテ其ノ教科目ヲ斟酌スルコトヲ許シ修業年限二年ノ高等小學校ノ教科目ヲシテ成ルヘク尋常小學校ノ教科目ト相稱シシメ以テ尋常小學校ニ修業年限二年ノ高等小學校ヲ併置スルノ便ヲ圖ラレタルヲ以テ從來補習科ノ名義ヲ以テ高等小學校ニ類似セル教科ヲ置キタル場處ニ於テハ其ノ市町村ノ實力ニ依リテ高等小學校ニ於テハ成ルヘク之ヲ二年程度ノ高等小學校ノ編制ニ改メ之ヲ尋常小學校ニ併置スルノ方法ヲ講シ以テ普通教育進歩ノ趨勢ニ應ジ兒童教育ヲ完カラシムルノ計畫ヲナスヘシ

●小學校學業成績考査方法標準

明治三十三年十二月二十一日 訓示 第十一十八號

小學校令施行規則第二十三條規定ノ通り小學校ニ於テ各學年ノ課程ノ修了若ハ全教科ノ卒業ヲ認ムルニハ從來ノ如ク別ニ試驗ヲ用フルコトナク兒童ノ學業ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ムルコト、ナレバ是レ心身ノ發育未タ十分ナラサル兒童ヲシテ體中心ニ驅ラレ試験前一時ニ過度ノ勉強ヲ爲シ是カ爲ニ往々其ノ心身ノ發育ヲ害スルノミナラス試験ノ爲ニ勉強スルノ陋習ヲ馴致スルヲ避ケンカ爲ナリ就テハ此際各小學校ニ於テハ左ニ定ムル標準ニ依リ課メ其ノ方法ヲ一定シ以テ兒童ノ成績考査ニ試験ヲ用ヒサルノ旨趣ニ副ハンコトヲ期スヘシ 學業成績考査方法標準 第一條 小學校ニ於テ兒童ノ學業成績ヲ考査スルニハ平常調査及學期末調査ニ依ル 第二條 平常調査ハ各教科目ノ成績ヲ其ノ教授時間内ニ於テ隨時毎月一回考査スルモノトス但シ七月、八月、十二月、三月ハ本文ノ考査ヲ行ハス 第三條 學期末調査ハ第一學期ハ七月、八月ニ於テ第二學期ハ十二月ニ於テ第三學期ハ三月ニ於テ平常調査ノ例ニ依リ其ノ學期間隔修シシ學業ニ就キテ考査スルモノトス 第四條 學業成績ハ點數ヲ以テ調査シ評語ヲ以テ評定ス其ノ標準左ノ如シ 十點、九點 甲 八點、七點 乙 六點、五點 丙 四點以下 丁 第五條 成績調査ノ結果ハ兒童ニ示サ、ルモノトス評語ヲ以テスルハ此ノ限ニアラス 第六條 學期成績ハ平常調査ノ成績平均ニ學期末調査ノ成績ヲ加ヘ平均シタルモノヲ以テ之ヲ定ム 第七條 學年成績ハ各學期成績ヲ合セ平均シタルモノヲ以テ之ヲ定ム 第八條 缺席若ハ中途入學ノ爲メ考査ヲ行ハサル兒童ノ成績ハ教員ノ見込ヲ以テ之ヲ定メ若ハ其ノ回数ヲ省キ平均スルモノトス 第九條 各教科目ノ成績四點以上及全教科目ノ平均成績五點以上ヲ得タルモノヲ各學年ノ課程ノ修了若ハ全教科ノ卒業ヲ認ムル標準トス

●小學校生徒ノ文章ニ關スル注意方

明治十七年四月一日
師範學校、小學校、學務委員
小學生徒ニシテ人物ノ評論又ハ花月遊戯ノ文章ヲ作ルノ弊往往有之哉ニ...

●女子就學勸誘及裁縫科加設方

明治二十六年七月二十九日
女子就學ノ儀ニ關シ別紙ノ通り文部大臣ヨリ訓令セラレタルニ付其趣旨...

北海通商 府縣

普通教育ノ必要ハ男女ニ於テ差別アルコトナク且女子ノ教育ハ將來家庭...

●實業補習學校ノ教授其他ニ關スル注意

明治二十六年七月二十一日
文部大臣 井上 毅
訓令 第三十五年三月二十八日

シ或ハ之ヲ數年ニ亘ルノ長期トスルコト固ヨリ其ノ任意ナリ又同一學校...

普通ノ教科日中讀書、習字、算術ハ從來之ヲ必須科目ト爲シタリト雖モ...

實業ニ關スル科目ハ土地ノ情況ニ應ジ選擇最モ其ノ宜シキヲ得サルヘカ...

實業教育費國庫補助法及實業學校令ノ施行セラレシヨリ以來各種實...

實業補習學校ニ於テハ其性質上多數ノ時間ヲ一定シテ教授ヲ爲サンコト...

附設スル場合ニテハ當該學校教授時間ノ前後又ハ休業日等ニ於テ其...

附設、鑛金、陶器、製糖、印刷、製本、繅絲、製紙、製革、製糖、陸海...

●小學校ニ於テ授與スル卒業證書修業證書及學習證書ノ書式

明治四十二年二月十九日
訓令 甲 第十號
市町村立小學校、私立小學校

文部省著作

一	尋常小學修身書	教師用卷三卷四	二	冊
一	尋常小學修身書	兒童用卷三卷四	二	冊
一	高等小學讀本	卷一卷二	二	冊
一	尋常小學日本歷史	教師用卷一下	一	冊
一	尋常小學日本歷史	兒童用卷二	一	冊
一	高等小學日本歷史	卷二	一	冊
一	尋常小學地理	兒童用卷二	一	冊
一	高等小學算術書	教師用第一學年	一	冊
一	高等小學算術書	兒童用第一學年	一	冊
一	尋常小學理科書	兒童用第五、六學年	二	冊
一	高等小學理科書	教師用第一學年	一	冊

●教科書供給狀況報告方

明治三十九年三月十九日(第二部)
長(依命通牒)第六百五十七號 郡市 長

國定教科書供給狀況取調方ニ付テハ其部度及照會御報告相成居候ヘ共今
後ハ別記様式ニ依リ毎年前期分ハ其年四月一日ノ現況ヲ四月末日迄ニ又
後期分ハ十月一日現況ヲ十月末日迄ニ御報告相成度尤本件ハ各期ノ現況
ヲ可成速ニ被承知度候ニ付期限內ニ速達候 御取計ヲ相成度依命此段及
御通牒候也

明治三十九年度前期(後期)分國定教科書供給狀況調

何月何日現在

圖書名	需要冊數	供給冊數	供給不足冊數
尋常小學修身書	三	三	〇
尋常小學讀本	四	四	〇
尋常小學日本歷史	一	一	〇
尋常小學地理	一	一	〇
尋常小學算術書	一	一	〇
尋常小學理科書	一	一	〇
計	七	七	〇

(以下此例ニ依リ列記ノコト)

備考

- 一、學校、兒童ニ於テ供用スル國定教科圖書ハ洩ナク記載ノコト
- 二、需用冊數ハ學校兒童ニ於テ使用スル冊數ヲ指スルコト
- 三、供給冊數ハ學校兒童ニ實際供給セラルル冊數ヲ指スルコト
- 四、供給不足冊數ハ需用冊數ニ對シテ供給冊數ノ差額ヲ指シ其不足ノ理由ヲ備考ニ說明スル
- 五、前年以前ニ於ケル古本使用冊數ト成ルル故ニ依リ當期新ニ購入ヲナスシテ前年以前ノ古本ヲ繼續又ハ讓受使用スル冊數ヲ云フ

第五款 財產

●縣立學校基本財産設置並管理規則

明治三十六年二月十八日 告示 第四十九號

明治三十五年通常縣會ノ議決ヲ經タル明治三十六年度本縣歲入歳出豫算
其他左ノ通

縣立學校基本財産設置ノ件(中略)ハ主務大臣ノ許可(中略)ヲ得タリ
青森縣立學校基本財産設置管理規則

第一條 縣立師範學校、中學校、高等女學校、畜産學校ノ爲ニ基本財産
ヲ設置ス

第二條 基本財産ハ各校各別ニ設置スルモノトス
賣却代金、貸付料、辨償金、使用ノ目的ヲ定メサル寄附金ヲ積立テ之
ニ充ツ

第三條 基本財産ヨリ生スル收入ハ第三條第四條第七條ノ場合ヲ除クノ外派テ
之ヲ元金ニ組入ル、モノトス

第四條 基本財産ヨリ生スル收入ハ其ノ收入ヲ以テ其ノ學校經營費ノ總
額三分ノ二以上ヲ支辨スルニ足ル額ニ達スルトキハ之ヲ該學校經營費ニ
充ツルコトヲ得

第五條 基本財産ハ其收入ヲ以テ其ノ學校經營費ノ總額ヲ支辨スルニ足
ル額ニ達シタルトキ以テ第二ノ積立ヲ止ム

第六條 基本財産ハ國債証券又ハ地方債証券ニ替ヘ若クハ確實ナル銀行
預金ヲ入レ利殖スルモノトス

第七條 基本財産ハ特別會計ト爲シ之ヲ管理ス

第八條 基本財産管理ノ爲ニ要スル費用ハ基本財産ヨリ生スル收入ヲ
以テ支辨スルモノトス

●學校基本財産及積立金ニ關スル規程

明治三十五年七月二十二日 達 第三十七號

學校基本財産及積立金ニ關スル規程左ノ通相定ム

但シ明治三十五年青森縣達第五十號ハ之ヲ廢止ス

第一條 地方學事通則第九條ニ依リ市町村ニ於テ學校ノ爲メ基本財産ハ
積立金ヲ設置スルコトヲ得ルニ付市町村會同トナスヘシ

第二條 基本財産又ハ積立金ヲ設置シ若クハ増殖セントスルトキハ別段
ノ規定アルモノ、外ハ凡ソ左ノ方法ニ依リシ

- 一、市町村歳出入豫算ノ剩餘金ヲ蓄積スル事
- 二、歲入豫算ノ分ナリテ增加シ之ヲ蓄積スル事
- 三、國稅及縣稅ノ徵收ニ對シテ交付金ヲ蓄積スル事
- 四、市町村若クハ其一部ニ於ケル共有財産ノ收入ヲ蓄積スル事
- 五、學校用品賣却代金ヲ蓄積スル事
- 六、高等女學校ノ授業料ヲ蓄積スル事
- 七、實業ヲ課スル學校ニ於テハ之ヨリ生スル收入ヲ蓄積スル事
- 八、國有林野ノ拂下又ハ貸下等ヲ得テ之ヨリ生スル利益ヲ蓄積スル事
- 九、學林學田ヨリ生スル收入ヲ蓄積スル事
- 十、便宜生徒ヲシテ海運額ヲ採集セシメ之カ收入ヲ蓄積スル事
- 十一、市町村民相互規約ヲ設ケ凡ソ左ノ方法ニ依リ金品ヲ寄附セシメ
之ヲ蓄積スル事
- 十二、慶弔等ノ場合ニ於テ費用ヲ節シ之ヲ寄附セシムルコト
- 十三、農作物又ハ水産物豐饒ナル場合ニ於テ其幾分ヲ寄附セシムルコト
- 十四、各戸ヨリ數厘宛日掛銀ヲ儲集シテ之ヲ積立テ寄附セシムルコト
- 十五、便宜租母子講ノ當籤者ヨリ其幾分ヲ寄附セシムルコト
- 十六、鐵山、田畑、山林、原野、牧場、家屋、牛馬等ヲ賣買シタルモ
ノアルトキハ双方ヨリ其金額ノ幾分ヲ寄附セシムルコト
- 十七、毎日常、草履、草鞋等ノ製細工ヲ爲シ其幾分ヲ寄附セシムルコト

第三條 基本財産ヨリ生スル收入ハ其收入ヲ以テ學校ノ經營費ヲ支辨シ

得ルニ至ル迄成ルヘク基本財産ニ編入スヘシ
 第四條 基本財産又ハ積立金ノ設置ニ關シ監督廳ノ許可ヲ受ケントスル
 トキハ審議及管理ニ關スル規程ヲ具シ稟請スヘシ
 第五條 基本財産又ハ積立金ノ審議及管理ニ關スル規程中ニ定ムヘキ事
 項凡ソ左ノ如シ
 一 基本財産又ハ積立金設置ノ目的及種類
 二 審議方法
 三 金額及年限(金額年限ヲ定メタル場合)
 四 管理ノ方法
 五 其ノ必要ナル事項
 第六條 郡長ニ於テ基本財産又ハ積立金ノ設置ヲ許可シタルトキハ審議
 及管理ニ關スル規程ヲ具シ知事ニ開申スヘシ
 第七條 郡市長ハ毎年四月前年度ニ於ケル基本財産及積立金ノ狀況ヲ知
 事ニ報告スヘシ

● 學校基本財産及積立金ニ關スル報告方

明治三十六年四月二十日、内務部
 長依命通牒內三發第三百七十八號

明治三十五年七月本縣達第三十七號第七條ニ依リ毎年四月御報告可相成
 前年度ニ於ケル學校基本財産及積立金ノ狀況ハ別紙要項ニ依リ御報告相
 成ル依命此段及通牒也

- 何郡(市)學校基本財産及積立金ノ狀況取調要項
 - 一 學校基本財産及積立金ノ設置、審議及管理ニ關スル狀況
 - 二 學校基本財産及積立金ヨリ生ズル收入ノ使用ニ關スル狀況
 - 三 學校基本財産及積立金ノ處分ニ關スル狀況
 - 四 學校基本財産及積立金ニ關スル將來ノ計畫
 - 五 其他必要ナル事項
- 附表(別紙様式ニ依リ調製スヘシ)

學校種別	(附表第一) 何郡(市)學校基本財産表		(明治何年度)	
	現在額	年度内基本財産編入額	年度内基本財産減額	年度内基本財産シタ

計	建物		其他物品價格
	坪數	價格	

附表第二 何郡(市)積立金表 (明治何年度)	學校名	年度末現在		年度内積立		年度内減立		年度内シタ
		金額	編入額	金額	生ズル額	金額	分シタル額	
何何學校								
何何學校								
何何學校								
何何學校								
合計								

備考
 一 學校基本財産及積立金中公債証券其他ノ有價証券アルトキハ額
 面金額ヲ金額ニ算入シ且ツ其金額ヲ朱書傍記スヘシ
 二 學校基本財産ヨリ生ズル收入ニシテ物品ナルトキハ價格ニ換
 算シテ掲ケ且ツ土地建物其他物品ヨリ生ズル收入ハ各其價格欄ニ
 掲ケルモノトス
 三 數校ニ通シテ基本財産又ハ積立金ヲ設置セルモノハ學校名稱ニ
 各校名ヲ併記スヘシ

● 學校基本財産及積立金留意方

明治三十五年七月二十二日
 訓示第二十七號
 郡役所、市役所、町村役場
 時運ノ進歩ニ伴ヒ漸次學校ノ規模ヲ擴張セサルヘカテサレハ勿論ノ義ニ

合	何何學校				何何學校				何何學校				
	土地	金	其他物品價格	建物	土地	金	其他物品價格	建物	土地	金	其他物品價格	建物	
	坪數	額		坪數	價格	坪數	價格	坪數	價格	坪數	價格	坪數	價格

● 有稅地ヲ學校敷地體操場等ニ寄附ノ手續

明治二十二年十二月四日
 達第八百二十四號
 郡役所、市役所、町村役場
 有稅地ヲ公立學校敷地體操場ニ寄附セントスル者アルトキハ學校所在各
 郡市町村大字番號地目坪數地價地租及工事者手ノ年月日ヲ記載シ縣廳へ
 何川認可ヲ得ヘシ

● 小學校樹栽規程

明治三十五年七月二十二日
 訓示第二十八號
 郡役所、市役所、町村役場、市町村立小學校
 小學校ニ於テハ兒童身體ノ發育ニ留意シ體性ヲ涵養シ智識技能ヲ授ケル
 ト共ニ實業ヲ重ニスルノ習慣ヲ養ハサルヘカラス今其方法ノ一トシテ小
 學校ニ樹栽ヲ設ケ兒童ヲシテ樹栽培養ノ勞ニ服セシメ森林愛護ノ
 思想ヲ養成セシメントス依テ今同小學校樹栽規程ヲ設ケタルヲ以テ各市
 町村ハ事情ノ許ス限リ小學校附屬地若クハ市町村共有地又ハ國有原野ノ
 拂下貨下等ニ依リ樹栽ノ地ヲ設ケ適當ノ樹木ヲ栽植培養シ以テ之ヲ永遠
 ニ保護シ漸次小學校ノ資產トナスコトヲ計ルヘシ
 小學校樹栽規程

第一條 本規程ハ小學校生徒ヲシテ樹木ノ栽培森林保護ノ必要ヲ知ラシメ以テ實業上ノ思想ヲ養成シテ其本財産ノ一部トシテ樹林ヲ設置セシムル爲メニ設ケルモノトス

第二條 小學校ニ於テハ祝日大祭日若クハ日曜日等便宜ノ日ヲ撰ビ毎年一回若クハ二回其生徒ヲシテ樹栽セシムヘシ

第三條 樹栽ノ日ニ於テハ小學校教員ハ生徒ニ對シテ樹木ノ性質效用及森林ト河流トノ關係等ノ大要ヲ說示スヘシ此場合ニ於テハ成ルヘク生徒ノ父母ニ參觀セシムルヲ要ス

第四條 樹栽ノ後ハ小學校教員ハ時時生徒ヲ引率シテ樹栽地ヲ巡視シ其成育ヲ計ルヘシ

第五條 栽植スヘキ樹木ノ種類ハ學校長ニ於テ市町村長ト協議ノ上其土地適當ノモノヲ選定スヘシ

第六條 栽植スヘキ樹木ノ苗床ハ成ルヘク學校敷地内若クハ其近傍ニ於テ之ヲ設ケ學校教員ニ於テ生徒ヲ指揮シテ之カ苗木ヲ培養スヘシ

第七條 樹栽ハ成ルヘク校地ノ周圍ヨリ始メ漸次學校附屬地市町村共有地等ニ及ボスヘシ

第八條 樹栽ニ要スル材料器具及其他ノ費用ハ市町村教育費又ハ有志者ノ寄附ヲ以テ支辨スヘシ

第九條 小學校ニ於テハ樹栽ノ臺帳ヲ備ヘ置キ地名、地番、地目、段目及樹名、樹數、栽植年月日ヲ記入スヘシ

第十條 栽植ノ成績ハ栽植ノ爲メ補植シタルトキハ其樹名、樹數、栽植年月日ヲ記入スヘシ

第十一條 學校長ハ毎年一月三十一日ヲ限リ市町村長ヲ經由シテ在リテハ郡長ヲ經由シテ左ノ事項ヲ知事ニ報告スヘシ

一 樹栽地ノ段目、樹木ノ種類、員數及經費

二 樹栽日及樹栽シタル兒童ノ學年別員數

三 樹栽ノ成績大要

第十二條 樹栽シタル樹林ヨリ得タル收入ハ其學校ノ基本財産ニ編入スヘシ

●學校樹栽督勵

明治三十八年八月二十六日 訓示 第三十號

郡役所、市役所、町村役場、市町村立小學校 學校樹栽ノコトタル教育上幾多ノ利益アルノミナラス學校基本財産造成ノ一法タリ故ニ本縣ニ於テ明治三十五年七月青森縣訓示第二十八號ヲ以テ小學校樹栽規程ヲ設ケ之カ實施ヲ獎勵シ爾來各町村等ニ於テ之カ計畫ヲ爲スモノ漸ク多キナ加フルノ傾向アリト雖モ之カ縣下各小學校ニ通觀スルニ現ニ之カ實施セルモノ未タ以テ多シト爲スヘカラス其發達ノ遅緩ナル洵ニ遺憾トスル所ナリ今十戰時ニ際シ之カ記念トシテ樹林ヲ設ケルノ計畫ヲ立ルカ如キハ最モ時宜ニ適切ノ舉タラスハアラス郡市町村長ハ宜シク管内學校ノ狀況ヲ調査シ既ニ樹栽ニ着手セルモノハ益々之カ獎勵シ其米々著手セサルモノニハ樹栽地ノ廣狹ニ拘ハラズ樹栽ノ多少ヲ問ハス實施ヲ督勵シ以テ其效果ヲ收メントナ努ムヘシ

第二章 職員

第一款 檢定免許

●郡市小學校教員講習會修了者 檢定ニ關スル規定

明治三十四年十月三十一日 縣令第五十四號

本縣各郡市ニ於テ準教員養成ノ目的ヲ以テ開設スル小學校教員講習會ニ於ケル講習科目修了者ニ限リ別ニ出願ヲ要セス該郡市長ノ申請ニ依リ檢定檢定ヲ行フ

但シ本文ノ場合ニハ檢定手数料ヲ納ムルコトヲ要セス

●小學校教員檢定及免許狀ニ關スル細則

明治四十一年三月五日 縣令第十二號

小學校教員檢定及免許狀ニ關スル細則別紙ノ通り相定ム

但明治三十三年青森縣令第七十四號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス(別紙)

小學校教員檢定及免許狀ニ關スル細則

第一條 小學校教員ノ無試驗檢定ハ隨時之ヲ行ヒ試驗檢定ハ毎年五月及十月ノ二回青森市、弘前市及三戸郡八戸町ノ三箇所ニ於テ之ヲ行フ但臨時本文所定以外ノ期日及場所ニ於テ之ヲ行フコトアルヘシ

第二條 檢定ヲ受ケントスル者ハ檢定願書(第一號)ニ履歷書(第二號)ヲ檢査書(第三號)並ニ手数料ヲ添ヘ無試驗檢定ニ在リテハ隨時試驗檢定ニ在リテハ毎年四月五日及九月五日限リ郡市長ニ差出スヘシ但各管内ニ在ル者ハ直接願書ヲ知事ニ差出スコトヲ得

第三條 郡市長ハ前項ノ願書ヲ受理シタルトキハ無試驗檢定ニ係ルモノハ其ノ都度試驗檢定ニ係ルモノハ毎年四月十五日及九月十五日限リ之ヲ差出スヘシ

本縣師範學校ニ於ケル小學校教員講習科卒業者ニ對シテハ卒業ノ際ニ限リ別ニ出願ヲ要セス學校長ノ申請ニ依リ試驗檢定ヲ行フ

第三條 檢定ヲ受ケントスル者ハ左ノ手数料ヲ納付スヘシ但第二條第三項ニ該當スル者ニ在リテハ手数料ヲ徴收セス

正 教 員	五 十 錢
准 教 員	三 十 錢

前項ノ手数料ハ願下ナシ若ハ試驗ニ應ゼサル時ト雖之ヲ還付セス

第四條 小學校本科正教員ノ試驗科目ハ男子ニ在リテハ修身、教育、國語及漢文、英語、歴史、地理、數學、博物、物理及化學、法制經濟、習字、圖畫、手工、音樂、體操、農業、商業トシ女子ニ在リテハ修身、教育、國語及漢文、歴史、地理、數學、博物、物理及化學、家事、裁縫、習字、圖畫、手工、音樂、體操、英語トス

前項ノ科目中英語、手工、農業、商業ハ本人ノ志望ニ依リ其ノ中ニ就キ一科目ノ試驗ヲ行フ

第五條 小學校准教員ノ試驗科目ハ修身、教育、國語、算術、歴史、地理、理科、圖畫、音樂、體操トシ女子ノ爲ニハ裁縫ヲ加フ

第六條 尋常小學校本科正教員ノ試驗科目ハ修身、國語、算術、歴史、地理、理科、圖畫、音樂、體操トシ女子ノ爲ニハ裁縫ヲ加フ

第七條 尋常小學校准教員ノ試驗科目ハ修身、教育、國語、算術、歴史、地理、理科、圖畫、唱歌、體操トス

第八條 試驗檢定ヲ受ケタルモノニシテ其ノ試驗ニ合格セザルモ某科目

ノ成績優良ナルトキハ該科目ノ成績ニ關シ證明書(第四號)ヲ授與ス

第九條 師範學校本科卒業者ニハ第五號書式ニ依リ其ノ他ノ檢定合格者ニハ第六號書式ニ依リ免許狀ヲ授與ス

第十條 免許狀ノ書式又ハ再檢定出願セントスルトキハ願書ト共ニ左ノ手数料ヲ納付スヘシ但族籍氏名ヲ變更シタルモノハ戸籍抄本ヲ添ヘ其ノ他ノモノハ其ノ事由ヲ具シ郡市役所ヲ經由シ願書ヲ差出スヘシ

正 教 員	十 五 錢
准 教 員	十 錢

前項ノ免許狀ニハ其ノ事由ヲ裏書シテ之ヲ下付ス

第十一條 不正ノ方法ニ依リ檢定ヲ受ケントスル者及檢定ニ關スル規定ニ違背シタル者ハ檢定ヲ受ケントスルコトヲ得ス

檢定ニ合格シタル後前項ノ事實發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無効トスルコトアルヘシ

第十二條 本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 本令施行前明治三十三年本縣令第七十四號ニ依リ差出シタル檢定願書ニシテ受理セラレタルモノハ本令ニ依リモノト看做ス(第一號)

檢定願書書式(用紙半紙)

附 則

小學校教員檢定願

小學校(尋常小學校)本科正教員

小學校(尋常小學校)准教員

但受驗志望科目何何(小學校本科正教員試驗檢定志願者ハ其ノ受驗志望科目何何ヲ記入スヘシ)

某儀御管内ニ於テ小學校教員志願ニ付何何地(試驗檢定志願者ニ場所ヲ記)ニ於テ前記ノ檢定相受度別紙履歷書身體檢査書並ニ手数料金五十錢(三十錢)相添ヘ此段相願候也

年 月 日 氏 名 印

青森縣知事氏名宛

前書願書ニ付取調候處小學校令施行規則第四百四條各款ニ該當スル不都合ノ原無之候也

年 月 日 市(區、町、村)長氏名印

右ノ前記ノ科目ニ就キ(無試験)檢定シ青森縣管内ニ於テ小學校本科正教員(尋常小學校本科正教員)(小學校本科正教員)(小學校准教員)(尋常小學校准教員)タルコトヲ免許ス

●小學校教員試驗檢定用參考書

明治三十八年八月二日 告示第一九二號

本縣小學校教員試驗檢定參考書左ノ通り定ム
但明治二十八年八月青森縣告示第一九二號尋常小學校本科正教員小學校准教員(尋常小學校准教員)試驗檢定用參考書ハ之ヲ廢止ス

Table listing various educational books for elementary school teachers, including titles like 'Physical Education Textbook', 'Chemistry Textbook', and 'Elementary Education Textbook', along with authors and publishers.

Table listing books for elementary school teachers, categorized by subject such as 'National Language', 'Mathematics', 'History', and 'Science', with details on volume numbers and publishers.

Table listing books for elementary school teachers, including 'Physical Education Textbook', 'Chemistry Textbook', and 'Elementary Education Textbook', with authors and publishers listed.

Table listing books for elementary school teachers, categorized by subject such as 'National Language', 'Mathematics', 'History', and 'Science', with details on volume numbers and publishers.

學年別	在籍生徒數			學級數	授業日數	授業時數	休業日數	休業時數
	第一學年	第二學年	第三學年					
合計								

學年別	入學			退學			合計
	第一學年	第二學年	第三學年	第一學年	第二學年	第三學年	
合計							

備考

- 一 月報ハ其月末日現在ニヨリ調製スルコト
- 一 在籍生徒中他府縣ニ係ルモノハ各府縣別人員ヲ知り得ル様適宜記載スヘシ
- 一 授業日數及同時數ハ實際授業セシ日數及時數ヲ記入スヘシ(例ハ一時間授業ノ後休業セシトキハ授業日數及時數ニハ各一ト記入セラルカカ如シ)
- 一 休業日數及時數ハ全日臨時休業セシ日數及時數ヲ記入スヘシ但全日休業セサルモ一部休業シタルトキハ其時數ハ休業時數ニ算入スヘシ
- 一 校舍校地器具等ノ欄ハ毎年四月分月報ニ之レヲ設ケ其他ノ月報ニハ之ヲ要セス 但異動アルトキハ之ヲ附記スヘシ
- 一 重要記事ノ欄ハ其ノ月ニ於ケル重要記事ヲ簡單ニ記入スヘシ

明治三十九年五月九日

訓令 乙第百五號

南津輕郡立農學校

其校月報及職員勤仕表別紙様式ニ依リ調製シ當月分ヲ翌月五日迄ニ差出スヘシ

但本年四月分ノ月報及職員勤仕表ハ本月十五日迄ニ差出スヘシ

(別紙ハ三十七年連内第一〇五號ト同一ニ付省略ス)

明治四十一年七月十日

訓令 乙第百四十六號

青森縣立第三高等女學校

其校月報及職員勤仕表別紙様式ニ依リ調製シ當月分ヲ翌月五日迄ニ差出スヘシ

但本年四月分ノ月報及職員勤仕表ハ本月十五日迄ニ差出スヘシ

(別紙ハ三十七年連内第一〇五號ト同一ニ付省略ス)

縣立學校職員休業中旅行及忌引等ニ關スル届書進達ヲ要セザル件

明治三十五年四月九日

連内第四百十八號 縣立學校

其校職員學校ノ休業中旅行歸省歸校及忌引等ノ届出ハ自今之ヲ當廳ニ進達スルニ及ハス其校ニ於テ保管スヘシ

● 學校長特任條件

明治三十年十一月十九日 連内第四百三十七號

青森縣師範學校、青森縣立弘前中學校、青森縣立八戸中學校(青森縣農學校)

今般學校長特任條件左ノ通告正ス

- 第一 敬諭以下縣内ノ出張巡回ヲ命スル事
- 第二 敬諭以下除服出勤ヲ命スル事
- 第三 月俸十圓未満ノ職員及給仕小使ヲ雇罷スル事
- 第四 校中細則ヲ設クル事

● 小學校長及教員ノ職務ニ關スル細則

明治三十三年七月三十日 縣令第七十六號

小學校長及教員ノ職務及服務ニ關スル細則別紙ノ通知定ム

但シ明治二十五年四月青森縣令第二十七號ハ之ヲ廢止ス

(別紙)

- 第一條 小學校長及教員ノ職務ニ關スル細則ルコトヲ得
- 第二條 小學校長ハ所屬教員ニ對シ兒童教育擔任ノ外校務ヲ分掌セシム
- 第三條 學校長關員ノ職務ヲ行フヘシ
- 第四條 學校長關員ノ職務ヲ代理ス
- 第五條 學校長關員ノ職務ニ依リテ缺勤スル者アルトキハ學校長ノ指揮ヲ承

● 小學校教員服制

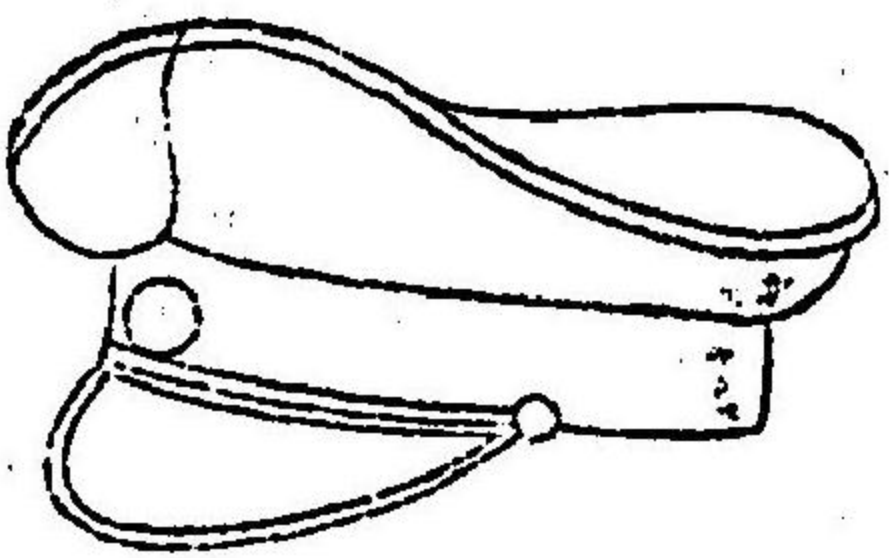
明治四十年七月二日 縣令第四十一號

本縣小學校教員服制左ノ通知定ム

- 第一條 學校長ニ在リテハ圖書、簿冊及校具目錄並重要ナル事務ノ引繼書ヲ調製シ授任者又ハ上司教員ニ引繼クヘシ
- 第二條 教員ニ在リテハ其分擔ニ係ル簿冊及職務ノ引繼書ヲ調製シ學校長ニ引繼クヘシ
- 第三條 學校長ハ校内ノ細則ヲ定ムヘシ
- 第四條 學校長及教員ニ於テ代動スヘシ
- 第五條 學校長及教員ハ毎日出勤ノ際出勤簿ニ捺印スヘシ
- 第六條 學校長及教員疾病等ニ依リテ缺勤スルトキハ出校時限前其ノ日ヲ學校ニ届出ツヘシ
- 第七條 市町村立小學校長及教員私事ノ爲メ任地ヲ離レントスルトキハ其ノ事由日數及旅行先等ヲ具シ監督官廳ニ届出許可ヲ受クヘシ
- 第八條 市町村立小學校長及教員學校休業中ニ於テ任地ヲ離レントスルトキハ前項ニ準シ届出ツヘシ
- 第九條 但シ私立小學校長及教員ニシテ本條ノ場合ニハ其日限等ヲ具シ設立者ヨリ監督官廳ニ届出ツヘシ
- 第十條 市町村立小學校長及教員ノ忌引ハ市町村長ヲ經由シテ之ヲ監督官廳ニ届出ツヘシ
- 第十一條 市町村立小學校長及教員ハ新任轉任トモ辭令書受領ノ日ヨリ七日以内ニ出發赴任シ直ニ監督官廳ニ届出ツヘシ
- 第十二條 市町村立小學校長及教員轉任休職退職又ハ免職トナリタルトキハ其主管ニ係ル事務ヲ左ノ例ニ依リ引繼キ進達ノ上之ヲ市町村長ニ報告スヘシ

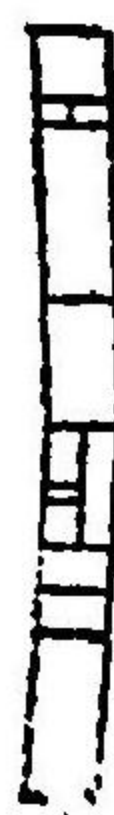
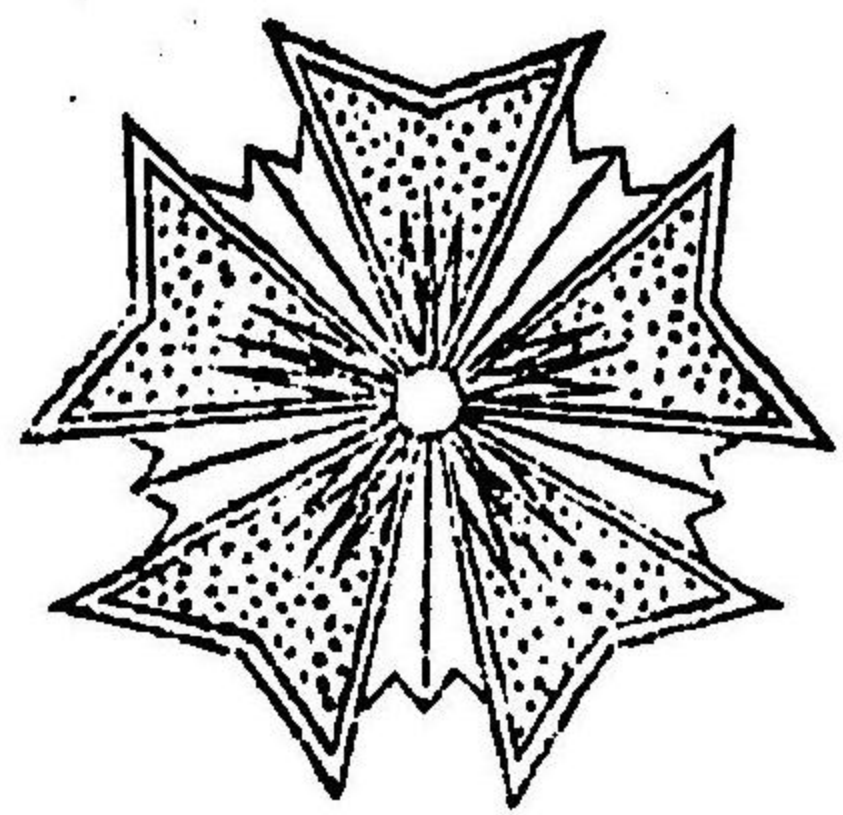
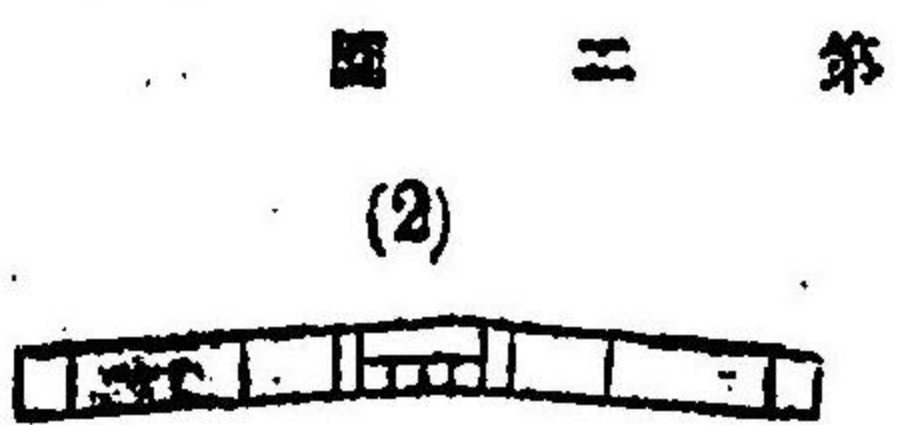
小學校教員服制

- 第一條 男教員ノ服装左ノ如シ
 - 一 制式形状 (第一圖)
 - 色及地質 黒又ハ紺色ノ羅紗但夏季ハ白色ノ日振ヲ用ウルコトヲ得
 - 徽章 (第二圖)
 - 二 上衣 (第三圖)
 - 制式形状 背廣堅襟
 - 釦ハ單列ニシテ五箇、地質ト同色トス
 - 色及地質 黒又ハ紺色ニシテ地質ハ適宜トス 但夏季ハ白色ヲ用ウルコトヲ得
 - 三 袴 (第四圖)
 - 制式形状 通常
 - 色及地質 上衣ニ同シ
 - 第二條 疾病等ノ爲メ制服ヲ著用シ難キ場合ニハ袴羽織ヲ以テ代用スルコトヲ得
 - 第三條 制服ハ儀式ノ場合ニ著用スルコトヲ得
 - 第四條 准教員及代用教員ハ制式ノ外本規定ニ依ラサルコトヲ得
 - 第五條 新任者ハ就職後六箇月間ハ本規定ノ制服ヲ著用セサルコトヲ得
 - 第六條 女教員ノ服装ハ質素ヲ旨トシ成ルヘク袖袖ヲ用キ必ス著袴スヘシ



第七條 本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス

第八條 本令施行ノ期日マテニ制服ヲ調整スルコト能ハサル事情アルトキハ其ノ期限ヲ定メ郡市長ノ許可ヲ得ヘシ



第三圖

第二圖

官吏懲戒令並ニ行政官吏服務規律ハ府縣立町村立學校校長教員及府縣立學校書記ハモ適用スヘキ旨今般其向ヨリ違有之候條此旨相違候事
但爲心得別紙下付ノ事
(別紙官吏服務規律及文官懲戒令省略ス)

教員ノ著袴ニ付注意方

明治十六年十月三日
諭 達 無 號
小學校教員、學務委員
教員タル者ハ其品行方正容儀端肅ヲ要シ生徒ノ模範タルヘキハ勿論ノ處
近來著袴セシテ出校教授スル等ノ者間ト有之哉ニ相聞右ハ生徒教養上
ニ影響ヲ及ホシ甚タ然ル可ラサル儀ニ候條自今右條ノ儀無之様致ス可シ
此旨諭達候事

小學校視察ニ關スル件

明治三十八年 九月十六日
(第二部長) 依命通牒内ニ發第二千三十五號

小學校教育ノ内容ニ關シ其發達改善ヲ圖ルハ將來益々切要ニ有之其官ニ
於テ夫夫御督勵相成候條ニ有之候處過般文部省ニ於テ小學校児童學業
成績ノ一班調査ノ概況ハ客月二十二日官報掲載ノ通りニ有之右調査ノ結
果ニ依レハ各校平均ノ上ニ於テハ先以テ普通ノ成績ト認メラルヘキモ各
教科ニツキ詳細比較スル時ハ優劣ノ差著シク中ニハ學年相當ノ實力ヲ認
メ難キ者モ往有之若シ全國ニ涉リテ調査スル時ハ一層其數不成績ノモ
ノモ少カラサルヘキニ推想セラレ遺憾ノ次第ニ付爾後可成視學視察ノ
度數ヲ增加シ且視察ノ際ハ特ニ教授訓練等ニ付指導ヲ爲サシメ或ハ適當
ノ時ニ於テ児童ノ學力ヲ調査スル等諸種ノ手段ヲ用ヒ内容ノ改導統一ヲ
促スヘキ旨其筋ヨリ通牒相成候條然御配慮相成度依テ此段及通牒候也
追テ本文學力調査實行セラレ候節ハ其成績御報告相成度此段申送候也

第四款 教育獎勵

教育功績表彰例

第四圖



- 備考
- 一 第二圖ハ金鍍金打直徑一寸二分厚約一分トス
- 二 (1)表面(2)側面
- 三 大光線小光線及中央旭日ハ麗出トス
- 四 中央旭日ハ大光線小光線ヨリ稍高ク大光線ニ包マル、右目整齊ノ部分ハ大光線及小光線ノ部分ヨリ低クス
- 五 大光線ニ袂マル、階ノ部分ハ厚ノ約二分ノ一トス

學校職員席次ニ關スル件

明治四十一年一月三十一日
內務部長通牒教第七十五號
縣立學校校長
公立學校校長
公立學校職員俸給令ノ等級相當ノ額ヲ受クルモノト其額ヲ減給セル者ト
ノ席次ニ關シテハ自今左記ノ通り御承知相成可然候
記
現ニ支給スル俸給額ノ多寡ニヨリ席次ヲ定ム

教員及學校書記ニ懲戒令並服務規律適用方

明治十六年六月十二日
通學第三十三號
公立學校

明治二十六年十二月二十日
達第六百四十九號
（昭和二年八月五日）

教育功績表彰例別紙ノ通相定ム

(別紙)

教育功績表彰例

- 第一條 左項ニ該當スル者ニハ教育功績狀ヲ附與シ其功績ヲ表ス
 - 一 小學校各種學校、幼稚園教職員保母及管理者ニシテ功績最モ顯著ナルモノ
 - 二 教育上篤志者ニシテ功績最モ顯著ナルモノ
- 第二條 教育功績狀ヲ左ノ三等トス
 - 一等 輪廓 紅色
 - 二等 同 綠色
 - 三等 同 藍色
- 第三條 那市長ハ第一條ノ第一項若クハ第二項ニ該當スルモノト認ムル者アルトキハ左ノ各項ヲ具ヘ毎年一月中縣知事ヘ上申スヘシ
 - 一 住所族籍氏名年齢
 - 二 功績ニ係ル詳細ナル事項
 - 三 職務俸給等ノ經歷
 - 四 品行學力等ニ關スル事情
 - 五 賞罰營業及訴訟等ニ關スル一切ノ履歴
- 第四條 教育功績狀ヲ受領セシ者ニシテ教育功績狀ヲ有スル面目ニ關スル汚行アリト認ムルトキハ直チニ之ヲ褫奪ス

普通教育獎勵規程

明治三十七年一月二十三日
縣令 第五號

本縣普通教育獎勵規程左ノ通相定メ明治三十七年四月一日ヨリ施行ス

青森縣普通教育獎勵規程
第一條 市町村立小學校教員ニシテ十箇年以上縣下市町村立小學校若クハ五箇年以上同一市町村立小學校ニ勤勞シ其ノ成績優良ニシテ左ノ各號又ハ其ノ總部ニ該當スト認ムル者ニハ金員若クハ物品ヲ賞與ス但第四

號ニ該當スト認ムル者ハ本文ノ年限ニ依ラサルコトヲ得

- 一 操行善良ニシテ模範アル者
- 二 學力優等ニシテ授業熱練ナル者
- 三 平素ノ勤勉最モ超ユル者
- 四 教授用器器具等ヲ考案シ又ハ圖書ヲ著作シ教育上ニ利益ヲ與ヘタル者

第二條 市町村吏員及學務委員ニシテ左ノ各號又ハ其ノ總部ニ該當スト認ムルモノニハ金員若クハ物品ヲ賞與ス

- 一 學齡兒童就學上ニ關シ功績著シキ者
- 二 小學校ノ設備ニ關シ功績著シキ者
- 三 小學校基本財産又ハ積立金ノ設置ニ關シ功績著シキ者
- 三條 市町村立小學校ニシテ左ノ各號又ハ其ノ總部ニ該當スト認ムルモノニハ金員若クハ物品ヲ賞與ス 但金員ヲ賞與シタル場合ニハ其學校基本財産ニ編入スヘシ
 - 一 市町村村學校組合及市町村內若クハ町村學校組合內ノ區ノ學齡兒童就學歩合九十五人以上ニシテ出席兒童歩合九十人以上ノ者
 - 二 諸般ノ設備完備セル者
 - 三 諸般ノ成績優良ナル者
- 第四條 單級若クハ併置ノ市町村立小學校ニ勤勞スル正教員ニシテ特ニ勤勞セルモノニハ獎勵金ヲ給與スルコトアルヘシ

普通教育獎勵規程該當者內申方

明治三十七年一月二十三日
達 第七號
那 役 所、市 役 所
那 市 長
那 市 長ハ明治三十七年一月青森縣令第五號青森縣普通教育獎勵規程ニ該當スト認ムルモノアルトキハ各其ノ詳細ナル調査書ヲ具シ毎年八月三十一日迄ニ知事ニ内申スヘシ

明治三十八年四月十五日
內務部長依命通條內三發第三百四十五號
那 市 長

著ナルモノ又ハ他ノ參考ニ資スルニ足ルヘキモノハ其時時御報告相成度依命此段及通條候也

第三章 生徒兒童

第一 訓練取締

學校生徒禮式要項

明治二十一年四月二十二日
訓 示 第十二號

禮節ハ風教ノ興廢ニ關シ教育上緊要ノ事ナルニ付學校生徒禮式ノ儀別紙要項ニ依リ自今一層行届キ候様平素教訓致スヘシ

學校生徒禮式要項

- 一 尊長ニ對スル時ハ直立シテ姿勢ヲ正シク手ヲ垂レ眼ヲ敬禮スヘキ人ニ注キ以テ禮ノ上部ヲ少シク前ニ傾クヘシ
- 帽ヲ冠スル時ハ右手ニテ帽ヲ脱シ其裏面ヲ外ニ見サ、ル襟ニシテ左手ト共ニ垂ルヘシ其他前ニ同シ 但女子ハ帽ヲ脱スルヲ要セス
- 行進中ニ在テハ先ツ歩ヲ止メ前ノ如ク敬禮スヘシ
- 同輩ニ對スル時ハ頭ヲ少シク前ニ傾クヘシ
- 帽ヲ冠スルトキハ帽ヲ脱スルニ止ムヘシ 但女子ハ帽ヲ冠シタルマハ頭ヲ少シク前ニ傾クヘシ
- 行進中ニ在リテハ行進シナカラ前ノ如ク敬禮スヘシ

學校生徒禮式要項訓示ニ付心得方

明治二十一年四月二十二日
訓 示 第十三號

學校生徒禮式ノ儀ニ付キ別紙訓示第十二號ノ通各學校ヘ訓示候條此旨心得ヘシ

行幸啓ノ節生徒兒童敬禮方

明治四十三年九月二十日
訓 令 甲 第五十四號

行幸啓ノ節生徒兒童敬禮方左ノ通施行スヘシ

- 一 武裝機銃ノ場合
 - 學校長及職員ハ全隊ノ右翼ニ指揮者ハ各中隊ノ右翼ニ位置シ機銃ヲ銃ニ裝セシメ前隊ノ見エタルトキ「氣ヲ付ケ」ノ號合ヲ下シ直立不動ノ姿勢ヲ取ラシム御車力中隊ノ右翼約十歩ニ近キタルトキ「機銃」ノ號合ニテ一齊ニ機銃ヲサシメ御車力中隊ノ左翼十歩ヲ過キタルトキ元ノ姿勢ニ復セシム
 - 御車力中隊ノ左翼ヲ通過スルトキハ學校長職員及指揮者ハ左翼ニ位置ス
- 二 武裝セザル場合(女生徒ヲ含ム)
 - 學校長及職員ハ全隊ノ右翼ニ指揮者ハ各組ノ右翼ニ位置シ前隊ノ見エタルトキ「氣ヲ付ケ」ノ號合ヲ下シ一齊ニ脱帽セシメ直立不動ノ姿勢ヲ取ラシム御車力中隊ノ右翼約十歩ニ近キタルトキ「機銃」ノ號合ニテ一齊ニ脱帽セシム(體ノ上部ヲ約三十度前方ニ屈セシム)徐ニ元ノ姿勢ニ復セシム御車力中隊ノ左翼ヨリ通過スルトキハ學校長職員及指揮者ハ左翼ニ位置ス

宗教上ノ教育ヲ施シ又ハ同儀式施行禁止方

明治三十二年八月九日
訓 示 第二十三號

一般ノ教育ヲシテ宗教ノ外ニ特立セシムルハ學政上最必要ト依リテ公立學校及學科課程ニ關シ法令ノ規定アル學校ニ於テハ課程外タリト雖モ宗教上ノ教育ヲ施シ又ハ宗教上ノ儀式ヲ行フコトヲ許サ、ル旨文部大臣

臣ヨリ訓令ノ趣有之候ニ付其部内當該學校ヲシテ右ノ旨趣ヲ體シ不都合無之條篤ク注意ヲ加ヘシムヘシ

明治三十二年八月九日 訓示第二十四號 縣立學校

一般ノ教育ヲシテ宗教ノ外ニ特立セシムルハ學政上最モ必要トス依リテ公立學校等ニ於テハ課外タリトモ宗教上ノ教育ヲ施シ又ハ宗教上ノ儀式ヲ行フコトヲ許サ、ル旨文部大臣ヨリ訓令ノ趣有之候ニ付其校ニ於テ右ノ旨趣ヲ體シ不都合無之條篤ク注意ヲ加フヘシ

各學校校紀ノ振作勵行方

明治三十五年七月十八日 訓示第二十六號 縣立學校(小學校ヲ除ク)

近來學校ニ於テ往往紛擾ヲ見ルハ教育上憂慮スヘキ所ナリ 尙モ學校職員ニシテ生徒ヲ使喚煽動スルカ如キ行為アル者ニ對シテハ相當措置スヘク又生徒ニシテ其本分ヲ忘レ職員ニ對シテ反抗ヲ試シ或ハ同盟休校ヲ爲スカ如キ者アラハ嚴重處分シ以テ校紀ノ振作ヲ務ムヘシ

學校生徒校外取締方

明治三十八年十二月七日 (第二部長)依命通牒第二千八百五十號 縣立學校長 郡 市長

各校生徒ノ校外ニ於ケル取締ノ教育上最重要ナルハ隨時俟タル處ニ有之從來是等ノ方法ニ關シ御施設ノ事トハ存候ヘ共尙將來其他ノ情況ニヨリ適切ナル方法ヲ設ケ右取締ニ關シ一層注意ヲ加ヘラレ生徒品性ノ陶冶上效果ヲ收メラル、標致度其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候條依命此段及通牒候也 追テ學校外ニ於ケル生徒取締ニ關シ既ニ施設シタルモノ及今後ノ施設ニ係ルモノハ御報告相成度尙又左記事項ノ如キモ右取締上御參考相成度此段申添候也

公立學校生徒多衆集合等ノ場合ニ於ケル取締方

明治十八年二月七日 訓示第三十五號 郡 役 所

公立學校生徒ニシテ多衆集合シ騷擾危險若クハ奇異ノ行為有之候テハ教育上不都合ニ候右條ノ儀無之條其學校ニ於テ嚴敷取締可致尤運動等ノ爲メ集合スル時ハ學校ノ職員等ヲシテ監視セシムヘシ此旨相達候事

公立學校生徒多衆集合等ノ場合ニ於ケル取締方

明治十八年二月六日 訓示第四號 縣立學校

學校生徒ニシテ多衆集合シ騷擾危險若クハ奇異ノ行為有之候テハ教育上不都合ニ候條右條ノ儀無之條其學校ニ於テ嚴敷取締可致尤運動等ノ爲メ集合スル時ハ學校ノ職員等ヲシテ監視セシムヘシ此旨相達候事

明治十八年二月六日 訓示第五號 縣立師範學校

官吏等ノ送迎及遊歩運動ニ關スル注意方

明治二十六年五月二十六日 訓示第十三號

郡役所 市役所 縣立學校 町村役場 公立小學校 一官吏又ハ著名ノ人士地方來往ノ際學校生徒除リ成シテ道路ニ送迎スルノ事アルカ爲ニ或ハ學課ヲ妨ケ又ハ無用ノ勞ニ涉ルコトアリ自今皇族ニ對シ又ハ其學校長及教員ニ對スル場合ノ外公立學校長及教員ハ生徒ヲ誘導シテ此等ノ行為ヲナスコトアルヘカラス但特別ノ事情ニ由リ縣立學校ニ於テハ知事市町村立學校ニ於テハ郡長又ハ市長ノ許可ヲ得テ

一 一般ノ學校ニ於テ生徒ノ居所校外ニ於ケル動靜ヲ明ニシ觀察監督ヲ怠ラサルコト 二 一般學校生徒ニシテ寄宿舎ニ入ラサル者ハ家庭ヨリ通學スルモノヲ除ク外學校ニ於テ選定シタル宿所ニ集メ觀察監督ニ便ナラシムルコト 三 寄宿主其他有志者ノ施設ニ係ル學費貸與事業ノ如キモノヲ擴張シテ寄宿所ヲ設ケシメ又ハ教育會等ヲシテ各生保護事業ヲ施設スヘキ條勸誘スルコト(十一月二十九日官報宮城縣仙臺市教育會事項參照)

學校生徒學術演說取締方

明治十五年八月十一日 訓示第九十二號 郡 役 所

學務委員及生徒演說演說ニ係ル件取締方ノ儀ニ付別紙ノ通り其筋ヨリ内達有之候條爲心得此旨相達候事

(別紙)

文部省內達 (明治十五年七月三日)

學校生徒ニシテ妄ニ學術演說ヲ爲スハ教育上不都合ノ儀ニ付相成ラス尤公衆ヲ聚メスシテ之ヲ爲スハ不都合ナシト認ムル分ニ限リ特ニ淫許儀若カラス候條此旨内達候事 但學術演說ヲ爲ス節政談ニ紛ハシキ儀無之條可致ハ勿論ノ儀ト心得

學校生徒政治ニ關スル取締ニ付注意方

明治十六年二月十三日 訓示無號 郡 役 所

學校生徒ニシテ政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル集會ニ屬シ又ハ其社ニ加入スル等不相成儀ハ會テ公布ノ旨モ有之候條尙各町村立私立學校長教員等ニ於テ平素注意ヲ加ヘ心得遊ノ指無之條訓戒可致此旨内達候事

修學旅行並運動會ニ關スル要項

明治三十六年四月十五日 訓示第九號

郡役所 市役所 町村役場 市町村立小學校 修學旅行ハ兒童ノ見聞ヲ廣クシ新智識ヲ得シムルノ媒介ニシテ教育上有益ノ事業ナルハ勿論ナリト雖小學校兒童ノ如キハ未ダ身體軟弱ナレハ遠距離ノ地ニ引率シテ徒ニ身體ヲ疲勞セシメ或ハ旅舎ニ宿泊セシメテ多額ノ費用ヲ消費セシムルカ如キハ尙ニ利益ナキノミナラス風紀衛生上其弊尙妙カラストモ學校長及教員タルモノ須ラク注意ヲ加ヘ兒童ノ體格及年齡ニ應ジテ適當ノ措置ヲ取ルヘク又運動會ノ如キモ數校聯合シテ遠隔ノ地ニ施行スルカ如キハ兒童ヲシテ徒ニ盛裝華美ヲ競ハシムルノ弊ニ陷リ易ク且往復ニ時間ヲ要シ其極途ニ運動會ノ目的ヲ達スルコト能ハサルニ至ルヘキニ依リ成ルヘク遠隔ノ地ヲ避ケ兒童服裝ノ如キモ簡便輕便ヲ主トシ體育ノ本旨ニ背反セザラシコトヲ期スヘシ仍テ自今修學旅行又ハ運動會ヲ舉行セントスル場合ニハ宜シク左ノ要項ニ準據スヘシ

修學旅行及運動會ニ關スル要項

一 小學校ニ於テ宿泊ヲ要スル修學旅行ヲ爲スハ高等小學校第三學年以上ノ男生徒ニ限ルコト 一 宿泊ヲ要スル修學旅行ハ一學年間に一回毎回二泊以下トシ其時日、經過地及目的ヲ具シ管理者ヲ經テ監督官廳ノ許可ヲ受クルコト 一 宿泊ヲ要セザル修學旅行ハ高等高等小學校トモ一學年間に二回以下トシ其時日、經過地及目的ヲ具シ管理者ヲ經テ監督官廳ニ届出ルコト 一 小學校ニ於テ運動會ヲ爲サントスルトキハ高等高等小學校トモ一學年間に二回以下トシ其時日、場所等ヲ定メ管理者ヲ經テ監督官廳ニ

ナス各兒童ハ各等カキ、スコツプ類ヲ用ヒテ之ヲ作ル
 作業終レハ其中ニ蒸裂ノ小屋ヲ作り其中ニ餅屑若クハ枯草ヲ入レ小
 量ノ石油ヲ注キ砂糖鹽酸加里ヲ紙上ニ置キ茶碗ニ稀硫酸ヲ入レ置ク
 技ニ於テ兩軍敵城ニ迫リ烈シク雪丸ヲ打ち該器ヲ顛覆セシメ火災ヲ
 起サシム而シテ早ク火ヲ失セシメタル方ヲ勝トス
 一 雪球運ヒ競争 本遊戯ハ雪ヲ轉カシテ次第ニ大キクシ大抵五六貫位
 ノモノトシテ三人ヲ以テ一組トシ運ノ者ヲ作リ此ニ雪球ヲ入レテ棟
 ナ通シテ前後二人ニテ擔ハシメ或一定ノ距離ヲ競争セシム
 一 軍艦遊ヒ 全兒童ヲ二分シ各方ニ更ニ五人ヲ以テ一組ノ隊ヲ作り
 中央ノモノ、左ニアルモノハ右手ヲ以テ左ニアルモノハ左手ヲ以テ
 隣兒ノ帶ヲ握ル故ニ中央ノモノハ左右ヨリ帶ヲ握ラレ、モ兩手トモ
 働クニ自由ナリ之ヲ一隻ノ軍艦ノ構造トス初メノ合圖ニテ中央ノモ
 ノハ敵ニ雪球ヲ投スル任ニ當ルノミニテ左右ニアルモノハ彈丸ヲ中
 央ノモノニ送ル戰爭中敵軍中央ノモノニ命中スルトキハ其艦ハ沈没
 シタルモノトシ左方ノモノニ當リタルトキハ左方ノモノハ彈丸ヲ作
 ルヲ得ス右方モ同シ而シテ左右共ニ命中セシメラレタルトキハ其軍
 艦ハ自由ヲ失ハタル者トシテ根拠地ニ引上ケテ而シテ早ク敵艦隊ヲ全
 滅シタル方ヲ勝トス
 一 スケート遊ヒ 池水河水ノ結氷セル上ナリ或ハ雪ヲ固ク踏ミ固メ
 其上ニ水ヲ注キテ結氷セシメテ其上ヲ上ラシム
 以上ノ如ク男女ニ關セテ兒童ノ長幼ヲ論セテ好シテ戶外ニ出テ是等ノ演
 戲ヲナスニ至レルハ誠ニ本道ノ將來ニ對シ多大ノ有望ヲ示スモノト云ハ
 サル可ラス

中等學校

一 日日ノ雪中遊戯 校庭ニ於テ休憩時間ヲ利用シテ雪球投合ノ技ヲ演
 セシム此遊戯ハ各自備ニナサシムルト團體的ニナサシムルトノ兩
 法アリ或ハ板ヲ以テ人形ヲ作り一定ノ距離ヨリ雪球ヲ抛テ頭部胸腹
 部又ハ上下肢ニ命中スルニ依リテ優劣ヲ定ム是亦個人ト團體トノ兩
 法アリ冬季中ニハ科外運動トシテ殊ニ擊劍柔道ヲ獎勵スルカ故ニ屋
 外ニ於ケル雪球投合ノ運動ハ生体ノ自由ニ任シテ規律的ニ勵行ス
 ルコトナキモ隨意ニシテ元氣ト耐寒力トヲ養ハシムルコトナリ特
 特ニ生徒監督ノ任ニ當ル教師及指定ノ學級ヲ擔任スル教師ナシテ之

十度突キ落サル、チモ願ミス學テ之ヲラントスル攻撃軍將ヲ猛烈
 トシテ之ヲ擊退セントスル防禦軍共ニ其奮闘遊戯スルノ光景ハ宛然
 トシテ實戰ヲ聯想セシムルニ足ルモノアリ此間隙メ設ケタル箱隊
 ハ兩軍ノ間ヲ奔走シテ救護ニ力メ審判係ハ主トシテ生徒ノ動作過激
 ニ涉ラサル様其注意ヲ怠ラズ
 一 同ノ範圍凡三十分間休憩亦三十分間戰闘三四回凡三時間乃至四時
 間ニシテ大抵午後五時前後ニ閉會ノ際ニハ全生徒ヲ整列セシメテ校
 長ノ講評アリ
 二 餘興 餘興トシテ雪山ノ絶頂ニ化學的裝置ヲ設ケ敵軍ヨリ投ケ上ケ
 タル雪球之ニ命中スルトキハ直ニ爆發シテ城堡陥落ノ實況ヲ現セシ
 ム或ハ雪ニ軍艦ヲ作り之ト同シク化學的裝置ヲ設ケ一定ノ距離ヨ
 リ雪球ヲ命中シテ軍艦打ノ實況ヲ現セシム
 一 部隊行軍遊戯 此運動ハ成ルルタケ多人數ヲ中隊若シクハ小隊ニ編成
 シ某地ヨリ某地ニ行軍スルモノトシ先發隊若干人ヲシテ「カンシキ」
 ナハカシメ徒歩セシメ後方若干ノ距離ノ所ニ雪堆ヲ所持スル
 一隊ヲ出シ先發隊ノ歩行シテ後方修繕シツ、進行シ漸次後方ヨリ
 本隊續行ス斯クシテ指定セル某地ニ達スル目的トス故ニ此運動ハ
 全ク行軍ノ方法ニヨリ雪中軍思想ヲ養成シ榮テ精神ヲ勇壯ナラシ
 ムルヲ以テ目的トス
 一 雪中徒競走 普通ニ行ハル、方法ヲ以テ運動場或ハ野外ノ積雪多キ
 中ニテ行ハシムルナリ普通ニ行ハル、競走ヨリハ運動モ烈シク效果
 モ隨テ大ナリ而シテ出發點距離、決勝點等同様ナリ此運動ハ身體ヲ
 強健ニシ動作ヲ輕捷ナラシメ活潑敢爲ノ氣象ヲ養成ス
 一 一名「クロスカントリ」競走出發點決勝點ハ同一ニシテ距離ハ各
 自ノ任意トシ決勝點ハ眼界内ニ於ケル山頂若クハ顯著ナル目標或ハ
 眼界外ニ於ケル確實ナルモノトス故ニ距離ニハ障礙物多ク決勝點ニ
 達スル道多キヲ以テ最も興アリトス此運動ハ(イ)ニ於ケル效果以外
 ニ判斷推理ノ作用ヲ習練スルニアリ

縣立學校生徒喫烟禁止方注意

明治三十三年三月三十一日
 達 第十 四 號
 縣立學校

一 巡視セシメ一ヲ以テ獎勵シ一ヲ以テ其レヲシテ罰其ニ涉ルコトナ
 カラシム
 一 定期ノ雪中遊戯 積雪ノ季時(二月下旬ヲ常例トス)ニ於テ雪會ナ
 ルモノヲ校庭ニ設ク
 一 該會ハ平常生徒ノ鍛練セル忍耐力及元氣ヲ試驗スルニ足ルヘキ團體
 的競技ヲ行ハシメ其結果トシテ心膽ヲ練リ筋骨ヲ鍛ヘ敏活ナル動作
 ニ熟セシメ以テ北海男子ノ特色トスヘキ勇敢剛健ナル氣風ヲ發知ス
 ルヲ以テ目的トス又其實行ノ間ニ於テ生徒ヲシテ秩序ヲ守リ規律ヲ
 重シシ公共的精神ヲ發揮シ團體的敵愾心ヲ養成セシム又此機會ヲ利
 用シテ地方ノ重立タル人人ニ臨席ナシトシ生徒ノ父兄ヲ招待シテ該會
 ニ列セシム其ノ實施上ノ注意左ノ如シ
 一 戰隊ノ編成 全校ノ生徒ヲ二箇ノ大隊ニ別テ良ニ之ヲ小隊分隊ニ編
 分シ大隊長小隊長分隊長ヲ設ケ更ニ參謀長參謀官ニ分屬セシム別ニ
 審判官一名審判係若干名ヲ置キ職員中ヨリ之ヲ命ス幹部ハ五學年生
 ナリ以テ之ニ任シ四學年以下ヲ略ホ均等ニ相分ツテ兩軍ニ屬セシム
 隊ノ編成作戰ニ關スル方法ハ少クトモ一週前前ニ生徒ノ幹部ニ於テ
 計畫セシム 但之カタメ前日迄一時間タリトモ授業ヲ休止スルコト
 ナシ
 一 築城據城 城ハ各兩軍ノ根據トスヘキ場所ニ雪ヲ以テ築ク其距離約
 百メートル城ノ高サ約一丈三尺下部直徑約一丈上部直徑約三尺其積
 頂ニハ一方紅色他ハ白色ノ旗ヲ建ツ
 一 城ノ前方ニ兩軍各二重ノ雪塹ヲ設ケ其長サ各三丈六尺高七尺兩軍ノ
 距離約十三メートルトス
 一 城ハ當日ノ午前ニ築キ盡ヘ前日土曜ノ午後ニ遊ル各時間ヲ定メ指定
 時間以上ニ涉ラザルヲ禁ス
 一 旗章 擬戰ノ決勝ハ城上ノ旗章ニ依テ定ル午後一時戰闘開始ノ合圖
 ナリ以テ職員全體ヲ部署ニ就カシメ戰闘ヲ開始ス遊テ守ルモノ城ヲ守
 ル者遊撃スル者各別ニスルカ或ハ之ヲ一體メニシテ一氣呵成的ニ
 進撃スルカ其他步兵ノミナ用フルカ若クハ騎兵(一人ノ後ニ二人ヲ
 並ヘ後者二人ニ各片手ヲ用キテ前者ノ帶ヲ握ラシメ一人其手ノ上ニ
 騎ス)ヲ混ヘ用ユルカ持幹部ノ計畫ニ依リ兩軍ノ職員員ハ互ニ相取
 組ミ攻撃防禦其力共ニ重ノ要ヲ認レ更ニ進メテ本城ニ遊リ敵

學校生徒喫烟禁止方注意

明治三十三年三月三十一日
 達 第十 五 號

學校生徒ノ喫烟ニ關シテハ小學校ニ在リテハ生徒ノ喫烟スルコト及煙器
 ナ夾帶スルコトヲ禁スヘキ旨明治二十七年中訓示ノ次第アリ又中學校等
 ニ在リテモ實際喫烟禁止セルモノ多シ蓋シ學校生徒ノ喫烟ハ衛生上有
 ナルノミナラス風紀ニ關スルコト少ナカラス殊ニ此際未成年者喫烟禁止
 法ノ發布アリタルニ就キテハ小學校中學校及等位ノ之ニ準スヘキ學校ニ
 在リテハ取締上其ノ生徒ノ成年以下ナルト以上ナルト學校ノ内外トナ
 ハス喫烟シ又ハ煙草及煙器ヲ夾帶スルコトヲ禁止スヘシ其ノ他ノ學校ニ
 在リテモ特ニ注意ヲ加ヘ法律違反ノ者ナカラシメンコトヲ期スヘキ旨文
 部大臣ヨリ訓令有之候ニ就キテハ右訓令ノ旨趣ニ基キ一層取締嚴ニシ學
 校生徒ヲシテ荷モ背法ノ行爲ナカラシメ候條其部内公私立學校ハ通達ス
 ヘシ

學校生徒貯金規程

明治三十六年二月十日
 達 第二 二 號

郡役所 市役所 町村役場 縣立學校 郡市町村立學校
 學校生徒貯金規程左ノ通相定ム
 學校生徒貯金規程

●學齡未滿ノ兒童就學禁止方

明治二十七年十一月二十二日 訓示 第三十號 郡役所、市役所、町村役場 尋常高等小學校、尋常小學校 學齡未滿ノ幼兒ヲ學校ニ入レ學齡兒童ト同一ノ教育ヲ受ケシムルハ身心ノ發育ヲ傷害スルノ虞アリ教育上弊害鮮ナカラス然ルニ近來往往學齡未滿ノ幼兒ニシテ入學スルモノ之レアリ不都合ニ付自今一層注意シ右様ノ弊害ナカラシムルヲ要ス但學齡未滿ノ幼兒ニシテ教育ヲ受ケントスルモ多數アル場合ハ幼稚園ヲ設置シ或ハ之レヲ尋常小學校ニ附設シ相當ノ方法ニ依リ保育スヘシ

明治二十九年八月二十三日 訓示 第二十三號 郡役所、市役所

學齡未滿ノ兒童ヲ小學校ニ就學セシムルハ學校管理上ニ於テ不都合アルノミナラス兒童身心ノ發育上其害甚カラサルヲ認メ其筋ニ於テ學校衛生顧問ニ諮詢シタルニ之ヲ嚴禁スルノ必要ナルコトヲ答申セル趣ニ就キ自今深ク注意シ學齡未滿者ヲ就學セシムルカ如キコトヲキ極嚴重取締ルヘシ

明治三十二年五月七日 訓示 第十三號 郡役所、市役所、町村役場、公私立尋常高等小學校、公立尋常小學校

學齡未滿ノ幼兒ヲ學校ニ入レ學齡兒童ト同一ノ教科ヲ受ケシムルノ身心ノ發育上有害ナルコトハ論ヲ待タズ右ノ明治二十七年十一月訓示第三十號ヲ以テ訓示ノ次第モコレアリ候處父兄ノ情願等ニヨリ近來往往學齡未滿ノ幼兒ヲ入學セシムルモノコレアリ甚タ不都合ニ付自今一層注意ヲ加ヘ其弊害ナカラシムヘシ

●學齡簿ノ整理方

明治二十七年十一月十六日

明治三十七年三月二十日 達 第十九號 郡役所、市役所、町村役場、市町村立小學校

別紙様式ニ依リ市町村立小學校ニ於テハ出席通知臺帳、市役所及町村役場ニ於テハ就學及出席督促臺帳ヲ備ヘ兒童ノ就學並出席ニ關シ通知若クハ督促シタル月日及結果等ヲ記入スヘシ

Table with columns for attendance reports (出席通知臺帳), enrollment reports (就學及出席督促臺帳), and school management (就學及出席督促臺帳 乙號). Includes fields for student name, guardian, and dates.

●市町村役場ニ於テ學校兒童出席通知臺帳就學及出席督促臺帳設備方

學齡簿ハ學齡兒童ノ多寡ヲ始メ學齡ニ關スル諸般事項ヲ知悉シ就學督促及學校設備ニ關スル調査ノ基礎トナルヘキモノニシテ其調査方ハ極メテ精確ナルヲ要シ之レニ登錄スル兒童ノ順序ニ最モ注意シ學齡ニ關シ若クハ學齡ヲ終ル日限ニ拘ハラズ風雜ニ登錄シテ學齡ノ計算等ニ錯誤ヲ生シ又其加除訂正等ノ便宜ヲ缺クカ如キコトナカラシムヘキノ處間、右ノ注意ヲ缺キ調査上ノ基礎トナスニ足ラサルモノナキニテ自今別記ノ方法ニヨリ調査整理シ以テ學齡ニ關スル諸般ノ調査上不都合ナカラシムル様致スヘシ

- 一 例ハ明治十三年五月ヨリ同十四年四月マテニ出生シタル男女ノ兒童ヲ取調ヘ登錄セシモノヲ一冊トシ之レヲ明治二十年學齡簿トス此例ニ從ヒ年毎ニ冊ヲ別チ明治二十一年、二十二年、二十三年、二十四年、二十五年、二十六年ノ學齡簿ヲ作り明治二十七年ノ學齡簿ハ二十年五月ヨリ二十一年四月マテニ出生シタル兒童ヲ登錄シ即チ之レヲ本年ノ學齡簿トス
二 前ノ例ニ依リ調査スルトキハ次年ニ於テハ二十年ノ學齡簿ハ不用ニ屬シ更ニ二十年學齡簿ヲ調査スヘキモノトス
三 前ノ方法ニ依リ學齡簿ヲ調査スルトキハ例ハ本年(二十七年)中入用ナルハ明治二十年調査ヨリ明治二十七年調査マテノ八冊ナルヘシ但必スシモ八冊ニ分タルモ便宜一冊トナシテ八冊ニ區分ケト爲スモ並支ナキハ勿論ナリ又男女別チ登錄スルコトヲ得ハ一層便宜ヲ得ヘシ
四 送込及出入等留ノ届ヲ受ケルトキハ學齡簿ノ有無ヲ調査シ戸籍簿ノ加除同時ニ學齡簿ヲモ加除スヘキモノトス死亡届ヲ受ケタルトキ戸籍簿同時ニ學齡簿ヲモ削除ルハ勿論トス
五 前ノ方法ニ依リ調査シタル學齡簿ニ其キ例ハ明治二十七年十二月現在ノ學齡簿ニ對シテラシムルハ八冊ノ兒童總數ヨリ明治十三年五月ヨリ同年十二月マテニ出生ノ兒童數ヲ控除シ之レニ二十一年五月ヨリ同年十二月マテニ出生ノ兒童數ヲ加スヘキモノトス

Table for attendance notices (出席通知臺帳) with columns for student name, guardian, and dates.

- 一 不就學又ハ缺席欄ハ入學期日後七日以内ニ入學セルモノハ(何月何日)後入學セシ)又在籍兒童ニシテ正當ノ事由ナク引續キ七日間缺席シタルモノハ(何月何日)ヨリ(何月何日)ト記入スルモノトス
一 通知月日欄ハ前項缺席兒童保護者ヘ校長ヨリ出席セシムヘキ旨ヲ通知シタル月日又結果欄ハ該通知後七日以内ニ缺席シタルモノハ(何月何日)出席)出席セサルモノハ(出席セス)ト記入スルモノトス
一 報告月日欄ハ前項ノ通知ヲ受ケタル兒童期日內ニ出席セサルトキ若ハ入學期日後七日以内ニ入學セサルトキハ校長ヨリ市町村長ヘ報告ノ月日ヲ記入シ又結果欄ハ市町村長ノ督促ニ依リ入學又ハ出席シタル時(何月何日)入學若ハ出席)ト記入シ入學又ハ出席セサルトキハ(入學セス若ハ出席セス)ト記入スルモノトス
一 處分月日欄ハ科料ニ處セラレタル月日ヲ記入シ其結果欄ハ處分後七日以内ニ入學若ハ出席シタルトキハ(何月何日)入學若クハ出席)ト記入シ入學若ハ出席セサルトキハ(入學セス若ハ出席セス)ト記入スルモノトス
一 報告後入學若ハ出席報告欄ハ報告ヨリ處分後七日間マテニ入學若ハ出席シタルモノヲ市町村長ニ通知シ其月日ヲ(何月何日)報告)ト記入スルモノトス
一 備考ハ必要ノ事項アルトキ記入スルモノトス
一 完結シタルトキハ其上部欄外ニ(完結)ト朱書スルモノトス
一 報告受領月日欄ハ市町村長ニ於テ校長ヨリ不就學若ハ缺席ノ報告ヲ受領シタル月日ヲ記入シ不就學又ハ缺席欄ハ報告ノ種類ニ依リ不就學若ハ缺席ト記入スルモノトス
一 第一回督促月日欄ハ前項ノ報告ニ依リ初回督促シタル月日ヲ記入シ

室ハ掃除後五日間以上窓戸ヲ開キテ空氣及日光ヲ通セシムヘシ
十六 牀板、壁面等ニ齶隙アルモノハ此際之ヲ填塞シ風抜穴、煙突等ノ
塵埃ヲ除去スヘシ
十七 浴室、洗面所、食堂、炊事場、生徒控所、雨中體操場、便所、下
水、芥菜場等ニシテ破損アルモノハ此際盡ク修理ヲ加ヘ且大掃除ヲ行
フヘシ

丙 浸水後清潔方法

洪水ノタメ水害ヲ被リタル學校ハ開校前左ノ清潔方法ヲ施行スヘシ
十八 水ニ浸サレタル校舍殊ニ寄宿舎ノ建具牀板等ハ取外シテ空氣ヲ通
シ且牀下ノ汚物泥土ヲ除去シ場合ニ依テハ焚火、火鉢等ヲ用キテ充分
ニ乾燥セシムヘシ
十九 建具、牀板、校具、履服等ノ浸水シタルモノハ清水又ハ熱湯ヲ以
テ洗拭シタル後可成之ヲ日光ニ曝シ充分ニ乾燥セシムヘシ
二十 浸水ノ害ヲ被リタル井戸ハ必ス數回之ヲ浚渫シテ汚物ヲ除キ井戸
側ハ清水ヲ以テ洗ヒ能ク水ノ澄ミタル後ニ之ヲ使用スヘシ 但開校後
一箇月間ハ必ス其水ヲ交換シテ飲用スヘシ
二十一 右ノ外定期清潔方法ニ掲ケタル各項ヲ適宜應用スヘシ

兒童體育及衛生ニ關スル注意方

明治二十七年九月十二日
訓示 第二十三號
郡役所、市役所、町村役場、市町村立小學校、私立小學校
今般小學校ニ於ケル體育及衛生ニ關シテ文部大臣ヨリ別紙ノ通り訓令アリ
篤ク此ノ旨趣ヲ體シ兒童身體ノ發達ニ留意スヘシ
(別紙)
文部省訓令第六號

北海 道廳 府 縣

小學校ハ小學校令第一條ノ示ス所ニ依リ兒童ノ體育ニ留意シ教育ノ完成
ヲ期セサルヘカラス我國舊來ヨリ馬劍術ノ武藝盛ニ行ハレ體育ノ道ニ於テ
缺クル所ナカリシモ維新後兵制變革ノ爲或種ノ武藝ハ其ノ必要ヲ失ヒタ
ルト同時ニ體育ノ衰頹ヲ致セル事又教員及生徒カ學問知識ノ進歩ニ急ニ
シテ動モスレハ體育ノ一方ニ偏倚セル事及社會一般ノ衛生ノ必要ヲ感ス

新城學園囑託醫師職務章程

明治四十二年五月十二日
訓令 乙第百十五號
青森縣立新城學園
チ加ヘテ成ルヘク步行セシムルコトニ誘導スヘシ
明治二十七年八月二十九日
文部大臣 井上 毅

(別紙)

青森縣立新城學園囑託醫師職務章程
第一條 囑託醫師ハ左ノ職務ニ從事スヘシ
一 毎月二回園生ヲ診斷シ且學園衛生上ノ觀察ヲ爲スヘシ
二 學園ノ食事獻立ヲ調査シ意見ヲ陳述スヘシ
三 園生ノ種痘ヲ爲シ又其ノ身體検査ヲ行フヘシ
四 學園ノ課業ニシテ園生ノ精神若ハ身體ニ障害アルコトヲ認メタル
時又學園ニ收容スルノ不適當ニシテ退園ノ必要ヲ認メタル時ハ直ニ
之ヲ園長ニ申告スヘシ
五 園内ニ患者發生シタル場合ハ臨時ニ之ヲ診察シ且其經過後並處遇
法等ニ就キ園長ニ意見ヲ陳述スヘシ
第二條 前條ノ外明治三十一年二月文部省令第六號學校醫職務規程ニ準
據スルモノトス

市町村立學校醫ノ囑託及解囑ニ關スル規程

明治三十一年三月二日
達 第十 四號
郡役所、市役所、町村役場
市町村立學校ニ置クヘキ學校醫ノ囑託及解囑ニ關スル手續左ノ通相定ム
第一條 學校醫ヲ囑託セントスル時ハ明治三十一年文部省令第七號ノ資
格ヲ有スル者ニ就キ履歷書及學校名手當金額ヲ具シ管理業者ヨリ知事ニ
具申スヘシ
但町村ハ當該郡役所ヲ經由スヘシ

コト未タ深切ナラサル事是等數多ノ原因ノ爲ニ各般ノ學校ニ於ケル體育
及衛生ノ方法ハ仍不完全ナルヲ免レス殊ニ小學校教育ノ時ハ方ニ身體發育
ノ期ニ當リ一タヒ傷害ヲ受クルトキハ其ノ患ハ終身ニ及ヒ哀ムヘキノ情
況ヲ呈セントス今小學校ニ於ケル體育及衛生ニ關シ訓令スルコト左ノ如
シ
一 體育ハ及フタケ活潑ナル運動ヲ課スルヲ要スヘク普通體操ニ於テモ
亦兵式體操ト同ク手足及全身筋力ノ運動ヲ活潑ニシ氣血ノ代謝ヲ促
スト同時ニ生徒自己ニ於テ意氣快活ヲ覺ユルノ效果アラシムヘシ體
操ノ弊ハ或ハ死法ニ流レ姿勢ヲ整ヘ並列ヲ正ス力爲ニ許多ノ時間ヲ
費シ却テ生徒ヲシテ厭倦ノ氣ヲ生セシムルニ至ル此ノ如キハ却テ體
操ノ精神ヲ失フモノナリ
二 高等小學校男生徒ニハ兵式體操ヲ課スルノ際車軟ヲ用キ體操ノ氣勢ヲ
壯ニスルコトアルヘシ又隨意科トシテ簡單ナル器械體操ヲ授クヘシ
三 小學校生徒ハ活潑ナル運動ニ便スル爲ニ不得已場合ノ外學校内ニ於
テハ洋服又ハ和服ヲ穿テ運動スルニ終ラシムヘシ
四 放課時間ニ於テ行立閑語ヲ禁ズルニ終ラシムヘシ又カラス男女トナ
ク成ルヘク活潑ニ大氣中ニ運動スルノ遊戯ヲ誘フヘシ或ハ大聲急走
遊戯ノ態ヲ以テ生徒ノ不良事ト爲シ沈靜ヲ以テ品行點ニ加フルカ如
キハ當テ得タルモノニアラス
五 生徒ヲシテ筆記及諸師ヲ務メシムルハ過度ニ腦力ヲ勞セシムルモノ
ナレハ特ニ必要ノ場合ノ外之ヲ用キサランコトヲ要ス
六 小學校ノ課業ノ中生徒ノ尤モ困難ヲ感スル者ハ作文トス初級ノ生徒
ニハ作文ヲ授クヘカラス若シ簡單ナル作文ヲ授クルモ此ヲ以テ試驗
ノ問題トスヘカラス
七 小學校ニ於テ施行スル所ノ試驗法ハ或ハ衰弱ノ意味ニ偏シ點數ニ依
リテ毎期席順ヲ上下シ又ハ賞與ヲ與フル等過度ニ生徒ノ神經ヲ刺戟
スルノ弊アリ此レ獨リ普通教育ノ主義ヲ誤ルノモノナラス亦生徒ノ體
育ヲ害スル者ナリ自今各學校ハ試驗ニ依レル席順ノ上下ヲ廢スヘシ
但各級ニ優等生若干人ヲ選拔シ以テ獎勵ヲ示スコトヲ妨ケサルヘシ
八 小學校ニ於テ生徒ハ與綱スルコト及烟毒ヲ夾帶スルコトヲ禁スヘシ
華奢安逸ハ自然ニ軟弱ヲ招クモノナリ都會ノ生徒ノ學校ニ往來スル
者或ハ車ニ乘ルカ如キハ學校紀律ノ外ニ係ルト雖校長及教員ハ注意

生徒ノ身體検査報告方

明治三十一年三月二日
達 第十 五號
郡役所、市役所、町村役場、市町村立學校
明治三十一年二月文部省令第六號學校醫職務規程第五條ニ依リ學校ニ於
テ生徒ノ身體検査シタルトキハ郡ハ郡ハ管理業者及郡役所、市ハ管理業者ヲ經
由シ翌月十日限當廳ヘ報告スヘシ

學校醫ヲ置クヲ得サル町村立學校ノ許可稟請方

明治三十一年三月二日
達 第十 六號
郡役所、町村役場
特別ノ事情アリテ當分ノ內學校醫ヲ置クヲ得サル町村立學校及人口五千未
滿ノ町立學校ハ管理業者ヨリ其事由ヲ具シ郡役所ヲ經由シテ許可ヲ受クヘ
シ

縣立學校生徒ノ身體検査報告方

明治三十一年三月二日
達 第七十八號
縣立學校
明治三十一年二月文部省令第六號學校醫職務規程第五條ニ依リ生徒ノ身
體検査シタルトキハ翌月十日限當廳ヘ報告スヘシ

學生生徒身體検査統計表差出方

明治三十九年四月十三日
訓令 甲 第十四號
郡役所、市役所、公立學校、私立學校
明治三十三年三月文部省令第四號學生生徒身體検査規程第七條ニ依リ學
校長ヨリ報告スヘキ身體検査統計表ハ自今二通ヲ差出スヘシ

平均一日患者	在校生徒人員	平均一日在校生徒	平均一日在校生徒	平均一日在校生徒	病外(十)										病耳(九)	
					皮膚	骨	筋	肉	其	癩	癰	潰	非寄生性皮膚病	寄生性皮膚病	其	內
					皮膚	骨	筋	肉	其	癩	癰	潰	非寄生性皮膚病	寄生性皮膚病	其	內

學年無病生徒
學年間治療費

樣式說明

一 每年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル一學年間に於ケル表式ノ事項ヲ調査シ各學年ニ分チ調査スルモノトス

二 男生徒及女生徒ヲ教授スル學校ニ在テハ男女ニ分チ調査スル者トス

三 患者ハ醫師ノ治療ヲ受ケタルモノトス 但輕症ニシテ三日以内ニ治愈シ若シ一日以上ノ學課休ミナサハル者ハ之ヲ算スヘカラス

四 舊患者ハ前學年ノ後遺患者ヲ新患者ハ學年中新ニ疾病ニ罹リタル者ヲ指スモノトス

五 一人ニシテ同時ニ二種以上ノ疾病ニ罹リタル者ハ其主症ニ就キ指ク併發病、繼續病ニシテ原症ヨリ重症トナリ病名ヲ改メタル場合ニ於テハ原症ノ轉歸ヲ事故トシ併發病繼續病ヲ新ニ患者トナスモノトス

六 「其他」ノ欄ニハ各病類ノ當該欄ニ明示ナキモノヲ記入スルモノトス

七 各病類ノ計數ハ朱書スルモノトス

八 校内治療ヨリ校外治療ニ又校外治療ヨリ校内治療ニ移リタル者ハ各一人トシ指スモノトス故ニ校内及校外治療人員ノ計數ハ舊新患者ノ合計ト符合セサルコトアルヘシ 但校外治療ハ學校ヨリ之ヲサシメタル者ノミナ指クヘシ

九 平均一日患者ハ患者延人員ヲ其治療日數ヲ以テ除シタル商ヲ指スモノトス

十 在校日數ハ生徒ノ在校日數ヲ除タルモノニシテ夏期休業冬期休業等ニ依リ生徒ノ在校日數ノ之ヲ除クモノトス

十一 在校生徒延人員ハ在校日數中日ノ在校生徒及校外治療生徒ヲ積算シテ指スモノトス

十二 平均一日在校生徒ハ在校日數ヲ以テ在校生徒延人員ヲ除シタル商ヲ指スモノトス

十三 一學年間に患者一人平均治療日數ハ其學年間に患者延人員ヲ以テ其治療日數ヲ除シタル商ヲ指スモノトス

●肺結核及「トラホーム」豫防ニ關シ
學校ニ於ケル注意要項

十四 一學年間に在校生徒平均一日患者ハ其學年間に在校生徒延人員ニ對シ患者延人員ヲ比例シ指スモノトス

十五 一學年間に無病生徒ハ其學年間に全ク醫師ノ治療ヲ受ケサル者ノ數ヲ指スモノトス 但學年ノ中途ニ於テ入學シタル生徒ニシテ無病ノ者モ亦之ヲ算入スヘシ

十六 一學年間に治療費ハ其學年間に治療費ヲ以テ支出シタル決算額ヲ指スモノトス

十七 平均一日患者平均一日生徒一學年間に患者一人平均治療日數同在校生徒平均一日患者ハ單位以下二位ニ一學年間に治療費ハ單位ニ止メ四拾五入スヘシ

十八 備考ノ部ニハ學校ノ主任醫師ニシテ學校ニ存在スル最多ノ疾病ノ原因及豫防等ニ關スル意見等ヲ記述セシメ得學校醫ノ意見アルモノハ之ヲ附記セシムヘシ

肺結核及「トラホーム」ハ其傳播性ナキ病勢年々蔓延ノ狀態アルハ國民衛生上實ニ苦心スヘキコトニ屬ス特ニ學校ニ在リテハ傳染ノ機會多カルヘキニ付平素之ニ對スル方法ヲ講ルコト極メテ肝要ナリ依リテ豫防等ニ關スル事項左ノ通相定ム各當事者ハ精細實施上ニ注意シ好結果ヲ擧ケンコトヲ期スヘシ

一 肺結核豫防ニ關スル要項

第一條 學校ニ於テハ明治三十七年內務省令第一號ニ依リノ外向屋外體操場ニ適當箇數ノ唾壺ヲ配置シ同令第一條第三項ニ準シ取扱フヘシ

第二條 咳嗽、喀痰アル生徒及兒童ハ學校醫又ハ醫師ノ診斷ヲ受ケシメ其傳染性ノモノ又ハ重症ノモノハ出校ヲ停止スヘシ

前項ノ生徒及兒童出校セントスルトキハ學校醫又ハ主治醫師ノ診斷ヲ受ケシムヘシ

明治三十七年三月三十一日
訓示 第七號
那役所、市役所、町村役場
公立學校、私立學校

第三條 密閉會ニ於テハ咳嗽喀痰アル生徒及兒童ハ成ルヘク之ヲ別室ニ收容スヘシ

第四條 咳嗽、喀痰アル生徒及兒童ト他生徒トノ間ニハ書籍及器具ノ貸借ヲ禁スヘシ

第五條 筆、鉛筆、貨幣其ノ他紙幣ノ如キ病源媒介ノ虞アル物品ハ之ヲロニシ又ハ書籍ヲ掃クニ當リ指ニ唾スルコトヲ避ケシムヘシ

第六條 體操、遊戯、沐浴、海水浴、冷水療、擦浴沐浴水浴及薄着ノ類ハ成ルヘク之ヲ獎勵シ熱氣ノ場合ヲ除クノ外之ヲ嚴禁スヘシ

第七條 學校及家庭ニ於テハ特ニ左ノ諸點ニ注意セシムヘシ

一 傳染性疾患アル家ニ近ツカサルコト

二 自家ニ於テ咳嗽アル患者ヲ生シタルトキハ水ヲ入レタル唾壺ニ吐出セシメ十分消毒シタル上投棄スルコト

三 紙又ハ布片ニテ咳嗽等ヲ取リタルトキハ唾壺又ハ汚物ニ入レ又ハ散亂セサル様戶外ノ地上ニ之ヲ集メ置キ時時燒却スルコト

四 傳染性疾患アル患者ノ飲食器、什器及衣服ハ健康者ノ物ト區別スルコト

五 衣服特ニ皮膚ニ接觸スルモノハ洗濯ノ上乾燥セルモノト時時交換スルコト

二「トラホーム」豫防並治療ニ關スル要項

第八條 「トラホーム」患者アル學校ニ於テハ學校醫ヲシテ簡檢査ヲ行ハシムヘシ

學校醫ナキ學校ニ於テハ便宜醫師ニ囑託シテ前項ノ檢査ヲ行ハシムヘシ

第九條 學校(市町村立小學校ヲ除ク)ニ於テハ「トラホーム」ニ罹レル生徒及兒童治療ノ方法ヲ設クヘシ市町村ニ於テハ兒童ヲシテ小學校又ハ家庭ニ於テ成ルヘク日無料若ハ低廉ナル費用ヲ以テ治療ヲ受ケシムヘキ方法ヲ設クヘシ

第十條 學校ニ於テハ時宜ニ依リ醫師ト協議シ職員ニ於テ簡單療法ヲ施行スルコトヲ得

第十一條 「トラホーム」患者アル學校ニ於テハ成ルヘク左ノ各項ヲ實行スヘシ

一 重病患者ハ出校ヲ禁止スルコト

種別	明治 一 年度 管内學事年報乙號表											備考		
	十一級	十級	九級	八級	七級	六級	五級	四級	三級	二級	單級	圖書閱覽	圖書冊數	卒業者
	私立	市立	市立	市立	市立	市立	市立	市立	市立	市立	市立	和洋	和洋	男女
小學														
高等小學														
二年級														
三年級														
四年級														
五年級														
六年級														
合計														

明治 一 年度 管内學事年報乙號表

種別	二 加設科目ヲ課スル市町村立私立小學校表											備考		
	裁縫	裁縫	手工	手工	手工	手工	手工	手工	手工	手工	手工	合計	最多級ノ有スル	一級ノ級數
	私立	市立	市立	市立	市立	市立	市立	市立	市立	市立	市立	市立	市立	市立
裁縫														
裁縫														
手工														
手工														
手工														
手工														
手工														
合計														

二 加設科目ヲ課スル市町村立私立小學校表

種別	校學第徒											備考		
	卒業	生	教	卒業	生	教	卒業	生	教	卒業	生	圖書閱覽	圖書冊數	卒業者
	私立	市立	市立	私立	市立	市立	私立	市立	市立	私立	市立	和洋	和洋	男女
農業補習校														
工業補習校														
入學志願者														
生徒														
教員														
卒業生														
合計														

種別	校學種各											備考		
	各種	其他	各種	各種	各種	各種	各種	各種	各種	各種	各種	合計	最多級ノ有スル	一級ノ級數
	私立	市立	市立	私立	市立	市立	私立	市立	市立	私立	市立	市立	市立	市立
各種														
其他														
各種														
各種														
各種														
各種														
合計														

四 公立學校職員國庫納金費支出表

備考	種別	納金				計	種別	支出				計	備考
		公立中學校	公立高等女學校	公立專門學校	公立實業學校			公立中學校	公立高等女學校	公立專門學校	公立實業學校		
	村納市町						退職給與金						
	職員納金												
	公立中學校												
	公立高等女學校												
	公立專門學校												
	公立實業學校												
	其ノ他ノ公立學校												
	合計												

右丁號表每統計年度ノ調査ニ依リ翌年度九月十五日限り差出スヘシ

甲 學事年報諸表樣式說明

一 第一學事統計表

學齡兒童ハ本籍ト寄留トナ間ハ現住ハ中年度末ニ於テ年齡六歲一月ヨリ滿十四歲マテノ兒童ノ數ヲ掲クヘシ但シ年齡ハ月ヲ以テ計算スヘシ例セハ明治三十三年年度末調査ニ於テハ明治二十年四月生ヨリ同二十年三月生マテノ現住者ヲ掲クヘシ

未ダ就學ノ始期ニ達セサル者ハ學齡兒童中其ノ年度内四月ニ於テ未ダ六歲一月ニ達セサル者ノ現住者ヲ掲クヘシ例セハ明治三十三年年度末調査ニ於テハ明治二十七年五月生ヨリ同二十八年三月生マテノ現住者ヲ掲クヘシ

就學歩合ノ計算ハ單位以下二位ニ止メ四捨五入スヘシ

小學校

學校ハ年度末現在ノ數ヲ掲ケ分教場アルトキハ尋常小學校若ハ高等小學校ノ全科ヲ置クモノト其一部ヲ置クモノトナ區別シ適宜ノ符號ヲ付スヘシ又補習科ヲ置クモノハ補ノ字ヲ付シ私立小學校中代用ニ係ルモノハ代ノ字ヲ付シ區別シテ之ヲ掲クヘシ其ノ教員、兒童、入學兒童、卒業生亦同シ

小學校合施行規則第三十四條ニ依リ學校ハ其ノ設立ノ區別、本校、分教場ヲ區別シ各其數ヲ備考ノ欄ニ掲クヘシ

學級ハ年度内三月一日現在數ヲ掲クヘシ

教員ハ年度末ノ人員公立學校ニ在リテハ掲ケ尋常高等小學校ノ教員ニシテ其受持兩教科ニ涉ル者ハ除ク時數ノ多キ方ニ掲ケ其ノ時數同シキトキハ高等ノ方ニ掲クヘシ市町村立小學校教員ニシテ他ヨリ兼メタルモノハ兼メテ掲クヘシ又代用教員中小學校教員免狀有スル者アルトキハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ

兒童ハ學籍ニ在ル者ニシテ年度内四月一日ヨリ三月一日ニ至ル間全ク出席セサル者ヲ除キ年度内三月一日ノ現住者ヲ掲クヘシ

入學兒童ハ年度内ニ始メテ第一學年ニ入學シタル者ノ總數ヲ掲クヘシ卒業生ハ年度内卒業シタル者ノ總數ヲ掲クヘシ

兒童、入學兒童、卒業生ノ中外國人ニ係ル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ

日日出席兒童平均數ハ年度内ニ於ケル日日ノ出席兒童數ヲ通算シ年度内ニ於ケル總教授日數ヲ以テ除シタル數ヲ掲クヘシ但シ補習科ニ係ルモノハ之ヲ除クヘシ又計算ハ單位以下二位ニ止メ四捨五入スヘシ

日日缺席兒童平均數ハ年度内ニ於ル日日ノ缺席兒童數ヲ通算シ年度内ニ於ル總教授日數ヲ以テ除シタル數ヲ掲クヘシ但シ補習科ニ係ルモノハ之ヲ除クヘシ計算ハ單位以下二位ニ止メ四捨五入スヘシ

幼稚園

園、保母、幼兒保育滿期ハ總テ小學校ノ例ニ準シテ掲クヘシ

盲聾學校

學校、教員、生徒卒業生ハ總テ小學校ノ例ニ準シテ掲クヘシ但シ生徒中普通及技藝ノ兩科ヲ修ムル者ハ主タル一方ニ於テ適宜ノ符號ヲ付シテ掲クヘシ卒業生同シ

小學校ニ類スル各種學校

小學校ニ類スル各種學校ハ學校ノ目的及學科程度等小學校ニ準スヘキモノヲ掲ケ學校、教員、生徒、卒業生ハ小學校ノ例ニ準シテ掲クヘシ

第一學事統計表中學齡兒童及小學校ニ係ルモノハ市ニ在リテハ市ノ欄ニ依リ市ノ全部、郡ニ在リテハ郡ノ欄ニ依リ町村ニ分テ各町ニ區別シ村ハ各々合算シテ掲クヘシ但シ町村組合、町村學校組合又ハ其區ニ於テ設置スル小學校ニ係ルモノハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ其學校ノ所在地ニ依リ町又ハ村ノ欄ニ掲クヘシ

二 第二學事統計表

中學校

學校ハ年度末現在ノ數ヲ掲ケ生徒ハ年度内三月一日ノ現住者ヲ掲ケ入學志願者ハ其年度ニ於テ入學セシムル爲行ヒタル第一學年生徒募集ニ應ジタル者ノ數ヲ掲ケ入學者ハ年度内ニ第一學年ニ入學シタル者ノ數ヲ掲ケ卒業生ハ年度内ニ卒業シタル者ノ數ヲ掲クヘシ教員ハ年度末ノ人員公立學校ニ在リテハ掲ケ中學校教員免狀有スル者ハ有資格ノ欄ニ其ノ他ノ教員ハ總テ無資格ノ欄ニ掲クヘシ但シ公立學校教員中其ノ學校職員若クハ他ヨリ兼メタル者アルトキハ兼メテ掲クヘシ又生徒、入學者、卒業生ノ中外國人ニ係ル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ

高等女學校

學校ハ年度末現在ノ數ヲ掲ケ生徒、入學志願者、入學者、卒業生、教員ハ中學校ノ例ニ準シテ掲クヘシ但シ無資格教員中小學校本科正教員ノ免狀有シ第二學年以下ノ教授ヲ擔任スル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ又生徒、入學者、卒業生ノ中外國人ニ係ル者ハ中學校ノ例ニ準シテ掲クヘシ

專門學校

專門學校ハ醫學、藥學、政治學、法律學、經濟學、文學、倫理、哲學、教育等ヲ含ム但シ中學校ノ學科程度ヨリ高等ナルモノハ其ノ他ノ專門學校ノ學科程度ヨリ高等ナルモノノ欄ニ掲クヘシ

ノ學科 中學校ノ學科程度ヲ專門トシテ授クルモノヲ掲クヘシ
學校ハ年度末現在ノ數ヲ掲ケ生徒、入學志願者、入學者、卒業生ハ中
校ノ例ニ準シ教員ハ年度末ノ人口ニ依リテナリテナリトシ但シ公
立學校教員中其ノ學校職員若ハ他ヨリ兼メタル者アルトキハ朱書ヲ以テ
掲クヘシ又生徒、入學者、卒業生ノ中外國人ニ係ル者ハ中學校ノ例ニ
準シテ掲クヘシ

實業學校

學校ハ年度末現在ノ數ヲ掲ケ生徒、入學志願者、入學者、卒業生ハ中
學校ノ例ニ準シ教員ハ專門學校ノ例ニ準シテ掲クヘシ但シ其ノ學校中
甲種實業學校ニ乙種實業學校ノ學科ヲ併置シタルモノニ在リテハ甲種
學校ノ欄ニ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
商業學校ニ商業學校ノ學科ヲ併置シタルモノニ在リテハ學校、教員、
生徒、入學志願者、入學者、卒業生トモ適宜ノ符號ヲ付シテ各々當該
ノ部ニ掲クヘシ但シ其ノ教員中商業學校ノ教科ト船舶學校ノ教科トヲ
教授スル者アルトキハ其ノ教授時數ノ多キ方ニ掲ケ其ノ時數同シキト
キハ商業學校ノ部ニ掲クヘシ
工業學校ニ徒弟學校ノ學科ヲ併置シタルモノハ實業補習學校中工業
農業、商業、水産又ハ船舶ノ二學科若ハ三學科ヲ併置シタルモノニ在
リテハ前項ノ例ニ準シテ掲クヘシ
生徒、入學者、卒業生ノ中外國人ニ係ル者ハ中學校ノ例ニ準シテ掲ク
ヘシ
蠶業學校、山林學校、獸醫學校、水産學校等ニ係ルモノハ農業學校ノ
部ニ掲クヘシ
農業學校、商業學校、船舶學校中甲種學校ノ程度ヨリ高キモノハ總テ
甲種ノ部當該欄ニ於テ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
工業學校中明治三十二年文部省令第八號第十條ニ依リ設置シタル學校
ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ

各種學校
中學校、高等女學校ニ類スル各種學校ハ學校ノ目的及學科程度等中學校
校又ハ高等女學校ニ準スヘキモノヲ掲ケ其ノ他ノ各種學校ハ小學校中
月俸額人員ハ年度末ノ現在ニ依リテ除クニ就キ之ヲ掲クヘシ
最多月額、最多月額ハ年度末ニ於ケル各教員最多額及最寡額ヲ掲ケ其
ノ平均月額ハ年度末ニ於ケル各教員ニ對スル月俸ノ總額ヲ其ノ教員數
ヲ以テ除シタル額ヲ掲クヘシ
明治三十三年文部省令第十四號第四百八條但書第四百九條第五百
十條第五百六十六條ニ依リモノニシテ掲クヘキ當該欄ナキトキハ其ノ俸
給額ノ欄ニ設ケテ掲クヘシ五百五十一條ニ依リモノハ合算シテ掲クヘシ

四 市町村立小學校授業料表
授業料ヲ徵收スル學校ニ就キ年度末三月一日ノ現在數ヲ掲クヘシ但シ
尋常高等小學校ニ係ルモノハ尋常高等ニ分チ各々適宜ノ符號ヲ付シ區
別シテ掲クヘシ又補習科ニ係ルモノハ計入スヘカラス
授業料最多月額、最多月額ハ年度末三月一日ニ於ケル兒童ノ授業料中
最多額及最寡額ヲ掲クヘシ但シ明治三十三年文部省令第十四號第七
十九條第八十條ノ規定ニ依リ授業料ヲ増減シ又ハ其ノ一部ヲ免除シ
タルモノハ之ヲ掲クヘカラス
授業料平均月額ハ年度末三月一日ニ於ケル各兒童ノ授業料月額總計ヲ
授業料納ムル兒童ノ總數ヲ以テ除シタル額ヲ掲クヘシ
授業料免除兒童ハ年度末三月一日ニ於ケル現員ヲ掲クヘシ

五 公立中學校高等女學校專門學校實業學校
生徒卒業後ノ狀況表
前年度内ニ卒業シタル者ニ就キ年度末ノ現況ヲ掲クヘシ但シ一人ニ
シテ二種以上ノ事項ニ涉ルモノアルトキハ適宜ノ符號ヲ以テ各當該欄
内ニ於テ區別シテ掲ケ合計ノ部ニハ實人員ヲ掲クヘシ
六 學齡兒童中盲啞者表
年度末ニ於ケル現員ヲ掲クヘシ

七 學校醫表 (第一)
年度内三月一日ニ於ケル學校醫ノ現員並其ノ擔任セル學校數ヲ掲ケ其
ノ手當年額ハ現員ニ對スル年額ヲ掲クヘシ但シ日當額ヲ給スル者アルト
キハ年度内出勤日數ヲ概定シ之ヲ日當額ニ乘シタルモノヲ掲クヘシ又
一人ニシテ二校以上ニ從事スル者ハ各校一人トシテ掲クヘシ又分校ハ
一學校トシテ計入スルヲ要ス
人員中手當額ヲ給セサルモノハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ

八 學校醫表 (第二)
學校醫ノ資格ニ基キ年度内三月一日ニ於ケル其ノ擔任ノ學校數、生徒
又ハ兒童數、年度内四月一日ヨリ三月一日ニ至ル觀察回數ニ依リ區別
シテ各人員ヲ掲クヘシ但シ一校ニシテ二人以上ノ學校醫ヲ置キタル場
合ニ在リテハ擔任ノ生徒又ハ兒童ハ其ノ學校醫ノ數ヲ以テ生徒又ハ兒
童ノ總數ヲ除シタル數ニ依リ掲クヘシ醫術開業免狀ヲ有スル者ハ明治
十六年布告第三十五號醫術免狀規則第二條又ハ第四條ニ依リ免狀ヲ
有スル者ヲ掲クヘシ但シ第四條ニ依ル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ
掲クヘシ又分校ハ一學校トシテ計入スルヲ要ス
擔任ノ最多學校數、最多生徒又ハ兒童數ヲ備考ノ欄ニ掲クヘシ

九 學校醫表 (第三)
本表ハ凡テ前二表ノ例ニ依リ掲クヘシ

十 中學校高等女學校實業學校生徒學年別表
年度内三月一日ノ現在生徒ニ就キ各學科ニ依リ各校各別ニ掲クルモノ
ニシテ一學校ニシテ本校、分校、附屬學校等ノ區分アルモノハ又各別
ニ掲クヘシ但シ實業學校ニ就キテハ男女ニ區別シテ掲クヘシ
本表ニハ實業補習學校ニ係ルモノハ掲クヘカラス

丙 號表
一 公立諸學校表
學校ハ年度末ノ現在ニ依リ各校各別ニ掲クルモノトシ一學校ニシテ本
校、分校、附屬學校等ノ區分アルモノハ又各別ニ掲クヘシ但シ小學校
ニ係ルモノハ之ヲ掲クヘカラス
學科ハ年度内三月一日ノ現在ニ依リ中學校、高等女學校、專門學校、
實業學校等ニシテ二種以上ノ學科課程ノ設ケアルモノハ各別ニ之ヲ掲
ケ實業學校中農業學校、商業學校、船舶學校ニ就キテハ甲種若クハ乙
種ナルコトヲ附記シ工業學校、農業學校、商業學校、船舶學校中更ニ
高等ナル學校ニ係ルモノハ適宜ノ符號ヲ付スヘシ
各種學校ニ在リテハ其ノ授クル學科目ヲ列記スヘシ但シ五科目以上ヲ
授クルモノハ其ノ重ナル五科目ヲ掲ケ其ノ他ノ外餘科目ヲ附記スヘシ
教員ハ年度末ノ人口ハ公立學校ニ在リテハ公立學校教員中
其ノ學校職員若ハ他ヨリ兼メタル者アルトキハ朱書ヲ以テ掲クヘシ又外國人ハ
其ノ國名ヲ附記スヘシ

乙 號表
一 學級別市町村立私立小學校表
年度内三月一日ノ現在ニ依リ掲クヘシ
尋常高等小學校ハ其ノ全校ノ學級數ニ依リテ掲ケ更ニ之ヲ尋常高等ニ
別テ尋常小學校高等小學校ノ部ニモ朱書ニテ掲クヘシ
十三學級以上ノ學校ニ在リテハ一學級ヲ加フル毎ニ區別シテ空欄ノ部
ニ掲クヘシ
分教場ニ係ルモノハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
補習科ノ學級數ハ計入スヘカラス但シ補習科ノ教授時間ヲ正教科ノ教
授時間内ニ定メタルモノハ此ノ限リニ在ラス
年度末ノ現在ニ依リ掲クヘシ
尋常小學校ニ係ルモノハ尋常高等ニ分チテ掲ケ又裁縫及裁縫手工ノ欄
ニハ高等小學校ニ係ルモノハ掲クヘカラス
英語ノ欄ニハ單ニ英語ヲ課スル學校ヲ掲ケ英語ト其ノ他ノ科目トヲ併
セ課スル學校ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
補習科ノ欄ニハ補習科ノ教科目中文ニ本表ニ所謂加教科目アルモノハ總
テ其ノ數ヲ掲クヘシ

三 市町村立小學校教員俸給別表

學校又ハ高等女學校ニ類セス且ツ專門學校、實業學校等ニアラサル學
校ヲ掲クヘシ
學校ハ年度末現在ノ數ヲ掲ケ生徒、卒業生ハ中學校ノ例ニ準シ教員ハ
專門學校ノ例ニ準シテ掲クヘシ又生徒、卒業生ノ中外國人ニ係ル者ハ
中學校ノ例ニ準シテ掲クヘシ
圖書館
圖書館數ハ年度末ノ現在數ヲ掲ケ開館日數、閱覽人員ハ年度内ニ
於ケル總日數及總人員ヲ掲クヘシ
學校等ニ附屬スル圖書館ト雖モ公衆ノ閱覽ヲ許スモノハ總テ之ヲ計入
スヘシ但シ閱覽人員中ニハ本校職員及生徒ハ之ヲ算入スヘカラス
第二學事統計表中町村學校組合若ハ町村學校組合ノ設置ニ係ルモノハ適
宜ノ符號ヲ付シ區別シテ其ノ學校ノ所在地ニ依リ町立又村立ノ欄ニ掲ク
ヘシ

一 學級別市町村立私立小學校表

年度内三月一日ノ現在ニ依リ掲クヘシ

尋常高等小學校ハ其ノ全校ノ學級數ニ依リテ掲ケ更ニ之ヲ尋常高等ニ

別テ尋常小學校高等小學校ノ部ニモ朱書ニテ掲クヘシ

十三學級以上ノ學校ニ在リテハ一學級ヲ加フル毎ニ區別シテ空欄ノ部

ニ掲クヘシ

分教場ニ係ルモノハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ

補習科ノ學級數ハ計入スヘカラス但シ補習科ノ教授時間ヲ正教科ノ教

授時間内ニ定メタルモノハ此ノ限リニ在ラス

年度末ノ現在ニ依リ掲クヘシ

尋常小學校ニ係ルモノハ尋常高等ニ分チテ掲ケ又裁縫及裁縫手工ノ欄

ニハ高等小學校ニ係ルモノハ掲クヘカラス

學校數、生徒ハ年度内三月一日ノ現在數ヲ掲クヘシ
授業料及經費ハ私立學校ニ係ルモノノミヲ掲クヘシ
學校長ノ欄ニハ學校長ヲ置カサル學校ニ就キテハ首席教員ヲ掲クヘシ
ノ符號ヲ以テ學校長ト區別スヘシ

二 公私立幼稚園表
幼稚園ハ年度末ノ現在ニ依リ各園各別ニ掲クヘシ
保母ハ年度末ノ人員ヲ掲ケ細數、幼兒ハ年度内三月一日ノ現在數ヲ掲
ケ保育料、經費、園長ハ前表ノ例ニ準シテ掲クヘシ

三 公私立圖書館表
圖書館、圖書ハ年度末ノ現在ニ依リ各館各別ニ掲ケ學校等ニ附屬スル
圖書館ト雖モ公衆ノ閱覽ヲ許スモノハ總テ之ヲ掲クヘシ但シ學校等ニ
附屬スル圖書館ニハ適宜ノ符號ヲ付スヘシ
閱覽料、經費ハ私立ニ係ルモノノミヲ掲クヘシ
丙號表中明治三十三年勅令第百三十六號ニ依リ設立シタル學校、幼稚園、
圖書館ニハ適宜ノ符號ヲ付スヘシ

丁 號表

一 公學費表

年度内ニ於テ支出シタルモノヲ掲ケ經費支辨ノ區別ニ從ヒ郡、
市町、村ノ各表ニ分テ掲クルモノトス表題ニ郡若クハ町村ト記入ス
ヘシ
學校、幼稚園、圖書館等ニシテ他ノ學校ノ附屬ニ係ルモノハ總テ之ヲ
本校ニ計入スヘシ
甲種實業學校ニ乙種實業學校ノ學科ヲ併置シタルモノニシテ其ノ收支
ノ分割シ難キモノハ甲種ノ欄ニ於テ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘ
シ
圖書館ノ下「其」他ノ部ニハ教員講習學務委員ニ關スルモノ、如キ學
校、幼稚園、圖書館ノ各部ニ屬セサルモノヲ掲ケ且此部ノ費額ハ備考
ノ欄ニ於テ別ニ其ノ種類ヲ分テ各總額ヲ列記スヘシ
中學校、高等女學校ニ係ルモノニシテ教諭助教諭ニアラサル教員ノ俸
給ハ代用教員俸給ノ欄ニ掲クヘシ但シ當該學校教員免許狀ヲ有スル者
アルトキハ其俸給ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
雜給ノ事務員手工農學等ニ關スル職工、農夫、小使門番ノ給料及臨時

使役ノ人夫賃等ヲ掲クヘシ
生徒給費ハ生徒ニ給シタル學費金額ヲ掲クヘシ
又貸費金額ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ本欄ニ掲クヘシ
新營費ノ内ニハ敷地買入代ナモ計入スヘシ
其ノ他ノ諸費ハ前表ノ欄ニ入ラサル總テノ費額ヲ掲ケ恩給ニ關スル
郡、市、町、村ノ納金亦茲ニ計入スヘシ
收入ノ部ニハ非常高等小學校ノ授業料ハ之ヲ非常高等ニ區別シテ記入
シ又米穀其ノ他ノ物品等ニシテ金額ニ換算シタルモノハ總テ計
入スヘシ金額ノ計算ハ四捨五入シテ圓ニ止ムヘシ

二 公學資產表
年度末ノ現在ニ依リ前表ノ例ニ準シ郡、市、町、村ノ三表ニ分テ掲ケ
又附屬學校等ニ係ルモノハ同表ニ準シテ掲クヘシ圖書館ノ下「其」他」
トアル亦同シ
家屋坪數ニハ二階三階等ノ坪數ヲモ合算シテ掲クヘシ
土地、家屋、圖書器械標本、器具ノ價格ハ時價ヲ以テ掲クヘシ屋外遊
樂場ハ敷地トシテ計入スヘシ
學校基本財産中前種別ノモノト重複スルモノ亦之ヲ掲クヘシ又金額中
ニハ公債證書其ノ他ノ有價證券モ時價ヲ以テ記入スヘシ
金員及坪數ノ計算ハ四捨五入シテ圓又ハ坪ニ止ムヘシ

三 公立諸學校幼稚園圖書館收支表
年度末現在ノ學校、園、館ニ就キ各別ニ年度内ニ收入シ支出シタルモ
ノヲ掲ケ其ノ收入ニ關スルモノハ公學費表ノ例ニ準シテ掲クヘシ但シ
實業學校ニ在リテハ學校ニ屬スル收入ノ中作製品賣場代價ヲ區別シテ
掲クヘシ
金員ノ計算ハ四捨五入シテ圓ニ止ムヘシ
本表ニハ小學校ニ係ルモノハ掲クヘカラス

四 公立學校職員國庫納金及公費支出表
年度内ニ納入シ及支出シタル總額ヲ掲クヘシ

● 學校一覽表樣式

明治三十四年十月二十四日
內務部長依命通達內三發第千二百十六號
郡 市 長

Table with columns for school type (小學校一覽表), location (町村名), enrollment (戶數人口), and various school statistics. Includes sub-tables for gender distribution and enrollment trends.

Table titled '實業學校ニ關スル事項報告方' (Reporting Method for Vocational Schools). It details reporting procedures, dates (October 31st), and contact information for the Education Bureau.

區分	學年	現在數	平均年齡	學級數	本學年入學者				前年中途退學者	前年卒業者	前年退學者
					本學年	前年中途退學者	前年卒業者	前年退學者			
高等學校ニ入學者	第一學年				高等學校入學者	他ノ官立學校へ入學者	私立諸學校へ入學者	實業ニ就キタル者	除名放校シタル者	死亡シタル者	其他
	第二學年				高等學校入學者	他ノ官立學校へ入學者	私立諸學校へ入學者	實業ニ就キタル者	除名放校シタル者	死亡シタル者	其他
	計				高等學校入學者	他ノ官立學校へ入學者	私立諸學校へ入學者	實業ニ就キタル者	除名放校シタル者	死亡シタル者	其他

區分	學年	現在數	平均年齡	學級數	本學年入學者				前年中途退學者	前年卒業者	前年退學者
					本學年	前年中途退學者	前年卒業者	前年退學者			
高等學校ニ入學者	第一學年				高等學校入學者	他ノ官立學校へ入學者	私立諸學校へ入學者	實業ニ就キタル者	除名放校シタル者	死亡シタル者	其他
	第二學年				高等學校入學者	他ノ官立學校へ入學者	私立諸學校へ入學者	實業ニ就キタル者	除名放校シタル者	死亡シタル者	其他
	計				高等學校入學者	他ノ官立學校へ入學者	私立諸學校へ入學者	實業ニ就キタル者	除名放校シタル者	死亡シタル者	其他

其校職員及生徒ニ關スル事項別表甲號及乙號雜形ニ依リ取調毎年十月十五日迄ニ報告スヘシ

區分	學年	現在數	平均年齡	學級數	本學年入學者				前年中途退學者	前年卒業者	前年退學者
					本學年	前年中途退學者	前年卒業者	前年退學者			
高等學校ニ入學者	第一學年				高等學校入學者	他ノ官立學校へ入學者	私立諸學校へ入學者	實業ニ就キタル者	除名放校シタル者	死亡シタル者	其他
	第二學年				高等學校入學者	他ノ官立學校へ入學者	私立諸學校へ入學者	實業ニ就キタル者	除名放校シタル者	死亡シタル者	其他
	計				高等學校入學者	他ノ官立學校へ入學者	私立諸學校へ入學者	實業ニ就キタル者	除名放校シタル者	死亡シタル者	其他

區分	學年	現在數	平均年齡	學級數	本學年入學者				前年中途退學者	前年卒業者	前年退學者
					本學年	前年中途退學者	前年卒業者	前年退學者			
高等學校ニ入學者	第一學年				高等學校入學者	他ノ官立學校へ入學者	私立諸學校へ入學者	實業ニ就キタル者	除名放校シタル者	死亡シタル者	其他
	第二學年				高等學校入學者	他ノ官立學校へ入學者	私立諸學校へ入學者	實業ニ就キタル者	除名放校シタル者	死亡シタル者	其他
	計				高等學校入學者	他ノ官立學校へ入學者	私立諸學校へ入學者	實業ニ就キタル者	除名放校シタル者	死亡シタル者	其他

區分	學年	現在數	平均年齡	學級數	本學年入學者				前年中途退學者	前年卒業者	前年退學者
					本學年	前年中途退學者	前年卒業者	前年退學者			
高等學校ニ入學者	第一學年				高等學校入學者	他ノ官立學校へ入學者	私立諸學校へ入學者	實業ニ就キタル者	除名放校シタル者	死亡シタル者	其他
	第二學年				高等學校入學者	他ノ官立學校へ入學者	私立諸學校へ入學者	實業ニ就キタル者	除名放校シタル者	死亡シタル者	其他
	計				高等學校入學者	他ノ官立學校へ入學者	私立諸學校へ入學者	實業ニ就キタル者	除名放校シタル者	死亡シタル者	其他

●高等女學校ニ關スル事項報告方
 明治四十二年一月十八日
 青森縣立青森高等女學校

●學年末現在公私立小學校ニ關スル事項報告方

學年末現在公私立小學校ニ關スル取調事項別紙表式ニ依リ調査シ翌年度四月三十日限リ報告スヘシ
明治二十九年十一月二十六日青森縣達第五十六號公私立小學校學級編成及職員月俸表ハ廢止ス

公私立小學校取調表

三月末現在

Table with columns for school name, position, salary, and student counts. Includes sub-tables for '現在在學児童數' (Current students) and '所持免許狀' (Licenses held).

何小學校

Table for '何小學校' with columns for school name, location, and other details.

備考 専科訓練ハ擔當學級編ニ擔任學科ヲ記入シ補助教員ハ同欄ニ補助ト記入スルコト児童數ハ擔當各學年及男女別トシ三月一日現在數ヲ調査スルコト
計及合計ハ一校又ハ一郡ヲ統計シ校數職員數(資格別)児童數(尋常及高等ニ男女別トス)學級數(尋常及高等)等ヲ調査スルコト
一學年乃至四學年又ハ五學年ヲ編制シタル學級擔任者ニ支給シタル特別加俸ハ單級加俸欄ニ適宜ノ符號ヲ附シ區別シテ掲クヘシ

●學校生徒ニ關スル事項報告方

明治四十三年十一月五日
訓令乙第三百九十五號

青森縣立前中學校東興學堂
青森縣立工業學校

十月一日現在學校生徒及職員ニ關スル事項別紙甲號乙號表式ニ依リ取調
但本年ニ限リ十一月十五日マテニ報告スヘシ

青森縣何學校生徒調

明治四十三年十月一日調

Table for '青森縣何學校生徒調' with columns for school name, year, and student counts.

Table showing student statistics for '本學年' (Current year) and '前學年中' (Previous year), categorized by school type and enrollment status.

卒業生
學校教員トナリタル者
實業ニ就キタル者
一年志願兵トナリタル者
士官候補者トナリタル者
死亡ノ者
其他ノ者
合計

工業學校ニハ備考ヲ附ス
備考 本表ハ建築科木工科漆工科ヲ各ト區別シテ調査スルモノトス

青森縣 職員調

明治四十二年十月一日調

Table for '青森縣 職員調' with columns for name, position, salary, and other details.

第五章 會計

第一款 俸給旅費及諸給與
●市町村立小學校教員俸給額並支給規則

明治四十一年三月八日
縣令 第十四號

明治三十三年青森縣令第九十三號市町村立小學校教員俸給額並支給規則
左ノ通告正シ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

市町村立小學校教員俸給額並支給規則

第一條 市町村立小學校教員ノ月俸ハ左表ニ依リ之ヲ給ス但シ土地ノ情
況ニ依リ高等小學校本科女正教員ニハ十一圓又ハ十四圓ヲ同女准教員ニ
ハ七圓ヲ給シ尋常小學校本科男正教員ニハ十一圓又ハ十四圓ヲ同女正教
員ニハ十一圓、十圓、九圓又ハ八圓ヲ給シ尋常小學校本科男准教員ニ
ハ七圓ヲ同女准教員ニハ七圓又ハ六圓ヲ給スルコトアルヘシ

職名	一級		二級		三級		四級		五級		六級		七級		八級		九級		
	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	
本教員科	七	六	五	四	三	二	一	〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	〇	九
正教員科	五	四	三	二	一	〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	〇	九	八	七
准教員科	四	三	二	一	〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	〇	九	八	七	六
代用教員	四	三	二	一	〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	〇	九	八	七	六

第二條 本科正教員ニシテ一級上俸ヲ受ケテニ功勞アル者ニハ漸次百圓
マテテ支給ス

第三條 專科正教員ノ俸給ハ其ノ教授時數ニ應シ等級ヲ相當ノ俸給額ニ
減スルコトアルヘシ

第四條 專科正教員ニシテ他ノ小學校ノ專科正教員ヲ兼スル者ニハ關係
學校ノ經費ヨリ其ノ俸給ヲ分割シテ給スルコトアルヘシ

第五條 教員ノ俸給ハ其ノ意ニ反シテ之ヲ減スルコトアルヘシ

第六條 休職者ニハ俸給ヲ給セス但シ知事ニ於テ市町村、町村學校組合
又ハ區ノ合意ヲ得テ其ノ一部若ハ全部ヲ給スルコトアルヘシ

第七條 正教員又ハ准教員ニシテ在職ノ儘小學校教員講習科ニ入學スル
者ニハ前條ノ規定ヲ準用ス

第八條 教員ニシテ疾病ニ罹リ引續キ職務セザル場合ハ三十日ヲ超エタ
ルヨリ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減シ六十日ヲ超エタル日ヨリ同額俸
給ノ三分ノ二ヲ減シ九十日ヲ超エタル日ヨリ全ク之ヲ給セス

第九條 女教員出産ノタメ引續キ職務セザル場合ハ前條ノ規定ヲ準用ス

第十條 教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當月分ノ俸給ハ日割ヲ以テ
之ヲ給ス

一 懲戒ニ依リ免職ニ處セラレタルトキ

二 免許狀被奪又ハ免許狀ノ失効ニ依リ教員ノ職ヲ失ハタルトキ

第十一條 教員ニシテ私事ノ故障ニ依リ引續キ職務セザル場合ハ十五日
ヲ超エタル日ヨリ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減シ三十日ヲ超エタル日ヨ
リ全ク之ヲ給セス

第十二條 正教員及准教員ニシテ陸軍給與令又ハ海軍軍人俸給令ニ依リ
俸給ヲ受クル者ニハ其ノ間俸給ヲ給セス但シ其ノ額本職ノ俸給額ヨリ
寡少ナルトキハ其ノ不足額ヲ給ス又陸軍補充條例第五十九條ニ依リ召
集セラレタルモノニハ其ノ不足額ヲ給セザルコトアルヘシ

第十三條 教員死亡シタルトキハ其ノ在職中ナルトキ休職中ナルトキ拘ヲ
スニ職最終ノ俸給月額三個月分ヲ其ノ遺族ニ給ス

但シ代用教員ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ給與ヲ要スルモノアルトキハ郡市長ニ於テ遺族ノ戸籍原本ヲ添
ヘ知事ニ具申スヘシ

第十四條 教員ノ俸給ハ毎月二十一日ニ之ヲ給ス但シ祝日大祭又ハ日曜

●市町村立小學校教員加俸給與細則

明治三十三年七月三十一日
縣令 第五十六號

本年勅令第三百三十三號第九條ニ依リ市町村立小學校教員加俸給與細則ヲ
定ムルコト左ノ如シ

市町村立小學校教員加俸給與細則

第一條 加俸ハ疾病又ハ其他ノ事故ニ依リ職務セザル場合ト雖モ之ヲ支
給ス

第二條 加俸ハ年額月割計算トシ毎年九月三月ノ二回ニ其月分マテテ
支給ス

但シ休職退職死亡ノトキ又ハ其他ノ理由ニ依リ加俸ヲ罷メラレタルト
キハ當月分マテテ金額ヲ其際支給ス

第三條 加俸ノ支給額減額ハ總テ發令ノ當月ヨリ計算ス

但シ同月中更ニ加俸ヲ給與スル場合ハ翌月ヨリ計算ス

第四條 特別加俸ヲ受クル者ニシテ他ノ學校ニ轉任スルトキハ別ニ發令
ヲ用ヒシテ其加俸ヲ失フモノトス

第五條 郡市長ニ於テ市町村立小學校教員加俸令第三條第六條及第七條
ニ該當スル者アリト認ムルトキハ其職名氏名及事由ヲ詳具シ知事ニ申
告スヘシ

●市町村立小學校教員旅費額並支給規則

明治三十三年十二月二十一日
縣令 第九十四號

市町村立小學校教員旅費額並支給規則左ノ通知定メ明治三十四年四月一
日ヨリ之ヲ施行ス

但シ明治二十五年一月縣令第五號及明治三十年三月縣令第十四號ハ
明治三十四年三月三十一日限リ之ヲ廢止ス

市町村立小學校教員旅費額並支給規則

第一條 旅費ハ市町村立小學校教員公務ニ依リ旅行スルトキ之ヲ給ス
但左記各號及其他必要ノ場合ニ於テハ特ニ金額ヲ定メテ旅費ヲ支給
シ又ハ全ク之ヲ支給セザルコトアルヘシ

日ニ當ルトキハ前延トス

第十五條 教員ノ俸給ハ新任増俸減俸トモ總テ當月分ハ發令ノ翌日ヨリ
日割ヲ以テ之ヲ給ス

第十六條 本令ニ規定アルモノヲ除クノ外ハ總テ前任文官俸給支給ノ例
ニ依ル

第十七條 本令施行ノ際新ニ發令ヲ交付セザルモノハ現ニ受クル所ノ俸
給額ヲ給セラレタルモノトス

本科正教員ニハ當分ノ内十七圓又ハ十五圓ヲ支給スルコトアルヘシ但
シ其ノ者ノ取扱ニ關シテハ其ノ俸給ニ最近キ上級ノ俸給ヲ受クルモノ
ト看做ス

●市町村立小學校教員給料額確定手續

明治三十年三月九日
達 第二十二號
正 四一號九
郡役所、市役所、町
村役場

本縣市町村立小學校教員給料額確定手續別紙ノ通知定メ本年四月一日ヨ
リ施行ス明治二十五年本縣達第五十號市町村立小學校給料額並支給額確定
方法ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

(別紙)

市町村立小學校教員給料額確定手續

一 市町村立小學校教員ノ俸給額ハ知事ヨリ俸給發令書ヲ發布スルニ依
リ確定スルモノトス

一 市町村立小學校教員俸給發令書ハ郡市長ヲシテ之ヲ傳達セシム郡長
ハ其發令書ヲ交付スル時ニ之ヲ町村長ニ傳達スヘシ

但シ縣廳ニ於テ直ニ發令書ヲ交付スル場合ハ其任地ノ郡市長ニ傳達
シ郡長ハ本文ノ手續ヲナスモノトス

一 市町村立小學校教員他郡市長ニ轉任スルトキハ發令書ハ之ヲ前任地郡
市長ヲシテ傳達セシム後任地郡市長ニハ轉任ノ旨ヲ傳達スヘシ

但郡長ハ本文轉任ノ旨ヲ町村長ニ傳達シ且前任地郡市長ハ發令書
ヲ交付シタル月日ヲ後任地郡市長ヘ通知スヘシ

得テ減額シ又ハ之ヲ徵收セザルコトアルヘシ
 一 軍人恩給法第二十七條第一ニ該當スル者及第四十條ニ掲ケタル者ニシテ第二十七條第一ニ該當スル者ノ同籍内ニ在ル子及弟妹
 二 官吏遺族扶助法第四條第二項ニ該當スル者ノ同籍内ニ在ル子及弟妹
 三 明治二十七年勸令第六十四號第一條第一項ニ該當スル者ノ同籍内ニ在ル子及弟妹
 前項ノ遺族ニシテ扶助料ヲ受クヘキ者ナキモ死者ノ前項ニ該當シタル事實明白ナルトキハ其同籍内ニ在ル弟妹ニ對シテ前項ヲ適用ス
 第二條 職地ニ於ケル勤務ニ起因シテ軍人恩給法第九條第十四條又ハ官史恩給法第三條ニ該當スル者又ハ職地ニ於テ傷病ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ明治二十七年勸令第六十四號ニ依リ手當金ヲ受クル者又ハ公務ニ依リ從軍シタル者ノ同籍内ニ在ル子及弟妹ニ對シテハ其ノ家計困難ナルトキハ出願ニ依リ縣立學校ノ授業料ヲ減額シ又ハ之ヲ徵收セザルコトアルヘシ
 第三條 戰時又ハ事變ニ際シ出征又ハ召集セラルル者ニシテ家計困難ナルトキハ出願ニ依リ其ノ出征又ハ召集ニ應ジタル月ヨリ歸還又ハ召集解除ノ翌月ヨリ三箇月マテノ間其ノ同籍内ニ在ル子及弟妹ニ對シテ縣立學校ノ授業料ヲ減額シ又ハ之ヲ徵收セザルコトアルヘシ
 第四條 前各條ニ依リ出願シタル者アリタルトキハ學校長ハ其ノ事實ヲ調査シ必要ト認メタル者ニハ之ヲ許可スヘシ
 第五條 前條ニ依リ許可ヲ與ヘタル者アルトキハ學校長ハ直ニ其ノ兒童若ハ生徒ノ氏名、學年別及不徵收、減額ノ別ヲ具シ本廳ニ報告スヘシ
 第六條 本令ニ依リ減額又ハ徵收セザル授業料ニシテ既納ノモノハ之ヲ還付セズ

明治四十二年三月三十日
 縣令 第十五號

青森縣立第四中學校ノ組織ヲ變更シ明治四十二年四月一日ヨリ青森縣立弘前中學校ノ分校ト爲スニ付明治四十二年三月三十一日青森縣立第四中學校ニ在學スル生徒ニシテ第四學年以上ニ至リ本校タル青森縣立弘前中學校ニ編入シ若ハ他ノ本縣立中學校ニ轉學スルモノニ對シテハ其ノ中學校ヲ卒業スルニ至ルマテハ各授業料ヲ免除ス

●出征軍人遺族及家族ノ學校授業料ノ減免並學用品ノ注意

明治三十七年二月二十六日
 訓示 第十一號
 郡役所、市役所、町村役場
 公立學校

職地ニ於ケル勤務ニ起因シテ死去シタル者ノ遺族ニ對シテ市町村立小學校ニ於テ授業料ヲ減免スヘキコトハ既ニ明治二十九年勸令第五號ニ其ノ規定アリ今回ノ事變ニ際シ此趣旨ヲ擴充シテ出征又ハ應召ノ軍人ノ子女ニ對シ小學校ハ勿論其ノ他ノ學校ニ於テモ事情ノ許ス限リハ其ノ授業料ヲ減免シ又ハ學用品ヲ給與スル等ノ法ヲ設ケ以テ軍人ヲシテ後顧ノ患ナカラシムヘシ
 軍費供給ノ必要ハ教育費ニモ影響ヲ及ボシ新事業又ハ設備等ニ關シ一時ノ緊縮ヲ來スハ已ムナ得サル所トス然レトモ之レカ爲ニ教育ノ供給ヲ削減シ又ハ兒童ノ就學數ヲ減少シ其ノ他教育ノ効果ヲ減退セシムルカ如キハ國力發展ノ基礎ヲ損傷スルモノナレハ務テ之ヲ避ケサル可ラス而シテ經濟上節約ヲ圖ラン爲ニハ小學校ニ於テハ二部教授ノ法ヲ採リ其ノ他ノ學校ニ於テモ亦臨機適宜ノ法ヲ講スル等適當ノ措置ヲ爲スヘシ

第三款 教育資金及加俸資金

●教育資金使用規則

明治三十三年十二月二十一日
 縣令 第九十六號

明治三十二年勸令第四百三十五號教育基金令第九條ニ依リ教育資金使用左ノ通ル定ム
 青森縣教育資金使用規則
 第一條 教育基金令第五條ニ依リ教育資金ヲ貸付スルニハ左ノ各號ニ該當スルモノヲ先ニシ之ニ次クモノヲ後ニス但シ災害ニ罹リ復舊ヲ要スルモノハ此ノ限リニアラス
 一 校地校舍ノ設備最不完全ニシテ新築、改築、増築等ヲ急要ト認ムルモノ

二 小學教育ニ屬スル經常費支出額其ノ市町村ノ經常費支出總額三分ノ一以上ナルモノ
 第二條 尋常高等小學校ノ設備費ヲ貸付スルニハ其ノ總費額ノ五分ノ三ヲ以テ尋常小學校ノ設備費トシ之ニ對シ其ノ金額ヲ定ム
 第三條 町村組合及町村學校組合ハ教育資金ノ貸付ニ就キテハ一町村ト同視ス
 區ノ負擔ニ屬スル設備費ニ就キ其ノ市町村等ヨリ教育資金ノ貸付ヲ申請シタルトキハ其ノ市町村等ニ於テ設備スルモノト同視ス
 第四條 貸付金額ハ五十四ヲ以テ單位トス
 第五條 貸付金ノ償還ハ貸付ヲ受クル翌年度ヨリ始メ其期間ハ償還ヲ始ムル年度ヨリ九箇年度以内ニ於テ之ヲ定メ償還金ハ毎年九月三月ノ兩度ニ納ムヘキモノトス但九月若クハ三月ノ一回ニ納ムルモ妨ケナシ
 第六條 貸付金ノ利子ハ一箇年度ヲ二期ニ區分シ九月三月ノ兩度ニ之ヲ徵收ス
 利子ハ貸付ノ翌月ヨリ返納ノ月マテ月割ヲ以テ之ヲ計算ス

●教育資金管理方法

明治三十三年十二月二十八日
 告示 第二百七十一號
 青森縣教育資金管理方法
 青森縣教育資金管理方法
 第一條 青森縣教育資金ハ明治三十二年十一月勸令第四百三十五號教育基金令第三條ニ依リ特別會計ヲ設置ス
 第二條 教育基金ハ臨時引当シニ差支ヘナキ方法ヲ以テ銀行ニ預ケ入ルモノトス其預ケ入ノ箇所及利率ハ縣參事會ノ議決ニ依ル
 第三條 教育資金ヲ銀行ニ預ケ入ルトキハ本縣金庫擔保品價格ノ例ニ依リ擔保シテ國債證書ヲ提供セシム若シ其例ニ依ルコト能ハサルトキハ縣參事會ノ議決ニ依ル

●教育資金貸付申請手續

明治三十六年三月十七日
 達 第八號
 第三十八號

郡役所、市役所、町村役場
 教育基金令ニ依リ市町村立尋常小學校ノ設備費トシテ市町村等ヨリ教育資金ノ貸付ヲ請ハントスルトキハ毎年四月末日限リ左ノ各項ヲ具シ申請スヘシ
 但明治三十六年ニ於テハ六月末日限リ申請スヘシ但災害ニ罹リタル小學校ノ設備費ニ充ツルモノハ本文ノ期日ニ拘ラス申請スルコトヲ得
 一 設備ヲ要スル校地校舍ノ設計
 (明治三十三年青森縣達第六十二號ノ規定ヲ準用ス)
 二 工事完成ノ年月
 三 貸付ヲ請フ金額及其ノ事由
 四 貸付金償還ノ期限及期月
 五 貸付金並利子償還ノ財源
 六 貸付金並利子償還ノ年次表(別表第一號)
 七 市町村費區費現年度豫算
 八 市町村費區費前年度豫算各款金額及前年度決算各款金額
 九 現年度諸稅負擔一覽表(別表第二號)
 十 基本財産及負債ノ有無並其額
 貸付金償還年次表(第一號)

年 度	償還元金	利 子	合 計
明治何年度	九月 三月	九月 三月	九月 三月
明治何年度			
明治何年度			
合 計			

備考 九月若クハ三月ノ一回ニ元金ヲ償還スルモノハ償還元金欄中九月若クハ三月ノ一欄ヲ除クヘシ

諸稅負擔一覽表(第二號)

稅目	金額	納稅者總數ニ對スル平均一人當リ	總人口ニ對スル平均一人當リ	總戶數ニ對スル平均一人當リ
直接國稅				
府縣稅				
市町村稅				

備考

總人口 (現在) 何人
總戶數 (現在) 何戶

納稅者ノ總數ハ同一人ニシテ直接國稅府縣稅市町村稅ノ數稅ヲ納ムルモノモ總テ一人トシテ計算スヘシ

●市町村立小學校教員加俸資金管理方法

明治三十三年七月十八日
告示第百五十九號

青森縣市町村立小學校教員加俸資金管理方法臨時縣會ノ議決ヲ經テ左ノ通相定ム

青森縣市町村立小學校教員加俸資金管理方法

- 第一條 市町村立小學校教員加俸資金ハ明治三十三年三月勅令第三百三十三號市町村立小學校教員加俸令第一條ニ依リ特別會計ヲ設置ス
- 第二條 市町村立小學校教員加俸資金ハ臨時引出シテ差支ヘナキ方法ヲ以テ銀行ニ預ケ入ル、モノトス其預ケ入ノ箇所及ヒ利率ハ縣參事會ノ議決ニ依ル
- 第三條 資金ヲ銀行ニ預ケ入ル、トキハ本縣金庫擔保品價格ノ例ニ依リ擔保トシテ國庫證券ヲ提供セシム若シ其ノ例ニ依ルコト能ハサルトキハ縣參事會ノ議決ニ依ル

諸稅負擔一覽表(第二號)

稅目	金額	納稅者總數ニ對スル平均一人當リ	總人口ニ對スル平均一人當リ	總戸數ニ對スル平均一人當リ
直接國稅				
府縣稅				
市町村稅				

備考

總人口 (現在) 何人
 總戸數 (現在) 何戸
 納稅者ノ總數 何人
 納稅者ノ總數ハ同一人ニシテ直接國稅府縣稅市町村稅ノ數稅ヲ納ムルモノモ總テ一人トシテ計算スヘシ

●市町村立小學校教員加俸資金管理方法

明治三十三年七月十八日
 告示第百五十九號

青森縣市町村立小學校教員加俸資金管理方法臨時縣會ノ議決ヲ經テ左ノ通相定ム

青森縣市町村立小學校教員加俸資金管理方法

- 第一條 市町村立小學校教員加俸資金ハ明治三十三年三月勅令第百三十三號市町村立小學校教員加俸令第一條ニ依リ特別會計ヲ設置ス
- 第二條 市町村立小學校教員加俸資金ハ臨時引出シテ差支ヘナキ方法ヲ以テ銀行ニ預ケ入ル、モノトス其預ケ入ノ箇所及ヒ利率ハ縣參事會ノ議決ニ依ル
- 第三條 資金ヲ銀行ニ預ケ入ル、トキハ本縣金庫擔保品價格ノ例ニ依リ擔保トシテ國庫證券ヲ提供セシム若シ其ノ例ニ依ルコト能ハサルトキハ縣參事會ノ議決ニ依ル

第五輯 兵事社事

第五輯 兵事社事

第一章 兵事

第一款 徵兵志願者

○徵兵事務取扱手續	四二	訓甲	七六	七一
○陸軍六週間現役兵事務取扱手續	四二	訓甲	七六	七一
○徵兵處分ヲ受クヘキ所在不明者調査ニ關スル規定	四〇	訓甲	四二	九
○徵兵適齡者犯罪ニ關スル件(第八輯第二章第一款ニ收ム)	四二	普學發	一〇三	一一
○壯丁トラホーム限防治療	四二	普學發	一〇三	一一
○臺灣樺太清韓國ニ於ケル身體検査ニ關スル件	四一	兵社	七七八	一一
○海軍志願兵検査所設備	四一	兵社	一八六	一一
第二款 召集徵發				
○在郷軍人名簿及第一國民兵名簿照較方	四二	訓甲	三五	一一
○横須賀鎮守府召集區内海軍召集事務取扱規程	四三	訓甲	四四	一一
○召集事務ヲ主管スル在郷軍人報告方	四一	訓乙	一六四	一三
○徵發物件取調方	三三	達	七七	一八
○馬匹調査及検査施行規則改正ノ件	四二	訓甲	四五	一九
○汽船表及工場表調製	四三	普學發	一八ノ三	二〇
第三款 豫備後備在郷軍人及廢兵				
○陸軍現役下士卒休暇調査方	三四	示	一三	二一
○在郷陸軍下士卒制服着用ノ場合	三五	告	三六	二一
○召集中ニアラサル豫備後備役海軍下士卒制服着用ノ場合	三五	告	三七	二一
○海軍豫備後備役下士卒階級肩書式	四一	兵社	六八九	二二
○廢兵及附添人乗車手續	四二	普學發	六四ノ一	二四

第五輯 兵事社事 目次

第四款 雜件

○病況書式	三六	示	一一	二五
○大港要塞地帶	三五	告	二四	二五
○大港要塞地帶告示ニ關スル件	三五	達	四〇	二五
○舊式兵器掃下手續	四二	學收	三四一八	二六
○兵員報告方	四二	訓乙	二三七	二七

第二章 社寺

第一款 祭神本尊儀式

○指定神社ニ對スル神饌幣帛料ノ供進及參向員	四〇	訓甲	三	二七
○祭禮開扉等届出方	一四	布達	五二	二七
○佛像他管へ持出開帳手續	一七	達乙	一〇一	二七

第二款 神職僧侶教師氏子檀家及信徒

○社司社家試驗細則	四一	令	二九	二八
○官國幣社神職試驗細則	四一	令	二九	二八
○社司社家推選方	四三	告	二六	二九
○社司社家辭職願ニ氏子惣代連署ノ件	四三	達	一八四	二九
○社司社家兼務制限等ノ件	四三	達	七二	三〇
○府縣鄉村社神官奉務規則	四三	示	四二	三〇
○戊申詔書ニ關スル件(第二輯第八章ニ收ム)	四四	示	四八	三〇
○神官神道教師ノ犯罪者届出方	一五	達乙	二九八	三〇
○臺灣ニ往復スル布教者等ノ汽船割引	三六	內一發	一四一五	三一
○神社寺院氏子檀家惣代人ニ關スル規程	四二	令	三二	三一
○神社ニ依ル氏子分離方	一四	達乙	二八八	三一
○神佛以外宗教信徒數届出方	三九	令	二八	三一
○社寺佛堂火災取締方	三一	訓內	七	三一
○寺院火災豫防取締ニ關スル件	四二	學收	三三ノ一	三一

第三款 境内樹木建物興廢移轉

○國幣社營繕ニ關スル規程	三七	達内	一一〇	三三
○社寺創建移轉廢合改稱方	三一	達戸	五五	三三
○離末本寺換方	一一	達乙	三一	三五
○社寺創立再興復舊願調査方	一四	達乙	二七	三五
○社寺創立再興復舊ニ關スル件	一五	布達甲	一六九	三五
○社寺佛堂等ノ創立再興復舊等願許セラレサル件	一九	示	一一	三五
○會堂設立願届ニ添付スヘキ圖書ノ件	三二	告	二一五	三五
○社寺境内陸地測量標ニ關スル件	二五	告	四〇	三六
○社寺合併獎勵	三九	二發	二六五二	三六
○社寺明細帳照較	四三	兵發	八	三六
○神佛以外ノ宗教ニ關スル願届書式	三二	告	一六〇	三六
第四款 會計財産				
○招魂社費並招魂社營繕費收支取扱手續	二四	達	一八九	三八
○國幣社會計取扱手續	四一	調乙	七二	三九
○神社財産登錄管理並會計ニ關スル取扱手續	四一	調甲	七三	四〇
○村社以下ノ收支決算資金受拂報告方	四二	調乙	一五	四四
○縣社以下ノ收支決算編成ニ關スル件	四二	兵發	一一二	四五
○寺院ノ財産ニ關スル願届ノ件	一七	達乙	三七五	四六
○園有林野法國有土地森林原野下戻法等ニ關スル件	三二	内一發	六八一	四六
○神社財産登錄ニ關スル件	四二	學發	九六	四六
○寺院ノ寄附金募集願届ノ管長ノ添書ヲ要スル件	三三	達	五四	四七
○社寺佛堂等ノ寄附金募集取給方	三四	内一發	一六九四	四八

第五輯 兵事社寺

第一章 兵事

第一款 徵兵志願者

●徵兵事務取扱手續

明治四十二年一月二十六日
訓令 甲 第六 號
改正 四〇年舊改
郡役所、市役所、町村役場
明治三十四年六月本縣達第二十號徵兵事務取扱手續ノ通改正ス

第一章 總則

第一條 本手續ハ徵兵令、徵兵事務條例、及徵兵事務條例施行細則其他徵兵ニ關スル規則ニ依リ其ノ取扱方法ヲ規定スルモノトス
第二條 本手續ニ於テ令ト稱スルハ徵兵令ヲ、條例ト稱スルハ徵兵事務條例、細則ト稱スルハ徵兵事務條例施行細則ヲ謂フ
第三條 書類ノ訂正ハ渾テ墨ヲ以テシ其ノ塗抹スルモノハ朱ノ二線ヲ施スヘシ
第二章 願 届
第四條 本手續ニ依ル願届書ハ渾テ半紙若ハ半紙郵紙ニ認メタルモノ一通ヲ差出サシムヘシ
第五條 令第二十五條ノ徵兵適齡届ハ第一様式ニ依ラシムヘシ
第六條 明治二十九年七月陸軍省令第十六號ノ學生生徒トナリ又ハ之ヲ免セラレタル者ノ届ハ第二様式ニ依ラシムヘシ
第七條 條例第四十八條同第五十四條ノ徵集延期願又ハ徵集免除届及之ニ添付スヘキ保證書ハ第三様式ニ依ラシムヘシ
第八條 條例第五十五條ノ徵集願届及其ノ事故止ミタル者ノ届ハ第四

様式ニ依ラシムヘシ

第九條 條例第五十八條ノ身體検査ヲ受ケ難キ届ハ第五様式ニ依ラシム
明治三十九年十二月陸軍省令第十六號第七條ニ依ル届書モ亦本様式ニ準セシムヘシ
第十條 條例第四十九條ノ轉籍届及同第五十條ノ寄留、旅行届又ハ其ノ復歸届ハ第六様式ニ依ラシムヘシ但條例第四十九條ニ該當シ現役證書若ハ補充兵證書ノ訂正ヲ要スルモノニ在リテハ之ヲ該届書ニ添付シ得
第十一條 條例第四十四條ノ入營延期願ハ第七様式ニ依ラシメ町村ニ在リテハ郡長ヲ經由シテ差出サシムヘシ
第十二條 條例第五十九條ノ入營シ難キ届ハ第八様式ニ依ラシメ前條ノ手續ニ依リ差出サシムヘシ
第十三條 條例第五十一條ニ依リ海軍現役ヲ志願スル者ノ身體検査願若ハ細則第二十一條ノ現役願ハ第九様式ニ依ラシムヘシ
第十四條 條例第五十三條及同第六十三條ノ寄留地身體検査願ハ第十様式ニ依ラシメ明治三十九年十二月陸軍省令第十六號第四條ニ依ル願届書モ亦本様式ニ準セシムヘシ
第十五條 細則第四十七條ノ證書再下附請求書ハ第十一様式ニ依ラシムヘシ
第十六條 細則第三十六條ノ二ノ直接入營届ハ第十二様式ニ依ラシムヘシ
第三章 町村長事務
第十七條 徵兵適齡者ノ本籍地、族稱、戸主トノ權柄、氏名及生年月日ハ前年十一月十五日迄ニ戸籍簿ニ依リ之ヲ調査シ其ノ人名簿ヲ作り令第二十五條ノ届出ヲ受ケタルトキハ相互對照シ遺漏異ナキヲ期スヘシ
第十八條 前條ノ人名簿ハ副本ヲ作り其ノ年十一月二十日迄ニ之ヲ郡長ニ差出スヘシ但壯丁名簿遺漏前異動ヲ生シタル者アルトキハ其都度之ヲ報告スヘシ
第十九條 徵兵適齡者中其ノ届出期限未タ届出ナシトシテ他市町村ニ轉籍シタル者アルトキハ其ノ起テ轉籍地ノ市長町村長ニ通知スヘシ
第二十條 壯丁名簿ノ氏名ハ戸籍簿ノ字畫ニ依リ楷書ニテ記載シ其ノ上

稱ニ於ケル年ハ壯丁ノ適齡年ヲ記載スヘシ
 前項ノ名稱ヲ一冊トシ郡長ニ進達スルニハ之ヲ假綴ト爲スヘシ
 第二十一條 壯丁ノ修學程度ハ本人若ハ學籍簿ニ就キ調査シ左ノ例ニ依
 リ壯丁名簿ノ備考欄内ニ記載スヘシ
 一 何何大學、何何專門學校卒業(第何學年修業)
 一 何何中學校卒業(第何學年修業)
 一 高等小學校卒業(第何學年修業)
 一 尋常小學校卒業(第何學年修業)
 一 不就學
 第二十二條 細則第二條ノ人名書ハ第十三様式ニ依リ作成スヘシ
 第二十三條 條例第四十八條同第五十四條ノ徵集延期願又ハ徵集免除願
 ナ受ケタルトキハ左ノ書類ヲ添付シ差出スヘシ但戶籍簿本以外ノ書類
 ニハ夫署名捺印スヘシ
 一 戶籍簿本
 二 生計現狀書
 三 財產調査書
 四 諸般ノ收入金調書
 五 國稅、縣稅、郡市町村稅ノ各納額調書
 六 官ノ救助ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ金額及書類ノ寫
 七 前各號ノ外自活シ能ハサル證據トナルヘキモノ
 第二十四條 徵兵検査ヲ受ケル壯丁ノ人名書ハ検査當日検査開始前之ヲ
 徵兵署ニ差出スヘシ
 第二十四條ノ二 細則第二十三條ノ現役兵證書及補充兵證書ヲ本人ニ交
 付スルニハ正當受領證書ヲ發スヘシ
 第二十五條 細則第四十一條ノ陸軍現役兵補充兵役權重輪卒ノ戶籍抄本及
 海軍現役兵ノ戶籍抄本ハ十月十日迄ニ之ヲ郡長ニ差出シ爾後十一月三
 十日迄ニ其記載事項ニ異動ヲ生スルカ若ハ補充兵役ヨリ現役兵ニ繰上
 ケラレタル者アルトキハ其ノ都度直ニ之ヲ差出スヘシ
 第四章 郡市長事務
 第二十六條 本手續第三章町村長ノ事務ハ第十八條ヲ除クノ外之ヲ市長
 ノ事務ニ準用ス但細則第四十一條ノ戶籍抄本及附本ヲ聯隊區司令官ニ
 送付スル期日ハ十月二十五日迄トス

第二十七條 郡長ハ徵兵適齡屆出期限前各町村ノ徵兵ニ關スル書類及壯
 丁ノ調査方法ヲ審察シ遺漏差異ナキヲ期スヘシ
 第二十八條 條例第四十八條ノ徵集延期願ニ添付スヘキ狀況書ハ實地ニ
 就キ調査シ之ヲ作成スヘシ條例第五十四條ノ徵集延期願又ハ徵集免除
 願ヲ受ケタル場合モ亦同シ
 第二十九條 條例第二十一條ニ依リ提出スヘキ假決名簿中終結及體格ノ
 欄内ニ前年ノ記事アルモノハ適宜白紙ヲ貼附スヘシ
 第三十條 細則第三條ノ徵兵人員通知書ハ第十四様式ニ依リ作成スヘシ
 第三十條ノ二 條例第二十三條ニ依リ郡長ノ知事ニ申報スヘキ徵兵署調
 査日割ニハ其ノ期日及場所ノ外尙ホ集合スヘキ町村名ヲ該期日毎ニ區
 分シ記載スヘシ
 第三十一條 郡長ハ本手續第二十五條ノ戶籍簿本ヲ受ケタルトキハ之ヲ
 徵集人名ニ對照シ十月二十五日迄ニ聯隊區司令官ニ送附スヘシ但爾後
 ノ異動者ニ對スルモノハ其ノ都度直ニ之ヲ送付スヘシ
 第三十二條 毎年ノ徵兵人員ハ第十五様式ニ依リ其年ノ十二月十日迄ニ
 之ヲ知事ニ報告スヘシ但海軍現役ニ徵集セラレタル者ニ就テハ其ノ本
 籍地、族稱、戶主トノ欄柄、氏名、生年月日及管轄領守府ヲ記載シテ
 人名書ヲ添付スヘシ
 第一様式 第五條關係
 徵兵 適齡 屆
 一本 籍地 何市町村大字何字何番地
 一族稱及續柄 平民某何男
 一職 業 何業兼何業
 一氏 名 何某
 一 生年月日 何年何月何日
 一丁年ニ達スル年月日何年何月何日
 右徵兵令第二十五條ニ依リ及御届候也
 年 月 日 戶主 氏 名 印
 市長、町村長 宛
 備考
 一 戶主不在ノ爲メ家族ヨリ届出ル場合ハ適齡者トノ續柄ヲ願書シ親
 戚ヨリ届出ル場合ハ其旨ヲ願書シ且ツ住所及族稱ヲ願書スルモノ

トス、以下ノ様式中戸主ヨリ届出ツヘキモノニシテ家族若ハ親戚
 ヨリスル場合ハ總テ同シ
 二 職業ハ種類ヲ區別シ詳細ニ記載スルヲ要ス例ヘハ商業ニ從事スル
 者ニ在リテハ單ニ之ヲ商業トセス米商、吳服商、小間物商等トシ
 官吏ニ在リテハ何屬何技手何書記等ト爲スカ如シ且ツ兼業若ハ副
 業アル者ハ記載例ノ如ク之ヲ併記スルモノトス以下様式ニ於ケル
 職業ノ項亦同シ
 三 續柄ハ戶主トノ續柄ヲ記載スルモノトス以下ノ様式ニ於ケル續柄
 ノ項亦同シ
 四 第二様式以下ニ於テ本籍地職業族稱、續柄、氏名、生年月日等本様
 式ト同一ナルモノハ其ノ記載例ヲ省略ス
 第二様式ノ一 第六條關係
 學生 生徒 屆
 一本 籍地
 一族稱及續柄
 一職 業
 一氏 名
 一 生年月日
 一 届出事故 明治何年何月何日陸海軍何何學生、何何學校生徒等
 右二十九年陸軍省令第十六號ニ依リ及御届候也
 年 月 日 戶主 氏 名 印
 市長、町村長 宛
 備考
 一 第一様式ニ於ケル備考ノ一ヲ參照スヘシ
 第二様式ノ二
 一 本 籍地 學生、生徒免除武官就任、兵卒屆
 一族稱及續柄
 一 生年月日
 一 届出事故 陸海軍何何學生、何何學校生徒ノ所何年何
 月何日同學生、生徒被免何役編入、免除何
 官ニ被任何部隊勤務等
 右二十九年陸軍省令第十六號ニ依リ及御届候也

第三様式ノ一 第七條關係
 徵集延期願、徵集免除願
 一本 籍地
 一族稱及續柄
 一職 業
 一 適 齡 年 明治何年
 一體格等位、兵種及抽籤番號 何種何兵第何番
 一 願出、届出事故 父母共ニ廢疾不具ハ幼弱ナル弟妹ニシ
 テ養育モク私ヲ要スルニアラサレハ家
 族自活ノ途ナシ等
 右御許可相成度徵兵事務條例第四十八條第五十四條ニ依リ別紙何
 何相添(奉願)及御届候也
 年 月 日 何 某 印
 聯隊區徵兵官聯隊區司令官 宛
 前書ノ通相違無之候也
 年 月 日 市長、町村長 氏 名 印
 備考
 一 願書ニ體格等位、兵種及抽籤番號ヲ記載スルハ條例第四十八條ニ
 依リ聯隊區司令官ニ願出ル場合ニ限ル
 二 廢疾不具係指等ニ係ルモノハ醫師ノ診斷證書ヲ、處刑中ニ係ルモ
 ノハ裁判ノ宣告書若ハ既決犯罪通知書ヲ添付スルモノトス但醫
 師ノ診斷證書ハ明治三十六年六月本縣訓示第十二號ノ病況書ニ準
 シ作成スルヲ要ス以下ノ様式ニ於テ添付スヘキ診斷證書モ亦同シ
 第三様式ノ二
 保 證 書
 本籍地 氏 名
 右徵集延期願、免除願ノ事實相違無之候也
 本籍地、族稱、職業
 本年壯丁
 本年現役何兵第何番 某父兄

第五輯 兵事社寺 第一章 兵事

本籍地、族稱、職業
 本年壯丁
 本年現役何兵第何番某父兄
 戸主 氏 名印

第四様式ノ一 第八條關係
 一族稱及續柄
 一職 業
 一適 齡 年
 一願出ノ事故 何年何月何日以來何學校在學、何處在住
 右御許可相成度徵兵事務條例第五十五條ニ依リ別紙證明書相添へ
 奉願候也
 年 月 日 氏 名 印
 前書ノ通相違無之候也
 年 月 日 町村長 氏 名印

備考
 一 在學ノ故ヲ以テ願出ル者ハ職業ヲ記載スルニ及ハス
 二 本願書ニ添付スヘキ證明書ハ正本ニ限ル
 第四様式ノ二
 徵集猶豫事故止届
 一本 籍 地
 一族稱及續柄
 一職 業
 一氏 名
 一出生年月日
 一屆出事故 何年何月何日何學校在學、何處ヨリ歸朝
 右徵兵令第二十五條ニ依リ及御届候也
 年 月 日 戸主 氏 名印
 市長、町村長宛

右徵兵事務條例第四十九條ニ依リ及御届候也
 年 月 日 氏 名 印
 聯隊區司令官宛
 第六様式ノ二
 旅行、寄留届、旅行、寄留復歸届
 一本 籍 地
 一族稱及續柄
 一職 業
 一役兵種、格等位及抽籤番號
 一屆出事故 何年何月何日何府縣何郡市何町村大字番地何某
 方寄留、何年何月何日ヨリ何月何日迄何町へ旅
 行何某方ニ滞在、何處何某方ニ寄留、滞在ノ處
 何月何日復歸
 右徵兵事務條例第五十條ニ依リ召集通報人連署ノ上及御届候也
 年 月 日 氏 名 印
 住所、族稱、職業
 召集通報人 氏 名 印
 生年月日
 市長、町村長宛
 備考
 一 召集通報人ハ成年以上ノ男子ニ限ル但復歸届ニハ召集通報人連署
 スルニ及ハス
 第七様式第十一條關係
 入營延期願
 一本 籍 地
 一族稱及續柄
 一職 業
 一役兵種
 一願出事故 父、母某疾病危篤、何月何日死亡ニ付何月何日
 迄何日間
 右御許可相成度徵兵事務條例第四十四條ニ依リ(別紙診斷證書相添
 へ)奉願候也
 年 月 日 氏 名 印

備考
 一 第一様式ニ於ケル備考ノ一ヲ参照スヘシ
 第五様式 第九條關係
 身體検査ヲ受ケ難キ届
 一本 籍 地
 一族稱及續柄
 一職 業
 一出生年月日
 一屆出事故 傷病、疾病ノ爲メ就床中、何何犯罪ニテ何處ニ坊
 留入監、或刑中何年何月何日ヨリ何月何日迄何
 志願兵検査中、何年何月何日何何ノ爲メ家出後
 所在不明
 右徵兵事務條例第五十八條ニ依リ別紙何相添へ及御届候也
 年 月 日 氏 名 印
 郡市 長 宛
 前書ノ通相違無之候也
 年 月 日 町村長 氏 名 印

備考
 一 本人ヨリ届出ヲ爲シ得ヘカラサル場合ハ戸主ヨリ届出テ職業ノ次
 へ氏名ノ一項ヲ設ケ之ヲ記載スルモノトス猶ホ第一様式ニ於ケル
 備考ノ一ヲ参照スヘシ
 二 第三様式ノ一ニ於ケル備考ノ一ヲ参照シ所在不明ニ係ルモノハ警
 察官吏ノ證明書ヲ添付スヘシ
 第六様式ノ一 第十條關係
 轉 籍 届
 一本 籍 地
 一族稱及續柄
 一職 業
 一兵役兵種、格等位及抽籤番號何役何兵何種第何番
 一屆出事故 何年何月何日何府縣何郡市何町村大字何番地
 何轉籍、分家、何某養子、何某何女某養子
 何某養子、何某何女某養子ニ繼縁ノ上何年何月
 何日何府縣何郡市何町村大字何番地何某何男ニ
 復縁等

聯隊區司令官宛
 前書ノ通相違無之候也
 年 月 日 市長、町村長 氏 名 印
 備考
 一 父母死亡ノ爲メ願出ル場合ハ本文中括弧内ノ九字ヲ省ク、第三様
 式ノ一ニ於ケル備考ノ二ヲ参照スヘシ
 第八様式 第十二條關係
 入營シ難キ届
 一本 籍 地
 一族稱及續柄
 一職 業
 一役兵種
 一屆出事故 何何傷病、疾病、何何犯罪ニテ何月何日以來何
 處ニ拘留入監中、何月何日家出後所在不明等
 右徵兵事務條例第五十九條ニ依リ(別紙診斷證書相添へ)及御届候也
 年 月 日 氏 名 印
 聯隊區司令官宛
 前書ノ通相違無之候也
 年 月 日 市長、町村長 氏 名 印
 備考
 一 傷病疾病ノ場合ヲ除クノ外本文中括弧内ノ九字ヲ省ク、第三様式
 ノ一ニ於ケル備考ノ二及第五様式ニ於ケル備考ノ二ヲ参照スヘシ
 二 本人ヨリ届出ヲ爲シ得ヘカラサル場合ハ戸主ヨリ届出テ職業ノ次
 へ氏名ノ一項ヲ設ケ之ヲ記載スルモノトス猶ホ第一様式ニ於ケル
 備考ノ一ヲ参照スヘシ
 第九様式 第十三條關係
 身體検査現役願
 一本 籍 地
 一族稱及續柄
 一職 業
 一出生年月日
 一願出ノ事故 海軍現役志願抽籤ノ法ニ依リサル現役志願
 年 月 日 氏 名 印

第五輯 兵事社寺 第一章 兵事

右徵兵事務條例第四十九條ニ依リ及御届候也
 年 月 日 氏 名 印
 聯隊區司令官宛
 第六様式ノ二
 旅行、寄留届、旅行、寄留復歸届
 一本 籍 地
 一族稱及續柄
 一職 業
 一役兵種、格等位及抽籤番號
 一屆出事故 何年何月何日何府縣何郡市何町村大字番地何某
 方寄留、何年何月何日ヨリ何月何日迄何町へ旅
 行何某方ニ滞在、何處何某方ニ寄留、滞在ノ處
 何月何日復歸
 右徵兵事務條例第五十條ニ依リ召集通報人連署ノ上及御届候也
 年 月 日 氏 名 印
 住所、族稱、職業
 召集通報人 氏 名 印
 生年月日
 市長、町村長宛
 備考
 一 召集通報人ハ成年以上ノ男子ニ限ル但復歸届ニハ召集通報人連署
 スルニ及ハス
 第七様式第十一條關係
 入營延期願
 一本 籍 地
 一族稱及續柄
 一職 業
 一役兵種
 一願出事故 父、母某疾病危篤、何月何日死亡ニ付何月何日
 迄何日間
 右御許可相成度徵兵事務條例第四十四條ニ依リ(別紙診斷證書相添
 へ)奉願候也
 年 月 日 氏 名 印

聯隊區司令官宛
 前書ノ通相違無之候也
 年 月 日 市長、町村長 氏 名 印
 備考
 一 父母死亡ノ爲メ願出ル場合ハ本文中括弧内ノ九字ヲ省ク、第三様
 式ノ一ニ於ケル備考ノ二ヲ参照スヘシ
 第八様式 第十二條關係
 入營シ難キ届
 一本 籍 地
 一族稱及續柄
 一職 業
 一役兵種
 一屆出事故 何何傷病、疾病、何何犯罪ニテ何月何日以來何
 處ニ拘留入監中、何月何日家出後所在不明等
 右徵兵事務條例第五十九條ニ依リ(別紙診斷證書相添へ)及御届候也
 年 月 日 氏 名 印
 聯隊區司令官宛
 前書ノ通相違無之候也
 年 月 日 市長、町村長 氏 名 印
 備考
 一 傷病疾病ノ場合ヲ除クノ外本文中括弧内ノ九字ヲ省ク、第三様式
 ノ一ニ於ケル備考ノ二及第五様式ニ於ケル備考ノ二ヲ参照スヘシ
 二 本人ヨリ届出ヲ爲シ得ヘカラサル場合ハ戸主ヨリ届出テ職業ノ次
 へ氏名ノ一項ヲ設ケ之ヲ記載スルモノトス猶ホ第一様式ニ於ケル
 備考ノ一ヲ参照スヘシ
 第九様式 第十三條關係
 身體検査現役願
 一本 籍 地
 一族稱及續柄
 一職 業
 一出生年月日
 一願出ノ事故 海軍現役志願抽籤ノ法ニ依リサル現役志願
 年 月 日 氏 名 印

第五輯 兵事社寺 第一章 兵事

右御許可相成度兵務條例第五十一條徵兵事務條例施行細則第二十一條ニ依リ戸主及親権者連署ノ上奉願候也

前書ノ通相違無之候也
 年月日 市長、町村長 氏 名 印

一 寄留者ニ在リテハ本籍地ノ次ニ寄留地ノ一項ヲ設ケ之ヲ記載スルモノトス

一 本籍地
 一 寄留地
 一 族籍及親柄
 一 職 業
 一 生年月日

一 願出、届出事放 寄留地ニ於テ徵兵検査ヲ受ケタシ
 右(御許可相成度)徵兵事務條例施行細則第四十九條ニ依リ寄留地ノ家主、地主連署ノ上(奉願)及御届候也
 年月日 家主、地主 氏 名 印

前書ノ通り相違無之候也
 寄留地郡市長、本籍地市長、町村長 氏 名 印

一 本籍地市長、町村長へ願出ノ事實ヲ届出ル場合ハ本文中括弧内ヲ省キスルモノトス

二 町村長ノ奥書印スルハ寄留地郡長ニ願出ル場合ニ限ル
 第十一様式 第十五條關係
 何何證書再下附請求書
 年月日 町村長 氏 名 印

一本籍地
 一族籍及親柄
 一職 業
 一徵集年、役兵種、體格等位及抽籤番號
 一請求事故 何何ニ依リ紛失、損傷
 右徵兵事務條例施行細則第四十七條ニ依リ及請求候也
 年月日 市長、町村長 氏 名 印

前書ノ通相違無之候也
 聯隊區司令官、郡市長宛
 年月日 市長、町村長 氏 名 印

一 市長ノ奥書スルハ聯隊區司令官ニ差出スヘキ現役兵證書又ハ補充兵證書ノ再下附請求書ニ限ル

一 本籍地
 一 寄留地
 一 族籍及親柄
 一 職 業
 一 生年月日
 一 徵集年、役兵種
 右徵兵事務條例施行細則第三十六條ノ二ニ依リ及御届候也
 年月日 聯隊區司令官、市長、町村長 氏 名 印

前書ノ通り相違無之候也
 本籍地、族籍及親柄
 何何令第十二條現役志願何兵第何聯隊 氏 名
 何何大隊服役中、何役何兵何等卒等 氏 名
 年月日

一 本屆書ハ本籍地ノ聯隊區司令官及市長、町村長へ直接差出スヘキモノトス
 第十三様式 第二十二條關係
 現役重傷處刑人名書

本籍地、族籍、親柄
 何何犯ニ依リ何年何月何日某裁判所ニ於テ 名
 重懲役何年ニ處セラレ何處監獄ニ服役中等 氏 名
 右ノ通ニ候也
 年月日 市長、町村長 氏 名 印

明治何年徵兵検査人員表

區	適 齡 者		前年假決者		出 場 見 込 人 員	
	陸海軍徵集	徴兵ニシテ其ノ	徴兵ニシテ其ノ	徴兵ニシテ其ノ	受 検	入 令
徴兵	員	員	員	員	員	員
計						

右徵兵事務條例施行細則第三條ニ依リ及通知候也

年月日 郡市長 氏 名 印

備考

一 徵集シ得サル見込人員ハ令第二十二條令第十三條第三項所在不明者見込人員處刑ノ爲メ受檢シ難キ者ヲ掲ク
 一 受檢シ得ル見込人員ハ出寄留受檢見込人員ヲ控除シタルモノヲ掲ク
 第十五様式 第三十三條關係

第五輯 兵事社寺 第一章 兵事

徵兵人員表

種 別	陸 軍		海 軍		徴兵免除		徴兵延期	
	現 充	補 充	現 充	補 充	過 越	缺 員	其 他	共 計
町								
村								
合 計								

右及報告候也

年月日 郡市長 氏 名 印

備考

一 本表ハ其ノ年ノ徴兵書ニ於テ處分セラレタル滿四十歳以下ノ者ヲ全部掲載スルモノトス
 二 市ニ在リテハ大字毎ニ區分スルノ限ニアラス

陸軍六週間現役兵事務取扱手續

明治四十一年八月本縣訓令甲第五十三號陸軍六週間現役兵事務取扱手續
 明治四十二年一月二十六日 訓令甲第七號
 郡役所、市役所、町村役場
 師範學校、公立小學校

第五輯 兵事社寺 第一章 兵事

陸軍六週間現役兵事務取扱手續

第一條 陸軍六週間現役ニ關スル取扱ハ明治四十一年二月勅令第九號陸軍六週間現役兵條例及同年同月陸軍省令第三號陸軍六週間現役兵條例施行細則ニ依リテ外務省本手續ニ依ルヘシ

第二條 本手續ニ於テ條例ト稱スルハ陸軍六週間現役兵條例ヲ謂ヒ細則ト稱スルハ陸軍六週間現役兵條例施行細則ヲ謂フ

第三條 師範學校長ハ第一様式ニ依リ其ノ學校ヲ卒業シタル人名ヲ卒業ノ日ヨリ一週間以内ニ知事ニ報告スヘシ

第四條 細則第一條ニ依リ六週間現役ニ服スヘキ資格ヲ有スル者ノ届及之ニ添付スヘキ卒業證明書、在職證明書ハ第二様式ニ依リ作成スヘシ

第五條 細則第三條ニ依リ學校長ノ届書ハ第三様式ニ依リ作成シ其ノ學校所在地所管ノ郡市長、町村長ヲ經由シ差出スヘシ但本縣立以外ノ師範學校卒業者ニ就テハ本屆書ニ其ノ卒業證明書ヲ添付スルモノトス

第六條 前條ノ届書ヲ受ケタル市長、町村長ハ本人ノ在籍地市長、町村長ノ作成セル徵兵事務條例施行細則第一様式中ノ備考ノ事項及徵兵ニ關スル假決事項ノ調査ヲ添付シ差出スヘシ

第七條 傷病、疾病其ノ他已ムテ得サル事故ニ依リ身體検査ヲ受ケルコト能ハサル者若ハ條例第二條但書ニ該當スル者アルトキハ當該學校長ハ其ノ事實ヲ詳記シタル本人ノ届書ヲ徵シ其ノ學校所在地所管ノ郡市長、町村長ヲ經由シ知事ニ差出スヘシ但傷病、疾病ニ在リテハ醫師ノ診斷證書ヲ添付スルモノトス

第八條 前條ノ届書ヲ受ケタル市長、町村長ハ之ヲ調査シ事實相違ナキモノニ限リ奥書蓋印ノ上差出スヘシ

第九條 六週間現役ニ服スヘキ者、服役中ノ者若ハ其ノ服役ヲ終リタル者滿二十八歳以下ニシテ身上ニ關スル戸籍ノ異動ヲ生シタルトキハ當該學校長ハ第四様式ニ準シタル本人ノ届書ヲ徵シ其ノ學校所在地所管ノ郡市長、町村長ヲ經由シ知事ニ差出スヘシ

第十條 細則第十三條ニ依リ學校長ノ届書ハ第四様式ニ依リ作成シ其ノ學校所在地所管ノ郡市長、町村長ヲ經由シ差出スヘシ

第十一條 前條ノ届書ニシテ同一郡市内ノ轉職ニ係ルモノナルトキハ之ヲ受ケタル郡市長ハ轉職前後ノ届書ニ通テ取纏メ差出スヘキ其ノ郡内他町村ニ本籍ヲ有スル者ニ就テハ當該郡長ハ異動ノ事實ヲ直ニ本籍地

町村長ニ通達スヘシ

第十二條 細則第十三條及本手續第七條同第九條ニ依リ師範學校長ノ差出スヘキ届書ハ市長ヲ經由スルノ限ニテ本手續第六條同第八條ニ依リ市長ノ行フヘキ職務ハ師範學校長ニ於テ之ヲ行フモノトス

第十三條 郡市長細則第十四條ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ知事ニ報告スヘシ

第十四條 條例第九條第二項ノ旅費ハ本人ノ在職スル學校所在地所管ノ郡長ニ於テ徵兵旅費規則ニ依リ支給スヘシ但弘前市在職者ニ在リテハ中津郡郡長ヨリ青森市在職者ニ在リテハ縣廳ヨリ之ヲ支給スルモノトス

第一様式 第三條關係 一部(二部)卒業人名報告

卒業年月日	本籍地	族稱	姓	名	生年月日
何年何月何日	何縣何郡何町何大字何字何番地	士族	某長男		
何年何月何日	何縣何郡何町何大字何字何番地				

右及報告候也
師範學校長 氏 名 印

備考 一、一部卒業人名ト二部卒業人名トハ各別ニ報告スルモノトス
二、續柄ノ欄ニハ戸主トノ續柄ヲ記スルモノトス
三、六週間現役ニ服スヘキ有資格届
一卒業シタル師範學校名 何師範學校
一在職ノ小學校名 何郡市何町何何學校
一本籍地 何縣何郡市何町何大字何字何番地

一現住地 何縣何郡市何町何大字何字何番地

一 族稱及續柄 平民某弟
一 生年月日 何年何月何日
右陸軍六週間現役兵條例施行細則第一條ニ依リ別紙卒業證明書及在職證明書相添ヘ及御届候也
年 月 日 氏 名 印
市長、町村長宛

備考 本様式ノ續柄ハ第一様式ニ於ケル備考ノ二ニ同シ

第二様式ノ二 卒業證明書
何縣何郡市何町何大字何字何番地
平民戸主某何男 何 某
右何年何月何日本校本科第何部卒業者タルコトヲ證明ス
年 月 日 青森縣師範學校長 氏 名 印
第二様式ノ三 在職證明書
何縣何郡市何町何大字何字何番地
平民戸主某何男 何 某
右何年何月何日本校調導ニ任セラレ在職中ナルコトヲ證明ス
年 月 日 何縣何郡市何町何大字何字何番地
何何學校長 氏 名 印

第三様式 第五條關係 六週間現役ニ服スヘキ者ノ届

一 服役スヘキ者ノ氏名 何 某
一 卒業シタル師範學校名 何年何月何日何師範學校卒業
一 校名及其ノ年月日 何年何月何日何何學校調導
一 就職就任年月日 何年何月何日何何學校調導
右陸軍六週間現役兵條例施行細則第三條ニ依リ本人ノ戸籍謄本(及

卒業證書(相添ヘ及御届候也)

第四様式 第九條、第十條關係
六週間現役ニ關スル異動届
一 異動者氏名 何 某
一 服役年月 何年何月
一 本籍地 何縣何郡市何町何大字何字何番地
一 從來ノ教職 何郡市何何學校調導
一 異動ノ年月日 何年何月何日退職、休職、休職満期
一 及其ノ事項 又ハ何郡市何何學校調導ニ轉任
右陸軍六週間現役兵條例施行細則第十三條ニ依リ及御届候也
年 月 日 何何學校長 氏 名 印

備考 轉職ノ場合ニ於テ轉職前ノ學校長ハ從來ノ教職ヲ本校調導ト記シ

轉職後ノ學校長ハ異動ノ事項ヲ本校調導ニ轉任ト簡易ニ記スルモ妨ケナシ
二 本手續第九條ニ依リ届書ハ本様式中從來ノ教職トアルノ單ニ教職トシ異動年月日及其ノ事項ニ何年何月何日何處ヘ轉任、何地何某婿養子、何某婿養子離縁ノ上何地何某方ヘ復籍或ハ死亡等戸籍上異動ノ事實ヲ記スモノトス

徵兵處分ヲ受クヘキ所在不明者調査ニ關スル規定

明治四十年七月十九日 訓令甲第四十二號
郡役所、警察署、警察分署、市役所、町村役場
徵兵處分ヲ受クヘキ所在不明者調査ニ關スル規定左ノ通定ム
第一條 郡市長、町村長、警察署長、警察分署長ハ相互連絡ヲ保持シ隨

時所轄内ノ徴兵終決處分未済者及徴兵相當者ニシテ所在不明ナル者ノ調査ヲ爲スヘシ但憲兵隊長、憲兵分隊長所在地ニ在ツテハ當該隊長トモ連絡ヲ取ルヘシ

第二條 前條ノ調査ニ關シテハ左ノ各號ニ依ルノ外時機ヲ利用シテ適當ノ手段ヲ採ルヘシ
一 郡市長、町村長、警察署長、警察分署長ハ所轄内ニ本籍ヲ有スル所

在不明ノ徴兵終決處分未済者ニ對シテハ本人ノ隣佑、親戚其他心當リノ者ニ就キ平素ノ行動、行先等ヲ捜査シ又ハ親戚ヲシテ捜査セシメ其端緒ヲ得タル時ハ直チニ當該地ノ市長、町村長、警察署長、警察分署長、憲兵隊長又ハ憲兵分隊長ニ必要ノ事項ヲ通知スヘシ

市長、町村長、警察署長、警察分署長ニシテ前段ノ通知ヲ受ケタルトキハ直チニ捜査ヲ爲シタル上相當ノ處置ヲ爲シ且ツ通知ヲ爲シタル官公署ニ回報スヘシ

二 郡市長、町村長、警察署長、警察分署長ハ毎年官報ニ掲載スル所不在不明者ノ所在ヲ発見シタルトキハ直チニ關係ノ官公署ニ通報シ且ツ其ノ踪跡ヲ失セサルノ手段ヲ採ルヘシ
前段ノ外所轄内ニ本籍ヲ有セサル現住者ニシテ故ナク徴兵終決處分ヲ受ケスト認ムル者アルトキハ直チニ之ヲ本籍地ト認定シタル市長、町村長ニ通知スヘシ

三 市長、町村長ハ毎年一月其年ノ壯丁名簿ニ編入スヘキ者（前年ノ假決者ヲ含ム）ノ在、不在ヲ調査シ其不在者ニ對シテハ本人ノ戸主又ハ家事擔當者若シテ親戚ヲシテ捜査ヲ爲サシムヘシ

●壯丁トラホーム豫防治療

明治四十二年三月三十日

内務部長通牒青學發第百三號

市 長

（壯丁ニ對スルトラホーム豫防治療ニ關スル件ニ付テハ昨年五月三十日兵社第七三二號ヲ以テ依命通牒候次第モ有之候處）昨年ノ徴兵検査成績ニ依リテ青森縣管内ノ如キハ百人中五十二人以上ノ大多數ニシテ前年ニ比シテ二十八人以上ノ著シキ増加ヲ來シ弘前縣管内モ亦殆ント三十六人ノ比例ニシテ前年ヨリ四人以上増加致居候而カモ其ノ大部分ハ縣内ニ屬スルモノ、如クニシテ前年軍醫部長ハ本縣ニ對シテ左ノ如キ報告書ヲ其筋ニ提出致居候此ノ如キ比例ヲ以テ漸次蔓延スルニ於テハ検査ノ及ホス所實ニ測ルヘカラスシテ軍隊ハ所要ノ兵員ヲ充タスコト能ハサルノミナラス地方ニ於テハ各種生産事業ノ進捗ヲ阻害シ遂ニ國力ノ伸張ニ關係スルニ至ルヘク憂心ニ堪ヘサル儀ト存候本年モ近日徴兵検査ノ時期ニ差迫リ候ニ付（昨年通牒ノ主旨ニ依リ）尙武團體若シテ衛生組合等ト協力ノ上適當ノ方法ヲ以テ壯丁ニ對スル豫防及治療ヲ實施セシメラレ度候

軍醫部長ノ報告

青森縣ニ在リテハ從來西、南、北津輕郡ニ於テ壯丁ノ過半帶患ノ年次アリシモ本年ニ在リテハ三戸郡、下北郡ニ於テ著シク増加ヲ來シ殊ニ同地方ノ内交通比較ノ便利ナル小部落ニ於ケル傳播尤モ劇甚ナルコトハ同區徴兵醫官ノ觀察シタル所ナリ又同縣ハ沿海地方ニ多ク其ノ海邊部落ニ在リテハ比較ノ多ク重症者ヲ出セリ之ニ反シ弘前青森二市ノ同病ハ郡部ニ比シテ少數ナルモ蔓延ノ勢ハ尙郡部ト異ナラス

壯丁トラホーム豫防治療方法

一 市町村又ハ尙武會等ノ團體ニ於テ其費用ヲ以テ豫防治療ヲ爲スコト
二 罹病者ニハ一定ノ治療券ヲ交付シ日之ヲ携帶シテ醫師ノモトニ至ラシメ治療ヲ受クル毎ニ其旨ノ記載ヲ受クルコト
三 徴兵検査場ニ出頭ノ際該治療券ヲ持參セシメ郡市長ニ於テ是ニ依リ其ノ結果ヲ調査スルコト
（本文中括弧内ハ南、三戸ノ二郡ニ限リ之ヲ除キ追書中ノ括弧内ハ右兩

第六條 郡市長ハ毎年所轄内ニ於テ新タニ生シタル所在不明ノ徴兵終決處分未済ノ者本籍地、氏名、年月日ヲ十二月十日迄ニ別冊様式ニ準シ報告スヘシ
死亡、徴兵處分済、滿四十歳超過ノ爲メ爾後調査ヲ要セサル者モ亦同シ前項ノ外轉入出、改氏名等ノ異動アル者ニ就テハ其時時報告スヘシ

第七條 本令發布以前ニ屬スル徴兵終決處分未済ニシテ所在不明ナル者ノ本籍地氏名、生年月日ハ此際關係郡市長ヨリ警察署長、警察分署長ニ通知シ爾後異動アルモノニ就テハ第二條第三號後段ノ手續ニ依リ其郡市長町村長ヨリ通知スヘシ

Table with columns for Name (氏名), Birth Date (生年月日), Residence (所在), and other details. Includes a specific entry for 'Miyama' (某) born in 1915 (明治一五、八、三).

備考
一 本籍地欄内ニハ可成同町村同大字同字ノ者ヲ記載スヘシ
二 第六條ノ報告ハ新タニ生シタル所在不明者ト其ノ異動者トヲ別紙ニ認メ摘要欄内ノ區畫ヲ取除クヘシ
三 市長町村長ニ於テ第二條第三號ノ後段及第七條ノ通知ヲ爲シタル時又ハ警察署長、警察分署長ニ於テ所在不明ナル者ノ所在ヲ発見シ之ヲ本籍地ニ通知シタルトキハ其通知ノ年月日番號等ヲ名簿ノ欄外ニ記載スヘシ

●臺灣樺太清韓國ニ於ケル身體検査ニ關スル件

明治四十一年六月十日

内務部長通牒兵社第百七十八號

市 長

明治三十九年陸軍省令第十六號ニ依リ臺灣樺太清韓國ニ於テスル徴兵身體検査ニ關シテ検査期日迄ニ壯丁名簿到着セザルト郡市長カ該規定ヲ熟知セザル爲検査員ニ於テ不便ヲ感スルノミナラス壯丁ヲシテ該規定ノ利益ヲ享受スルヲ得ザルノ遺憾ナカラサルヲ以テ郡市長ニ於テ特ニ左記ノ點ニ注意シ該規定ノ實行ヲ確實ナラシメ度趣ヲ以テ其筋ヨリ通牒有之候ニ付此旨郡市長（御示達有之度候）
一 検査ヲ施行スル軍隊又ハ領事館ヨリ通知ヲ受ケタルトキハ速滞ナク規定ノ手續ヲ爲スヘキコト
二 壯丁名簿ノ調製ヲ精確ニシ誤謬脱漏ナキナリ期スルコト陸軍省ヘノ報告ニ依リテ言語聽力ノ欄ヲ缺キタルモノアリ壯丁名簿ニシテ不精確ナルトキハ往復照會ニ無用ノ時日ヲ費シ終ニ検査ノ時期ノ間に合ハサルニ至ル
三 壯丁名簿ヲ送附スヘキ軍隊ヲ問違ヘサルコト
關東州ノ某軍隊ニ送附スヘキモノヲ清國駐屯軍司令部又ハ内地ノ留守隊ニ送附シタル等ノ實例アリ

●海軍志願兵検査所設備

明治四十一年二月十八日

内務部長通牒兵社第百八十六號

郡市長（下北郡長ヲ除ク）

横須賀鎮守府兵事官ヨリ申越ノ次第モ有之候ニ付本年以後別紙ニ依リ準備相成度候
（別紙）
海軍志願兵検査所準備